資料－３（１）

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【住民説明会】

※説明会でいただいたご意見等を要約しています。

NO.	説明会日	説明会場所		ご意見等
1	2019/10/23	熊本市 中央公民館	1	○白川は、小磧橋を境に下流を国、上流を県が管理している。何故、立野ダムは県管理区間なのに国で事業を行っているのか。我々にとって市や県は身近な行政だが、国はそうでない。国は地域の意見が反映されにくい。
2	2019/10/23	熊本市 中央公民館	2	○変更計画の目標は、2,700m3/sのうち河道配分で2,400m3/sとのことだが、何故ダムありきの計画となっているのか。昨今の台風19号ではダムの緊急放流などが現実的に起きている。想定外の洪水を考えるならばダムの洪水調節を計画の前提とすべきでない。
3	2019/10/23	熊本市 中央公民館	3	○変更計画を端的に言えば、河道配分を現行の2,000m3/sから2,400m3/sに変更し、このための河川整備を行うとの事で良いか。昭和28年洪水は3,400～3,500m3/sと言われている。
4	2019/10/23	熊本市 中央公民館	4	○今回の説明会は、熊日新聞で掲載されただけで、そもそも周知が不足している。 ○ダムの安全性に疑問がある。ダム湖周辺は地震で壊れているが、建設して大丈夫なのか。大量の土量が溜まっているはず。スリットに流木が詰まり、洪水調節ができなくなるのでは無いか。質問を9回出したが、立野ダム工事事務所では事務の方が出てきて、上司に報告、ホームページで答えていると言われるだけで、その内容も全く答えになっていない。 ○整備計画にはダムが含まれている。ダム事務所も参加し説明すべき。
5	2019/10/23	熊本市 中央公民館	5	○元々の整備計画に問題があるのではないか。それにも係わらず、ステップアップと言われても困る。ダムという土台に問題があるのに、ステップアップするというのは問題がある。ダム関係者が不参加である本日の説明会のやり直しを求める。 ○昨年の現地説明会でも確認したが、代継橋～明午橋は鋼矢板を打った堤防が施工されている。これと同様に、熊本市内の堤防は、矢板を打った壊れない堤防を造るべき。
6	2019/10/23	熊本市 中央公民館	6	○今回の広告は分かりづらい。現行計画が策定されたのは、東日本大震災や熊本地震が起こる前、更に、線状降水帯が一般に浸透する前である。今日の説明会は、理解できるような内容ではない。 ○「立野ダム建設に係る技術委員会」の７名の委員うち、３名は国土交通省の関係者。地震前の崩落の時は、コンクリートで固め対応したことで、問題無いと言われている。それならば、地震後の崩落もコンクリートで固める必要があるのではないか。
7	2019/10/23	熊本市 中央公民館	7	○河川整備のレベルアップは必要である。ただ、近年、既往最大の被害が続出するなかでは、流域内に降った雨を河道内だけで対応するには限界がある。例えば、上流の方でも貯めるなど、流域内で少しずつでも貯めるような工夫が必要である。また、堤防を越水する前に堤防が壊れることもある。出来る限り予測水位を早く、細かく出してくれると、住民は避難などの次の行動が起せるのではないか。
8	2019/10/23	熊本市 中央公民館	8	○フェールセーフ。失敗を前提に対策をする必要がある。我々は、立野ダムは失敗だと思っている。立野ダムの下流、大津町や菊陽町に遊水地を造れば、地下水涵養にもなり洪水も防げるのではないか。菊陽町長は、遊水地は全面的に協力すると言っている。
9	2019/10/23	熊本市 中央公民館	9	○立野ダム検証の公聴会では、参加者３０名いずれもダムが必要とは言っていないが、意見は反映されなかった。ダム建設がコスト面から一番安いということで、ダムが決定された。ダムありきの計画となっている。
10	2019/10/23	熊本市 中央公民館	10	○数十年に1回の洪水などと言うと誤解を招く。阿蘇に何mmの雨が降ったら、堤防から溢れるのか。また、昭和28年の洪水を経験したが、この時はヨナの被害が酷かった。白川はヨナが流れてくる。この大元の山の対策は行わないのか。過去、建設省はフロンティア堤防を推奨していたが、これはどうなったのか。
11	2019/10/23	熊本市 中央公民館	11	○今回のパブコメは、政府が行う正式な意見募集になっていない。正式には全国的にパブコメを行うはず。再度、正式な手続きを確認すべき。 ○現在の流下能力はどの程度か。開示請求で平成27年と平成29年時点の資料は持ち得ている。現在の流下能力すら把握せずに計画を変更するのか。
12	2019/10/23	熊本市 中央公民館	12	○ダム検証での代替案との比較では、津久礼の遊水地が挙がっていたが、ダムよりも高いというコスト面、また、優良農地が潰れるとの地権者の面でダム案が優位と整理された。ただ、県が実施した手野や小倉の遊水地では、地権者は誰も反対していないし事業費も高くない。津久礼の遊水地が1,300億もかかるはずがない。ダムでは無く遊水地だ。 ○流域全体を捉え、雨水浸透など、流域内に水を貯める場所を確保するという意見は良いと思う。河川の掘削、各地での遊水地の整備などの考えを入れて欲しい。
13	2019/10/23	熊本市 中央公民館	13	○今回の住民説明会で立野ダム関係者が不在なことは甚だ疑問。手続き的には法に叶っているかもしれないが、理と情に叶っていない。立野ダム関係者の出席の下に再度、説明会をやり直すこと。それが出来ないならダム事務所による説明会を開催することを確約せよ。
14	2019/10/23	熊本市 中央公民館	14	○自主防災クラブの委員として今回参加したところ。今回のような説明会には、もう少し市と連携して参加を募って欲しい。
15	2019/10/25	熊本市 西部公民館	1	○台風19号では千曲川の堤防が決壊し、大きな被害が発生しているが、これは天災ではなく人災ではないかと思っている。堤防は土で造ることが基本とのことだが、これからは基本ではなくなるのではないか。白川が決壊すると桜町や駅前など熊本市街部は全滅する。台風19号では1,000mmくらいの雨が降ったと言われているが、同じような雨が降った際に白川はどうなるのか。決壊する危険があるということか。 ○今回は、白川にたまたま台風が来なかっただけ。このような状況で20年・30年の計画などの整備を進めている場合ではない。早急に対応すべきは何か。
16	2019/10/25	熊本市 西部公民館	2	○整備計画本文を確認したが嘘がたくさんあるのでペーパーにまとめてきた。白川の大甲橋の横断図は高さが違う。白川は天井川ではない。代継橋では現状で4,000m3/s程度は流れる。
17	2019/10/25	熊本市 西部公民館	3	○変更原案で示された3,000m3/s河道に向けて2,400m3/sに川の整備水準を上げていくことには賛成。一方、台風19号では70河川、130箇所に被害が発生しているなか、これまでの河川行政に疑問もある。河川の掘削などの対応をおざなりにしてきたのではないか。今回変更原案では、河道は2,400m3/sと一歩前進し評価するが、立野ダムのカット量は200m3/sと変わらない。そのわずか200m3/sのカットで、代継橋ではどれだけの水位が低下するのかを伺いたい。また、立野ダム地点は断層のひび割れ等により斜面が崩れて、先般の雨では１日で900mmの雨が降っている。今後、阿蘇の谷にもそのような雨が降る可能性がある。その場合にダムへの土砂や流木で穴が詰まるのではないか心配している。そうなった時にどれ位の時間で満水になるのか。 ○わずか200m3/sのカットで30cm程度の効果しかないなかで、気候変動による豪雨でダムの穴が詰まり、ダムが満水になって土砂崩れが起きればダム津波となり下流に押し寄せる。このことを下流として心配している。雨は益々酷くなることが予想されており、以前とは違い、逆にダムが危険となるのではないか。これまでとは気象が違う。ダムではなく、鋼矢板を打つ堤防強化など河川の整備を検討して頂きたい。
18	2019/10/25	熊本市 西部公民館	4	○薄場橋付近の掘削を早くやっていただきたい。台風19号時、利根川では特に遊水地をたくさん整備していたことで氾濫しなかったところがあるとのことだが、菊陽町の下津久礼を遊水地として活用していただくことを要望する。西日本豪雨でダムの放流で死者が出たように、立野ダムが決壊したとき死者が出るのではないかと心配している。立野ダム付近は岩盤が貧弱であり、本当に安全なダムが出来るのか。ますます心配になった。ダムについて地域住民への説明会を求めたい。
19	2019/10/25	熊本市 西部公民館	5	○今回の計画は30年の計画と説明されたが、とにかく早く進めて欲しいと心から思う。先ほど、ダムによる水位低減効果が30cm程度しかないという意見があったが、水位30cmでも、その間30分でも洪水が来る時間が遅くなるのであれば、私は母を連れてすぐに逃げる。先ほども話があったが、薄場橋付近の工事を早くやって欲しい。30年と言わず早く整備をやって欲しい。
20	2019/10/25	熊本市 西部公民館	6	○高潮のために５ｍの堰を作っている。川底の土を掘削すると言って、ニュースカイホテルの前に土を盛り上げている。
21	2019/10/25	熊本市 西部公民館	7	○私は合志市住民だが、70万人の熊本市民が立野ダムについて考えないことが疑問。アメリカのフーバーダムは重力式アーチ構造で80年事故がない。このような構造のダムなら良いが、地震大国の日本で立野ダム付近には断層もあり、断層が割れるとダムは一気に壊れてしまうと思う。立野ダムは、断層が壊れて70万人都市の熊本を破壊してしまう可能性のあるダムである。熊本市には３～４の反対団体があるらしいが、70万人の人たちが立野ダムの危険性について本当に考えてほしい。私は一人でも、70万人の命を守るため、ダム建設に反対する活動を行っていくことを考えている。 ○フーバーダムも一度決壊しており、今後崩壊した状況を調べていくが、立野ダムは造るべきでない。熊本市民70万人の命を守るため、立野ダム計画に反対していきたい。
22	2019/10/25	熊本市 西部公民館	8	○これまでどれだけの事業費を使ったのか。阿蘇のトンネルを掘ったので増えたはず。昭和28年洪水の死者数350名程度と嘘を言っている。黒川第一発電所についても嘘がある。立野ダムの形はどうなった。今後、ダムに水を貯めるなどとは言うな。

※説明会でいただいたご意見等を要約しています。

NO.	説明会日	説明会場所		ご意見等
23	2019/10/25	熊本市 西部公民館	9	○今後の河川整備を行う上での優先順位はどうなっているか。 ○一般に河川の改修は下流からと言われるが、そうなると井樋山堰からとなるのか。具体にどのような整備となるのか。 ○井樋山堰は土砂吐きと取水樋門に50mほど距離があり堆積土砂の撤去に苦慮している。是非、早期に改築を行っていただきたい。 ○沖新地区の高潮堤防について、地震後に対応を行っていただいたが、その後の余震により堤防が海側に曲がって、動いているようなので、現地を確認して早急に対応を行っていただきたい。もしまた地震が来たら決壊するのではないか心配している。 ○堤防の高さを上げるということもあるのか。地元は非常に心配している。なるだけ早く整備をしていただきたい。
24	2019/10/25	熊本市 西部公民館	10	○大甲橋付近の川底、大甲橋の高さはいくつか。 ○大甲橋付近の断面図はでたらめだ。S28のデータと今のデータを混ぜている。 ○アユが生息できるじゃかごを。海の話が全く書いていない。ダムのおかげで海から魚がいなくなる。
25	2019/10/30	菊陽町 老人福祉センター	1	○今回の説明会の周知はどのように行ったのか。 ○県庁の方は実際に白川の沿川を歩いて見て回ったことはあるのか。 ○津白橋下流右岸においてある平成24年洪水後に設置された大型土のうは撤去されるのか。
26	2019/10/30	菊陽町 老人福祉センター	2	○これまで、菊陽・大津区間については、整備目標がはっきりしていない状況であったと思うが、今回目標を1,500m3/sと定めることでどう変わっていくのか。 ○立野ダムの周辺の状況を見ると、平成24年広域大水害の際に仮に立野ダムがあったらダムが詰まったのではないか。また、先日の台風19号でも緊急放流されているが、立野ダムは人為的操作が入らないので危険なのでは。 ○ダム模型実験を行ったというが、その後の台風19号等の異常気象等を想定したものにはなっていないのではないかと思う。 ○馬場楠堰、津久礼堰の改築を予定されているということだが、整備の順序はどのように考えられているのか。やはり下流から行っていくのか。
27	2019/10/30	菊陽町 老人福祉センター	3	○パンフレット9ページの取り組み内容に河道掘削とあるが、川底を掘削して効果があるのか。すぐに溜まってしまう。 ○上井手等の水路から水を落としている箇所は、出水時、水が10mも跳ね上がるような箇所がある。 ○川が直線からカーブに移るところ（水衝部）は増水時は特に危険。そうした箇所への対策は。
28	2019/10/30	菊陽町 老人福祉センター	4	○今回の説明会では立野ダムの話が聞けると思っていた。冒頭の説明の中でも特に立野ダムの話もなく、避けているのではないか。 ○なぜ、立野ダム工事事務所の職員を呼ばないのか。
29	2019/10/30	菊陽町 老人福祉センター	5	○みらい大橋の付近にカメラが付いているが、メンテナンスは行っているのか。 ○菊陽町区間での目標は1/10とのことだが、どのくらいの雨量が降った場合にその規模になるのか。 ○避難勧告等の連絡方法はどのようになっているのか。夜中でも良いから、テレビや防災無線等でどんどん情報を出してほしい。
30	2019/10/30	菊陽町 老人福祉センター	6	○30年間の目標とあるが、30年後に堰の改修も終わるということか。堰の改修について、いつ頃どういう改修を行うのか教えてほしい。 ○昔は、馬場楠堰付近には川への降り口が2箇所あったが、河川工事の際に1箇所になった。親しみやすい川づくりのためにも、そうした箇所をもっと設けてほしい。
31	2019/10/30	菊陽町 老人福祉センター	7	○下流から上流へ向けて整備されるのが通常と思うが、並行して整備等はできないか。 ○裏が竹林で護岸が整備されていない箇所があるが、対岸は整備されている。先般、各戸に土砂災害警戒区域指定に関する文書が配布されたが、それは何か。
32	2019/10/31	熊本市 龍田公民館	1	○立野ダムについては、37～8年前に熊大地質学の先生が地質的に危ないことからダムを造ってはいけないと言われており、できないものと思っていたが、最近になって急に浮上した。地震でもいかに地盤が脆いかがはっきり分かった。そこに９０ｍの立野ダムを造り５ｍの穴で流すというが、台風19号でなど予測不能な気象状況にあるなか、５ｍの穴に大木や岩石などが詰まり、急激な増量でダムから溢れ出すと下流は被害が大きくなると思う。地盤の弱い場所にダムを造ることはやめてほしい。
33	2019/10/31	熊本市 龍田公民館	2	○平成24年の水害を受けて川幅が広がったが、最近は土砂が溜まっている。河床の土砂を５ｍ、少なくとも２ｍ掘ってほしい。それができないならパラペット等で２ｍくらい上げてほしい。
34	2019/10/31	熊本市 龍田公民館	3	○整備計画について、今日の図面、地図ではよく解らないので、現場に来ていただいて住民の意見を聞いてほしい。要望書等が必要ならば自治会に諮って提出したい。
35	2019/10/31	熊本市 龍田公民館	4	○小磧橋、三協橋、武蔵橋の架け替えを早くやってほしい。 ○小磧橋～武蔵橋間について水辺に降りられるような整備をしてほしい。
36	2019/10/31	熊本市 龍田公民館	5	○通常の治水ダムはアーチ形式なのに、なぜ立野ダムは農水省が造る重力式ダムなのか。また、試験湛水をやらないのはなぜか。
37	2019/10/31	熊本市 龍田公民館	6	○平成24年出水後に整備の説明会があったが、緊急的に5年でやるということで、話し合いではなく決定事項として地域住民の意見は聞いてもらえなかった。説明資料に「地域住民と連携します」とあるが、先ほど現地での説明は行わないとのことだった。必要のないところを整備するより、被害のあったところから救済し、地元の声を聞いて、要望があったら現地に来て説明し、その声を取り入れるようなことを考えてほしい。
38	2019/10/31	熊本市 龍田公民館	7	○ハザードマップで吉原地区と弓削地区は浸水するようになっている。工事が進んでもハザードマップはそのままの状態。浸水するエリアということで土地の買い手も値もつかない。そうした状況であるため、土地に係る税控除をお願いしたい。

※説明会でいただいたご意見等を要約しています。

NO.	説明会日	説明会場所		ご意見等
39	2019/10/31	熊本市 龍田公民館	8	○昭和28年の大水害の時には上流阿蘇の１時間最大雨量は70mm/hだった。流れてきた流木、屋根、牛などを子飼橋がせき止めて、一夜塘が決壊して熊本市街部が浸水した。今後も雨の量によっては、熊本市で同様の被害を受ける可能性がある。今さら利水なんて考えずに治水を考えるべき。九州内のいろんな河川にダムはあるが、白川の上流にはダムは不要。熊本地震でおびただしい地割れが生じるなど状況が変わった。地質学者にお願いして調べ直してほしい。再度計画を見直し、もう1回、治水、個別の要望を調査してほしい。要望を入れることも基本的なことではないか。もう1回計画を作り直すこと。 ○立野ダムは治水ダムではない。国はよく考えること。立野ダムはゼネコンとその下請けのためにやっている。 ○本当に治水のための検討を行っているのか。金がかかるというが、治水が第一だ。 ○こういう計画を作る時には「大水害だけは起こさない」と言うくらいの計画にしなくてはいけない。
40	2019/10/31	熊本市 龍田公民館	9	○先般の洪水で緊急放流をしたそうだが、立野ダムの場合はどうなるのか。計算通りいくのか。その場合、白川は耐えられるのか。 ○10年ほど前に土木事務所から3,000m3/sを流すための整備をすると言われた。だから私たちも納得して吉原橋の架け替えと川幅を広げることに賛成した。今、2,400m3/sというが、計算通りいくならば何も言わないが、今からはどうなるか解らない。早くしてください。 ○県区間も小磧橋下流の国区間のようにきれいに整備をしてほしい。
41	2019/10/31	熊本市 龍田公民館	10	○我が家は、龍田陳内で、平成24年水害の時はギリギリ大丈夫だった場所で、現在は目の前には堤防が出来ている。ただ、家の横の部分付近だけ護岸が設置されていない。今後の計画を知りたい。以前の工事説明会のときに、「○○ブロックでも置きましょうか」という話もあったがどうなったのか。
42	2019/10/31	熊本市 龍田公民館	11	○河川整備計画は人の命を奪いかねないような大事な計画だと思うが、今回の説明会もここを含めて熊本市内は３箇所、告知も新聞に小さく広告を載せただけのもの。今日は皆さんが自力で情報を集めて40名程度参加されているが、この40名からもこれだけいろんな要望や疑問質問が出ている。そういうなかで、立野ダム事務所から職員が来ていないので分からない、説明会は概要版ですのでこれで終わり、意見箱で言ってくださいというようなことは通らないと思う。 　立野ダムについてもこれまで流域住民の皆さんが繰り返し国や県、熊本市に対して説明会を開いてくれといっているが、なしのつぶてである。住民の皆さんは決してダム反対派ではなく本当にダムが安全なのか、その判断する材料をほしいということで説明会の要望を出しているが、国も県もことごとく無視している。国が大丈夫と言っているから県も大丈夫と言っている。国は有識者の出した報告書を錦の御旗に掲げて真摯な説明を行おうとしない。大西市長が立野ダムの推進期成会の会長をしているので熊本市に要望しても無視されている。 　平成９年に改正された河川法に基づいて今日の説明会も開催されていると思うが、そうであれば河川法の主旨、ガイドラインにもあると思うので、それに則って流域の校区毎の住民説明会、昼夜２回の開催、周知についても回覧板などの周知をしっかり行うべきと思う。今日でもこれだけの意見が出た。本来であれば、意見が出れば出るほどもっと精度の高い河川整備計画が構築できると思うが、あたかも帳面消しのような、これで終わりですというこのようなやり方は認められないと思う。 　流域の皆さんは立野ダムについて、事業費の面でも心配されていると思う。当初の計画でも900億円、熊本地震で様相が変わってまた事業費が膨れ上がるかもしれない。流域の河川改修の費用を圧迫するのではないか皆さん心配している。吉原橋付近の住民の方の発言のように川底の掘削だけでも流下能力が上がるはずなのに何故手を付けてくれないのかといった疑問も出てくる。しっかり住民と向き合った責任ある態度、説明会を開催していただきたいと強く要望する。
43	2019/10/31	熊本市 龍田公民館	12	○吉原橋から白川橋の間は勾配が小さく蛇行した場所等に土砂が堆積している。吉原橋を架け替えた時に、河床を２ｍくらい掘るという条件が付いていたような記憶がある。30年間と言わず、そうした掘削は来年、再来年でも行ってもらいたい。
44	2019/10/31	熊本市 龍田公民館	13	○洪水調節が300m3/sとあるが、これは黒川の遊水地と立野ダムで調節するものか。 ○ダムよりも遊水地が費用面で安いと聞いている。立野ダムは当初予算900億以上で既に地震対策等で600億使われており、このまま建設を進めると1,000億以上かかるのではないかと思っている。既に国の国家予算は1,000兆円以上、県も多大な借金を抱えているなかで、治水ではコストをいかに押さえるかが大事だと思う。黒川の遊水地は良いことと思うが、過去に菊陽町に遊水地計画が検討されており、地元も受け入れて良いという話があったと聞いているがどうなのか。 ○遊水地を積極的に造るべきと思う。19号台風で甚大な被害が出ているが報道のなかに千曲川の氾濫、決壊が大きく取り上げられたが、千曲川流域にも遊水地があり、2.5億トンの量を貯めて大きな効果があったとされている。その上流のハッ場ダムでも洪水を貯めたが、その量は東京ドーム60杯分。ところが遊水地は東京ドーム200杯分と3.5倍の効果があったとの報道もあっている。やはり、徹底的に遊水地について、ダムありきではなく、河川整備と遊水地による整備を考えてほしい。ダム建設着工はしたが、まだ止められるのではないか。
45	2019/11/5	阿蘇市 農村環境改善センター	1	○（パンフレット2ページ上段に記載の変更経緯について）整備計画を変更したのはいつか。 ○いつ何をきっかけに変更しようということになったのか。
46	2019/11/5	阿蘇市 農村環境改善センター	2	○（パンフレット1ページ）基本方針、現整備計画、変更計画と（基準地点の）流量が記載してあるが、ダムを造ることで流量が変わるということか。 ○想定を超える洪水が起こった場合でも耐えられるというものなのか。 ○上流を整備することで、下流への負荷がかかるということもあると思う。そういったことも踏まえながら検討していったほうが良い。 ○現在、カメラが設置されているが、夜間暗くて見えないような場所があるので、対処願いたい。
47	2019/11/5	阿蘇市 農村環境改善センター	3	○パンフレット3ページに大まかな河床勾配のイメージがあるが、これではFHが分からない。立野付近の河道の流下能力は流速が高いから確保できている。そこに障害物があると流速が落ち、上流への影響が考えられる。立野ダムができることでの、そうした上流への弊害はないのか。そのために遊水地を造るのではないか。なぜ、阿蘇に遊水地が必要なのか。 ○6.26水害以外にも阿蘇では何回も水害に遭っている。以前に住んでいたところは2年に1回くらいは家が浸かっていた。九電の堰もなかなか開けてくれない。なぜかというと、下流の熊本市等が被害を受けるからと私は聞かされていた。遊水地に水が入るときには町は浸水していると思う。 ○下流の熊本駅周辺等では高水敷がいろいろと公園として利用されているが、そうしたところを無くしてしまえば、だいぶ違うのではないか。上流じゃなく下流から整備が必要ではないかと考える。
48	2019/11/5	阿蘇市 農村環境改善センター	4	○逆流防止という話があったが、周囲からの水がはけずにたまって浸水する。
49	2019/11/5	阿蘇市 農村環境改善センター	5	○阿蘇は雨の降る場所によって水害の状況が変わる特徴がある。
50	2019/11/5	阿蘇市 農村環境改善センター	6	○平成24年の大雨時は、南郷谷より阿蘇谷の方が被害が大きかったが、これは高さ、勾配の違いによるもの。

※説明会でいただいたご意見等を要約しています。

NO.	説明会日	説明会場所		ご意見等
51	2019/11/6	阿蘇市 阿蘇西小学校体育館	1	○遊水地を具体的にどこに設置するか分からないということでは困る。現在の計画でも7遊水地が計画されている。 ○今年6月30日の雨ではせっかく出来た手野、小倉の遊水地には水が入らず、一方で、跡ケ瀬付近はギリギリまで水位が上がった。内牧付近を整備した結果、水が下流に流れやすくなったのではないか。
52	2019/11/6	阿蘇市 阿蘇西小学校体育館	2	○詳細な設計についてはこれから、それが出来たら改めて説明をするとのことだが、設計が固まる前に地元の意見を聴いてほしい。今までは決まった計画の説明ばかりで、なかなか地元の要望等が通らない。 ○熊本地震により橋を復旧する際、平成24年の時もそこまで水が上がった旨を伝え、橋の高さを上げたほうが良いと要望したが、災害復旧工事だから原型復旧と言われた。実際、今回もその付近まで水位が上がっている。予算の問題等もあるかと思うが、整備を急いでほしい。
53	2019/11/6	阿蘇市 阿蘇西小学校体育館	3	○今回の説明会の周知方法について、新聞に小さく載っているだけで、気づかなかった人も多いと思う。もっとたくさんの方に集まってもらうような方法はなかったのか。 ○ホームページで内容を確認したが、今回の計画の変更点が分かりづらい。変更点が分かりやすいように記載したほうが良い。 ○施設能力を上回る洪水への対策とあるが、一番心配なのは立野ダムが昭和28年洪水と同程度の洪水が来た場合にどれくらいの効果があるのか。想定外の雨が降った場合は、一旦は水位が抑えられるが穴あきダムの効果が薄いと聞いている。 ○黒川、白川（上流）のカメラはどの程度付いているのか。
54	2019/11/6	阿蘇市 阿蘇西小学校体育館	4	○今回説明会が南阿蘇村、高森町で行われなかった理由は。 ○基本理念の中に、可能な限り人工的な改変を抑制するとあるが、立野ダムはあちこちがコンクリート張りになっている。本来であれば、崩落した場所でも、住民等が住んでいないようなところであれば、そのままにしていれば緑が再生する。ジオパークであり北向谷原始林もある地域の景観がダムで壊されることを心配している。ダムの調節効果200m3/s、水位低下30cm程度で全体の流量の12,3分の１程度しかない。それに918億円費やしている。それよりも早く河道整備に取り組むべきだと思う。 ○ハード整備について、10ページに、越水等が発生した場合に決壊迄の時間を少しでも引き延ばす対策について記載があるが、越水して堤防が壊れるのを防ぐ・時間を稼ぐ対策は重要と思う。以前、球磨川で「耐越水堤防」というものが遥拝堰下流で造られる計画があったのに、未だに造られていない。今回危険な箇所には、そうした堤防を造っていくということなのか。 また、鋼矢板は堤防の補強に使うことが可能になっていると思うが、そうしたことも考えているのか。 ○国交省は「耐越水堤防」の技術を持っているのに、なぜやらないのか。
55	2019/11/6	阿蘇市 阿蘇西小学校体育館	5	○今回20～30年の計画ということで、期待しているところであるが、堆積する火山灰等も心配している。そうした対策も同時にやっていくのか。 ○狩尾の遊水地（小野遊水地）について、草や木が生えている状況で、この維持管理ができないものか。
56	2019/11/6	阿蘇市 阿蘇西小学校体育館	6	○小野遊水地部の堤防高が対岸の河川堤防高より低いのはなぜか。
57	2019/11/6	阿蘇市 阿蘇西小学校体育館	7	○平成24年洪水時には遊水地周囲の堤防を越えて民家の方に溢れてきた。遊水地の堤防が低いということだと思う。
58	2019/11/6	阿蘇市 阿蘇西小学校体育館	8	○今年6月の雨の時、内牧付近は余裕があったが、跡ケ瀬付近はギリギリであった。上流の遊水地に水が入ることで下流の河道への流量が少なくなると思っていたが、遊水地にあまり水が入っていないことがどうかと思う。
59	2019/11/6	阿蘇市 阿蘇西小学校体育館	9	○現在の黒川の流下能力はいくらか。また、目標とする流量はいくらか。
60	2019/11/6	阿蘇市 阿蘇西小学校体育館	10	○今回の原案における変更点について、現在の計画には第5章に白川住民委員会の毎年定期的な開催について記載がある。この記載が無くなっているのは問題であるので、今回の変更原案にも記載してほしい。また、住民委員会が毎年開催されてこなかったこと、また熊本地震後にも開催されていないことを非常に残念に思う。今後こういうことが無いようにしてほしいし、住民との意見のやりとりがその都度行われるべきでもあった。
61	2019/11/6	阿蘇市 阿蘇西小学校体育館	11	○九電の取水堰の運用変更について、先日阿蘇市から連絡があった。九電からも数日後に電話連絡があった。その運用について安全なのかお聴きしたい。区長だけに連絡しても分からないので、よければ住民に対する説明の場を設けてほしい。 ○先日の連絡協議会でも話したが、的石川の水門の件について、増水時に水門が閉まると的石川からの水が流れなくなり、浸かってしまう件について検討していただけたか。
62	2019/11/6	阿蘇市 阿蘇西小学校体育館	12	○冒頭説明でも、特定の個人、団体を誹謗中傷するような内容は無効とするといった注意があったが、これから30年に渡る壮大な計画を作るにあたって、九州電力を抜きにして治水も利水も考えられない。これから九州電力はどんな計画を持っているのか。現在停止している発電所を造り直して発電をするのか。地震時には死者まで出たのに。そういったことを抜きにして計画は立てられない。平成24年洪水時は雨の降り方が異常だから的石地区の人は明け方4時にはみんな大正橋のところに出ていた。九電が堰を開けたのは午前7時。その事実を知って皆怒った。九電のこれからの計画を抜きにして計画なんて立てられない。
63	2019/11/6	阿蘇市 阿蘇西小学校体育館	13	○日頃の維持管理について、先日、乙姫川の掘削をしていただいたことで、河川氾濫も少なくなると思っている。黒川についても今後の維持管理をどのように考えているのか教えてほしい。 ○輪中堤を造っていただいた付近に公民館があり平成24年の洪水でも浸水した。公民館が低く、浸かってしまうおそれがあるのではと思っている。市から県へも要請しているが、どうにもならないという返事をもらっている。公共の場として重要なところであるため対策ができないか。
64	2019/11/6	阿蘇市 阿蘇西小学校体育館	14	○白川の国管理区間における以前の流下能力を把握しているが、平成30年以降はどうなっているのか。 ○大甲橋付近は土砂が溜まっているように見えるが、この2年くらいは掘削されていないのでは。 ○立野ダムのたかが200m3/sに対し、掘削の効果は大きいと思うので、どんどんやってもらいたい。また、その流下能力のデータを随時いただきたい。
65	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	1	○内牧橋から森地区迄の右岸にパラペットを設置してほしい。砂出ししたところを対象に１ｍくらい上げてほしい。
66	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	2	○国と県と管理区間が分かれているが、両方とも一級河川となるのか。 ○あまり中流のほうを整備すると下流が困るということがあるのでは。もし問題無いのであれば、上町と阿原目（あばらめ）という地区があるが、河川が蛇行している。それを真っ直ぐにしてもらえれば浸からなくなると思う。 ○阿原目地区については、河川が増水したとき、山からの水がはけ切れない。そこがスムーズに川が流れるようになれば、浸水が無くなるのではないかと思う。 ○中島地区は熊本市内に対しての遊水地という話を聞いたことがある。県ではそう考えているのか。
67	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	3	○立野ダムの洪水調節は400m3/sと認識していたが、300m3/sに減っているのはなぜか、下流住民としては心配だ。

※説明会でいただいたご意見等を要約しています。

NO.	説明会日	説明会場所		ご意見等
68	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	4	○白川が増水したときには支流が溢れて浸水する。白川をどんなに整備しても蛇行しているため土砂が堆積してしまう。河床の掘削については何年計画で考えているのか。
69	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	5	○上井手を利用して水田を作っているが、地震の時には上井手が詰まり、上井手自体も損傷した。この計画はダムありき。外牧の人からは、あの水害の時には長さ30、40mの杉、ヒノキが流れていた、それがダムに詰まらないはずがないと聞いている。詰まって被害が発生しないか心配している。また、白川と黒川が合流しているところは、北向山のところの岩石が崩れている。そういったものが詰まって、下流に岩、砂等が流れなくなるのではないかと心配している。是非、立野ダムに関する説明会をしたうえで変更計画の策定をしてほしい。国土交通省は現在、千葉等に応援に行っていると聞いている。職員数の削減により、ダムの説明会をするような体制が十分ではないのではないか。是非、国の職員を増やして住民に立野ダムや変更計画を説明できるような体制を作って工事を進めていただきたい。
70	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	6	○立野ダムありきの計画でがっかりしている。熊本市内は河川整備により川幅が広がり、流れる量も増えたのではないかと思っているが、最近の豪雨災害を見ていると、こちらでもっと大きな雨が降ったらダムから水が溢れてどうなるのかと心配している。 　阿蘇ジオパークの柱状節理を壊してまでダムを造って良いのか。異常気象で状況が変わってきているなかで、立野ダム周辺に集中豪雨が発生した場合には倒木や土石流などで埋まってしまうのではないか。余震もずっと続いており、活断層がすぐ近くにあるのになぜ建設できるのか。将来や孫たちのためにも何とかならないのかと思っている。気候変動に向けて検討するとあるが、検討してどういう策ができたかを聞きたい。立野ダムがこんなに安全であるということを私たちに示してほしい。
71	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	7	○今回変更でこれまで整備内容のなかった大津町区間に河道掘削の計画が入ったことは大いに評価できる。 　昨年、野村ダムの緊急放流で下流に犠牲者が出たが、国は想定外、自然災害として責任をとらなかった。立野ダムには調節ゲートはないが、土砂等が絶対に穴に詰まることはないのか、詰まることを想定すべきではないか。穴に土砂が詰まるとダムの上から水が溢れて一気に下流に流れ被害が発生した場合に国は補償するのか。
72	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	8	○立野ダムは流量調整ができないことが一番の問題。流木詰まり等の危険性。住民に対する説明が十分になされていない。地区住民に対する説明会があってしかるべき。 　阿蘇も噴火しており、川に砂が多く流れてきて用水路にもたまっている。堤防を高くして、道路部には陸閘などができるとよいと考えている。また、昔は砂利採取もやられていたが、昨今はやらないので土砂が溜まってしまう。そういったことも考えていく必要があるのではないか。 　立野ダムについては、流量調整ができて、なおかつ下流へ一気に放流するようなことはしないでほしい。
73	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	9	○自然災害を人間の力で全て抑えることはできない。そういった災害に備えていかなればならない。津久礼堰のそばには複数の碑があり、それを見ると50年ごとに大きな被害が生じていることが分かる。川岸に住む方はある程度堪え、または逃げなければならない。 　立野ダムは専門家が検証しているから大丈夫と言うが、専門家ほど怪しいものはない、住民の肌感覚が一番。7月の現地説明会に参加したが、立野ダムは５ｍ四方の３つの穴が逆三角形になっていることが危ない。最近は1000ミリ近くの雨が降る場合があるが、そういう場合には、とてもダムなどで防ぐことはできないと思う。そういう情報を含めて説明会をしてくれと議会でも話が出たが、一度も地域住民向けには開かれていない。議員や区長など選ばれた方だけを対象にしている。しかし、被害を受けるのは住民であり、そういう人間尊重の視点が国交省には欠けている。町の事業であれば説明会をせずに進めることなどは許されない。そういうことをやっているのが立野ダム工事事務所だと思う。高齢者等の災害時要援護者には、こういう時にはもう少し早く逃げてくださいといった命を守る情報などを早く流すべきではないか。 　立野ダムができれば安全だと思っていたが、今は違う。三つの穴が逆三角形であり、一番下の穴は早い段階で詰まる可能性がある。住民に寄り添った、住民目線の河川、ダムの整備を進めて欲しい。 　私も野村ダムの緊急放流の報道を見た。ダムがあったから人が亡くなった。法に基づいて対応したので過失はないというが、人は亡くなっている。そういう事にならないように対応してほしい。
74	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	10	○台風19号では箱根で2日1000ミリなど昭和28年洪水以上の雨が降っているが、台風19号と同様の雨が降った場合に白川の堤防はどのようになるか。 ○シミュレーション等はやっていないのか。
75	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	11	○白川では監視カメラはどのくらいついているのか。もっと充実させてほしい。
76	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	12	○景観や環境のことも書いてあるが、馬場楠堰上流の蛇行しているところに、平成28年地震後に流れてきたと思われる厚いゴム状のものが引っ掛かったままになっている。
77	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	13	○台風19号の被害を受けて国も国土強靭化計画など、気候変動などを踏まえた新たな方針で進めていくことと思うが、白川の計画についても決壊等が起こらないよう、令和の計画に見直してほしい。 ○立野ダム上流は土砂の撤去が行われているが、ダム下流にも大量に堆積しているので下流のためにも対応してほしい。
78	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	14	○先ほど住民説明会の開催をお願いしたが、住民説明会が開けないのであれば、その理由を文書で大津町役場建設課へ提出してほしい。説明できないことがあるから説明会を開かないのではないか。何かを隠しながら工事をしているように見えて非常に不信感を感じている。しっかり説明責任を果たすことが大前提であり、それが果たせていない。
79	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	15	○平成24年の水害を受けて、内牧橋から上流等が整備されたが、一部護岸工事がなされていない箇所がある。そこが被害を受けるのではと思っているので早急に護岸工事をしていただきたい。
80	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	16	○ダムは詰まらないのが原則。だが、詰まったら１時間で満水になると聞いた。そうなると大水が一瞬にして下流に流れ出て被害がでる。下流の安全を守るために責任ある回答をしてほしい。
81	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	17	○白川の河川改修をどう進めるかは立野ダムが大きなウエイトを占めている。こういう場に立野ダム事務所も参加すべきであった。こういう場合は危険になる。ここまでは安全ということを説明いただければ我々も納得する。そういう説明を是非実施していただきたい。そういう姿勢が不信感を募らせている。きちんと説明していただければ我々も安心する。次に説明会をされるときは立野ダムの参加をお願いする。
82	2019/11/7	大津町 生涯学習センター 文化ホール	18	○私も現地見学会に参加したが、立野ダムから緊急放流されれば下流は被害を受け財産を奪われることになる。ダムに関して地域住民への説明をお願いしたい。

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について○○と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
1	○		治水対策①にある高潮・地震・津波対策について、自然は想定外の事が起る いくら対策（金をかけても）してもこれで安全ということはないはずだ。 安全をこころざすには無駄が多い。そこそこでいい。被害にあったら あったでその被害救済にお金を使って下さい。 東北地方で津波対策で高さのある堤防を作ったが、全くバカです。 自然には負けます	魚道の整備をして下さい。又外来生物の侵入や拡大・はんしょくを租止することが 大切で、その方の対策処置をおねがいします。	記載なし
2	○		最良の判断による選択であると思われますので 住民としても応援します。	住んで安心の川づくりを御願いします	人々との生活に最も直結する河川なので更に今後共、 充実した整備を期待します。
3	○		記載なし	記載なし	記載なし
4	○		？の記載有り	記載なし	記載なし
5	○		S28年の洪水を教訓に白川の治水が行なわれ川沿いの住民の安全を保つことについては感謝したい。 ただその工事によって自然の景観を変ることも否めない治水を進めるにあっては自然と調和する様な工法で進めて下さい。	ダムなど観光資源として使い、地域と連携したとり組を実施し、 ダム反対団体などと共調した川作りを進めていただきたい。	河川の重要性については幼少の頃から川に親しむ機会を与えることが重要である。 そのために市内、県内の教育機関を通して子ども達にイベントを通して伝える試みを実施して欲しい。
6	○		今回の台風19号で被害が出たように、このところ想定外という話をよくきく。 生命や財産を守るために白川の整備の想定を数百年に1度というような度合いにして整備していただきたい。	川のよさと恐さとの啓発事業をもっとやってほしい！！ 川の学習館のようなものを充実してほしい。	記載なし
7	○		おおむね良いが、川床のしゅん設も必要と思われる	安全、安心、快適な川づくりをのぞむ	ダムは景観にマッチしたものとしないと 反対派がさらにヒートアップする
8	○		変更点を説明されたが、何を変更したのか、さっぱりわからない。 （比較表を作成すること）	ダムによる治水をみなおすこと。 土砂でうずまる	ダム事務所の責任者の参加をおねがいしたい。
9	○		・降った雨を川で直ちに流すのではなくダムも含めて各地域及び主要地点で貯留する方法も必要であると思います。 ・今の堤防を壊れにくい構造にすることが優先ではないかと思います。 ・水位予測も出す検討をお願いします。	住民が川沿いを連続して散歩できるような通路を整備してほしい。	・立野ダムを早く完成させ、市街部の安全を高めて頂きたい。 ・立野ダムの話が説明会で時間が取られ、整備計画についての意見が言えない人が多くいたようだ。
10	○		立野ダムのことについて質問しても、答える人がいないということに驚きました。きちんと説明もできないダム建設は、 整備計画からとりのぞいてほしい。 幅5mしかないダムの穴が流木等でふさがり、洪水調節できなくなるのは明らか。	記載なし	立野ダムの質問に答えられる担当者を出席させ、 説明会をやり直すこと。
11	○		立野ダムは危険です。造るのは止めて下さい。 今日出された沢山の意見を、きちんと検証して、住民の安全を第一にして下さい。	できるだけ少ない税金で最大の効果が出るようにすべきと思います。 ダムに頼らず、住民の声を受け止めてほしいです	ただ説明会を開いたからそれでよいということにはならないと思います。 不誠実なお答えで不信感を強く持つ結果となり、残念です。
12	○		記載なし	ふだんは、散歩やサイクリングで利用できる親しみのもてる川。 災害時は安全な川。	県道熊本菊陽線（黒髪6丁目あたり）白川河川工事の緑のフェンスがしてあり、歩道がとても狭くなっています。 子供たちの通学路でもあるので、狭くて危険です。緑のフェンスをあと1mくらいバックできないものでしょうか。
13	○		熊本地震後、土砂が蓮台寺や本山周辺でよく堆積しています。 定期的に撤去していただいてるので、今後も対応をお願いしたい。	親しみのある「川」 ちょっと歩く、ちょっと立ち止まる、心やすまる空間	大津や菊陽周辺の河川整備が進んだことで、上流の雨が下流域まで一気に流れてくるかも。 HP等で河川水位やカメラのポイントを増やしてほしい。
14	○		わかりません	記載なし	記載なし
15	○		記載なし	記載なし	記載なし
16	○		素晴らしい整備計画と思う。要は、早く着工するのみ。 安心安全これが国の本体	河川敷の有効利用。例えば野球場。サッカ場。グランドゴル場等の整備。あるいは釣り場の整備。 などなどレクリェーション施設の整備を充実させてほしい	記載なし
17	○		住民が安心に生活できるよう、整備計画をお願いします。	災害のない川づくり。	記載なし
18	○		今回の台風で天災か人災か　温暖化で経験したこともない降雨量で多大なる被害が出ました、ただ天災として決め付けるのは問題です　千曲川を見れば土堤防の決壊に無防備だと思います　決壊したのは土堤防で昔から変わらない安全神話があったと思われます。 ところで、熊本県は大丈夫ですか　台風19号並がくるのは時間の問題です　もし　白川が決壊でもしたら　熊本市は全滅です　白川は天井河原で一ヶ所でも決壊すれば全滅です 熊本県民は心配しています　県が豊肥線延伸案で飛行場までアクセス改善案で400億円　熊本市役所新築建て替えで200億円　その様な箱物行政はやめて河川のインフラに目を向けるべきです これまで経験したことのない災害だから、天災です　この様な考えはおかしいです 河川の雨水を大量に流す事が出来るようにすべきです　河川の幅　深さなどを考慮して河川の危険性を感知すべきです 災害を食い止めるのが県民として一番の利益です　備えが一番です 次は熊本かも　危機感をもちましょう	記載なし	記載なし
19	○		立野ダムはつくったらだめだと思う。19号の豪雨で、ダムの放流が何か所でも行われた。 ダムは災害をひきおこすし、ダムがあるゆえの危険がある。 ダムで川をせきとめる必要はない。流しておいた方がよい。	森林の保全とともに、河床に堆積した土砂を撤去する堤防を強化する （とにかくダムはムダ）	記載なし
20	○		28.6.26の熊本大水害の体験者です （[redacted]高校　2年生でした） 人工物では自然の猛威には自然でしか立ち向えません 水は恵みです　ナイル河の氾濫による肥沃な大地を思い出します	草原を守り自然林を増し、遊水地を拡げ使うこと 幼い頃は大水が来れば畳を上げ足首までつかって遊びました 現在家具が多過ぎかな．．．．．車等々	◎命は自分で守るもの ◎現状回復にお金は使うもの
21	○		法面がくずれないように、コンクリートにする！	お魚など、生きものもほうふ！	記載なし
22	○		記載なし	記載なし	立野ダムは降水量が、100mm/hを超える時などは 事前に放流し容量が確保するなど、治水専用となる運用をしてもらいたい
23	○		※（過去事例＋想定外の推測＋老財の知恵＋現代科学） 急がず慌てず、大参画協議にて定める。	地域性を破壊しない事！ 里山と里海の需要供給のパイプ（へそのお）が清流です！？	諫早湾問題とは違いますが！！自然との対話が必須です！？
24	○		記載なし	川づくりに際し、景観等に配慮して整備をするよりも 災害に強いまちづくりを行ってほしい	各地で大規模な洪水被害が発生しています。熊本もH28年に白川が氾濫し川幅を拡げる河川改修が行われましたが、前回の降水量より以上の雨が上流域で短時間に降ったら、現在の川幅で対応できるのでしょうか？ 温暖化の影響で大雨が降ることが増えてきています。また、氾濫が発生することを前提として洪水に備える必要があるのではないでしょうか。
25	○		川底が浅いように思う。	今は景観よりも安全の方が大切な時代かも・・・ 大きな災害が起きる前に整備をお願いしたい	記載なし

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について○○と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
26	○		記載なし	地球温暖化により、想定外の豪雨が発生しており、 特に上流で降った雨が時間差で下流に押し寄せてくるため、下流域での危険度について、住民への周知の徹底を行ってもらいたい。	記載なし
27	○		計画対象期間の30年において、現状より治水技術は発展していくと思うので、 技術水準の向上による　計画の見直し等が柔軟にできるようなしくみにしてほしい。	大きな災害においても　最小限の被害で　くいとめることができる ような川づくりを望む	居住地が緑川水系であるので、緑川水系でも 整備計画を推進してほしい。
28	○		川のはんらんや水害を防げる手法であれば大いに賛成します。	人々が安心して　川とあそび　散策できるようにしてほしい。	他都市の水害（堤防の決壊等）の防止と 早めの呼びかけをお願いしたい。
29	○		最近の大雨から考えると、ダムの洪水調節の機能よりダムの放流の危険の方に　恐ろしさを感じます。 川の堆積土をとり除いたり　上流の山の保全などをした方が効果が大きいと思います。	今回の台風19号の結果をみていて、立野ダムが立っていたら、白川下流の私たちは、 洪水の危険があったのではと、とても恐ろしく感じました。 ダム反対します。	もっと、白川流域の人たちや市民には立野ダムの建設のことを、知らせて欲しい。ほとんどの人がダムができることなど知らないです。メリットとデメリットを広報などで知らせて下さい。
30	○		私は白川の大水害の経験者で当時熊本市の本山町に住んでいましたが　あのような水害は二度とおこらない様にお願いしたいです。	白川の土砂の堆積は　もう少しまじめに浚渫すべきではないか。	私は色々の川でカヌーを楽しんでいますが、白川の2017年の夏は川底の大量の土砂で仲々思うように進めず、何度もおりて　カヌーを引いて歩いた位です河口付くでやっと思う様に漕げました。川底の土砂の量は大変なものでした。
31	○		一度、壊した自然は二度と元には戻りません。国の借金が1000兆以上もあるのに、何故、必要でもない建造物を造らなければならないのかわからない	記載なし	熊本地震が起きた時、不遜な人々に対する、天罰だと思いました。 もう諍いの種を造るのはやめましょう。
32	○		近頃は大水害が日本全国で発生し、甚大な被害がおこっています。 熊本もいつ起こるか知れません。早急に整備　お願い致します。	自然を守り　又、災害にも強い河川造りをお願い致します。	記載なし
33	○		近年の異常気象による集中豪雨での　洪水被害を見ていると早急な河川整備が望まれます。一日も早い整備をお願いします。	自然との共生を大切に、洪水に強い、人も遊べる川づくりをお願いします。	記載なし
34	○		・立野ダムは不要です。白川沿岸の堤防のかさ上げが必要です ・大津町には上井出があります。十分に可能ですし、上井出を延長して水を分配（分流）すれば活かせます（加藤清正の遺産をムダにしないで） ・国の予算は赤字なのに不要なダムを作るべきではない	・昭和30年代以前の白川の清流を戻してほしい、アユやうなぎ それにシジミが採れていました。白川への下水のとり込みがズサン過ぎます、護岸工事でのコンクリート化は必要悪です。金網に石をつめた（ジャカゴ）が自然を保つには良好だと思う。	・国立公園内に立野ダムは景観をこわします。絶対に反対です。自然環境をこわすことは保守主義と相入れません。無駄な公共事業は絶対に許すことが出来ない。即刻立野ダムは工事中止すべきである。 ・コソコソとダム工事を進めないでオープンにして欲しい。第2の原発にもなる。
35	○		令和に入って相次ぐ調節不能によるダム治水効果の限界が明らかとなる中、ダム建設を推進・前提の方便とする為の形式だけのアンケート・意見聴収は時間・財政・結果的に無意味です。 建設中の立野ダムの危険性は少少計画変更しても何の意味も持ちません。ダムが完成したとしても　地球の歴史から見て周辺は脆弱な火山性の地盤に囲まれていて　今後、更なる地球温暖化による大雨により、ダム機能を果すどころか、これからも益々続く　阿蘇カルデラ内からの土砂、岩石、流木等により、ダム崩壊に繋がり、下流域の多数の国民・県民の生命・財産を奪うといった『想定外』という言い訳は絶対に許されない『日本史』に残る大惨事を引起こすことが予測されます。	上流・中流・下流域共、深く・広く根を張る雑木林の面積を増加させることで木木による吸水量を増やし、河川幅を広げると共に河川床に堆積した土砂の撤去により流量断面積を広げること。 堤防は水を吸って軟弱・決壊する土ではなく、嵩上げして、コンクリートとすること。これ等の前提として流れを良くする為、直線とすること。内水氾濫については河川への排水管出口に逆流防止弁を設置すれば、陸地側からの排水と河川から陸地側への逆流共に解決すると考えます。政治・行政に携わる関係者は慣性ではなく、中止を決断する勇気を持つべきです。	日本国の政治・行政の最大の短所は　一度決定したら悪政と分っていても屁理屈を捏ね回して　これを中止しない。併せて、江戸時代であれば切腹と思われる事例があったとしても関係者は誰もなんの責任も取らないように思います。政治・行政が真に国民・県民の為に思慮しないことに大きな要因があります。 立野ダム建設を強行するのであればダム完成後に懸念される大惨事が生じた場合、誰がどのように責任を取るのか、建設を推進する関係者は現時点に於て国民・県民にマスメディア・広報を通じて明らかにしておくべきです。大惨事後に無責任な言い逃れ、他人のせい、責任のなすり合いならない為に。
36	○		以前にもアンケート募集あったが、全く意見は取り入れられてなく、予定通りの案が通過してしまった。（残念）長い視点で考えないと、一時的な災害等への対応ばかりしていても、自然が傷つくだけである。特に老朽化が急速にすすんでいる今、自然（とくに天候）が、不確定な今、もっと歴史的な川づくりを考え直して、自然と共に自然を生かす、川づくりを考えをすべきである。ダムは今要らない！	山林から、上流の小河川も含めて、白川流域から有明海まで、多くの動植物と、人間の生命を育み、生かす、川づくりを望む。 川だけでなく、山林　農業、漁業までを一体化したとりくみ、とくに上流の中小河川周囲の整備をきちんとしないと、だめだ。（歴史と気象も考慮して）	近所の小河川は国のものだからと住民は清掃などもできない状態も川もあります。 きちんと管理するか又はできないなら住民に管理まかせてほしいと思います。
37	○		記載なし	ダムのない川づくりを望みます 砂がすぐたまるということ言われてダムには穴があるからたまらない？？？ 流れている所でもたまるのに	説明会の日時の発表と開さい時期が近すぎ
38	○		菊陽町の改修等についての説明がほんの少しで、わからなかった 掘削のみか？	白川の対策は立野ダムと熊本市が中心で、大津町と菊陽町は　だ足のような感じがする	菊陽町の説明会であり、もっと菊陽町に関係することを説明すべきではなかったか。
39	○		ピーク流量を2700m³/sにして、河川整備によって、2400m³/sとしているが、 河川改修・整備をすすめていくのは大いによいことだと思うが、わずか、200m³/s程度の調節能力しかない。ダムについては計画を中止して欲しい。 ダムは、想定外の大雨に対応できないということが、全国の豪雨災害で明らかになっている。この点の検証をきちんとやって、住民に示し、ダム建設は住民合意なくやってほしくない。	・上流から下流に至るまで、環境や景観に配慮した川づくりをやってほしい。 よって、高さ90mのコンクリートダムの建設は直ちにやめてほしい。 ・自然を生かした、治水施設を充実してほしい。黒川遊水地の拡充を望む。 ・中流、下流域の河川改修を恒常にやってほしい。	白川の治水問題は、流域住民全体、熊本市民にかかわる問題なので、もっと詳しく、市民、住民の事をきいてほしい。今回のような、少ない参加の説明会ではいけないと思う。
40	○		記載なし	記載なし	立野ダム反対します
41	○		記載なし	記載なし	記載なし
42	○		記載なし	水辺に親しめる区間を考えて欲しい。	記載なし
43	○		世界有数のカルデラを壊して作る、コンクリートのカルデラは熊本の恥です。恥かしいところをわざわざ観光（ダム）客に見せるのは恥の上塗りです。 すぐに詰まり、下流を大洪水にする立野ダムは要りません。海外で起こっています。→別紙２　白川も美しい渓谷も死んでしまいます。	水源から有明海までふくいくと流れ、鮎の姿の見える川づくりを望みます。 立野ダムで有明海は死んでしまいます。 （腐った水が流れ水量も少なくなる）	立野ダムの真実を知らない県議会の人が多かったと聞きます。再度議員一人一人が態度（賛否）を公表して欲しい。大災害になったら誰が責任をとるか、決めて欲しい。 国交省の誰、知事、熊本市長、議員
44	○		熊本地震で明らかになったように、立野ダム予定地の岩盤は非常にもろい。 豪雨頻度が増加する昨今、穴開きダムは大きなリスクを背負っている。ダム建設には反対です。	遊水地をあちこちに設けて、洪水を緩和する。 日頃は公園として利用する。	記載なし
45	○		立野ダムを整備計画の重要項目としてありますが、大きな疑問を抱かざるを得ません。 熊本地震による阿蘇大橋の崩落が示すように周辺の地盤の脆弱性（これは健楽部命が立野を蹴破ったという神話もそれを物語っています）。 ダムによる土砂、流下物の堆積、満水状態の際の放流に対する危険等々、ダムによる治水効果よりもその弊害が多いと思われます。 したがって、今からでもダム建設は中止すべきと考えます。	気候の変化、流域環境の変化等による想像を絶する昨今の洪水被害にも対応できるよう、 あらゆる条件を考えて根本的に対策を講じていただきたい。 白川に関係する中小河川も含めて。 白川は上流からの火山灰土の堆積が川底を盛り上げているので、これの浚渫をまずやってほしい。	私は昭和28年(1953年)6月26日の白川大水害を経験しました。 爾来、白川の治水の必要を痛感しております。その後、対策も進み、拡幅、護岸等により、流域の様相も変化し、かなりの安心感を得るようになりました。 今後とも流域に対する治水対策を第一に事業の継続を切望する次第です。
46	○		伐採されていない放置状態のうっそうとした森林があちこちにあります。 このような森林の木は、根っ子が十分に育ちにくく、ひとたび洪水などが起こると倒木になり易く、災害を拡大させると聞いています。 上流域の森林の手入れが必須なのではないでしょうか。	河床の堆積土砂を放置しないで、定期的に除くようにする。河川氾濫の大きな要因は河床に堆積した土砂と聞きます。 税金を土砂のしゅんせつに使って欲しいです。	今年の台風被害は、ゲリラ豪雨や線状降雨のようなピンポイント被害ではなく、実に広範囲に及んでいます。ダムの緊急放流は複数個所で行われたとか。 異常気象によるこのような災害の傾向は、今後益々強くなるのでは。 ダムによる治水コントロールは、もはや限界というより危険だと思います。
47	○		台風19号で水災の被害にびっくりしています。水のこわさを感じました。 私は白川流域に居住しています。日々感じる事は堆積した土砂を除去する作業をすすめてほしいと思います。	住民が安心して暮らせる町づくり。晴天の日は白川の水の流れも生活にうるおいを与えます。 橋を歩きながら白川をみつめます。 大雨にも対処できる川の流れを創ってほしい	阿蘇の自然をこわすダムには反対します。最近の水災でダムが安全とは思いません、お金の使い方を考えてほしい。 堤防の強化と河川改修をすすめて下さい。
48	○		自然を知ることです。予測できない自然を知り、ムダな事はしないことです。 自然の摂理を知るならばバカなダムなど（立野）ムダで危険です。作ったらダメです。	川はなぜ上流から下流にながれるのか。 もっと勉強してください。ムダがとにかく多いハネを作ったり、川岸を何回作り直すのか。	河川で植木市等しないことです。認識が甘くなります。白川橋下周辺は遊びではありません。 川底にたまった土砂をとにかくとることです。あそびではありません。人命を守ること、守っていることを忘れないで下さい。
49	○		将来的に、地域の安全と住民の安心が約束されるものならば賛成する。	行政によって整備、運用（治水など、今回の整備計画）がされきれいな、安全な川	全体に呼びかけているように感じられない。 市役所に来て初めてこの取り組みを知った。 もっと分かりやすく、簡単に、目的や計画を示してほしい。

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について○○と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
50	○		伐採されていない放置状態のうっそうとした森林があちこちにあります。 このような森林の木は、根っ子が十分に育ちにくく、ひとたび洪水などが起こると倒木になり易く、災害を拡大させると聞いています。 上流域の森林の手入れが必須なのではないでしょうか。	河床の堆積土砂を放置しないで、定期的に除くようにする。河川氾濫の大きな要因は河床に堆積した土砂と聞きます。 税金を土砂のしゅんせつに使って欲しいです。	今年の台風被害は、ゲリラ豪雨や線状降雨のようなピンポイント被害ではなく、実に広範囲に及んでいます。ダムの緊急放流は複数個所で行われたとか。 異常気象によるこのような災害の傾向は、今後益々強くなるのでは。 ダムによる治水コントロールは、もはや限界というより危険だと思います。
51	○		わかりません	○○	記載なし
52	○		洪水ピーク流量3400m³/sが2700m³/sと変更になるようですが、これは想定を縮小されるのでしょうか。 想定は大きく見積もるべきだと思います。近年の気象状況を踏まえ、S28、6月の洪水規模を目標とするのではなく、1000年に1度レベルの洪水を想定し計画を作って下さい。	何より安全でいて、生物が多く住める川にしてほしい。	治水などでは大変お世話になっております。 ありがとうございます。
53	○		・河川及びその周辺環境の生態系に配慮した整備に努めていただきたい。 ・費用対効果を十分に検討していただきたい。たとえば、「立野ダム」建設は本当に必要なのか。	多様な生態系が維持できている川づくり 川を分断しないこと	立野ダムは洪水調節専用ダムということですが、多額の建設費用に見合うほどの機能が発揮できるとは思えません。 時代の変化やニーズを考えると、勇気をもって建設をストップすべきではないでしょうか。その分の費用は他の治水対策に回し、対策の加速化を図ることがベストな選択だと思います。次世代にツケを残さないためにも。
54	○		白川の今後30年間の川づくり計画、この20～30年を目標に整備を進めていますがそれまでに400mlからの洪水があると考えられます　また治水対策が白川は約25%未整備のようです。 戦後70年間あまりにも治水対策が遅れています　間に合わない、洪水がないように神頼みです 白川の今後の川沿いから土砂を取り除く工事をすべきです 取り除くことは堤防を嵩上げ工事と同じになります 取り除いた土砂は埋め立て工事が進んでる熊本新港に利用すればと思います 熊本新港が大きな大地として生まれ変わります 白川堤防のコンクリート工事には白川の砂利を利用し景観を壊さないように頑丈な堤防工事すべきです 熊本は防災対策として避難所の確保として最低であることを知りました 白川の決壊での避難所としてマンション、ビル、屋上として利用できる建物に非常階段などで屋上に逃げることのできる建物を考えるべきです 洪水被害の予測する　2日間での大雨　熊本の予測 400mlで　氾濫洪水警戒になる予測 500mlで　部分的に堤防を越える予測 600mlで　部分的に堤防が決壊する予測 今回の台風19号で記録的な1000mlの大雨があり、多大なる被害が出ました 熊本の30年間の治水対策が出ていますが、お願いがあります上記の正確な洪水予測被害を県民に広報してください。県民に安全神話があるかもしれません。	記載なし	記載なし
55	○		直接計画内容に関することではありませんが、計画承認後、整備（工事等）の着手の際、最初に行われる地元説明会等で概要版を配布し個別整備箇所の具体的な説明が利害関係者等におこなわれるかと思います。 また、概要版は、それ以外の各種説明会や視察・研修等で活用される機会があるのではないでしょうか。 整備計画原案を読むと、3ページ「白川流域の概要」白川水系流域図で国管理区間は示されているものの県管理区間については、その表記がなく、6ページ「主な治水対策」で初めて「本県管理区間」の文言が出てくるため、見る者（住民＝特に利害関係者）の頭を整理する、わかりやすくするためには、3ページ「白川流域の概要」の白川水系流域図の中で区間説明する、又は別にポンチ絵等を挿入し図示するなどすると、説明する側、特に説明を聞く側の混乱は軽減されるのではないかと感じました。 「どこ（誰）が、どこ（場所）で、なんば（事業）すっと？」というこの計画の結論を概要の中で先に示せる。 これは、原案の策定業務を受注されたコンサルタント会社の原案構成に係ることかもしれませんが、ある意味、今後、国、県で事業を進められる際、説明を聞く側にうまく理解してもらえるかどうか重要な部分ではないかと思います。 些細なことかもしれませんが、計画の実行者を示す出だしの部分となるのではないかと思いましたので、素人の一住民が一読し感じたことです。 計画の内容に関すことではなく、申し訳ありません。	記載なし	記載なし
56	○		世界に誇る大自然が残る雄大な阿蘇山に人工物のダムを建設すること自体気が狂っている。 原生林が生い茂る北向山と渓谷、阿蘇の魅力が積もったスポットの一つ。日本各地を始め、外国を見てご覧下さい。その大自然に人々は集まり感動しています。国の宝を破壊することは絶対に許されない。	自然を変えようとするから、しっぺ返しがおこります。ここ数年間、日本は各地で大被害を受けています。 復興には巨額の資金と労力が必要となり税はかさむ一方で大変です。それは子や孫にも押し付けることになり税の高い住みにくい日本になります。 白川にはダムは建設しない。どうしても必要とあれば、大自然を壊さない物でありたい。加藤清正の時代、よく考案した治水対策を行っています。仙台も同様に、よくぞアッパレ！と対策を施しています。もっと先陣の知恵を学ぶべきです。	28年6・26の大水害がありましたが当時、子飼橋にかかった流木を見ると自然の力すごさが分かりますが、穴あきダムが建設されたらと思えばゾッとします。 5年後また水害に遭いました。これは坪井川、井芹川水系が被害を受けましたがその後右岸左岸ともに堤防のかさ上げがなされ以後水の被害は耳にしていない。竜南中学校を始め地盤の低い地区は早めの下校避難で、また、長嶺中学校の校庭は一段低く造られテニスコートは更に低く造られ増水時の対策も工夫されています。高額なダムではなく工夫とアイディアで治水対策をしましょう。
57	○		・黒川下流部の川の面積が小さいのではないか （河道幅を大きく拡大したが早期にできるのでは） ・すべての遊水地にライブカメラを設置願いたい	・治水及び利水は最も重要であることはだれでも理解できる。 ・整備スケジュールが長がすぎるので早期に進めてほしい。 ・旧河川の活用策を考えてほしい。（治水及び環境対策）	・遊水地の計画が今後どうなるのか示してほしい ・嵩さ上げ地域の幹線道路も国・県で嵩上げできないものか。 ・農業用水への配慮を確実に行なって下さい
58	○		記載なし	遊水地の流入なしで下流域が水位が上がったのであれば、再度遊水地の設計を見直してほしい。	記載なし
59	○		最大の問題は、ただの一つもダムのない一級河川として全国に誇る白川に立野ダムを作ることに固執していること。 せっかくの計画変更の折、立野ダム計画は削除すべきである。ダムが昨今の記録的豪雨の場合、無力どころか有害であることは今回の19号台風やそれにつづく豪雨でも明らかになったばかりである。	まずは、堤防の強化と川幅の拡幅、河床の掘削やしゅんせつによる 流下能力の向上をはかること。	上流および流域の山林の保全管理、保水力の強化を はかることも必要である。
60	○		○○	記載なし	記載なし
61	○		○○	○○	○○
62	○		１．立野ダムを前提として変更案では治水は大きな地域住民への損害を与える事になるでしょう。ダム工事の中止、建設撤回での変更を求めます。 ２．その上で、菊陽地域に計画されていた湛水地の設置を行って下さい。 ３．立野ダム問題は、国、県は住民の理解が得られていない事を踏まえて工事を中断して、住民説明会を集落毎市町村毎に実施し、住民の理解を得た上で判断して下さい。	治水対策としては、ダムは万全でない事が、ここ数年の異常気象の中で国内だけでなく、海外でも明らかになっています。堤防の強化（スーパー堤防など）河川の浚渫、中流域での湛水地の設置などで対応すべきです。 我が家は水田がひさあり穴開ダムが流木岩石でつまった場合水田が干上がった場合の事を考えると、ダムは死活にかかわります。	貴省は千葉県や東北の災害に大変な苦労をされています。 御苦労さまです。その上で、第一に国民の立場に立った行政をされる事（ゼネコン奉仕のように受け取れます。）。 第二に職員の大幅増員をされる事。（今の人員では今後対応出来ない。逆に、今後も年率2%当り減の予定）
63	○		時代に即した変更だと思う。	日常利活する方策と、災害時との差別化が必要。 昔は、川は生活の源。今は、川の新しい付加価値づくりが求められる時代。川とは、環境保全の尺度とすることが大切。	記載なし
64	○		記載なし	H24年の洪水を体験しました。 水の増え方が早いのにはびっくりしました。 次回は早く避難しなければと思いました。	記載なし
65	○		記載なし	記載なし	記載なし

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について○○と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
66	○		河川道の掘下げ（砂、土砂の堆積）除去。 堤防を高める、（動物道、国も考えて、タヌキ、車被害多い。）	中、下流域の財産を打ち流さない様にして欲しい。（対応策実施の事）。堤簿を高くする。 ダム建設は、極力やめていただきたい（極力） 超強雨、超台風は、これからは常態化する。	記載なし
67	○		白川の中流で左右で沿岸工事をしてほしい。 流木がはしにかかり水害になりやすいので山のかんりが必要。	自然環境を保全する事で魚や生物が住みやすい白川でして下さい。	災害な無い川を作って下さい。
68	○		台風時、川のハンランのない様御願い致します。	頑張って下さい	記載なし
69	○		洪水対策	川底の掘削	記載なし
70	○		記載なし	阿蘇山からの火山灰及び石等が流れてきて、常に堆積している為、最低でも2年～3年に1度は川底をきれいにして欲しい。	記載なし
71	○		記載なし	記載なし	記載なし
72	○		記載なし	護岸工事について、私達の住んでいる地区では白川の流れが速い所に住んでいます。 白川が大雨で増水した時には、ゴトゴトと音を立てながら流れます。その関係で護岸の石積みが壊れます。その為には急流に強い護岸工事を望みます。	ダムの下流の砂利の堆積物の除去 畑ぜき、上井手取りへはのぜきの早急な復旧
73	○		記載なし	記載なし	記載なし
74	○		最大の問題は、ただの一つもダムのない一級河川として全国に誇る白川に立野ダムを作ることに固執していること。 せっかくの計画変更の折、立野ダム計画は削除すべきである。ダムが昨今の"記録的豪雨"の場合、無力どころか有害であることは今回の19号台風やそれにつづく豪雨でも明らかになったばかりである。	まずは、堤防の強化と川幅の拡幅、河床の掘削やしゅんせつによる 流下能力の向上をはかること。	上流および流域の山林の保全管理、保水力の強化を はかることも必要である。
75	○		白川の今後30年間の川づくり計画　この20年～30年を目標に整備を進めていますがそれまでに400mlからの洪水があると考えられます　また治水対策が白川は約25%未整備のようです 戦後70年間あまりにも治水対策が遅れています　間に合わない、洪水がないように神頼みです。 白川の河川敷の川沿いから土砂を取り除く工事をすべきです 取り除くことは堤防を嵩上げ工事と同じになります 取り除いた土砂は埋め立て工事が進んでる熊本新港に利用すればと思います 熊本新港が大きな大地として生まれ変わります 白川堤防のコンクリート工事には白川の砂利を利用し景観を壊さないように頑丈な堤防工事すべきです 熊本は防災対策として避難所の確保として最低であることを知りました 白川の決壊での避難所としてマンション、ビル、屋上として利用できる建物に非常階段などで屋上に逃げることのできる建物を考えるべきです 洪水被害の予測する　2日間での大雨　熊本の予測 400mlで　氾濫洪水警戒になる予測 500mlで　部分的に堤防を越える予測 600mlで　部分的に堤防が決壊する予測 今回の台風19号で記録的な1000mlの大雨があり　多大なる被害が出ました 熊本の30年間の治水対策が出ていますが、お願いがあります　上記の正確な洪水予測被害を県民に広報してください。県民に安全神話があるかもしれません。 今回の台風で天災か人災か　温暖化で経験したこともない降雨量で多大なる被害が出ました、ただ天災として決め付けるのは問題です　千曲川を見れば土堤防の決壊に無防備だと思います　決壊したのは土堤防で昔から変わらない安全神話があったと思われます。 ところで、熊本県は大丈夫ですか　台風19号並がくるのは時間の問題です　もし　白川が決壊でもしたら　熊本市は全滅です　白川は天井河原で一ヶ所でも決壊すれば全滅です 熊本県民は心配しています　県が豊肥線延伸案で飛行場までアクセス改善案で400億円　熊本市役所新築建て替えで200億円　その様な箱物行政はやめて河川のインフラに目を向けるべきです これまで経験したことのない災害だから、天災です　この様な考えはおかしいです 河川の雨水を大量に流すことが出来るようにすべきです　河川の幅　深さなどを考慮して河川の危険性を感知すべきです 災害を食い止めるのが県民として一番の利益です　備えが一番です 次は熊本かも　危機感をもちましょう	記載なし	記載なし
76	○		ダム式による治水は環境破壊が大きい割りに、効果が少なく、今日の極地的豪雨のひん発には逆に被害が拡大しています。 立野ダムの穴あき（5m）は流木の発生や急流（流石）で穴つまりは想定できます。建設費も高額になります。再考お願いしたい。	川の流れを生かした地域づくりをしてほしい。川の両岸に河川敷を設けて欲しい。 （川底より3m高く、巾25～30m） 河川敷に沿って自転車及び遊歩道を設け、釣場を設置して、町民が親しめる川にする。	上井手、下井手、中井手等は歴史的な価値も高い。両岸を整備し観光資源にして欲しい。特に瀬田の取水口から大津の中心部までは各区に割当てて、地域づくりの運動を掘り起こして欲しい。
77	○		河川整備と並行して、白川の浚渫を実施して下さい。	記載なし	記載なし
78	○		河川整備計画には賛成です。お願いしたいのは、実施段階で関係地元に事前説明をお願いします。	安全、安心な生活を送るため、誰にも自分の地域の事しか頭に浮かびません。想定外の災害に対応できる整備を、又環境面も考慮した対応をお願いします。	住民説明会が白川整備より、立野ダムの質疑が多くなったのが残念でした。今さら立野ダムと思い、早めに退席しました。地域住民が安心して生活できます様、河川整備よろしくお願いします。
79	○		自然災害の犠牲者の出ない計画をして欲しい。 鉄道や橋が壊れたら10年近くの時間がかかります。もっと早く交通機関の復帰をしてもらいたい。	ダムの無い川づくりをしてもらいたい。 台風19号の災害の恐ろしさは言葉にならない。人間が自然災害の恐ろしさをどうすればいいか考えてもらいたい。 危険な立野ダム建設計画はやめてもらいたい。	自然災害の中にダムがありました。そこで、絶対に立野ダム建設計画は危険だからやめてもらいたい。
80	○		別紙	別紙	別紙

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
81	○		別紙5枚の通り、大整備終了に感謝。 計画案はなぜか、ウソ、ごまかし満艦飾、虚偽公文書作成、行使の犯罪。 毎日のお仕事、白川の拡幅、明吾橋掛けかえを最後にすべての橋が架け替えられたことに感謝します。 令和1年10月23日、熊本中央公民館で閲覧した本文155頁、概要版18頁につき意見を申し上げます。第1　立野ダム本体工事を中断する。その後、青少年向け、壁のぼり、北向き山回遊山道、激流下り等の冒険、探索公園として整備することを請願する。 第2　感想 １．前回の計画書は平成14年だった。30年間の計画だったが、この15年間で計画はほとんどが完成した様だ。ならば、その完成状況を公開すべきだ。改修した橋の名前、金額等を。その後これからの計画内容を具体的に公開すべきだ、しかし、この両方とも書いていない。県民を軽視している。 ２．平成24年7月北九州豪雨、熊本地震で、14年計画40年で600億円の予定は、数千億円の工事費となった。1,100兆円の赤字国債は増えるばかり、日本はとっくに財政は破綻している。この中での膨大な当県の税金出費は、国民に対して心苦しい。 ３．立野ダムは1,000億円で、白川をドブ川に、有明海を腐臭の干潟に変える愚行だ。ぜひ中断して欲しい。1,000億円の河川改修等で、白川は1秒4,000トン流れるようにしてもらった。	１．立野ダム中断 ２．アユ、ウナギの寝床を豊富に川底に設置する ３．有明海へ土砂、栄養、冷たい山水を供給、1000兆個の生物多様性	１、昔の写真ばかりだ。なぜ、大修理、大整備の橋、拡幅状況を載せないのか。市民は橋の架替完了、拡幅に、全員感謝はしているはず。 立野ダムがなくても洪水にならない現状をかくしている。
82	○		記載なし	水路を船でめぐれるような、水路観光や、水辺のにぎわい（カフェやキャンプ場）づくりに国の力を貸して欲しい。	今日とのかも川のように、川を見ながら、お酒が飲めるような川づくりをして欲しい。
83	○		住民の安全安心な暮らしを守るために整備計画の一日も早い実施をお願いします。	住民が川のある暮らしを実感できる様な整備をお願いします。	記載なし
84	○		大変だと思いますが、よろしくお願いします。	安全対策の上の親水ですが、生活（自転車、散策等）人と川が近くにあるようなイメージです。	参考となり、勉強となりました。ありがとうございました。
85	○		記載なし	記載なし	勉強になりました。
86	○		ニュースでは逆流が起きて、浸水してしまったとあった。 下水道との連携が必要？？	安心、安全、人々が交流する場。 景観にこだわって欲しい。	記載なし
87	○		類にない降雨が発生しており、想定の流量設計で対処出来るのか不安な所がある。	地域住民・市民に河川のすばらしさを体験出来る川づくりを希望します。	河川改修に携わりますが、県民・市民に整備の必要性をもっと伝えていければと思っております。
88	○		同意です。	安全な川づくり	H24年の洪水（越水）は大事に至らず良かったと思います。
89	○		絶対に安全・安心の河川整備は難しいですが少しづつでもステップアップさせようとする今回の変更原案はとても適切だと考えます。	流域住民の生活とバランスの取れた川づくりを望みます。 川は都市部に残された貴重な自然環境なので今後も自然に配慮しながらの治水対策を景観の保全も考えて希望します。	ハード的な整備は限界があるのでより一層ソフト的な自助力を高めることが必要だと考えます。
90	○		気候変動にあわせて、災害に強い整備を進めて欲しい。	子どもたちが親しみのある場所をたくさん作って欲しい。	記載なし
91	○		記載なし	安全であることが最重要だが、親水性を高めた川づくりを望みます。熊本（白川）については、過去の災害のイメージが強いのか、川に対する親しみが少ない気がします。川づくりが、まちづくりにつながると思います。	記載なし
92	○		記載なし	洪水が無いような防災対策と景観を損なわないような川づくりが出来れば理想です。	記載なし
93	○		災害を防ぐことと同時に、熊本の魅力の一つでもある白川を素敵な場所にしていただきたいと切に願います。	アイデアはあります。熊本市民が誇れる川→全国から人々が集まる川にしていくことで、市民のレガシィにもなれるし、もっともっとイベントをしましょう。	記載なし
94	○		先の台風19号は想像を絶する雨域と風でした。阿蘇カルデラを抱える熊本平野に同様の災害が発生すれば、どのような事態を招いたであろうか。 阿蘇カルデラに雨水排水は立野以外にはありません。また風害はすさまじい勢いで河川が埋められることでしょう。千年率で見る時、おそらく立野台地は侵食されてしまっているのかもしれません。 阿蘇谷湖の決壊は非常に若い河川に起きた事件にも関わらずいまだに解析が進んでいません。立野山を西から見たとき湖水面の位置は100m高い位置になります。決壊したとき阿蘇谷湖にはものすごい地盤変動が発生し、濁川を境に滑動したと考えている。少なくともが決壊の解析が済むまでダム建設は中止すべきである。熊本地震により大きな地震エネルギー放出があったとはいえ南海トラフ地震はすぐそこに控えており、阿蘇火山以南には不安定さが高まっているのではないだろうか。 北向山断層を挟んだ北西稜線は特別な斜面崩壊をしている。また、同じく南東稜線は変動量が小さくとも北東からの圧縮を受けて変形している。俵山西斜面には相当に大規模な地盤変動が発生している。立野峡谷北面の平面位置は北向山裾にへばりつく。白川にはこのように奇妙な地形変形があります。 河川整備計画 阿蘇カルデラの枠で考えています。 地質から見る時、中央火口丘群とカルデラ洪水は別途考察されるであろうから、ここでは託麻砂礫層と火山灰層について触れておきます。託麻砂礫層はA4が分離したのではないかと考えております。大規模水害の原資になるでしょう。	記載なし	記載なし
95	○		立野ダム建設の中止をお願いします。想定外の雨量にダムは危険である事を全国の例でも証明されています。 穴あきダムの穴に流木や岩石がつまる事、活断層が近くにあることも危険です。白川の流下能力を維持するために定期に川底の土砂を浚渫する事は大切だと思います。又、山の保水量を高めるために木々の管理なども大切だと思います。	ダム工事が始まる前、白川と合流する近くの黒川で若者7～8人がラフティングをしていて「全国あちこち行くけどここは最高です」と柱状節理を背景に川下りを楽しんでいました。今は破壊されてしまいましたがジオパーク阿蘇を活かすことは大切だと思います。	荒瀬ダムの撤去で八代海のあおさも元気に育つようになりました。豊かな自然に生かされている私達、ダムの無い鮎の住む一級河川は熊本の宝です。
96	○		別紙を参照下さい	記載なし	記載なし
97	○		土砂堆積により河床の上昇は素人目にも明らかです。 土砂の除去の方法や期間、期日等、具体的な計画が示されていない。	昨今の予測不可能な多量の降雨の場合、河床の掘削が一番、川の流量を増やすのには最良の方法だと確信しています。どうか、早急な川底の掘削、浚渫をお願いします。	説明会の案内を熊日新聞にはさむのと、インターネットだけではすべての市民に案内した事にはなりません。河川地区の住民には、市政だよりや、県のたより、町内会の回覧などを回し、一戸一戸に知らせる必要があったのではないでしょうか。
98	○		定期的な浚渫を行って欲しい。 ダムではなく、上流・中流・下流の遊水地を作って、洪水調節を図って欲しい。先の豪雨で横浜市の遊水地が大きく貢献した。	人々、特に子供たちが川辺で憩え、川で遊べるような川づくりをやって欲しい。	渡鹿ぜきの下流の浚渫を早急に実施して欲しい。
99	○		2400t/min対応を急ぎ進めて頂きたい。同時に景観と安全への対策も（市内の豊かなエリアですのでおしゃれな街灯やトイレ、高くしたパラペットが自然になじむような工夫）をお願いしたい。 あわせて九品寺1丁目の遊歩道の分断もつないで頂きたいと思います。	まず安全ですが、同時に白川が一つの動線としてランニングや散歩に使えるように繋いでほしい。九品寺１丁目、 セグウェイやキックボード等とベビーカーや車いすでも通れるようにして欲しい。	熊本の渋滞を軽減するために、白川を熊本駅から熊大（学園大）まで、通勤、ランニング、散歩、デートに使えるように明るく、行き止まりの無い水辺環境を創って頂きたい。
100	○		千葉県、東日本の水害を見れば、白川、緑川は大丈夫かと心配になる、しかし、立野ダム建設には反対する。 降雨をとどめるのではなく、海へスムーズに流すかを考えてほしい。	河川の整備と矛盾すると思うが、川魚が多く棲めて、かつ、洪水が起きないような護岸工事やしゅんせつ工事をお願いしたい。立野ダムについては、熊本地震で地盤のもろさが分かったはず。数十年前の計画に縛られているのでは。短期間で建設費を投入せず、長期に白川をまもる資金に使われることを望む。	記載なし

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
101	○		どんな変更を加えようとも整備計画の中に立野ダム建設が含まれていることに反対です。立野ダムは放流孔が洪水時に流木等でふさがり、洪水調節ができなくなり、熊本市など下流にとって災害を防ぐどころか、むしろ危険である事は明らかです。しかも、この間の全国の洪水がダムの緊急放流による場合もあると指摘されています。	異常気象になればなるほど、既存のダムは役に立たないばかりか、危険なものになってしまします。立野ダムは建設予定地の地盤の弱さも指摘されており、ダム建設をやめて、ダムによらない治水対策を地域住民と共に考え、作成されることを求めます。	もともと、世界に誇る素晴らしい阿蘇になぜダムを建設するのか理解できません。自然環境を守り、世界中から観光に来てもらうためにも、ダム建設を中止し、ダムによらない治水対策をとって欲しいと思います。
102	○		治水のためと立野ダム建設をとらえていましたが。最近の豪雨の状況を見ると、ダムはさらに危険を加えるように見えてきました。絶対必要であれば巨額の税金を投入してでもと思いますが、むしろ逆で、堤防の強度を増す工事とかに緊急に取り組み、安心して生きていける状態にして頂きたいです。	雨水が下水道も流れ、大河の海へ。私達の体を流れる血流のように、とどこおりなく、さらさらと流れる状態は健康そのものです。かつて私が見た風景は雨期の前に、住民は家の囲い下水を清掃し、川は浚渫車が一年のたまった土砂を取り除く風物詩として、癒されてきたように思い出されます。取り戻したいです。	山や田、畑、住宅地、雨水を受け止める力が無くなり、全て川へ流れ込んできました。その上、「線状降水帯」という、同じ個所に長時間降りそそぐ雨は日本各地、どこでも起こりそうです。私達の暮らしは、自然災害に見舞われ、泣き寝入りさせられそうです。自然ではなく人がしたことです。一日でも早く考え直す時です。 ダム建設を中止してもらい、なぜ中止なのかを真剣に討議し、納得することが、生活スタイルを変えるエネルギーになると思う。
103	○		白川水系に直接関わっている県民よりも国交省に顔が向いているとしか思えません。 もっと、県民の為になる、県民の利益になる計画であって欲しい。 例えば、立野ダムは一時的に利益を得るのは大手ゼネコン。見かけだけの国土強靭化ですね。言葉足りない。（頑固なだけで変更・中止の意見は無し。） もっとしなやかに（毎年河川浚渫を行い、不安ある箇所の堤防と川岸を補修、強化）河川管理する方向に転じたらどうでしょうか。そうすれば、毎年、これに係る技術者・重機を県内に確保することが可能になります。（県内で全て回しましょう。）これが災害の備えでは。 県経済の末端に給与が支払われることになります。県税収も増えます。 温暖化進行で益々集中豪雨が懸念される昨今、もうダム一辺倒の考えは捨てるべきではありませんか。 「強靭化」された国より「しなやかに対応可能な県」を熊本で実現しましょう。 立野ダムの治水実験の方法は誰が聞いても、国交省の説明の通りだと納得はいかないものでしょう。私もとても信じられません。 南阿蘇鉄橋に相応しいのは清流です。90m高のコンクリート壁では興ざめです。阿蘇ジオパークが泣きます。 洪水時には、水没した木々は枯れてしまうでしょう。岸も崩れるところもあるでしょう。 地震や大雨でダム底に岩、石、ヨナ、木、枝等が溜った場合に、その撤去方法とその費用の負担者と金額は決まっているのでしょうか。立野ダム建設は今後予測できない災難をもたらすことになるのではありませんか。それならば、県として対応が可能な浚渫と護岸に方向転換して県民に負担をかけないようにするべきではないでしょうか。 県内に金を回して県経済に活力を与えませんか。県民一人当たり13000円と聞きました。ダムの資金（拠出金？）は県民の為に使って下さい。	記載なし	記載なし
104	○		立野ダム建設の中止をお願いします。想定外の雨量にダムは危険である事を全国の例でも証明されています。 穴あきダムの穴に流木や岩石がつまる事、活断層が近くにあることも危険です。白川の流下能力を維持するために定期に川底の土砂を浚渫する事は大切だと思います。又、山の保水量を高めるために木々の管理なども大切だと思います。	ダム工事が始まる前、白川と合流する近くの黒川で若者7～8人がラフティングをしていて「全国あちこち行くけどここは最高です」と柱状節理を背景に川下りを楽しんでいました。今は破壊されてしまいましたがジオパーク阿蘇を活かすことは大切だと思います。	荒瀬ダムの撤去で八代海のあおさも元気に育つようになりました。豊かな自然に生かされている私達、ダムの無い鮎の住む一級河川は熊本の宝です。
105	○		立野ダムはやめて下さい。	上流に遊水地、水田を多くつくる。	コンクリートがためのダムによる自然破壊方式をやめるべし。遊水地で子供たちをのびのびと遊ばせる。 大人は土地を金儲けだけに使おうとせず、自然の価値、安らぎを考えよ。川辺川の清流を見習って下さい（ダム無し川の美しさ。）
106	○		変更原案の通りです。	明後橋から大甲橋区間は、繁華街、防災拠点の市役所、小学校2校が所在する人口密集地域であり、防災の観点から整備計画決定後は最優先かつ直ちに整備に着手していただきたい。	今後とも住民の意見を反映した河川整備を行ってください。
107	○		現在の計画を進めて欲しい。	環境と防災の両立ができるのが理想だが、やはり人命第一の計画を進めて欲しい。	情報の発信に尽力して欲しい。
108	○		変更原案の2400m³/sを満足するには、左右岸共に堤防高が約1m不足している。最近の異常気象による豪雨を考慮すると、次の出水時に「越水」することも十分に想定される。 ソフト面を進めるにしても、早急にハード面での整備をお願いしたい。	川づくりについては、必要な河道断面積を確保する案として、１．パラペット嵩上げ案、２．緑の区間の掘削切り下げ案、３．河道浚渫案があるが、「河道浚渫案」はイニシャルコスト（根継など）以外に毎年のようにランニングコスト（浚渫費）が必要となる。「緑の区間掘削案」は市民の散策やイベント広場として活用されている緑地を失うことになる。当面は絶対に避けたい。 「パラペット嵩上げ案」は緑地を確保できて、コストも低く建設後の維持管理費もほとんど必要ないため、「パラペット嵩上げ」での整備をぜひお願いしたい。	緑区間には御神木のような「クスノキ」が2本あります。 どのような工法になってもこの2本は守って頂きたい。
109	○		各地で過去の記録を大きく上回る豪雨が発生しています。白川でも同じような豪雨が発生すると、昭和28年の洪水被害と比較にならない大災害となるのではないでしょうか。 豪雨が発生するのは来年かもしれません。変更計画に基づき早く整備を進めて下さい。	川沿いの歩道を河口から立野ダムまで整備して、安全で安心して川に親しめるような整備をお願いいたします。	白川の堤防道路を拡幅して、壊れないような大きな堤防に整備できないでしょうか。 熊本市内の渋滞対策にもなるのではと思います。 洪水を軽減する立野ダムや遊水地をたくさん整備してください。
110	○		白川に多数のカメラがあるにもかかわらずに、その場所にWebページを示すQRコードすら無く、計画が机上のものになってしまう心配があります。現地でも河川のカメラや水位情報への案内、良ければその数値が見られるようにして欲しい。電光表示が多くあるので有効利用していただきたい。	住民の意見も聞く	記載なし
111	○		安全にお願いいたします。	川がきれいになるように、掃除をがんばること。	安全第一にお願いいたします。
112	○		立野ダムの作り方について、作るのは良いと思われるが、流木対策等をもう少し小さい所まで考える必要があるか。	記載なし	記載なし
113	○		良いと思う。 今年の台風19号のような雨だった場合、立野ダムは大丈夫なのだろうか。	近年、想定外の災害が起きているので、白川周辺も何かあった時、「想定外だったから」と言わなくてよい整備をお願いしたい。	白川わくわくランドを訪問したが、様々な展示が壊れたまま数年変わってない。啓発のための館内だと思うのだが、壊れたまま放置してあるのはいかがなものか？。NPO法人で運営がされているようであるが、設備投資は国の責任ではないか？。子供たちもたくさん訪問するようにきいたが、現状で良いのだろうか？。
114	○		記載なし	記載なし	白川橋周辺にも緑の区間の様な市民の憩いの場のような整備をされると、熊本駅周辺の活力になると思います。
115	○		なし	生物が多い川づくり	白川の治水の歴史等、大変参考になりました。
116	○		なし	浸水、洪水の無い川づくり。台風が来ても堤防が決壊しない川づくり。	記載なし
117	○		洪水対策が重要	記載なし	地下水をこれからもきれいにお願いします。

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
118	○		記録に残すことの大切さを感じました、過去の水害の様子や被害の状況から、どの様に防災対策が行われ、今の生活を生きる事が今後の災害に対する防災意識につながると思いました。子供たちにその事を伝える事が大切だと思いました。 本日は貴重な時間をとって、対応して頂き本当にありがとうございました。	白川をもっと身近に感じられる様な、河川公園等たくさんあれば良いと思います。 川の水質も以前より良くなり、水生の生物等、子供たちにも見せたいと思っています。	記載なし
119	○		近年ダム放水による水害が起きている。ダムに頼る事には絶対反対である。	自然を生かし、共存できる川づくり	記載なし
120	○		記載なし	[redacted]の近くに住んでおります。河川工事の後、みるみる土砂（砂、石）かたまり、又、中洲が広がったりで今年の夏の台風の時は川幅が広くなった分、川の流れをおそろしく感じたことでした。ここ数年の雨の降り方では早急に土砂を掘削しなしと、川幅が広くなっただけで何の役にも立っていません。	まずは、立野ダム反対。 自然を壊して、奪って人間は自然には勝てません。 巨額の金を使って、どうして自然を壊すのですか。
121	○		今回の台風15、19号そしてその後の大雨、神奈川県相模原市で死者が出る土砂崩れ、又、道志川沿いの水害（死者が出てしましました）。その他、報道されない被害も各所で多く出ました、下流域に大都市をひかえるダム湖をこの台風や雨雲が直撃していたらどうなったいたか。たまたまで救われた所、助かった要因もあります→。	→コンクリートの箱モノ、ハードで自然の猛威を押さえつける事は最早不可能です。様々な検証からも立地の脆さ、穴あきダムの無効性は明白です。まずは住民の命、生活を守る方策を迅速に手配し、本来の自然と調和する形の治水治山を目指すべきと考えます。	立野ダムには反対です。
122	○		熊本地震で大規模な土砂崩れが起きた場所に建設される立野ダムは非常に危険です。同規模の地震が起きたら、ダムがあることで被害も甚大なものになるでしょう。洪水対策は河川改修工事をきっちりやっていけば良いはずです。ムダで危険なダム建設に莫大な予算が投じられています。二重三重に愚かな政策です。40年近く前の計画にしがみついていないで、新しい技術や発想の転換をすべきです。現在、立野ダムを推進している皆さんは、何のために進めているのですか。下流域住民の生命に責任が持てますか。	川や地下水の水質を守ることも大事です。 立野ダムは自然を破壊しています。景観も保持されていません。水質も悪化する事でしょう。	立野ダム建設を中止してください。穴あきダム（流水型ダム）は危険です。そもそも世界的に見ると、ダム建設が時代遅れです。コンクリートは永遠に使えるものではありません。解体がいつかは必要です。将来の子供たちに負の遺産を残すべきではありません。県民の合意が必要です。
123	○		立野ダムは白川の治水上不可欠としてあるが、白川の近くの多くの人が言われているように、大雨時は火山灰、石、流木が詰まるという事は目に見えています。今でも山の土砂が崩れている所に建設する。しかも、自然を壊してまで。ダム建設はやめてください。	河川改修や遊水地を作ることが大事です。 毎年、川底に溜まった土砂の掘り起こしをお願いします。	記載なし
124	○		変更原案も立野ダムによる洪水調節を前提としたものとなっていますが、近年、ダムが洪水調節機能を喪失する事態が頻発しています。にもかかわらず、洪水調節を前提とした河川整備にとどめるというのでは、洪水調節機能を喪失した際の水害は国交省に重大な責任が問われることになります。	越水しても決壊しない堤防づくり。定期的な河床掘削。立野ダムによらない治水対策への転換。	立野ダムの危険性はすでに何度も様々な方面から指摘されています。 建設を強行し。警鐘されていた被害が現実のものになれば明らかに人災です。良識あるご判断を願うものです。
125	○		記載なし	岸をコンクリートで固めるだけでなく、葦などの植物を活かした浄化や生物の保護を考えてほしい。	立野ダムの危険性を考えて工事を中止して欲しい。
126	○		今後30年間の川づくりに立野ダムは不要。 熊本大学～JR龍田口駅間の堤防嵩上げが出来、川幅が広げられ、川床が掘下げられ、ダム設置以前の懸案が解消した。	白川を排水路感覚で護岸整備するのは反対。 ジャカゴを用い、魚などの生物多様性を確保し、市民が散歩をしたくなる空間を整備して欲しい。	記載なし
127	○		ダムに関しては、本当に有効かどうか、洪水の時の働き、自然景観の問題、将来も見据えて、はたしてうまく機能していくか。いろんな意見もあって、作ってみないと分からないという感じで不安解消できません。 出来るだけ遊水地、あるいは川の流量を確保するための川床を掘り下げるなどを確実に行って欲しい。	整備計画で川の拡幅や堤防を作ったりコンクリートで固めたり、まだ手を加える所があるのかも知れませんが、人が川に親しむことが非常に少なくなったように感じます。最近では、まず、魚釣りをしたり、水遊びをしたりする光景が見られないなど、寂しい思いがしております。人が川を遠ざける心理もあるのかもしれません。川に親しむ視点が少しでも復活するよう何か仕掛けが出来ないかと思います。	具体的な地域ごとの対策については現場に出向いて、住民の不安や希望等を聞いて欲しい。 [redacted]ホシサン醤油の下流150mでは平成24年の水害で床上浸水の被害が出た。左岸（対岸）は農地で川の拡幅工事は終了していますが、右岸の住宅地のテルコーポ（アパート）の前の堤防が角張っている部分の底が水流で削られ空洞になり、陥没の部分に土嚢を何個か積んだりしてありますが、この付近が堤防決壊につながらないか（今回の台風19号の被害の映像を見て）不安があります。 ここの前の川床も浅くなり、掘削して欲しい。
128	○		記載なし	記載なし	ともかく、川の最大の使命は水を下流へそして海に流し入れる事です。その為には、川の水の流量が最大になるよう、川幅の拡大や掘削が必要と思います。又、河川敷の公園化など百害有って一利なしと考えます。安全第一でお願いいたします。
129	○		河川整備経計画の変更原案の説明会について、住民が知る機会が、開始の1週間前の地元紙の片隅の広告でした。これは、「特に、説明会又は、公聴会に関しては、十分に住民等への周知を図るよう時間的余裕をもってその開催の予定を公表するものとする」ことに著しく背くものです。市政だよりや県政だより他テレビ、ラジオ等でも広く知らせるべきだ。	白川の中流域（大津町、菊陽町）においても遊水地など比較的安くて済む施設を作るべきだ。徹底してダムによらない治水を追求すべきだ。 昨年の野村ダム、鹿野川ダム（愛媛県）の緊急放水、今年の台風19号でも各所のダムでの緊急放水と下流域での短時間の増水があり、かえってダムは危険だという事を教訓化すべきだ。	立野ダムは当初予算が917億円、すでにダム建設に向けて600億円もの国税が投入されていると聞いています。 実際的にはさらに1000億円以上の巨額の財政が投入されるかもしれない。国の財政が破綻しているのに立野ダム建設は直ちに中止すべきだ。 降水量でなく災害と人への近づき方はどの県も同じ地域の状態で被害が起こる。これまでにない雨がどれくらい降るか「極値更新」→災害に〇〇ついた地域の特性がある。温暖化　極〇〇〇〇が増える。将来的に増える。雨が少ない地域も増える。将来気候はあり〇〇〇〇ない方向へ
130	○		むしろダム建設中止を	川底の石や火山灰の撤去 堤防の整備	税金の無駄遣いをやめる 立野ダム建設費1000億円あれば→もっとほかのに活きた税金に
131	○		（変更案は代継橋や中流域の河川流量の引き上げですか） 立野ダム建設中止を。	河川の幅は広くなっていますが吉原橋から見る限り石がゴロゴロの状態です。 むしろ川底の整備に頑張てほしい。	何十年も前に決定した計画をまだやっているという事がおかしい。それも私たちの税金が使われている事にも怒りを。偉い先生方が言われていますが、ダム以外でも私達の生活を守る方法はたくさんあると思いますので。
132	○		白川河川整備計画変更原案の説明会（R1.10.31）有難うございました。 H24.7.12九州北部豪雨水害後の吉原橋掛替についても感謝申し上げます。 完成後の旧吉原橋右岸が撤去されたままの現状です。その後の大雨で、もう少しで旧陣内線まであふれそうでした。その時リバーサイドビルの床上浸水心配しました。 そこで、下記その他に要望提案しましたので、地域安全と水害防止案のご検討よろしくお願い申し上げます。	記載なし	１）河道内の堆積土砂の早急なる除去をお願いします。橋完成後の大雨で吉原橋下流左岸の擁壁内側が水流で流され、河道内堆積は60cm以上埋まっています。新吉原橋は、鉄骨梁の背丈が高いため、旧吉原橋の高（水面から）さが少し改良された程度と思われます。 ２）堆積土砂除去（河床低下対策）が計画的予算的に遅れる場合は、旧吉原橋右岸に護岸堤防設置を早急にお願い致します。その工事の際、[redacted]協力致しますので、併せてご検討お願い申し上げます。地理的にも吉原橋上下500～700m以内の河道内には、毎年堆積される流域で、次の大雨では危険ですので2件要望致します。
133	○		これからも	よくなってほしいです	記載なし
134	○		記載なし	記載なし	南区を歩こうを拝見しましたが、現在の島町上ノ郷町にはイオンタウンが出来すごくにぎわっています。残念です。
135	○		現在、戦後最大の大借金地獄に陥っている真っ只中になぜ莫大な税金を使って、いつ必要とされるかも分からないこのようなダムを造るのか。 多くの専門家が、かえって被害を大きくすると繰り返し言っているにもかかわらず。	大雨が家屋に被害がでると予想されるのであれば、住居を被害の及ばない高台に移転させるとか、その方が費用がかからないのではないか。ダムは最初に造って終わりではなく半永久的に維持費がかかるし、壊す時にも莫大な費用を要します。	国交省は常日頃からできるだけ金をかけないで効果的な方法はないかと考える習慣を持ち合わせていないのだろうかと思ってしまう。私は近いうちに日本は経済的に破綻していくと思っています。
136	○		各地の豪雨で、多量の雨が降った時には、ダムは全く役に立たないことが明らかになっている。 白川水系の河川整備計画は、ダムなし、河川整備計画にすべきだと思います。	記載なし	記載なし

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
137	○		立野ダムは幅5mの穴が流木や岩や土砂でふさがることが十分想定され、危険であることが想定される。 整備計画から除外すべきです。	住民に十分知らせること。ほとんどの住民は、立野ダムのことも今回の変更原案のことも知ることができない。	記載なし
138	○		記載なし	川は日頃の整備が大切だと思う。今年の台風を見ると、川の役割は出来たのか。〈長のなど〉地形に要るのかも知しれないが、台風、雨量にはかなわない。どうすれば良いのか。川の整備、国土の整備、山、川、台風との対策。	記載なし
139	○		新聞をとっていない人にも知らせて欲しかった。	ダムにたよらない河川のありかたを考えて欲しい。	一度決まったこと、ダム等とりやめなくてはならなくなっても、不要と分かっても工事は中止にならないように思います。 やめる決断も必要と思います。
140	○		今回の変更で、白川の流下能力を2400m³/sとしている根拠をきちんと説明すべき。これまでの整備計画では、目標流量が2300m³/sであり、「国が情報開示した流下能力算定表によると、わずかな改修で、ダムがなくとも全ての地点で2300m³/sの流下能力が確保できる」というのが住民の主張であった。それに対して、国交省は「そのような改修はできない。2300m³/sの流下能力は確保できない」としていた。それなのに今回はなぜ流下能力が2400m³/sになったのか。きちんと説明すべき。	記載なし	200m³/sしかない立野ダムの建設目的がなくなるので、目標流量を2300m³/sから2700m³/sに引き上げたとしか考えられません。400m³/s引き上げた根拠を説明すべき。
141	○		本当に詳しい説明もしないまま（出来る状況じゃない？） ダムありきで進める為に、″リクツ″付けで文章を作り、人命は二の次で本当に情けない。	河川じきが整備され、たい積した火山灰や土砂を取り除いて、保っていけば、まず、ひどい災害はおこらないのでは。	市内や下流域の方々のもっと多くの声が表に出てほしい。 立野ダムは本当に災害を引きおこすダムになるのでは。
142	○		原案が不明	記載なし	ダムにより洪水がふせげるとは思わない。
143	○		ダムをつくる必要はないと思う。最近の台風や大雨で他県でダムのせいで、かえってひどい被害が起きている。ダムはつくらないでほしい。つくらない計画に変更してほしい。	①川底にたい積している土・砂・石をとり除く。 ②上流にある山林の保全	ダムをなくし、川遊びができる川になったらいいと思う。 川辺でキャンプ、カヌーで川下りなどができるように。
144	○		現実を見てすなおな気持ちになって下さい。	立野ダムではなく土砂災害対策や河川改修しかないと思います。	災害が多くなったことは誰もが認めることです。 未来を考え感じる力が必要です。
145	○		立野ダムは安全には役立ちません。 今からでも中止すべきです。 流域住民の意見をもっと聞いて欲しい。	しゅんせつをきちんとしてスムーズに水が流れるようにして下さい。	川は水を流すものです。 せき止めては自然の道理にそむきます。 ダムは作らないで下さい。
146	○		立野ダムの建設の見直しが必要であることを痛感しました。	記載なし	記載なし
147	○		記載なし	ダムにたよらなくて良い河川を作って欲しい。	白川添いの人達に一番感心を持って貰いたいと思いますが、全くと言って良い程、住民の方々の感心度の低さにびっくりです。
148	○		ダムの建設ではなくて、川底のしゅんせつの方が地元の経済にとっても有用だと考えます。 時代は変わっています。昭和の計画がそのままでしょうか。	自然のままで残すべきだと思います。	記載なし
149	○		変更原案を広報・周知しようとする意志・工夫が伺えない。 これで市民の意見を収集したと云えるのか。単なるアリバイ作りの手法としか受け取れない。	自然を抑えこむという工学ではなく、古人の知恵が示すようなフレキシブルな発想の治水が望ましい。	記載なし
150	○		土砂のたい積が進んでいるようです。 計画的な除去を。台風15＆19号の被害を見ても明らかな事です。	川沿いに散歩ができる遊歩道を作って欲しい。	記載なし
151	○		想定外の異常気象・豪雨が続発している、台風19号による災害をみても、ダムによる対策は現実的と思われない。白川の洪水を立野ダムで防ぐのは不可能でないか。中止すべき。河川改修等の対索が必要と考える。	極端な豪雨を想定した流域対索が重要ではないか。	記載なし
152	○		立野ダム建設は直ちに中止して、地域住民の声をもっともっと聞き入れてほしい。過去の水害でもダムの放流による被害が何度も繰り返されて来た。この事実を踏まえるべきだ、そして、これは人災である。	河川敷を出来るだけ広くして、河床掘削を常に行い流量を確保していけば「危険なダムはいらない」事に成り、安心して暮らせる様になる。堤防補強は川表も川裏も矢板で止めるといい。	今の行政マンは政治家のご機嫌取りばかり多く成って、国民の為に働く行政マンが多く生まれる事を期待しています。中央省庁の忖択は甚だしく我慢出来無い。政治家はいらない 本当に国民の為を思ってくれる政治家を選ばないと日本が危い。
153	○		記載なし	記載なし	外輪山に砂防ダムばかり作っても税金のむだ使い。山林の整備。
154	○		河道拡幅と滞積土砂の撤去、堤防強化が最も効果がある治水対策です。最小限の費用で最大の効果を上げるためにも、立野ダムは取り止めるべきです。	地域の事は地域で決めさせて頂きたい。 転勤族の国家公務員はご遠慮願いたい。	一点集中での治水は無理があります。 ダムは止めて、流域の各地に遊水地を整備し、平常時は住民が利用する施設とするべきです。
155	○		キケンな立野ダム建設は計画から除外して下さい。	天井川にならぬよう、河川堆積の土砂をとりのぞくこと。	ダム反対の住民に対しても、にげずに十分な説明対応をお願いしたい。
156	○		阿蘇に用水池ばかり本当に必用ですか？	河床の水田面積はどのくらいあるのですか。72万60ha？国交省に計算してください。 水田がダムの役割を充分する。阿蘇には減反政策はいらない。 あぜ70cm高くする。	阿蘇は溶結凝灰岩の為　立野ダムは計画を中止した方が良いと思う。外輪山に昭和40年頃に植林された杉は、根のはりが浅く密集しているので、間引きしたほうが良い。流木として河川に流れこむ事になる。草原を活かし、水田の整備をすれば充分水田に貯水が出来る。あぜを高くし、年間を通じて、みなロ（水田）を締める。水のおちる所
157	○		立野ダム建設を除くべき。	ダムによらない治水、河川改修、遊水地、タイムラインの整備など。	流域住民説明会を再組織すべき。
158	○		・立野ダムありきの話ではおかしい。 ・有明海の満潮時には洪水はどうなるの。？	①山林の整備②川幅の拡幅③川底のクッサク④川岸に宅地を作らない。	記載なし
159	○		住民のための整備をお願いします。	子どもの時も川に親しみ　大人になってもまた楽しめる川づくり。	大自然の前では立野ダム計画は無力のように思います 温暖化でますます予測のできないことがおこりそうでこわいです。
160	○		立野ダムは作ると危険です。中止してください。	ダムのない川をつくってほしい	記載なし
161	○		立野ダムには反対いたします。 1953.6.26見たいな水害はいやで、もっともっと考え方をいいんな方向から考えて、徹底討論をし、住民の皆様にも言葉で説明をしていただきたい。	白川の護岸工事の徹底や敏速な対応	今は、年々、異常気象で台風の強さも大きくなり、いつ我が身にくるかと思う。ぞっとします。気象情報の開示、地域住民へのすばやい対応をお願いします。

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
162	○		白川のしゅんせつが進めば立野ダムは不要	基本通りに川幅を広げて、しゅんせつする事。	ダム案が1番安上がりだったはずが、想定外の費用がかさんで1番高くなっているのでは？今からでも建設を中止すべき！！
163	○		立野ダム建設計画は除外して下さい。	堤防の強化、河床のしゅんせつ、掘削、川幅の拡幅、遊水池の造成など	記載なし
164	○		これまでの大水害で示されているように、豪雨になると大量の火山灰や流木でダムが塞がれ大災害につながると思います。立野ダムの建設には反対します。	堤防のかさ上げと川床の火山灰土や土砂を取除き、大量の雨にも応じられる流量体（面）積を増やしてほしいと思います。	記載なし
165	○		記載なし	昨今の災害ではダムの放水が検討されるようになり、ダムに頼れないことは明白です。土砂災害対策に人工林の整備、遊水地、河川改修に重点を移してもらいたい。	記載なし
166	○		立野ダムが住民のためにつくるのなら、今回変更の中に入っていなくてもきちんと説明すべき。税金を使ってやる事業なら説明責任があるはず。説明できないということは、住民のための事業ではないということである。	山と川と海を一体と考えた川づくり。阿蘇の草原の保全。流域の水田の保全。川底にたまった土砂、火山灰のしゅんせつ。異状降雨では、これまでのダムや堤防だけにたよる川づくりではだめ。	国交省の人たちは、自分の仕事にほこりをもっているのですか？これだけ説明できない事業、あなたの子供達にほこれますか？あなたの子供達、未来の責任がもてますか？
167	○		短時間でこの厚いものを読んでご意見とは？ 本気で意見を聞くことがない事を示すことで、意見を聞いたとの実績づくり。国交省、県土木事務所の本音だと思いました。	水害との共存も昔からあった日本の文化だと思っています。大自然に人間の科学が上回る事はない。どう害を少なくするのが科学の力。ダムではなく、改修。ダムづくりはコンクリート会社の利益を上げるだけ。	白川の改修はずいぶんすすんできたし、変更原案は新たな立野ダムづくりの理由付なのかな。
168	○		台風19号による大雨によって大きな被害が起きました。白川でも同じように、またそれ以上の大雨が降った場合にでも安全を確保するよう、整備計画の施設を早く進めてほしい。	大雨が頻発しているなかで、白川の洪水に対する安全の確保は今回の整備計画が完成しても、30年の1回起きる大雨にしか対応できないので、早く100年に1回の規模の大雨にも耐える治水を進めるべきと思います。	香川大学寺尾先生の講演では、極値更新した地域では大きな被害が発生するとのこと。白川でも気象変動が影響して、28年洪水を更新するような大雨が降ることが考えられる。降った雨を白川でそのまま流すのでなく、一時的に途中でダムや遊水地で残留することで、勢いを弱めることが必要と思います。
169	○		なし	なし	なし
170	○		内容は読んでいませんが、設計の基準を大幅に見直して500年後も安全な河川にして下さい。	川魚の釣が出来る様な河川	記載なし
171	○		記載なし	コンクリートより自然のままの土手がいいです。まげたりのばしたりあまりしないでください。	記載なし
172	○		令和に入って相次ぐ調節不能によるダム治水効果の限界が明らかとなる中、ダム建設を推進・前提の方便とする為の形式だけのアンケート・意見聴収は時間・財政・結果的に無意味です。 建設中の立野ダムの危険性は少々計画変更しても何の意味も持ちません。ダムが完成したとしても地球の歴史から見て周辺は脆弱な火山性の地盤に囲まれていて今後、更なる地球温暖化による大雨により、ダム機能を果すどころか、これからも益々続く阿蘇カルデラ内からの土砂、岩石、流木等により、ダム崩壊に繋がり、下流域の多数の国民・県民の生命・財産を奪うといった「想定外」という言い訳は絶対に許されない「日本史」に残る大惨事を引き起こすことが予測されます。	上流・中流・下流域共、深く・広く根を張る雑木林の面積を増加させることで土木による吸水量を増やし、河川幅を広げると共に河川床に堆積した土砂の撤去により流量断面積を広げること。 堤防は水を吸って軟弱・決壊する土ではなく、嵩上げして、コンクリートとすること。これ等の前提として流れを良くする為、直線とすること。内水氾濫については河川への排水管出口に逆流防止弁を設置すれば、陸地側からの排水と河川から陸地側への逆流共に解決すると考えます。政治・行政に携わる関係者は慣性ではなく、中止を決断する勇気を持つべきです。	日本国の政治・行政の最大の短所は一度決定したら悪い政と分かっていても屁理屈を捏ね回してこれを中止しない。併せて、江戸時代であれば切腹と思われる事例があったとしても関係者は誰もなんの責任も取らないように思います。政治・行政が真に国民・県民の為に思慮しないことに大きな要因があります。 立野ダム建設を強行するのであればダム完成後に懸念される大惨事が生じた場合、誰がどのように責任を取るのか、建設を推進する関係者は現時点に於て国民・県民にマスメディア・広報を通じて明らかにしておくべきです。大惨事後に無責任な言い逃れ、他人のせい、責任の擦すり合いならない為に。
173	○		平成25年10月1日に提出した別紙公開質問状に対し、十分な回答説明がないので変更原案は容認できない。	記載なし	別紙も含め、パブリックコメントとしてきちんと記録に残すこと。
174	○		平成25年11月15日に提出した別紙公開質問状に対し、十分な回答説明がないので変更原案は容認できない。	記載なし	別紙も含め、パブリックコメントとしてきちんと記録に残すこと。
175	○		平成27年11月26日に提出した別紙公開質問状に関し、十分な回答説明がないので変更原案は容認できない。	記載なし	別紙も含め、パブリックコメントとしてきちんと記録に残すこと。
176	○		平成28年12月5日に提出しました別紙公開質問状に関し、十分な回答説明がないので変更原案は容認できない。	記載なし	別紙も含め、パブリックコメントとしてきちんと記録に残すこと。
177	○		平成29年5月24日に提出しました別紙公開質問状に関し、十分な回答、説明がないので変更原案は容認できない。	記載なし	別紙も含め、パブリックコメントとしてきちんと記録に残すこと。
178	○		平成29年7月25日に提出しました別紙公開質問状に関し、十分な回答、説明がないので変更原案は容認できない。	記載なし	別紙も含め、パブリックコメントとしてきちんと記録に残すこと。
179	○		平成29年11月15日提出の別紙公開質問状に対し、十分な回答、説明がないので変更原案は容認できない。	記載なし	別紙も含め、パブリックコメントとしてきちんと記録に残すこと。
180	○		平成29年9月24日提出の別紙公開質問状に対し、十分な回答、説明がないので変更原案は容認できない。	記載なし	別紙も含め、パブリックコメントとしてきちんと記録に残すこと。
181	○		平成30年1月12日提出の別紙公開質問状に対し、十分な回答、説明がないので変更原案は容認できない。	記載なし	別紙も含め、パブリックコメントとしてきちんと記録に残すこと。
182	○		別紙申入れ文に記載した事項に対し、十分な説明がないので、変更原案を容認できない。	記載なし	別紙も含め、パブリックコメントとしてきちんと記録に残すこと。
183	○		自然に対して5mの穴をつくるから大丈夫など、全く笑うしかない。現在阿蘇は火山灰を噴出している。雨の降り方も変ってきた。立野ダムは他に類を見ない被害となる。作りたいダムと思う。66年前の地型と現在は河川かい修も出きつつある。阿蘇地域には遊水地が出来ている。立野ダムは不要。	阿蘇からの火山灰、流木を定期的に出す。阿ソの雨降り量は格別だという事を知るべきだ ダムでは止めきらない。	1953年6/26の害が出たからダムを作れ。造ればいい！！この考え方は軽率すぎる。止めて下さい。1953年、河川整備されていない時の水害で安易な考えでダムを造れは下流の被害を防ぐ、こんな考え方では甘すぎる。
184	○		白川水系なのにダムの計画の見直しはないのですか。地震後のダムに対する評価を地域にもっと説明をして、意見を聞いて欲しい。ダムありきの変更なんてありえない。	ダムのない清流白川を望みます。	なぜダムにこだわるのか。ダム以外の案も色々考えてほしい。なぜしないのかフシギ！
185	○		まだ読んでいません。	田んぼに豊かなみのりをもたらす水を供給する河川。魚をとる。泳ぐ。遊べる河川。写真をとる。絵を描く、対象となる河川。	上流→治山・遊水地、　中流→堤防かさ上げ、　下流→河床のくっさく　それぞれに適切な施策。
186	○		記載なし	あぶないきけんな立野ダムは不要です。	記載なし
187	○		税金の使いみちを考えてしまいます 人々の願いに合う様な企画を施行して下さる様な行政を願っています。選挙ではそういう方を見きわめて投票したいと思っています	自然を大切に研究者の御意見を沢山取り入れて遊べる川、憩いへる川を考えて欲しいと願っています	記載なし

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について○○と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
188	○		立野ダムの流量は遊水地や河川の土砂を掘って増やすことに対して、わずかしかない。ムダなダムは止めて欲しい。	川幅を増やし、土砂を掘って流量を増やすこと、上流、中流に遊水地をたくさんつくってタイムラグをつくること	記載なし
189	○		蓮台寺橋から薄場橋間のヨナ、土の掘削工事を大急ぎ，進めて欲しい。	上流における遊水池づくりを大規模に行い、利根川流域にまで迫って欲しい。	白川河川整備はダム建設と一体のものと考え、ダムが遊水池になり得ないし、最近の全国のダムが引き起こす人災・政治災を教訓にして欲しい。第2の熊本地震もダム欠陥になりかねない。責任ある仕事を行って欲しい。
190	○		危険な立野ダムを河川整備計画から是非除外して下さい。国土交通省が50年以上も900億という税金を計上できる仕組とは一体どうなっているのでしょう。	ダムを造らずに川底の土砂を常に撤去すること又河岸の強化などに費用を使用して欲しいと思います。	一度は大雨で、二度目は地震でこわれた立野のダム現場です。ここにダムは無理です。ダム建設費用は少額で済む河川改修にあてて下さい。
191	○		立野ダムに関しては中止を含めた変更の余地があると考えます。よって、計画からの除外をお願いいたします。	地域住民のいこいの場となりうる川づくりを望みます。「治」水だけでなく、活水、共生水となるような。	記載なし
192	○		県・国の一方的な施行には問題がある	今後の気候の変化について行けない 気候はどう変化するのか、専門家の意見を	立野の断層について、シンチョウに考えたい 国の対応には、強く当たる必要がある
193	○		毎年、川床をさらえば、大きな水害は起きません。計画的に整備される様に国は考えて下さい。	立野ダムはいりません。阿蘇の景観をこわします。地盤も不安なところです。事故でも起きたら熊本は大被害を受けます。	1日も早くダム工事を止めてもとにもどして下さい。
194	○		立野ダムを造るのはやめて下さい 先搬の台風19条のとき、ダムが役立つどころか、被害をいっそう大きくしたと思います。	①下底にたまった土砂をしっかり除去して川の深さを守って欲しい。この夏、白川の川底があらわになっているところを何度も見ました。 ②堤防を強化して欲しい。 ちまたでは、ゼネコンのもうけのためにダムを作るのだと思っている人も多い。	今後は自然災害がいっそう大きく、ひんぱんに起るのではないかと思います。根本的には人間の生活そのもののあり方が問われていると思いますが、差し当たっては堤防の強化を要望します。
195	○		龍田の水害は大変だった。多雨の気候になっているので、水の流れがスムーズにするL事大事。	19号台風で各地のダムの放流がテレビで知らせているのをみて、ダムの役割がかわってきており、川の整備はダムに頼らない方が良いと思う。	日本の災害時にげる場所がない。災害が起きない治水を考えて欲しい。
196	○		ダムをつくる前に河川整備をやるべし。	全国でもまれなダムのない一級河川を守る。	国交省の住民説明をもっとやってほしい。
197	○		周辺住民にきちんと説明し、住民参加での整備計画をたてるべきである。	上流から下流まで、危険を及ぼさない全面的な対策をとるべきです。	線状降水帯などこれまでにない豪雨での被害が、全国各地でおきています。河川整備計画が何年も先に着工とされているが、もっと短期間で完了する様、工事着工を急ぐべきです。
198	○		記載なし	記載なし	世界的に特にアメリカではダムをなくしているので日本は今でもダムに固しつしているのはおかしいと思います。立野ダムは中止してもらいたい。
199	○		河川整備計画から除外して下さい！	川底をちゃんと整備して下さい。ダムをあえて造らなくても川底の火山灰をとるだけで充分です。	記載なし
200	○		災害が多発するこの時代に、早急に対応してほしいと思います。	白川は阿蘇山系からおいしい水、天草への海迄の通り道の大事な川です。緑ゆたかな熊本を表現するような安全で安心で、県民市民の憩いの川になってほしい。	8年前の水害の際に、龍田弓削1丁目の白川沿いは床上浸水までの甚大な被害を受けたのに、そのままとり残されてしまいました。反対川の供合地区は高く立派な河川工事が行われましたが、住宅地に住んでいる私達は今だかつて安全安心とはかけはなれ、心配でなりません。これだけ住宅地が発展しているのに。早く片瀬側も改修して下さい。
201	○		土砂堆積により河床の上昇は素人目にもあきらかです。土砂の除去の方法や期間、期日等、具体的な計画が示されていない。	昨今の予測不可能な多量の降雨の場合、河床の掘削が一番、川の流量を増やすのには最良の方法だと確信しています。どうか早急に川底の掘削浚渫をお願いします。	説明会の案内を熊日新聞にはさむのと、インターネットだけではすべての市民に案内した事にはなりません。河川地区の住民には市政だよりや県のたより、町内会の回覧などを回し、一戸一戸に知らせる必要があったのではないでしょうか？
202	○		立野ダム建設には反対です。	（FAX不鮮明）	（FAX不鮮明）
203	○		記載なし	川を囲んで私達の生活があります。今は川で遊ぶところも少なくなりました。身近に自然を感じ、生活できたら、川の自然やこわさを私達が知りより生活を豊かに楽しめるのではと思います。（川を大切に）とか思えるように。	身近に五木ダム中止のことがありましたが、移転が進む中、結局自然が失われると案ずるものの、昔の集落がなくなりました。事業を進める大変さを感じました。地元の方の思いを大切に進めないならどうしたら～と考えとりくんで欲しかったと思います
204	○		まずは立野ダム建設中止をして、その後、いろんな反対意見に耳を傾けて下さい。きれいな川を維持するか、建設業社の言いなりで未来に美しい自然を残さない方法で進むのか。国交省の頭の良い方は真剣に考えて下さい。いまのままでは熊本はつぶれます。	川底の砂を定期的に取り除く方法は一番良いのではないかと思います。川の景色は大好きです。いやしてくれます。	生家は球磨川沿いにありました。家の前は1m30cm位の石垣でその上には柿の大木が3,4本立っていました。台風が来るたび、梅雨の雨が激しい時、球磨川の水は容赦なくその石垣を乗り越えてきました。ひどい時は畳の上まで水が来ました。その後ダムができました。でも水害は何ら変わることなく、改善されることはありませんでした。ダムが水害から守るなんてウソです。ダムがあるゆえに危険がいっぱいです。それまでは、水かさがジワジワ増えていたのに、一気に水押し寄せる恐怖を知っていますか？
205	○		立野ダムはやめて下さい。	上流に遊水地、水田を多くつくるべし。	コンクリートがためのダムによる自然破壊方式をやめるべし。遊水地で子供達を伸びのびと遊ばせる。大人は土地をカネもうけだけに使おうとせず、自然の価値、やすらぎを考えよ。川辺川の清流を見習ってください（ダム無し川の美しさ）。
206	○		近年ダム放水による水害が起きている。ダムに頼ることには絶対反対である。	自然を生かし、共存できる川づくり	記載なし
207	○		近年の雨の降り方を思えば又阿蘇地区で6年前のような豪雨が来れば白川はどうなるのか？とても危惧しています。ダムを造ったがゆえの大参事を私達はいやという程見ています。立野ダムを中止して頂きたい！。説に願います！	立野峡谷の自然を是非残して欲しいと思います。地盤の弱い立野峡谷にダムは危険すぎます。今からでも見直して自然保護に力を入れて行くべき！白川の底の堆積物を除去したり、川幅を広くする等を考え直して下さい。	白川の堤防については、場所によっては強化したり、より力のかかる場所には耐越水堤防を施す。技術的には充分出来るはずです。ダムを創ったばかりに多くの人命を失う事になってはなりません。税金は正しく使うべきであります。
208	○		今回の台風15、19号そしてその後の大雨、神奈川県相模原市で死者が出る土砂崩れ、又、道志川沿いの水害（死者が出てしましました）。その他、報道されない被害も各所で多く出ました。下流域に大都市がひかえるダム湖をこの台風や雨雲が直撃していたらどうなったいたか・・・。たまたま、で救われた所、助かった要因もあります。コンクリートの箱モノ、ハードで自然の猛威をおさえつけることは最早不可能です。様々な検証からも立地の脆さ、穴あきダムの無効性は明白です。まずは住民の命、生活を守る方策を迅速に手配し、本来の自然と調和する形の治水・治山をめざすべきと考えます。	記載なし	立野ダムには反対です。
209	○		別紙	別紙	別紙

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
210	○		熊本地震による「地割れ」など、カルデラ内の変化、地球温暖化などによる降雨量、の増加を重視する事。	加藤清正以来の「白川治水に清正の教訓は活かし、考える事。」ダムによる、水害防止はない。	龍田陳内の改修工事は終わったが、加藤清正が氾濫防止にしていた地域を県が勝手に宅地造成をして販売、宅地にし「水害を招いた人災である事」を反省し龍田陳内の被害、「人災」である事を周知させる必要がある。
211	○		熊本地震による白川上流の「地割れ」を重視する事。白川上流の県境の山くずれ、崖くずれは続きます。地震の影響を考えない、整備計画などはない。	県の防災計画づくりで、豪雨の際の降雨量、白川の洪水量の策定で、「想定外がない設定」をする事。安全な白川を目指して治水第一の河川整備とする事。	熊本県が研究、検討をつづけて、国土交通省に引きずられない事。国土交通省は住民の事を考えていない。
212	○		熊本地震で阿蘇地区の状況が変わりました。立野ダム工事を一時中止して、白川上流の状況について地質学者、治山学者、気象学者による検討、研究を実施し、地球温暖化による、降雨量増加による豪雨想定を改め、熊本県知事に報告、計画を変更する事。	熊本市に昭和28.6以来の水害を絶対防げる体制で治水優先の改修をする事。下流域でのしゅんせつ、堤防の改善などを実施し、立野ダムをつくらない、白川の改修に取り組む事。	熊本市内に2度と大水害を起こしてはならない。ゼネコンや、下請業者に仕事をあたえるための机上の白川改修であってはならない。ダムは人災を招く。国土交通省は考える事！
213	○		上記の住民説明会に行ってきましたが、なぜ急に原案を変更するのか、わかりやすい説明がなかったし、変更内容もよく分かりませんでした。（200ページに近い資料を読んで、検討する時間はありません）。住民の方達からは貯水池に対しての疑問が出ておりました。やはり地元で長くこの阿蘇の自然と共存してこられた方しか分からない。（住んだこともない政治家の人達が頭で考えるだけでは、特にこの難しい自然とのおつき合いはうまくいかないと思います）。立野ダムもしかりです。必要ないと思います。	今回の台風19号等の被害をみてもわかりますが、自然をコントロールすることは人間には不可能です。又、地球温暖化が進むなか、今までの知識や河川整備（ダムも含）では役に立たないことが多いと考えます。国土交通省の方が一生けん命されているのはわかりますが、もう少し地元の方々と話し合い自然をうまく利用するような方法を考えるべきです。頭が良いから、何でも解決できるとは限らないことを自然は教えてくれてます。	立野を通る度に、こんな軟弱な場所にダムを作ってどうなるんだ、と思います。阿蘇カルデラにたまっていた水も一番弱い部分（立野）が破れて外に出たのだと聞いています。最近の政府は税金のムダ使いばかり。細々と年金暮らしをしている私達は腹をたてるだけ。結局、国民がつまらないのだと思いますが・・・。私達が骨身をけずって出している税金を無駄にしないで下さい！！立野ダムは今のうちにやめた方がいいと思います。
214	○		整備計画の中に入っている立野ダム建設は不用です。今回の台風19号の被害はダム放流による増水も大きな要因となっており、危険を増幅するダムは建設するべきではなく、河床整備や遊水池を組み合わせることで安全性を高めることが大切です。	記載なし	住民にていねいな説明や情報提供を行うことが重要。
215	○		先の台風19号は箱根で1日で900ミリを超えるような記録的な豪雨があった。これは温暖化が産業革命以来1.1℃ほど上昇している時点で起こった。IPCCは今後十数年以内に1.5℃に上昇し、年とともに更に気温も海水温も上昇する可能性があると指摘している。この現状からみれば、今後も地域が経験したことのない豪雨、予想できない降雨のパターンが起こる可能性があり、この点を見据えた新しい河川整備計画が必要である。	上記に関連し、阿蘇谷の降雨が一気に流れ込む立野峡谷にダムをつくることは極めて懸念すべきことと思う。熊本地震により、地盤や北向山に影響が出ており、極端な豪雨によっては、土砂崩れが起こる危険性が高い。阿蘇に1日に1000ミリ規模で降れば、放流穴があってもダム湖はすぐに満杯になり、上部から洪水規模の水があふれ出す可能性がある。火山灰がダムの底を埋め、流木でいっぱいになったダム湖への土砂崩れ、山腹があればダム津波となって流木をともなう洪水が下流を襲う危険がある。また、放流穴も降雨初期の豪雨によっては、土砂崩れで埋まる危険性もある。特にダムサイトの左岸側の杉山は豪雨によって膨大な土砂と流木がながれ込む危険性がある。	流域の住民は記録的豪雨に不安をもっているので、ダムありきではなく、根本から治水の計画を検討すべきであり、住民も交えた専門家の検討会、討論会などを行うべきだ。
216	○		○昭和28年の水害で右岸の越水、崩壊で土砂等の流入堆積し、また圃場の土が流出し一部がその状態で堤防が構築され、その分の番地は非課税になっております。 ○平成24年の水害でまた右岸が越水し土砂が流入堆積し整備されました。現在も一部（大林地区）の圃場に土砂等が堆積のままです。 ○今回の見直しで内牧橋から森橋迄の右岸の堤防嵩上げ、またはパラペット1M位の構築を御検討の上是非よろしくお願い致します。 ○要望者別紙添付致します。（P-2/3、P-3/3） （※別紙2/3～3/3：大津町東小学校区住民22名の署名）	記載なし	記載なし
217	○		河川整備計画変更計画される時は私たち住民の声を聴いてからにして下さい。	白川で遊べる場所や、公園等作ってほしい。	河川整備計画される時は、危険度の高い所から優先する様、お願いします。
218	○		住民の事を考えて！！災害が起こってからは	記載なし	異常気象が多い中必ず熊本には起こります。
219	○		川についての意見のみですか？会場で立野ダムについて質問したのですが、ダム担当者は来ていないとの事。ダム、川、切り離しては考えられないと思います。わずか（流量）の変更を、このように一搬県民に問うのとを違和感を感じました。関東の様な大雨の場合、逃げてくださいとの（職員さんから）言葉があり、施策の逃げかと思いました。	白川は、川幅も広くなり、一見しただけで、安全性がぐんと向上したのが分かりました。それでも、ダムで市内の洪水までの時間かせぎと言われましたが、その時間をかせぐための立野ダムは、活断層のすぐ近く。もし、穴あきダムの穴がふさがったら、上から、あふれるのですか？（そういう事も説明が、ほしいです。地元住民）。そうしたら我々、川流域の集落はどうなるのでしょうか？初めて、国交省の方とお会い（会場）できました。	今迄、説明して下さい！と、お願いがあったようですが、無視して何で、今ですか？たて続けに、巨大台風の被害があっています。もしこの10年なくとも、一度、川をせき止め、巨大ダムを作ってしまったら、後の100年後の子供達が、ありがとう！と言うでしょうか？あの場所はこわいところです。先祖様（じいちゃん、ばあちゃん）から立野のこわさは語り伝えてもらっています。神様がカルデラをけ飛して作られた白川。神様は地震なのです。昭和に計画されたダム、この様に温暖化が進み、恐ろしい事が世界中でおきています。せめて、･･･熊本は、自然に逆らわず、自然に即した工事をして下さい。世界の阿蘇は自慢ですが、こわいです。 「「川」と関係ないアンケート」として破棄しないで下さいね。
220	○		大津町　町区、白川　日暮れ橋、付近の、蛇行を　有る程度直線にすると流れが良くなり　岩坂区　阿原目地区の水没が少しでも、緩和されると思う　阿原目地区は、山からの、水も流れ落ちる。	白川の護岸を　工事実施される、時は今後は　階段か、梯子段を付けて欲しい、　何故ならば、川遊び、魚釣りをされている時、緊急の場合直ぐに避難が出来る、　今までの工事の後にも見直して付けて欲しい。	中島区　寺崎地区の曲り角の、砂利、材木など　堆積物を撤去して下さい。白川全体の堆積物を見回り、危険な場合は、撤去管理をお願いします。
221	○		最初からダムありきで、ダムを作れば洪水を防げるという安易な考えから計画がすすめられている。しかし最近の台風や豪雨を見るとダムでより一いっそうの被害が出ています。まして穴あきダムです。3か所の穴あきに岩石や大木がつまることは目にみえています。それでも安全と国や県は言います。ダムによらず白川河川整備をすすめて下さい。	阿蘇の白川・黒川測に広大な遊水池・池など何か所も設備する。大津・菊陽町の白川ぞいに整備深く大くし，遊水地や・池を何か所も作る　年に1～2回は川ぞこをすくい、岩や石、砂をとりのぞくなどして下さい。	ダムは建設中ですが、真剣に白川ぞいの住民のことを考えて下さい　ダムをつくるなら被害発生時は全面的に国の責任で補しょうする　今、国は被害した方々に十分な補しょう対策をしてません。おかしいですよ。こうした意見を求めるからには無視しないで下さい。この意見を！！
222	○		七障子橋下流にまた土砂がたい積しています　計画はあるようですが毎年川底をさらえるようにして下さい	立野ダムは危険、自然ハカイ、土砂たい積。白川の水の大半は黒川流域ですので、阿蘇谷にもっと遊水池を作るべきだと思います。地元の農家もよろこびます。	立野ダムがつまって、満杯になり災害を引きおこした時、国は生命財産の全補償を約束するべきです。想定外はゆるされません。
223	○		（特に下流域の人々によく知らされていない）流域住民への情報広報が不十分である。住民集会等で質問した内容に関し（例えば、穴あきダムの越水の可能性、水量調整機能がない等）、回答がない。住民の意見を反映する制度がない等、公共事業とは考えられない手法で進められて来た。	白川は、″阿蘇グローバル・ジオパーク″の原点である。神話で語られているように神が蹴破った場所である。断層帯（布田川）があり、危険な場所でもある。しかし、風光明媚な場所であり、阿蘇の宝でもある。観光立県を目指すためにも、かけがえのない場所である。この自然を破壊し、ダムを造り、子孫に負の遺産を残すことは、耐えられない。川は水を流すもの、水が流れ易くするのの原点に帰って考えるべきである。（河川整備）	住民の意見が反映されるよう、住民集会には、大臣（政策決定できる責任者）も出席し意見や提案を聞き、政策に反映して欲しい。（自然を守り、少ない費用で出来る方法） 立野ダム建設を停止し、再度住民の意見を聞き、河川改修を進め（遊水池と組み合わせ）、子孫に誇れる自然遺産を残して行くこと！
224	○		別紙による	・堤防が破損しない、強い堤防の川。（大水害防止） ・自然環境が豊かな、水に親しむことが出来る川 ☆この２つは相反するのでむつかしいですが、知恵を絞って！	記載なし

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について○○と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
1		○	白川の管理区間が国と熊本県で分かれていますが管理区間の変更を検討されることはないのでしょうか？ 昭和28年の水害を受けて白川の整備が本格的に始まりましたが当時に決められた現状の小磧橋を区切りとする管理区間の区分が今も続いています。 国が管理をする区間は人口の多い箇所です。 策定当時は小磧橋よりも上流は人家もまばらでありこれよりも上流側で田んぼの浸水程度で被害は軽微でした。 しかしながら平成24年の九州北部豪雨の災害では白川上流側の住宅地に大きな被害がでています。 もしもこの区間が熊本県では無く国の管理区間になっていれば国による事前の河川整備が進んでおり、被害も少なかったのでは無いかと思います。 以上の理由から河川整備計画の変更に合わせて管理区間の再検討もしていただきたいです。	洪水時以外の時には人間が川に近づけるような整備をして欲しい 白川夜市の取り組みは良いと思います。	記載なし
2		○	立野ダムが建設中とのことですが、ダムによる治水には反対です。 去年の西日本豪雨、今年の台風15号、19号による氾濫を見てもダムがあっても被害を防ぐことはできません。緊急放流は入ってきた分しか流さない。ダムは避難する時間を稼ぐと言いますが、緊急放流は予測、操作が難しく正しく(何が正しいかはむずかしいですが)操作できるとは限りませんし、ダムに溜まったドロドロの砂と水を高いところから位置エネルギーをつけて放出するという問題もあります。 基本的にはダムではなく、河川整備(堤防、掘削)と遊水地整備、ソフト対策(避難の仕方)におる治水を望みます。 ダムはコンクリートなので100年持つかわかりませんし、堆砂問題という大きな問題もあります。50年先、100年先を見据えた河川整備が必要だと思います。	市民が憩えるような川づくりを希望します。	アメリカを始めヨーロッパ、また韓国でも脱ダムに向かっており、世界の潮流はダムによらない治水を目指しています。 ダムがあるとよりリスクが高まるというのが世界の常識になっています。 日本は急峻で短い川が多いので、特殊なんだという方がいますが、日本中の川にこれだけのダムを造ってそれでも洪水が防げずにさらに必要だと言ってダムを造り続ける。お金もかかるし、維持も大変で砂が溜まり続けてその対応も取れない。 本当にダムが必要ですか？
3		○	有明海で漁業を営む立場として、以下の通り意見します。 １．整備計画の対象となっている堰について、対策としては「改築等」と記載されているのみである。一方、整備計画（変更原案）　p38、p41棟には特に下流域の固定堰が土砂を捕捉していると掲載されていることから、堰が砂を海への供給を妨げていると河川管理者も認識している。このことから、固定堰の対策としては「改築等」という曖昧な表現ではなく、「可動堰等に改築」とすべきである。特に河口に近い国管理区間に設置されている堰は砂を捕捉する量やその影響も大きいことから、先般要望書を提出した通り、必ず可動化にしていただきたい。 ２．近年の洪水被害の頻発状況から、特に洪水時の氾濫に直接影響する固定堰の可動化を早急に取り組んでいただきたい。 なお、過去においても河川内の掘削を実施しても、固定堰までは一洪水で土砂の再堆積が発生している状況である。よって、先般要望書を提出したとおり、河道掘削、堤防整備等に先んじ、真っ先に固定堰の可動化に着手していただきたい。 ３．土砂の問題とともに大きな問題は流木の問題である。立野ダムは継続して実施する計画であるが、先般要望書を提出したとおり、流木を捕捉する機能も有する立野ダムを一刻も早く完成させていただくと同時に、立野ダム関連施設として白川に流木捕捉施設の早期設置をお願いしたい。	先般要望書を提出したとおり、近年の白川流域での集中豪雨により、漁場に泥や流木、ゴミ等が堆積し、漁場環境が悪化している。 　そのため河川と海は密接に関係していることから、海ではノリ養殖業、二枚貝漁業、網漁業等が営まれ、生活の糧としている住民がいることをいつも念頭に置いてもらい、上流から河口だけに目を向けるのではなく、その先の海にも影響があることを考え、10年後、20年後、30年後の未来の子供たちに豊穣の海を残すためにも、整備計画を機に今一度再確認してもらいたい。	記載なし
4		○	関東、東北、北陸で台風19号による恐ろしい被害が発生しました。白川でも同じような規模の雨で異常洪水が起きることは想定外ではありません。 早く整備計画に定めてある整備を進めていただきたい。私の地区では昭和28年の洪水の時でも床上１ｍ程度まで浸水したと聞いています。立野ダムも早く完成させ、ダム下流に流れる洪水が少なくなるようにしていただきたい。	住民が川に親しめるような整備として、小磧橋から白川橋まで川沿いを散策できるような通路、堤防から水際に近づけるように階段などの整備を進めてほしい。	想定を超えるよう豪雨により各地で悲惨な洪水被害が発生している。流域に降った雨を一度に川で流すのではなく、流域の各地区で分担して貯留するような洪水対策が必要ではないか。 白川流域で想定を超える雨をすべて川で受け持つことは、下流の被害を大きくすることになるのではないでしょうか。立野ダムは下流に流れる洪水を低減させることが目的となっており、早期の完成を望みます。
5		○	記載なし	白川夜市が開催されている河川公園に街灯が必要だと思います。防犯上としても必要だと思います。 秋は18時以降は暗くて危ない感じです。	台風19号での被害が報道されていますが、白川は大丈夫でしょうか。 大きな被害が出ないよう整備をよろしくお願いします。
6		○	河道の断面積不足への懸念はその通りだと思う。早め早めに浚渫や堀削を お願いします。ダム工事で流量が乏しい状態が続くと河道の堆砂が増えそうで 心配です。	白川は近年ほかの河川に較べて多大なお金を掛けて整備されていると考えます。 今後は維持費が上乗せされるものは作らないほうが良い。（次代にツケを廻さぬため）	立野ダムは「ジオパークの景観破壊」「溢水災害の危険」「堆砂除去等の維持費」の懸念が大きいため中止すべきです。今こそ千葉県などの堤防復旧や緊急防災工事にお金も人力も振り向けるのが国交省の、公務員の務めでしょう。
7		○	近年の降雨状況や台風の勢力の大きさ等を考えると、変更原案の計画規模想定においてのハード対策だけでは限界があるものと思われます。　予算等との兼ね合いもあると思われますが、最大規模の洪水等が発生した場合の整備計画策定が必要ではないかと思慮しております。 　また、災害等による尊い人命が奪われることのないよう当面は、変更原案でのハード・ソフト両面での早急な取り組みが必要。	記載なし	記載なし
8		○	「安全で親しめる川」とあるが、立野ダムができる事で立野ダム周辺での川と自然の触れ合いが失われる。 巨大なコンクリート建造物なので、世界の阿蘇を目指しているが、自然や火山活動を観に訪問する方々の失望を誘う。 （柱状節理を橋の工事で無断で埋めてしまった）ダムによる観光など世界が笑う。流域にワンド（遊水地）を設ける事は「多様な動植物が生息・生育・繁殖する川」目的に合致する。「上流から河口まで一本でつながる川」とあるが、さらにその前の水田（農業）、さらにその先の海（漁業）との連携を考えるべき。水田が機能していれば、流量調節（ピークカット）の一役を担える。また、山の養分や砂が有明海を豊かにする。	ダムの無い川を希望する。ダムがあると、山の恵み（養分や土や砂）や様々な循環を止めてしまう。 自然の摂理に従って河川の管理をすべき。水害に対しては、上流部の山や草原の手入れをキチンと行い気候変動（豪雨など）による土砂の流出を防止する。上流部の無理な人為的な開発を避ける。流域にワンド（遊水地：「多様な動植物が生息・生育・繁殖する川」に合致する）を整備してピークカットを行う。下流域では、人口減の状況から人の方が水害に対して安全な場所へ移住する方が良い。	先日の台風（巨大化）による豪雨や昨年の西日本豪雨では、ダム決壊防止のために緊急放水が相次いだ。 所詮ダムは一定量のプールに過ぎず、ダムによって洪水対策が出来る訳ではない。ダム放流による急な河川増水が最も危険と認識する。自然であれば徐々に増水する状況を見ながらの対策が可能。先の熊本地震で山々は揺さぶられ、緩んでいる状態。今後数十年は、豪雨や台風による土砂や倒木の流出が多く出てくると考えられる。それらは立野ダムの穴につまり制御不能となる。また、阿蘇は今後、観光で世界中からの旅行者が自然や火山の景観を求めて訪れるが、観光地にダムは不要である。ダムによる観光などは、世界が失笑し、大きなマイナスであると考える。
9		○	流域内の排水機場（他機関含む）など浸水被害があって操作できなく 被害が拡大するようなことが無いようにしてもらいたい。	記載なし	多種多様なご意見がある中で物事を進めることは大変なことと思います。 優先順位を考えるときにまずは人命第一を考えて行ってください。
10		○	記載なし	記載なし	記載なし
11		○	台風19号の被害を見るにつけ、国交省の治水対策の欠如・欠陥によるものは明らかである。 国交省に任せていたら住民の命や財産を守ることが出来ない。白川ではダム建設よりも、河床掘削や堤防整備、堤防かさ上げ、堤防強化などの河川改修を進めるべきである。そうすれば十分、ダム無しでも水を溢れさせずに流すことが出来る。	国交省が決める河川整備ではなく、住民が決める河川整備を行うべき。 住民を守れない国交省は川から手を引いてもらいたい。	記載なし
12		○	台風19号の被害を見るにつけ、国交省の治水対策の欠如・欠陥によるものは明らかである。 国交省に任せていたら住民の命や財産を守ることが出来ない。白川ではダム建設よりも、河床掘削や堤防整備、堤防かさ上げ、堤防強化などの河川改修を進めるべきである。そうすれば十分、ダム無しでも水を溢れさせずに流すことが出来る。	国交省が決める河川整備ではなく、住民が決める河川整備を行うべき。 住民を守れない国交省は川から手を引いてもらいたい。	記載なし

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について○○と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
13		○	１．なぜ今河川整備計画の変更を突然発表したのか 現在平成１４年作成の整備計画に沿って河川改修等が進められており、その目標が達成されたとは聞いていない。 現在の施工中の工事の結果を評価して初めて次の計画に進むのが普通である。 ２３日の説明会では、２９年度の流下能力算定表しかないとのことだった。 その後河川改修は進み、現計画の流下能力2,300㎥/ｓ（代継橋）はクリアしていると思われる。 つまり立野ダム等の洪水調節設備による調節流量300㎥/ｓが不要になってしまったので、慌てて計画の変更をしているのではないか？ そうで無ければ根拠も無く2,700㎥/ｓを出してくる意味が分からない。 もっと住民が理解できるように、根拠を明確にすべき。 現在の白川の流下能力もきちんと示すべきである。 ２．立野ダムの建設は中止すべきである。 上記でも触れたが、立野ダムの建設目的はすでになくなっている。 立野ダムは、満水になると2,250㎥/ｓの放流量となる。ダムが無いのと一緒の状態に瞬く間になってしまう。さらに流入量が増えれば非常用洪水吐から2,500㎥/ｓ放流され常用と合わせると4,700㎥/ｓも流れる。さらに流入量が増えれば、なすすべも無くオーバーフローしダムは決壊する。 熊本市内は壊滅的な被害を被ることになる。 平成２４年７月の九州北部豪雨災害に対する激特工事で、白川、黒川の河川改修、遊水地整備で河川能力は大幅に改善されている。 そのことをきちんと評価し、現整備計画がどのように充足されているかを住民に公表して、計画を変更するのであれば、改めて白川・黒川の洪水調節設備を含めた全体像の計画を検討すべきである。 ３．ダムではなく中流域での遊水地、田んぼダムなどによる洪水調節を行うべきである。	ダムの無い自然な河川を望む。 立野ダムは、大蘇ダムと同様漏水するだろう。 そうなれば、漏水対策のために湛水域はコンクリートの3面張りとなるだろう。 立野峡谷は完全に破壊され、復元不可能となる。 北向き山の原生林も天然記念物とは程遠いものとなるだろう。 そんな白川は見たくない。	１．立野ダム事業概要7頁や白川・緑川学識者懇談会の資料2頁で、立野ダムによって400㎥/ｓの洪水調節を行うとなっているが本当か？ 意図的にダムの効果を過大に見せようとしているのではないか？ うその説明をしているのではないか？ ２．パブリックコメントの募集は、広く開かれた状態で行うべきである。 今回の様な、ただ実績作りのためにこそこそと、なるべく住民に知られ無い様な方法で行うべくではない。 E-GOVの様なサイトにきちんと上げて、正々堂々と行ってはどうか。 そして、意見の提出者もきちんと表示してもらって、意見交換が出来る様にして意見を求めたらどうか。 そうしないと、不正な意見提出が行われても把握できない様に成り、結果パブコメが意味をなさなくなる。 いずれにしろ、やり方が姑息すぎる。 事業に自信があるのならもっと正々堂々としたらどうか。
14		○	熊本市全体の浸水予想はハザードマップで示されているが、これを見て自分や家などの危険性を考える人は少ないと思う。（全国的にそうだと思う） 白川の整備は以前と比べればずいぶん進んでいるが、ただ白川は熊本市街地を流れており、もし氾濫するようなことがあればその被害は想像を絶するものになるだろう。今後３０年の河川の整備計画は示されているがソフト対策が一般的な記述になっておりものたらなさを感じる。この整備を行っている間に２８災と同程度の雨量があった場合どのような被害が中心市街地で起きるのかをこの計画のソフト対策の中で具体的に示したらどうかと思う。 近年の雨の降り方を見ると熊本でも何がおきるかわからない。国が中心になって市民の危機意識を高める施策をとってほしい。	記載なし	記載なし
15		○	住民の意見を積極的に反映する姿勢を見せて欲しい。 「変更原案」の地域での説明会の広報が極めて不十分であった。 現在の計画に記載されている白川流域住民委員会など、住民の意見をきちんと吸い上げてゆく具体的計画が「変更原案」には削除されている。ぜひ、記載を希望する 堤防の拡張とともに、壊れない堤防を主要箇所に作ることが重要。「耐越水堤防（フロンティア堤防」「鋼矢板の併用」など。国交省の言う「危機管理型堤防」は中途半端である。国交省は優秀な技術力をもっているのに、政治的に封印するのは悲しい。 遊水地は菊陽や大津にも作る再検討が重要 立野ダムは、多額の予算を投じて作っても、高々200㎥/Sの洪水調節しかできない。千曲川の穴あきダムである浅川ダムは、今回流入量と排出量がほぼ一緒で、全く役になっていない。危険な立野ダムは今からでも廃止をすべきである。その予算を、他の洪水対策に回すべき。	住民の意見を、本当に取り上げて一緒に改善しようとしているのか、本当に疑問が持たれます。これから重要になるのは、流域全体の安全を考える「総合治水」の視点である。是非、住民に情報公開を徹底し、住民との意見交換（単にパブコメなどではなく）を十分に実施し、「聞置く」だけではない改善策を作り上げる姿勢を見せて欲しい。	説明会で出された意見、この意見募集（パブコメ）で出された意見を早急に公開して欲しい。また出された意見にどう対応するのかも、早急に公開して欲しい。
16		○	線状降水帯による豪雨被害が日本全国、頻発するようになった。今年の10月の台風19号は、多くの堤防が決壊し、緊急放流したダムも相次いだ。熊本地震後の大雨で明らかになったように、立野は多くの土砂と流木が流れる。5mの幅しかない穴が3つの穴あきダムでは、立木、土砂、岩石で、明らかにふさがる。立野ダムを建設する必要は無い。	災害を防ぐために、白河で今必要なことは、上流域では、荒れた人工林の間伐や、阿蘇の草原の保全、遊水池の整備、中流域では河川改修、下流域では、川底にたまった土砂の撤去である。	記載なし
17		○	10月16日の新聞に「白川水系河川整備計画（変更原案）を公表しました。皆様のご意見をお聞かせください」という、国交省と県からの小さな広告が掲載されていた。当面（概ね20～30年の間）の具体的な河川整備の内容等を定める、流域住民の生命財産にかかわる非常に大切な計画だ。防災には、行政と住民との情報の共有が最も大切なことは明らかなのに、小さな新聞広告だけでは大半の住民は知ることさえできない。国交省と熊本県は、河川整備計画についてもっと広く公表し、多くの住民に説明してから意見を募るべきである。 中央公民館で開かれた変更原案の説明会で、立野ダムに関する具体的な質問をしたところ、国交省の担当者は「立野ダムは今回変更した分には入っていないので説明しない」「立野ダム工事事務所から担当者は出席していないので答えられない」等と回答した。きちんと回答しないと、いつまでたっても住民の理解は得られないのは明らかだ。	危険性が十分に想定できる立野ダムは、今後の白川の川づくりから外すべき。	記載なし
18		○	白川の今後30年間の川づくりのための計画（白川水系河川整備計画）を現在検討しています、というのに、立野ダムの説明をしないのは、理解できません。国土交通省が立野ダム建設は必要というのならば、住民の疑問に対して堂々と説明すればよいのではないですか。	住民の知らないところで川づくりが進められているのは恐ろしいことです。	記載なし
19		○	流域の住民で、そのことを知っている人は全くいないと思う。私も川のことに関心があるのですが、全くわかりません。住民に知らせもしないで、立野ダムを造ったり、河川改修をしたりするのは、なぜなのですか。立野ダムは危険なのではないですか。	堤防をつくっても、反対に川が見えないようになり、洪水も見えないようになるので、よけい危険では。	子どもやご老人などの災害弱者をはじめ、もっと誰にでもわかるようにしないといけないのでは。誰の知らないところで工事を進めるから、台風19号でも逃げられずにたくさんの人が亡くなったのでは。
20		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「立野ダムの放流孔（約5m×5m）が流木や大きめの石によって塞がらないようにするための対策として、ダム上流に流木等捕捉施設を設けるほか、放流孔にスクリーンを設置する予定です」としている。しかし、流木捕捉施設は、高さ5m×幅42mなので、100mにわたり流木や土砂、岩石等をためたとしても5×42×100÷2＝約１万立方メートルしかためることができない。九州北部豪雨での流木について福岡県は、朝倉市と東峰村で少なくとも36万立方メートルとの推計値を公表した。ところが、平成24年の九州北部豪雨と熊本地震後の豪雨で、立野地点を通過した流木を国交省は算定していないという。流木捕捉施設を設置しても、流下する流木等に全く対処できないのではないか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
21		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「立野ダムの洪水初期で水位が低い時は流木等捕捉施設で流木や大きめの石を捕捉します。その後、水位が流木等捕捉施設を越える場合は、スクリーンにより流木を捕捉します」としている。しかし、流木でスクリーンがふさがったならば、下流に洪水を流せないということであり、洪水調節機能はなくなる。九州北部豪雨（毎秒2300立方メートル）の流量ならば1時間余りでダムは満水となり、洪水調節できなくなるのではないのか。洪水時、特に阿蘇カルデラ内で土砂災害が起きれば、大量の流木等が流下し、スクリーンがふさがることも十分想定できるのに、国交省では想定していないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について○○と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
22		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「水位の上昇に伴い、スクリーンで捕捉された流木の大部分は浮き上がり（図－３）、大きめの石は、湛水で流速が遅くなり、動かなくなります」としている。模型実験では、ツマヨウジを使用したとしている。しかし、洪水時の流木は曲がったり、当然根や枝葉がついており、また比重も大きく、20cmのすき間しかないスクリーンに食い込み、からみ合い、浮かないのではないのか。模型実験では、幅20cmのスクリーンは設置しているのか。外れた枝葉や根がスクリーンに詰まることはそうていしないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
23		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「洪水が終わり、通常の状態に戻った後に、流木や大きめの石を撤去し、次の洪水に備えます」としている。しかし、二山洪水（ピークが2回ある洪水）や、流木や岩石を撤去する前に次の洪水が来た場合は、全く対処できないのではないか。現在のダム本体建設現場上下流の工事用道路が、少しの増水でも何度も流失したことを考えると、洪水後にスクリーンまでたどり着くことはできないのではないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
24		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「立野ダムの放流孔は約5m×5m あり、この放流孔を閉塞させるような巨石（5m 程度）は、平成24 年九州北部豪雨でも移動していないことを確認しています」としている。しかし、それならば写真の巨石は太古の昔からその場所に存在したのか。当然過去の洪水でそこまで動いたのではないのか。平成24 年九州北部豪雨で移動した５ｍ以上の巨石が現地でいくつも確認されている。５ｍ以下の岩石が長さ80mほどある放流孔（穴）の入口や中で流木などとともに組み合い、動かなくなれば、放流孔は詰まってしまう危険性が高いのではないか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
25		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「一番下の放流孔はスクリーンの前面底部が空いており、砂礫等が通過するため、洪水調節能力が失われるようなことはありません」としている。しかし、スクリーン底部の穴は5m×5mであり、流木が流れてきた場合、縦になって通過しない限りふさがるのではないのか。洪水時に流下するおびただしい砂礫や岩石、流木などがその穴を通過することは不可能ではないのか。スクリーンの前面底部の空きは、砂礫や岩石、流木などでふさがるのではないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
26		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「水理模型実験では、流木が川への流出過程で枝葉の多くがとれた状態となることのほか、立野ダム上流の植生や流木の特性を考慮した条件で実験を行っています」としている。しかし、水理模型実験では、ツマヨウジなどの円柱材を使用しているので、浮いて当然である。実際の洪水時の流木は枝葉がつき、当然曲がったものもある。東京理科大学等の模型実験では、曲がった部材を利用している。曲がった流木や枝葉がついた流木も当然流れてくることを想定しないのか。外れた枝葉や根が流れてくることを想定していないのか。実際の洪水のときに立野ダム地点を流下する流木や土砂、岩石等の量を国交省は算定しているのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
27		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「その結果、流木の大部分は、スクリーンに張り付かず、水位の上昇・下降に伴って上昇・下降することを確認しており、洪水調節能力が失われるようなことはないことを確認しています」としている。しかし、流木の枝葉や根などが、20cmしかないクスリーンのすき間に食い込み、からみ合い、スクリーンをふさぐので、流木は浮かないのではないのか。水理模型実験では、流木の根や枝葉、はずれた枝葉や根、土砂や岩石等の流下物のことは全く考慮していないのではないか。流木の浮力とスクリーン表面が吸い込む力をどのように算定しているのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
28		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「なお、流速については、放流孔内の一番狭い箇所（5m×5m）に比べてスクリーン表面等の面積は大きくなっており、スクリーン表面では遅くなります」としている。国交省は、放流孔を覆うスクリーン表面の、洪水時の流速を算定しているのか。放流孔を覆うスクリーン表面が流木を吸い込む力と、流木の浮力をどのように算定しているのか。水没時のスクリーンの面積は川の断面積の10分の1程度であり、洪水時の川の流速の10倍程度の流速となるのではないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
29		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「一般に、土石流は、河床勾配が1/4 よりも急な箇所で発生するものとされ、河床勾配が1/30 よりも急な箇所が土石流区間とされています。（図－１）立野ダム建設予定地付近の河床勾配は約1/60 であり、流木、土砂、巨石が混じり合った土石流の状態で、ダム本体付近まで到達することはないと考えています。」としている。立野ダム建設予定地（河床勾配は約1/60）で土石流が発生しないのは当然である。平成24 年九州北部豪雨2日後の7月14日に立野ダム建設予定地を現地調査した際、大量の流木とともに、地響きをたて大量の岩石が流下していたのを現地で確認している。平成24 年九州北部豪雨では、阿蘇カルデラ内で400か所以上の土砂災害が発生している。そこで発生した流木、土砂、岩石等が、別々に立野ダム本体に到達することはあり得ない。流木、土砂、岩石等が混じり合って流れてくる水理模型実験を国交省は行っていないのではないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
30		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「熊本地震後も、ダム敷及びその近傍では、立野ダム建設を行う上で特に考慮する必要のある第四紀断層は存在しない。したがって、断層変位によってダム敷にズレが生じることはないと考えられる。」との結論を、関係各分野の第一人者からなる「立野ダム建設に係る技術委員会」から得ています、としている。しかし、現在、日本では2千以上もの「活断層」が見つかっているが、地下に隠れていて地表に現れていない「活断層」もたくさん存在する（国土地理院）。阿蘇外輪山が立野で切れた理由は、東西方向に走る断層が集中しており、2つの大きな断層の間が落ち込んだためである。そのような地史を考えても、目視やボーリング調査では確認できない第四紀断層が、ダム敷及びその近傍に存在する可能性は大きいのではないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
31		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「ダム敷に一番近い北向山断層は、ダム本体の建設予定地から約500m 離れた位置で、既知の北向山断層に沿って線状に活断層の可能性がある亀裂を確認しており、その亀裂は立野ダム建設予定地近傍へは向かう方向ではないことを確認しています」としている。しかし、目視できた横ずれ断層（北向山断層）が、ダム本体の建設予定地から約500m 離れた位置にあるので問題ないとのことだが、何メートルの範囲までを近傍というのか。何メートルの範囲までに断層がなければ安全なのか。その根拠は何なのか。横ずれ断層がダム水没予定地を横切っていることは事実ではないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
32		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「文献断層２５については、北端として示されている白川左岸の岩盤露頭や周辺の連続露頭を調査した結果、活断層による変位地形や、活断層と考えられる露頭は確認されませんでした」としている。しかし、文献断層２５の位置（仮排水路トンネル出口付近）に、山の上から白川の河床まで、大きな亀裂が走っているのが確認できる。その大きな亀裂は断層ではないのか。断層でないとすればその根拠は何なのか。ダム建設に影響があるのではないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について○○と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
33		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「立野ダムの建設においては、地表付近の風化等した部分は、基礎掘削により取り除き、その下の堅固な基礎岩盤を露出させ、その上に直接コンクリートを打設して、ダム本体を築造していきます」としている。しかし、ダム本体が建設される岩盤は立野溶岩であり、縦に割れ目が走る柱状節理である。ダム本体右岸側は幅500m近く立野溶岩が連続している。情報開示された資料によると、ダム本体の特に右岸側（立野溶岩の範囲）で、深さ500mにわたりグラウチング（セメントミルクの注入）が行われる。それが「堅固な基礎岩盤」と言えるのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
34		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「堅固な基礎岩盤とダム本体のコンクリートが一体化するため、基礎岩盤にトップリング崩壊は発生せず、基礎岩盤とダム本体の間に隙間が生じることはありません。熊本地震後においても、詳細な現地踏査を行いましたが、立野ダム建設予定地付近では、地表のはがれ落ちだけで、基礎岩盤の変状に起因するような大規模な崩落は発生していません」としている。しかし、風化した部分を取り除いても、また基礎岩盤とダム本体のコンクリートを一体化させても、露頭している立野溶岩の柱状節理が風化すれば、基礎岩盤とダム本体の間に隙間が生じることになるのではないのか。基礎岩盤は柱状節理であり、時間がたてば風化するのではないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
35		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「一般に、湛水に伴うダム貯水池周辺斜面での地すべりについては、全国共通の技術指針に基づき調査を行った上で、必要に応じて対策工を実施し、湛水に対する斜面の安定性を確保することにしています」としている。しかし、立野ダム貯水池周辺斜面は、柱状節理のある立野溶岩の上に火山灰等が堆積している、ダムを建設するには特殊な地質である。全国共通の技術指針は地形しか考慮しておらず、立野ダムに適応出来ないのではないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
36		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「熊本地震後に改めて、技術指針に基づいて調査を行っているところですが、これまでの調査で、湛水予定地周辺斜面から湛水の影響により不安定化の可能性がある 16 地区の斜面を抽出したところです」としている。しかし、その16地区は、多くの土砂崩壊箇所の中のほんの一部である。現状を見ると、特に右岸側の立野溶岩の台地側ではダム水没予定地の大半が崩落しており、国交省が技術委員会に提示した資料と大きく食い違っている。崩落箇所のほとんどでは、ダム水没予定地の底まで下りる道路がつくれない状況なので、重機などを下すことができず、土砂崩壊対策工事は不可能ではないのか。土砂崩壊対策工事は全体でいくらかかると想定しているのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
37		○	地震で地盤が緩んでいる立野にダムを作るのは危険だと思います。　先日の東北関東の台風の事例を見ても、有識者の意見も虚しく、手続き上の問題もありダムの運営は難しく、事前に放水するなどの準備なく、夜間に緊急放水して多くの人命が失われています。　　もし熊本市で同じことが起こった場合、どなたが責任を取れるのでしょうか。	水の流れをきちんとしてほしい。　山間部の森林をしっかり整備して、極端な量の水が溢れない様に、　川底の土を取り除いて、河川氾濫の可能性を減らしてください。そんなに予算はいらないと思うのですが。。	同じ熊本県に住まう市民として、皆さんの安全、皆さんのご家族の安全を守ることでもあると思うのです。どうぞ御熟慮をお願い申し上げます。
38		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「湛水の影響は受けませんが斜面上部等の崩壊斜面についても、林野庁等による対策工が既に実施されています。このことから、大規模な斜面崩壊が発生するような危険はないと考えています」としている。しかし、ダムに水没しない斜面でも、湛水の影響を受けるのは当然ではないのか。ダム水没予定地に隣接する北向山も至る所で斜面崩壊を起こしているが、林野庁等による対策工は実施されていないのではないのか。大規模な斜面崩壊はすでに発生しているではないか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
39		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「復旧に要する費用や期間は、まだ確定していません。また、地滑り対策については、対策工を実施する必要がある斜面の抽出など、引き続き精査を実施していく予定です。このため、事業費や工期への影響についても、今後検討していくこととなりますが、引き続きコスト縮減や工期短縮に最大限努めていきます」としている。しかし、917億円の総事業費のうち、現在までにすでに600億円以上が使われている。今後、ダム本体工事、ダム水没予定地周辺の大規模な地滑り対策等を考えると、917億円を大幅に上回るのは明らかではないのか。維持管理費まで検討すると、ダム以外の治水対策のほうがコスト面でも有利であることは、平成24年の立野ダム事業検証の資料からも明らかではないのか。費用や期間をどう考えているのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
40		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「当事務所Webサイトに掲載している「立野ダムの洪水調節」の動画は、立野ダムの洪水調節の仕組み、スクリーンの機能などをわかりやすく説明するために作成したものです」としている。しかし、動画では「流れてきた流木や大き目の石は上流に設置される流木等捕捉施設（スリットダム）で捕捉される」とのことだが、何立方メートルの流木まで対応できる計画なのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
41		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「実際の洪水では、雨の降り方や流域の状況などにより、洪水のピーク流量や時間ごとの流量、それに伴う貯水位の上昇・下降速度、流木の発生の有無や量、流木のスクリーンへの捕捉のタイミングなどの状況は様々であり、限られた時間で「立野ダムの洪水調節」の仕組みを定性的に説明しています」としている。しかし、動画では「ダムの貯水位が上がると、上流に設置した流木等捕捉施設の高さを超え、捕捉された流木の多くは水面に浮かびダム堤体方面にゆっくりと流れていく」とのことだが、流木等捕捉施設の上端は標高214m。上段の放流孔（穴）の下端は標高215mであり、ダム湖の水位が流木等捕捉施設を超えた時点で、上段の放流孔は全く水没していない。つまり、流木等捕捉施設は上段の放流孔には全く機能しないのではないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
42		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「実際の洪水では、雨の降り方や流域の状況などにより、洪水のピーク流量や時間ごとの流量、それに伴う貯水位の上昇・下降速度、流木の発生の有無や量、流木のスクリーンへの捕捉のタイミングなどの状況は様々であり、限られた時間で「立野ダムの洪水調節」の仕組みを定性的に説明しています」としている。しかし、ダムの水位が流木等捕捉施設の高さを超えたあとは、当然流木や枝や根、その他の浮遊物はスクリーンまで流れ、そこに貼りつくはずである。ところが動画では、流木がスクリーンに流れ着くまでにダムの水位が上昇し、流木がスクリーンに到達しないことになっている。これまで国交省は、スクリーンをふさぐ流木は「ダムの水位が上がると浮いてくる」としていたが、なぜそのシーンが今回の動画ではないのか。流木等捕捉施設からダム本体のスクリーンまでの200mの距離を、流木は何秒で到達する想定なのか。動画ではその間にダムの水位が約20m上昇することになっているが、ダムの水位は毎秒何mで上昇する想定なのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
43		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「実際の洪水では、雨の降り方や流域の状況などにより、洪水のピーク流量や時間ごとの流量、それに伴う貯水位の上昇・下降速度、流木の発生の有無や量、流木のスクリーンへの捕捉のタイミングなどの状況は様々であり、限られた時間で「立野ダムの洪水調節」の仕組みを定性的に説明しています」としている。しかし、動画では「ダムに湛水することで貯水池内の流速は遅くなるため土砂は貯水池内に堆積し大き目の石は動かなくなる」とのことだが、ダム満水時にダム放流孔の中、スクリーン表面、流木等捕捉施設付近での流速は、それぞれ秒速何ｍなのか。大き目の石とは、直径何ｍまでの石を想定しているのか。岩が動くことを想定していないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
44		○	国交省立野ダム工事事務所のホームページでは「実際の洪水では、雨の降り方や流域の状況などにより、洪水のピーク流量や時間ごとの流量、それに伴う貯水位の上昇・下降速度、流木の発生の有無や量、流木のスクリーンへの捕捉のタイミングなどの状況は様々であり、限られた時間で「立野ダムの洪水調節」の仕組みを定性的に説明しています」としている。しかし、動画では「湛水によって一時的に堆積していた土砂は徐々に下流に流されていきます」とのことだが、一時的に何立方メートルの土砂が堆積し、平水位に戻るまでに何立方メートルが幅5mの下段の穴（放流孔）を通り下流に流れると想定しているのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
45		○	立野ダムは穴あきダムで、国土交通省は「通常は水を貯めない。土砂もたまらない」と説明しています。しかし、洪水時の白川の水は大量の火山灰を含みます。昭和２８年６月２６日水害では、立野ダムの総貯水量の約３倍の２８４７万立方メートルもの土砂や火山灰が熊本市と白川水系沿岸の水田などに堆積しています（熊本県災害救助隊本部調べ　熊本日日新聞　昭和２８年７月６日）。洪水時にこれらの火山灰、土砂、岩石、流木などが、ダム下部に設置された３つの穴（一辺５ｍの正方形のトンネル）を通り下流に流れていき、ダムには何もたまらないということはあり得ないのではないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
46		○	立野ダムは、洪水が終わった後も穴あきダムであるために、たまった土砂が露出し、今度はたまった土砂が流れ出し、長期間下流の白川を濁すのではないのか。白川の鮎などの魚族のの生育を阻害し、有明海の海苔養殖への被害が起こるのではないのか。以上の疑問に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
47		○	2018年8月4日に、国土交通省九州地方整備局長あてに内容証明で下記文書を郵送しています。にもかかわらず、何ら回答や説明もないまま今日に至っています。下記文書に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できません。 ２０１８年８月４日 〒812-0013　福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号 国土交通省九州地方整備局長　伊勢田 敏 様 立野ダムによらない自然と生活を守る会 ダムによらない治水・利水を考える県議の会 立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表連絡先 [redacted] 申入れ文 立野ダムで災害が発生した場合、国家賠償法に従い責任を取ること ２年前の熊本地震で、立野ダム建設予定地の大半が崩壊した。現在も、崩落した山肌の大半は放置されたままである。多くの住民が「こんな危険な場所にもうダムは造られない」と思ったが、国交省は立野ダムの本体建設に着手しようとしている。 　今回の西日本豪雨では、ダムは想定以上の洪水では満水になり、ダムへの流入量をそのまま下流に流すしかなくなり洪水調節できなくなる点や、ダムがない場合に比べダム下流の洪水の水位も急激に上昇することが浮き彫りになった。 　これまで行政は、計画規模以上の降雨で被害が発生した場合、「想定外」ということで責任を逃れてきた。ところが近年、異常気象で「想定外」の災害が頻繁に起こるようになり、「想定外」が想定外ではなくなった。計画規模があてにならなくなった近年の豪雨を考えると、ダムは洪水調節で有効な選択肢どころか危険である。 　立野ダムは、建設予定地が崩れやすい火山性の地質であること、活断層が存在する地帯であること、洪水時に流木や土砂によりダム下部に設けられる幅５ｍの穴がふさがり洪水調節できなくなること、ダム満水時に土砂崩壊が起こればダム津波が下流を襲うなどの危険性が指摘されてきたが、国交省はそのような事態を「想定」していない姿勢を取り続けてきた。 　私たち流域住民は、立野ダムが災害をひき起すことを想定し、これまで９回にわたり公開質問状を提出し、立野ダム説明会の開催を求めてきたが、国交省は「回答せず」「説明せず」の姿勢を貫き通してきた。熊本県も説明責任を果たしてこなかった。 　私たちは白川流域の安全を守る立場から、災害をひき起こすことが十分に想定される立野ダム建設にこれからも断固反対するとともに、国交省及び熊本県に対し以下のことを強く要請する。 1.立野ダムは流域を災害から守るどころか、流域に災害をひき起すことが十分に想定される危険なダムであり、ダム本体工事を即時中止すること。河川整備の実施と維持管理で白川の洪水を防ぐことは可能であり、引き続きその充実と維持管理に努めること。 2.立野ダムが建設され、完成後に立野ダムによる災害が発生した場合、十分に想定されていた災害であるので、国家賠償法第2条に従い責任を取ること。 　　以上	記載なし	記載なし
48		○	立野ダムは危険なので中止すべき。	ダムによらない総合治水。	ダムに使うお金があったら、もっと役に立つことに使ってほしい。
49		○	予測不能な気候変動が進んでいる状況に鑑み、想定以上の洪水においても対応できる堤防の強化	持続可能な生態系が保残されることを視野に据えた川づくり	河川整備においての限界を事前告知し、流域住民に対して自主的対応策等を周知するよう取組まれたい。
50		○	変更原案を公表…とありますが、住民に充分知らされていないのが外から見ていても分かります。このような(アリバイ作りのような)示し方は正しく公表されたとは言えない！ダムの危険性を主張する意見も聴こえる中、公正に意見交換を行い正しく公表してください。	ダムは要らない。わかりきったこと。ダム無しで、その分河川の整備に力を入れるべき。	とにかく県民が知らなさすぎるのに驚いている。人の命に関わるほどの事であると再認識して熟考されるよう願います。
51		○	治水については、立野ダムの建設を中止し、ダムによらない対策を推進すべきと考えます。ダムによる一局集中治水は、想定どおり機能しない場合のリスクが高すぎます。また、環境にも、想定外のインパクトを与えるリスクがあります。	川を自然資本と捉え、ダムのような余計なものを足さずに、自然本来の力を最大限に発揮させるグリーンインフラ指向の川づくりを望みます。	川にもっと自由を！河川区域内だけで問題を解決しようとするのではなく、都市計画や森林計画等との連携による総合的な土地利用を推進すべき時代に来ているのではないかと思います。

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
52		○	立野ダム建設に関し、平成３０年１月１２日に、国土交通省に対し下記公開質問状を提出しています。国土交通省はホームページを見るようにとの姿勢ですが、ホームページを見ても回答になっておりません。下記公開質問状に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できません。 平成３０年１月１２日 国土交通大臣　　石井啓一　様 国土交通省九州地方整備局長　増田博行　様 立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島康 ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　西　聖一 立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会　代表　田上辰也 代表連絡先 [redacted]	住民に十分に説明し、住民とともに川づくりを進めていただきたい。	住民に情報を知らせず、住民の意見を無視する川づくりを行えば、災害の時に住民は一体どうなるのか考えていただきたい。
52		○	立野ダム事業に関する公開質問状（その９） 一昨年の熊本地震により立野峡谷では阿蘇大橋が崩落し、立野ダム水没予定地の大半が崩れました。多くの住民が、こんな危険な場所にもうダムは造られないと思いました。しかし、同年７月に国土交通省が設置した「立野ダム建設に係る技術委員会」は、わずか３回の会合で、同省の「立野ダム建設は技術的に可能」との見解をそのまま認めてしまいました。委員には国交省から天下った人もいます。国交省が選んだ委員が、国交省の見解に異議を唱えるわけがありません。 国交省は、そのような技術委員会の見解を「錦の御旗」に立野ダム建設を推し進め、住民の公開質問状にも答えず、ダム説明会さえ開かぬままに、ダム本体工事の入札を昨年10月26日に公告しました。 国交省は、「住民に知らせない、住民の声を聞かない、住民の疑問に答えない」という姿勢を改めるべきです。以下７点について質問します。１～６については当日、７については１月３１日までに、文書での回答をお願いします。 記 １．熊本地震により、立野ダム水没予定地の大半が崩壊した。立野溶岩の上に堆積した火山性堆積物が軒並み崩壊している。このままダムを建設し、ダムの水位が上がった場合、地滑りが起きることは明らかである。大半の場所でダム水没予定地の下まで降りられない中で、今後どのような土砂崩壊対策工事を行う予定なのか、明らかにすること。 ２．立野ダムの下部には幅5mの穴（放流孔）が開いているが、計画洪水の場合、流下する膨大な量の流木や土砂、岩石などのうち何割（何㎥）がダムの上流にたまり、何割（何㎥）が幅5mの放流孔を通り下流へ流れると想定しているのか。模型実験で放流孔をふさぐ流木はダムの水位が上がると浮くとしているが、枝葉や根、曲がった流木が流れてくる場合も想定すべきではないのか。流木と土砂、岩石が同時に流れてくることはないとしているが、同時に流れてくる場合も想定すべきではないのか。洪水のピークが二山ある洪水も想定すべきではないのか。		
52		○	３．熊本地震により、立野ダム建設現場の復旧や土砂崩壊対策工事等に膨大な国費が投入された一方で、国交省は立野ダムの総事業費を見直そうとはしない。総事業費はいくらになるのか。そのうち、熊本県負担はいくらになるのか。「立野ダム建設事業の検証に係る検討報告書」に、平成24年度迄実施済み額426.1億円、残事業490.9億円との記載がある。平成29年度末の実施済み額および残事業費を明らかにすること。平成24年時点の917億円を算定した以降、熊本地震の復旧工事を含め増額された項目と額を明らかにすること。平成24年の立野ダム事業検証の際には、他の治水対策案との事業費比較を検討し、公表している。現時点での他の治水対策案との事業費比較を明らかにすること。立野ダムの維持管理費は毎年いくらになるのか明らかにすること。 ４．平成24年の九州北部豪雨のあと、白川は河川激甚災害対策特別緊急事業に指定され、河川改修や遊水地の設置が大幅に進んだ。黒川の小倉遊水地は、毎秒140トンの洪水調節能力があるとの資料も存在する。黒川遊水地群の７つの遊水地で、毎秒何トンの洪水調節能力があるのか。また、河川改修後の計画高水位で、毎秒2000トンを下回る地点はどこなのか、明らかにすること。 ５．ユネスコの世界ジオパークに指定されている立野峡谷で、住民の知らぬ間に阿蘇火山の溶岩でできた柱状節理が国土交通省の工事で破壊された。立野ダム本体予定地右岸では、立野溶岩が柱状に縦に割れた柱状節理と、板状に横に割れた板状節理が５～８層交互に堆積しているさらに貴重な地質遺産が存在し、ダム本体工事が始まれば永遠に破壊されることも、ほとんどの住民は知ることもできない。世界文化遺産登録を目指す阿蘇にとり、立野ダム建設は大きなダメージを与えることが懸念される。これらを地元住民や自治体にきちんと説明する予定はあるのか。		
52		○	６．国土交通省は、昨年7月より「白川復旧・復興対策現地見学会」を４回開いたが、その開催は住民に周知されず、インターネット等で予約したごく少数の住民しか参加できなかった。また、事前に提出していた公開質問状への回答は一切なく、その場での質問に対しても「ホームページを見るように」と繰り返すばかりだった。これでは到底説明責任を果たしたと言えるものではない。立野ダム本体工事に着工する前に、白川流域の市町村ごと、熊本市にあっては白川沿いの中学校区ごとに立野ダム事業に関する説明会を開催し、住民の質問に真摯に答える意思はないのか。 ７．国交省は、これまで提出してきた住民の８通に及ぶ公開質問状には全く答えず、「ホームページで丁寧に説明している」との姿勢である。しかし、ホームページを見て質問しているのに、ホームページを見ろというのはいかがなものか。これまで提出してきた８通の公開質問状の下記項目ごとに、国交省のホームページのどこを見れば回答が掲載されているのかを含め、きちんと文書で回答すること。 ■これまで提出し、国交省より何ら回答を得ていない８通の公開質問状と質問項目の概要 （１）立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する公開質問状　　平成２５年１０月１日 ①放流孔呑口部のスクリーンや高さ５ｍのスリットダムが流木等でふさがらないという根拠 ②洪水時においては、流水とともにダム上流から流入した土砂は、貯水位の上昇とともに一時的にダム湖内に堆積するが、その後、貯水位の低下とともにダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下するとする根拠 ③転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。		

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について○○と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
52		○	（２）立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する公開質問状その２　　平成２５年１１月１５日 ①放流孔呑口部のスクリーンのすき間（間隔）は何cmなのか。そのすき間に流木等がつまることは想定していないのか。 ②放流孔呑口部のスクリーンにはりついた流木等を、放流孔が吸い込む力と流木の浮力を具体的にどのように考えているのか。 ③平成24年7月洪水で、約何立方メートルの流木が立野ダム予定地を通過したのか。 ④平成24年7月洪水で、約何立方メートルの岩石および土砂が立野ダム予定地を通過したのか。 ⑤転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。		
52		○	（３）立野ダムの穴の流木対策に関する公開質問状　　平成２７年１１月２６日 ①国交省資料「立野ダム常用洪水吐きにおける流木対策について」の模型実験は、いつ、誰が、どこで行ったのか。 ②模型の放流孔の上流側に、スクリーンは設置したのか。設置した場合、スクリーンの材質は何で、すき間は何ミリメートルだったのか。 ③模型実験に使用したラミン材やツマヨウジは、乾燥した木材である。また実験においては、密度の変化を防ぐためにニスを塗っている。しかし、洪水時に川を流下してくる木材は、水を含み非常に重くなっている。模型実験に用いたツマヨウジ等の比重は0.73となっているが、洪水時に実際に流れる流木はツマヨウジ等の比重よりも大きいことは明らかである。その点についての見解を述べること。 ④洪水時に実際に流れる流木は円柱ではなく、枝葉や根がついており、当然曲がったり直径が変化したりしている。それらが絡み合ってスクリーンに貼り付いた場合を想定していない。その点についての見解を述べること。 ⑤洪水時には、流木と同時に大量の土砂や火山灰、岩石も流れることは明らかであり、実験ではそれらを想定していない。その点についての見解を述べること。 ⑥模型実験では、立野ダム地点を実際に流下する木材の量を把握していない。阿蘇カルデラは、特に阿蘇谷では現在も拡大しており、また杉やヒノキの人工林も荒れており、今後も土砂災害が発生し大量の流木が発生することが想定される。また、集水域383㎢の阿蘇カルデラ内の流木が立野地点に集中することなどを考えると、1000本という数字に根拠はない。その点についての見解を述べること。 ⑦同資料に掲載されている写真は、下記に示すように非常に不鮮明なものであり、模型実験の様子がよく理解できない。鮮明な写真をなぜ公開しないのか。 ⑧住民が模型実験を見学することはできないのか。流域自治体の首長や議員に、模型実験を公開しないのか。		
52		○	（４）立野ダム建設に係る技術委員会に関する公開質問状　平成２８年１２月５日 ①立野ダム建設予定地の地盤は健全なのか ②立野ダム水没予定地周辺にどのような地すべり対策をするのか。予算や工期を考えているのか ③立野ダム完成までに３０万m3の掘削が必要ならば、予算や工期を考えているのか ④立野ダム建設予定地に考慮すべき断層はないのか ⑤洪水時に流木などで立野ダムの穴はふさがらないのか （５）「立野ダム建設に係る技術委員会の技術的な確認・評価」等に関する公開質問状（その５） 平成２９年５月２４日		
52		○	①大半が土砂崩壊した立野ダム水没予定地の土砂崩壊対策工事は不可能 ②崩壊土砂の搬出は不可能 ③立野ダム放流孔（高さ５ｍ×幅５ｍ）は流木の枝葉や根でふさがる ④年間の立野ダムの維持管理費をどのように計画しているのか ⑤黒川遊水地群の洪水調節能力は毎秒何立方メートルなのか ⑥　河川整備基本方針において立野ダムの洪水調節能力は毎秒何立方メートルなのか ⑥北向谷原始林側のダム本体工事用のケーブルクレーン基礎をどのように計画しているのか		
52		○	（６）「立野ダムの洪水調節（ＣＧ動画）」等に関する公開質問状（その６）平成２９年7月２５日 ①立野ダムの上流に設置される流木等捕捉施設（スリットダム）は何㎥までの流木に対処できるように計画されているのか ②幅５ｍの穴の上流側に設置されるスクリーン（金属製の柵）のすき間は何cmなのか ③流木等捕捉施設の上端は標高214m。上段の放流孔（穴）の下端は標高215mであり、ダム湖の水位が流木等捕捉施設を超えた時点で、上段の放流孔（穴）は全く水没していない。つまり、流木等捕捉施設は上段の放流孔には全く機能しない ④流木等捕捉施設を超えた流木は何秒でスクリーンに到達するのか。ダムの水位上昇は毎秒何ｍなのか ⑤ダム満水時にダム放流孔の中、スクリーン表面、流木等捕捉施設付近での流速は秒速何ｍなのか ⑥洪水時、一時的に何㎥の土砂が堆積し、そのうち何㎥が幅5mの下段の穴（放流孔）を通り下流に流れるのか ⑦ダムの穴がふさがった場合、どのようにして流木を撤去するのか ⑧模型実験で円柱材のみを使用するのは妥当なのか。曲がった部材や枝や根も含めてやり直すべきではないか ⑨「立野ダム建設に係る技術委員会」の資料と実際の土砂崩壊箇所とが食い違っている。技術委員会の検討をやり直すべき		
52		○	（７）世界ジオパーク指定の阿蘇・立野峡谷の柱状節理破壊と立野ダム本体予定地右岸の柱状節理に関する公開質問状（その7）　　平成２９年９月２４日 ①柱状節理の破壊にとりかかる前に、熊本県や地元にきちんと説明していたのか。世界的に貴重な地形や地質等に十分配慮したと言えるのか。関係法令を遵守したとしているが、落ち度はなかったのか。国土交通省の見解を伺いたい。 ②立野ダム本体予定地右岸には、柱状節理と板状節理が５～８層交互に堆積している学術的にも極めて貴重な立野溶岩が存在し、立野ダム本体工事が始まれば幅２００ｍ、高さ９０ｍ、厚さ最大４０ｍにわたって削られ、永久にダム本体のコンクリートに飲み込まれる。この点を熊本県や流域自治体、地元住民などに説明したのか。この件について、国土交通省の見解を伺いたい。		
52		○	（８）10月31日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表と立野ダム技術委員会に関する公開質問状（その８）　　平成２９年１１月１５日 ①１０月３１日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表を受け、いつ、どのような形で「立野ダム建設に係る技術委員会」は「確認・評価」を行ったのか。技術委員会の開催日時、参加した委員名、「確認・評価」を行った時間と、「確認・評価」を行った内容を明らかにしてください。 ②昨年８月１７日開催の第３回「立野ダム建設に係る技術委員会」以降、同委員会を開催した事実はあるのか、明らかにしてください。今後も同委員会を開催する予定はあるのか、明らかにしてください。		

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱、FAX、インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
53		○	立野ダム建設に関し、平成２９年１１月１５日に、国土交通省に対し下記公開質問状を提出しています。国土交通省はホームページを見るようにとの姿勢ですが、ホームページを見ても回答になっておりません。下記公開質問状に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できません。 平成２９年１１月１５日 国土交通大臣　　石井啓一　様 国土交通省九州地方整備局長　増田博行　様 立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島康 ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　西　聖一 立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会　代表　田上辰也 代表連絡先 [redacted]	住民に十分に説明し、住民の疑問に十分に答え、住民とともに川づくりを進めていただきたい。	住民に情報を知らせず、住民の意見を無視する川づくりを行えば、災害の時に住民は主体的な行動はできません。
53		○	10月31日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表と 立野ダム技術委員会に関する公開質問状（その８） 国土交通省は、10月31日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表に対し、「改めて立野ダム建設に係る技術委員会において技術的な確認・評価を行い、立野ダム建設は十分可能」と、立野ダム工事事務所ホームページで公表しました。しかし、10月31日の国土地理院の公表と同日に「立野ダム建設に係る技術委員会」を開いて技術的な確認・評価を行い、同日に記者発表をするのは、あり得ないことです。 国交省ホームページを見ると、「立野ダム建設に係る技術委員会」委員長名の文書も掲載されていますが、いつ、どのような形で技術的な確認・評価を行った、などということは全く書かれていません。「立野ダム建設に係る技術委員会」は、第三者的な機関ではなく、全くの国交省の内部組織だといわれても過言ではありません。 昨年の熊本地震により立野峡谷では阿蘇大橋が崩落し、立野ダム水没予定地の大半が崩れました。多くの住民が、こんな危険な場所にもうダムは造られないと思いました。しかし、昨年夏に国土交通省が設置した「立野ダム建設に係る技術委員会」は、わずか３回の会合で、同省の「立野ダム建設は技術的に可能」との見解をそのまま認めてしまいました。委員には国交省から天下った人もいます。国交省が選んだ委員が、国交省の見解に異議を唱えるわけがありません。国交省は、そのような技術委員会の見解を「錦の御旗」に立野ダム建設を推し進め、住民の公開質問状にも答えず、立野ダム説明会さえ開こうとしません。 国交省は、「住民に知らせない、住民の声を聞かない、住民の疑問に答えない」という姿勢を改めるべきです。以下２点について公開質問します。１１月２２日までに、文書での回答をお願いします。回答できない場合は、理由を述べてください。 記 １．１０月３１日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表を受け、いつ、どのような形で「立　　野ダム建設に係る技術委員会」は「確認・評価」を行ったのか。技術委員会の開催日時、参加した委員名、「確認・評価」を行った時間と、「確認・評価」を行った内容を明らかにしてください。 ２．昨年８月１７日開催の第３回「立野ダム建設に係る技術委員会」以降、同委員会を開催し　　た事実はあるのか、明らかにしてください。今後も同委員会を開催する予定はあるのか、明らかにしてください。 以上		
54		○	立野ダム建設に関し、平成２９年９月２４日に、国土交通省に対し下記公開質問状を提出しています。国土交通省はホームページを見るようにとの姿勢ですが、ホームページを見ても回答になっておりません。下記公開質問状に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できません。 平成２９年９月２４日 国土交通大臣　　石井啓一　様 国土交通省九州地方整備局長　増田博行　様 立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島康 ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　西　聖一 立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会　代表　田上辰也 代表連絡先 [redacted]	住民に知らせずに貴重な地質遺産を破壊するような川づくりはやめていただきたい。	阿蘇や立野峡谷がどのようにして今の地形をつくったのか、よく考えれば、立野峡谷にダムを造っては危険であることが理解できるはずです。

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
54		○	世界ジオパーク指定の阿蘇・立野峡谷の柱状節理破壊と 立野ダム本体予定地右岸の柱状節理に関する公開質問状（その7） 国連教育科学文化機関（ユネスコ）の「世界ジオパーク」に指定されている阿蘇・立野峡谷で、阿蘇火山の溶岩でできた「柱状節理」が、国土交通省の工事で破壊された。9月14日以降、全国紙も一面で取り上げるなど、様々な報道がなされている。 新しい阿蘇大橋の工事のために柱状節理は破壊されたとのことだが、新阿蘇大橋の位置も工法も、一般の住民が知らないうちに決められ、新聞に発表された。新阿蘇大橋の位置や工法を決める段階で、多方面の意見を求めていたならば、柱状節理を破壊しない位置や工法が考えられたはずである。 破壊された柱状節理の約1km下流の立野ダム本体予定地右岸には、さらに貴重な柱状節理が存在する。ここでは、立野溶岩が柱状に縦に割れた柱状節理と、板状に横に割れた板状節理が５～８層交互に堆積しており、立野溶岩が何度にも分かれて流れてきたことが良く分かる。立野ダム本体工事が始まればこの柱状節理も、幅２００ｍ、高さ９０ｍ、厚さ最大４０?にわたって削られ、永久にダム本体のコンクリートに飲み込まれる。 これらの柱状節理は、阿蘇の成り立ちを知ることのできる学術的にも貴重な、後世に残すべき地質遺産である。その景観は、地元にとっても貴重な観光資源となりえるものである。 国土交通省は立野ダム工事事務所ホームページで「関係法令を遵守するとともに、景観に関する専門家、熊本県、大津町、南阿蘇村も参画した検討委員会等を設け、良好な景観を保全するための方策について検討してきている」としている。しかし、国土交通省は立野峡谷が世界ジオパークの貴重なジオサイトであることを認識していなかったとしか言いようがない。 また、立野ダムの事業者である国土交通省は、熊本地震で周辺の地盤が大規模に崩壊し、活断層も走るなど、立野ダム建設に対して多くの不安や疑問の声が上がっていたにもかかわらず、これまで住民が求めてきたダム説明会を１度も開かず、住民の公開質問状にも全く答えようとしない。立野ダム建設でジオパークを破壊しないでほしいという住民の度重なる申し入れは、全く伝わっていなかった。 国土交通省は、「住民に知らせない、住民の声を聞かない、住民の疑問に答えない、住民が知らないうちに貴重な地質遺産を破壊する」という姿勢を改めるべきである。今回の柱状節理の破壊に強く抗議するとともに、立野ダム建設や復興工事によるこれ以上の地質遺産の破壊を中止することを強く要請する。 下記２点について、１０月３日までに文書で回答することを要請する。 記 １．柱状節理の破壊にとりかかる前に、熊本県や地元にきちんと説明していたのか。世界的に貴重な地形や地質等に十分配慮したと言えるのか。関係法令を遵守したとしているが、落ち度はなかったのか。国土交通省の見解を伺いたい。 ２．立野ダム本体予定地右岸には、柱状節理と板状節理が５～８層交互に堆積している学術的にも極めて貴重な立野溶岩が存在し、立野ダム本体工事が始まれば幅２００ｍ、高さ９０ｍ、厚さ最大４０ｍにわたって削られ、永久にダム本体のコンクリートに飲み込まれる。この点を熊本県や流域自治体、地元住民などに説明したのか。この件について、国土交通省の見解を伺いたい。 以上		
54		○			
55		○	立野ダム建設に関し、平成２９年７月２５日に、国土交通省に対し下記公開質問状を提出しています。国土交通省はホームページを見るようにとの姿勢ですが、ホームページを見ても回答になっておりません。下記公開質問状に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できません。 平成２９年７月２５日 国土交通大臣　　石井啓一　様 国土交通省九州地方整備局長　小平田浩司　様 国土交通省立野ダム工事事務所長　鵜木和博　様 立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島康 ダムによらない治水・利水を考える県議の会　　代表　西　聖一 立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会　代表　田上辰也 代表連絡先 [redacted] 「立野ダムの洪水調節（ＣＧ動画）」等に関する公開質問状（その６） 今回の朝倉市周辺での豪雨では多くの土砂崩れが発生し、流れてきた流木が支流の橋などに引っかかり、川をふさいで濁流があふれ、被害を拡大した。白川上流の立野峡谷に造られようとしている立野ダムは、ダムの下部にゲートのない幅５ｍの穴（放流孔）が開いており、普段は水をためず、洪水時のみに水をためる治水専用ダムだと言われている。 ５年前の九州北部豪雨で、阿蘇カルデラ内では400か所以上の土砂崩れが発生した。阿蘇カルデラ内の土砂災害等で発生した流木は、全て立野を通り白川を流下する。想像を絶する量の流木や岩石、土砂などが流れ下ったのだが、もしその時、立野ダムがあったなら、幅５ｍしかなく、穴の上流がスクリーンでおおわれた立野ダムの穴はたちまち流木などでふさがり、洪水をため込むだけの非常に危険な状態になっていたのは明らかである。 このような疑問について、地元の住民団体は国交省に対し、これまでに公開質問状を５通提出してきたのだが、回答は一度もなく、住民が要望しているダム説明会さえ一度も開いていない。国交省は説明責任を果たすべきである。 国交省立野ダム工事事務所がホームページで6月30日に公表した、「立野ダムの洪水調節」（ＣＧ動画）は、これまで住民が質問してきた点についての回答となっていない。また、立野ダムが洪水調節を果たすとしているが、その根拠を述べておらず、これまでの同省の主張と食い違っている点もある。そこで、「立野ダムの洪水調節」（ＣＧ動画）等に関し、下記９点について公開質問します。これまでに提出した５通の公開質問状の質問項目への回答も含め、7月29日開催の「白川の復旧・復興対策の現地見学会」において文書で回答することを強く要請します。	川づくりに関する資料（動画等）をつくるのならば、ごまかさず、正直に作成すべきです。ダムが完成してから、動画のような機能を立野ダムが果たさない場合も十分想定できるはずです。最悪の状態を想定するのが国土交通省の仕事ではないでしょうか。	住民がごまかしをすぐに見抜けるような動画を、税金をつくって作成するのはやめていただきたい。
55		○			

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱、FAX、インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
55		○	記 １．立野ダムは何㎥までの流木に対処できるように計画されているのか 動画では「流れてきた流木や大き目の石は上流に設置される流木等捕捉施設（スリットダム）で捕捉される」とのことだが、何㎥の流木まで対応できる計画なのか。国交省資料（立野ダム建設事業の検証に係る検討「放流孔の閉塞対策について」平成24年10月）によると、この流木捕捉施設は、高さ5m×幅42mなので、100mにわたり流木や土砂、岩石等をためたとしても5×42×100÷2＝約１万㎥しかためることができない。一方で、7月14日付日経新聞によると、今回の豪雨災害で復旧を妨げている流木について福岡県は、朝倉市と東峰村で少なくとも36万㎥との推計値を公表した。平成24年の九州北部豪雨と熊本地震後の豪雨で、立野地点を通過した流木は何㎥と計算しているのか。大き目の石とは、直径何ｍまでの石を想定しているのか。岩が動くことを想定していないのか。 ２．幅５ｍの穴の上流側に設置されるスクリーン（金属製の柵）のすき間は何cmなのか 動画では「この放流孔が洪水時に流木や大き目の石によってふさがらないようにするための対策として、放流孔呑口部にスクリーンを設置する」とのことだが、スクリーンのすき間は何ｃｍなのか。この動画にスクリーンの縦の部材が描かれていないのはなぜなのか。洪水時に流木などがスクリーンに貼りつき、食い込む恐れはないのか。ちなみに、国交省資料（立野ダム建設事業の検証に係る検討「放流孔の閉塞対策について」平成24年10月）によると、このスクリーンの有効幅は9.4ｍ。約50のすき間があるので、１つのすき間は約20cmと思われる。 ３．流木等捕捉施設は上段の放流孔には全く機能しない 動画では「ダムの貯水位が上がると、上流に設置した流木等捕捉施設の高さを超え、捕捉された流木の多くは水面に浮かびダム堤体方面にゆっくりと流れていく」とのことだが、流木等捕捉施設の上端は標高214m。上段の放流孔（穴）の下端は標高215mであり、ダム湖の水位が流木等捕捉施設を超えた時点で、上段の放流孔（穴）は全く水没していない。つまり、流木等捕捉施設は上段の放流孔には全く機能しない。この点についての見解を伺いたい。		
55		○	４．流木等捕捉施設を超えた流木は何秒でスクリーンに到達するのか。ダムの水位上昇は毎秒何ｍなのか ダムの水位が流木等捕捉施設の高さを超えたあとは、当然流木や枝や根、その他の浮遊物はスクリーンまで流れ、そこに貼りつくはずである。ところが動画では、流木がスクリーンに流れ着くまでにダムの水位が上昇し、流木がスクリーンに到達しないことになっている。これまで国交省は、スクリーンをふさぐ流木は「ダムの水位が上がると浮いてくる」としていたが、なぜそのシーンが今回の動画ではないのか。流木等捕捉施設からダム本体のスクリーンまでの200mの距離を、流木は何秒で到達する想定なのか。動画ではその間にダムの水位が約20m上昇することになっているが、ダムの水位は毎秒何ｍで上昇する想定なのか。 ５．ダム満水時にダム放流孔の中、スクリーン表面、流木等捕捉施設付近での流速は秒速何ｍなのか 動画では「ダムに湛水することで貯水池内の流速は遅くなるため土砂は貯水池内に堆積し大き目の石は動かなくなる」とのことだが、ダム満水時にダム放流孔の中、スクリーン表面、流木等捕捉施設付近での流速は、それぞれ秒速何ｍなのか。大き目の石とは、直径何ｍまでの石を想定しているのか。岩が動くことを想定していないのか。 ６．洪水時、一時的に何㎥の土砂が堆積し、そのうち何㎥が幅5mの下段の穴（放流孔）を通り下流に流れるのか 動画では「湛水によって一時的に堆積していた土砂は徐々に下流に流されていきます」とのことだが、一時的に何㎥の土砂が堆積し、平水位に戻るまでに何㎥が幅5mの下段の穴（放流孔）を通り下流に流れると想定しているのか。		
55		○	７．ダムの穴がふさがった場合、どのようにして流木を撤去するのか 動画では「洪水後、堤体付近や流木等捕捉装置に堆積した流木や大き目の石は撤去する」とのことだが、ダムの穴の上流側のスクリーンが流木などでふさがって、洪水後も水位が下がらない場合、どのようにして流木を撤去するのか。また、ダム本体上下流の仮設道路は、2012年の九州北部豪雨以来、これまで増水の度に毎年のように流失している。今年も7月2日には存在していたダム本体から仮排水トンネル出口に向かう仮設道路が、増水後の7月8日には流失して無くなっていた。洪水後、幸いにして水が抜けた場合も、現地の地質や仮設道路が毎年のように流されていることを考えると、洪水後流木の撤去はできないのではないか。 ８．模型実験で円柱材のみを使用するのは妥当なのか。曲がった部材や枝や根も含めてやり直すべきではないか 今回の朝倉市周辺での豪雨後、流木が橋やため池の洪水吐をふさぐ模型実験が報道されていたが、実験で流された流木は全て曲がった枝が使われていた（7月16日放送 日本テレビ「真相報道バンキシャ！」東京理科大学の実験ほか）。ところが立野ダムの模型実験では「川への流出過程で流木は枝葉の多くがとれた状態となる」として円柱材を使用し、スクリーンに貼りついた流木がダムの水位の上昇とともに浮くとしている。模型実験で円柱材のみを使用するのは妥当なのか。曲がった部材を使用し、はずれた枝や根も含めてるなどして模型実験をやり直すべきではないか。 ９．「立野ダム建設に係る技術委員会」の資料と実際の土砂崩壊箇所とが食い違っている。技術委員会の検討をやり直すべき 　昨年8月の立野ダム建設に係る技術委員会が、わずか３回の会合で検討した国交省の資料では、「熊本地震後に現地踏査対象斜面として抽出された16地区については今後、必要に応じて対策工を実施することにより、湛水に対する斜面の安定性を確保できる」としているが、その16地区は、多くの土砂崩壊箇所の中のほんの一部である。現状を見ると、特に右岸側の立野溶岩の台地側ではダム水没予定地の大半が崩落しており、国交省が技術委員会に提示した資料と大きく食い違っている。崩落箇所のほとんどでは、ダム水没予定地の底まで下りる道路がつくれない状況なので、重機などを下すことができず、土砂崩壊対策工事は不可能である。 　このように、技術委員会で検討された資料と実際の土砂崩壊箇所とが食い違っている。また、わずか3回の会合で十分な説明が国交省よりなされていないので、技術委員会の検討をやり直すべきではないのか。		

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱、FAX、インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
55		○	■これまで提出し、国交省より何ら回答を得ていない５通の公開質問状と質問項目 （１）立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する 公開質問状　平成２５年１０月１日 ①放流孔呑口部のスクリーンや高さ５ｍのスリットダムが流木等でふさがらないという根拠 ②洪水時においては、流水とともにダム上流から流入した土砂は、貯水位の上昇とともに一時的にダム湖内に堆積するが、その後、貯水位の低下とともにダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下するとする根拠 ③転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。 （２）立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する 公開質問状その２ 平成２５年１１月１５日 ①放流孔呑口部のスクリーンのすき間（間隔）は何cmなのか。そのすき間に流木等がつまることは想定していないのか。 ②放流孔呑口部のスクリーンにはりついた流木等を、放流孔が吸い込む力と流木の浮力を具体的にどのように考えているのか。 ③平成24年7月洪水で、約何立方メートルの流木が立野ダム予定地を通過したのか。 ④平成24年7月洪水で、約何立方メートルの岩石および土砂が立野ダム予定地を通過したのか。 ⑤転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。		
55		○	（３）立野ダムの穴の流木対策に関する公開質問状 平成２７年１１月２６日 ①同資料の模型実験は、いつ、誰が、どこで行ったのか。 ②模型の放流孔の上流側に、スクリーンは設置したのか。設置した場合、スクリーンの材質は何で、すき間は何ミリメートルだったのか。 ③模型実験に使用したラミン材やツマヨウジは、乾燥した木材である。また実験においては、密度の変化を防ぐためにニスを塗っている。しかし、洪水時に川を流下してくる木材は、水を含み非常に重くなっている。模型実験に用いたツマヨウジ等の比重は0.73となっているが、洪水時に実際に流れる流木はツマヨウジ等の比重よりも大きいことは明らかである。その点についての見解を述べること。 ④洪水時に実際に流れる流木は円柱ではなく、枝葉や根がついており、当然曲がったり直径が変化したりしている。それらが絡み合ってスクリーンに貼り付いた場合を想定していない。その点についての見解を述べること。 ⑤洪水時には、流木と同時に大量の土砂や火山灰、岩石も流れることは明らかであり、実験ではそれらを想定していない。その点についての見解を述べること。 ⑥模型実験では、立野ダム地点を実際に流下する木材の量を把握していない。阿蘇カルデラは、特に阿蘇谷では現在も拡大しており、また杉やヒノキの人工林も荒れており、今後も土砂災害が発生し大量の流木が発生することが想定される。また、集水域383㎢の阿蘇カルデラ内の流木が立野地点に集中することなどを考えると、1000本という数字に根拠はない。その点についての見解を述べること。 ⑦同資料に掲載されている写真は、下記に示すように非常に不鮮明なものであり、模型実験の様子がよく理解できない。鮮明な写真をなぜ公開しないのか。 ⑧住民が模型実験を見学することはできないのか。流域自治体の首長や議員に、模型実験を公開しないのか。		
55		○	（４）立野ダム建設に係る技術委員会に関する公開質問状　平成２８年１２月５日 ①立野ダム建設予定地の地盤は健全なのか ②立野ダム水没予定地周辺にどのような地すべり対策をするのか。予算や工期を考えているのか ③立野ダム完成までに３０万m3の掘削が必要ならば、予算や工期を考えているのか ④立野ダム建設予定地に考慮すべき断層はないのか　⑤洪水時に流木などで立野ダムの穴はふさがらないのか （５）「立野ダム建設に係る技術委員会の技術的な確認・評価」等に関する公開質問状（その５）　平成２９年５月２４日 ①大半が土砂崩壊した立野ダム水没予定地の土砂崩壊対策工事は不可能　②崩壊土砂の搬出は不可能 ③立野ダム放流孔（高さ５ｍ×幅５ｍ）は流木の枝葉や根でふさがる ④年間の立野ダムの維持管理費をどのように計画しているのか ⑤黒川遊水地群の洪水調節能力は毎秒何立方メートルなのか ⑥河川整備基本方針において立野ダムの洪水調節能力は毎秒何立方メートルなのか ⑦北向谷原始林側のダム本体工事用のケーブルクレーン基礎をどのように計画しているのか 以上		
56		○	立野ダム建築に対して、疑問しかありません。第一に、なぜ、もっと大々的にこの計画について周知しないのか。税金を使い、県民の命に関わる大規模な工事をするのに、その計画すら知らない県民が多くいる現状であることを知ってください。これは関心がない県民のせいではありません。関心を持たせる周知の方法はいくらでもあるはず。それを講じるのは、国の責任ではないでしょうか。	地道な河川整備に力をいれ、ダムのいらない洪水対策を。	記載なし
57		○	立野ダム建設に関し、平成２９年５月２４日に、国土交通省に対し下記公開質問状を提出しています。国土交通省はホームページを見るようにとの姿勢ですが、ホームページを見ても回答になっておりません。下記公開質問状に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できません。 平成２９年５月２４日 国土交通大臣　石井啓一　様 国土交通省九州地方整備局長　小平田浩司　様 国土交通省立野ダム工事事務所長　鵜木和博　様 立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島康 ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　西　聖一 立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会　代表　田上辰也 代表連絡先 [redacted]	技術委員会のメンバーが、全員熊本とは縁もゆかりのない人ばかりで、国土交通省から大学の教授となった人もいることに驚きます。それらの人たちが熊本のことに責任を持つとは考えられません。なぜ地元の学識者をメンバーに入れなかったのでしょうか。	立野ダム完成後、住民が想定するような事態になった場合、だれが責任を取るのでしょうか。

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
57		○	「立野ダム建設に係る技術委員会の技術的な確認・評価」等に関する公開質問状（その５） 熊本地震で立野ダム予定地周辺の両岸が大きく崩壊したこと等を受け、国土交通省が昨年7月に設置した「立野ダム建設に係る技術委員会」は、同省の「熊本地震後もダム建設に支障となる技術的な課題はない」との主張をそのまま了承し、同省はダム本体工事に着手しようとしている。同省立野ダム工事事務所はこれまで、住民が提出した４通の公開質問状に何ら回答せず、住民が何度も要請してきた立野ダム説明会さえ一度も開催していない。 住民の疑問に直接答える立野ダム説明会の開催を再度強く要請するとともに、「立野ダム建設に係る技術委員会の技術的な確認・評価」等に関し、下記７点について公開質問します。これまでに提出した４通の質問状も含め、５月３１日までの回答を求めます。 記 １．大半が土砂崩壊した立野ダム水没予定地の土砂崩壊対策工事は不可能 「熊本地震後に現地踏査対象斜面として抽出された１６地区については今後、必要に応じて対策工を実施することにより、湛水に対する斜面の安定性を確保できる」としているが、現状を見ると１６地区の大半では、ダム水没予定地の底まで下りる道路がつくれない（資料１参照）。重機などを下すことはできないので、土砂崩壊対策工事は不可能ではないのか。また、立野溶岩の表面を覆う火山灰などの火山性堆積物を撤去しなければ湛水地すべりが発生するのは明らかである。１６か所それぞれについて、どのような土砂崩壊対策工事を、どれくらいの工期で実施すると計画しているのか。 ２．崩壊土砂の搬出は不可能 「熊本地震後の状況を踏まえても、ダム完成までに土砂掘削等の必要な対策を講じることで、完成時においても洪水調節のために必要な容量を確保することは十分可能」としているが、ダム水没予定地に降りていく道路は、ダム本体予定地約300m上流の右岸側1か所のみである。ほとんどの崩壊地ではダムの底に降りる道路がつくれないので、重機やダンプなどを下すことはできない。崩壊土砂の搬出は不可能ではないのか。30万㎥の土砂搬出を、どのような方法で、どれくらいの期間をかけて搬出すると計画しているのか。		
57		○	３．立野ダム放流孔（高さ５ｍ×幅５ｍ）は流木の枝葉や根でふさがる 「熊本地震後の状況を踏まえても、放流孔内に流木や巨石が固定化されるような閉塞が生じることはなく、洪水調節能力にも影響がない」としているが、放流孔の上流側がスクリーンでおおわれるので、放流孔内に流木や巨石が固定化されないことは当然である。洪水時に流下する流木や、流木から外れた枝葉や根、その他の浮遊物が絡み合い、スクリーンの20㎝の隙間に食い込み、貼りつき、ふさがるのは明らかである（資料２，資料３参照）。貼りついた流木などが浮くことはあり得ない。模型実験では「川への流出過程で流木は枝葉の多くがとれた状態となる」として円柱材を使用し、スクリーンに貼りついた流木がダムの水位の上昇とともに浮くとしている。それならば外れた枝葉や根、その他の浮遊物も含めた検証や模型実験は実施しないのか。 ４．年間の立野ダムの維持管理費をどのように計画しているのか 「ダム完成後も、堆砂、流木、巨石及び斜面の状況について、湛水地内のモニタリングを行うとともに、その結果を踏まえ、必要に応じて土砂の掘削や流木の撤去など、適切な維持管理を実施していく」としているが、平成２４年の立野ダム事業検討時とは、けた違いに維持管理費が膨らむことは明らかである。年間の立野ダムの維持管理費をどのように計画しているのか。 ５．黒川遊水地群の洪水調節能力は毎秒何㎥なのか 河川整備計画では、毎秒2300㎥の洪水を、立野ダムで毎秒200㎥、黒川遊水地群（車帰、無田、跡ヶ瀬、小野、内牧、小倉、手野）で毎秒100㎥洪水調節し、白川河道に毎秒2000㎥を配分するとしている。しかし、一般社団法人九州地方計画協会に記載されたレポート「黒川小倉遊水地について」には、小倉遊水地単独で毎秒140㎥の洪水調節能力があるとの記述がある。「黒川河川激甚災害対策特別緊急事業」により、河川整備計画策定時と比べ、特に小倉遊水地と手野遊水地は規模が大きくなっている。現時点の計画で、7つの遊水地それぞれの洪水調節量、7つの遊水地を合計した洪水調節流量は毎秒何㎥なのか。県の事業でも、国交省は当然把握していなければならない数値である。		
57		○	６．河川整備基本方針において立野ダムの洪水調節能力は毎秒何㎥なのか 立野ダム工事事務所ホームページ等では、「代継橋地点における基本高水のピーク流域毎秒3400㎥を、立野ダムにより毎秒400㎥の洪水調節を行い、計画高水流量毎秒3000㎥に低減する」とあるが、河川整備基本方針では「流域内の洪水調節施設により毎秒400㎥を調節する」とある。立野ダムと黒川遊水地群で毎秒400㎥の調節をするのではないのか。「立野ダムにより毎秒400㎥の洪水調節を行う」という表現は間違っているのではないのか。毎秒400㎥を、立野ダムと黒川遊水地でそれぞれ毎秒何㎥ずつ洪水調節するのか。 ７．北向谷原始林側のダム本体工事用のケーブルクレーン基礎をどのように計画しているのか 立野ダム本体工事のコンクリート打設で用いるケーブルクレーンは、右岸側からコンクリートを積み込むので、左岸側は移動可能な大規模なケーブルクレーンの基礎が必要となる。左岸側は天然記念物であり、阿蘇くじゅう国立公園の特別保護地区でもある北向谷原始林である。ケーブルクレーン基礎をどのように計画しているのか。		

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について○○と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
57		○	■これまで提出し、国交省より何ら回答を得ていない４通の公開質問状 立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する 公開質問状　平成２５年１０月１日 立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する 公開質問状その２ 平成２５年１１月１５日 立野ダムの穴の流木対策に関する公開質問状 平成２７年１１月２６日 立野ダム建設に係る技術委員会に関する公開質問状　平成２８年１２月５日 （資料１） 熊本地震後の立野ダム水没予定地。大半が土砂崩壊をしている。 ダムの底まで下りる道路がつくれないので、重機やダンプが下せない。 土砂崩壊対策工事も、土砂の搬出も不可能である。（パスコ航空写真に加筆） （資料２） 九州北部豪雨時の、黒川と合流前の白川（南阿蘇村）　　2012年7月12日撮影 流木はもちろん、木の枝葉や根、その他の浮遊物がひっきりなしに流下している （資料３） 九州北部豪雨時、流木等でふさがった下井手取水堰　　2012年7月15日撮影 流木や木の枝葉、根、その他の浮遊物が絡み合い、堰に貼りついている。 当然、立野ダム放流孔のスクリーンの20㎝の隙間に食い込み、貼りつくことは明らか。 食い込み、貼りついた流木などがダムの水位が上昇すれば浮くことは考えられない。 　以上		
58		○	記載なし	記載なし	記載なし
59		○	立野ダム建設に関し、平成２８年１２月５日に、国土交通省に対し下記公開質問状を提出しています。国土交通省はホームページを見るようにとの姿勢ですが、ホームページを見ても回答になっておりません。下記公開質問状に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できません。 平成２８年１２月５日 国土交通大臣　　石井啓一　様 国土交通省九州地方整備局長　小平田 浩司　様 国土交通省立野ダム工事事務所長　宮成秀一郎　様 立野ダムによらない自然と生活を守る会　　代表　中島康 立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会　代表　田上辰也 ダムによらない治水・利水を考える県議の会　　代表　西　聖一 代表連絡先 [redacted] 立野ダム建設に係る技術委員会に関する公開質問状 熊本地震で立野ダム予定地周辺の両岸が大きく崩壊したこと等を受け、国土交通省が7月27日に設置した「立野ダム建設に係る技術委員会」は8月17日に、「熊本地震後もダム建設に支障となる技術的な課題はない」との結論を出し、国交省はダム本体工事に着手しようとしている。国交省はこれまで、住民が提出した質問状に何ら回答せず、住民が何度も要請してきた立野ダム説明会さえ一度も開催していない。 川辺川ダム事業で建設省（当時）は、平成7年以降何度もダム説明会を開催し、開催を広く住民に知らせ、住民団体にも直接開催日時等を連絡している（資料1）。また、住民の質問に対しても丁寧に文書で回答している（資料2）。その後河川法が改正され、住民参加が強調されているにもかかわらず、国交省の姿勢は20年前よりはるかに悪化している。「立野ダムが住民のため」と考えるのなら、国交省は住民の疑問に直接答えるべきである。 住民の疑問に直接答える立野ダム説明会の開催を再度強く要請するとともに、下記５点について公開質問します。12月16日までの回答を求めます。公開質問並びに回答は各報道機関に配信するとともに、当会のホームページで公開します。 記 １．立野ダム建設予定地の地盤は健全なのか 技術委員会は「熊本地震後もダム本体の基礎岩盤の性状に変化は認められず、基礎岩盤として健全性に問題がない」としている。しかし、熊本地震により長陽大橋西側の橋台は、立野溶岩（柱状節理）のトップリング岩盤崩壊（岩盤が鉛直方向に伸びた節理を境界面として側方に倒れ込む現象）で２m近く沈下している。技術委員会資料では、「ダム本体の基礎岩盤を浅いところでも10m以上掘削する」としているが、右岸側はどこまで掘っても縦方向に節理（割れ目）が走る立野溶岩が続いている。立野ダムは重力式ダムである。長陽大橋の橋桁さえ支えることができなかった立野溶岩が、比べられないほどの重量を持つダム本体を支えることができるのか。トップリング岩盤崩壊により、ダム本体と周りの岩盤の間に隙間が生じるような危険性はないのか。 ２．立野ダム水没予定地周辺にどのような地すべり対策をするのか。予算や工期を考えているのか 　技術委員会は、大半が斜面崩壊したダム水没予定地周辺について「必要に応じて対策工を実施する」として、ダム湖周辺をコンクリートで固めた他のダムの対策工事例の写真を掲載している。ところが、国土交通省立野ダム工事事務所ホームページでは「立野ダム貯水池周辺について、地すべりの存在を示すような地形の分布は認められません」としている。説明が矛盾しているのではないのか。 ダム水没予定地周辺の大半が斜面崩壊している現状を見れば、地すべり対策には膨大な費用と工期が必要だが、国土交通省は「立野ダムの事業費は増えない。工期も延びない」としている。地すべり対策の予算や工期をどのように考えているのか。 たとえダム本体は造れたとしても、周りの地盤がこのような状態で、はたして安全に立野ダムは運用できるのか。危険ではないのか。 また、同委員会資料の「貯水池周辺の地すべり地形等の分布」図では、例えば長陽大橋下流右岸などの大規模な土砂崩壊を起こした箇所がマークされていないのはなぜなのか。 ３．立野ダム完成までに３０万m3の掘削が必要ならば、予算や工期を考えているのか 技術委員会は「立野ダムの水没予定地内には約50万m3の土砂が一時的に堆積していると推定され、ダム完成時までに約30万m3の掘削を行うなどにより、洪水調節のために必要な容量を確保することは十分可能」としている。30万m3の土砂といえば、10トンダンプ（６m3積載）で５万台分の土砂を運び、処分する必要がある。30万m3の掘削の予算や工期をどのように考えているのか。土砂をどこに処分する計画なのか。環境への影響は考えているのか。	熊本地震で立野峡谷では多くの土砂崩れが起こり、立野ダム本体予定地も両岸が大きく崩壊し、工事用道路や現場事務所、工事車両や各種工事用機材なども崩落した土砂に埋まりました。崩壊した土砂でせき止められた白川の流れの一部は、工事中の仮排水路トンネルの中を流れました。もし、熊本地震が昼間に起こっていたら、工事に従事していた多くの人命が失われ、負傷者が出ていたのは明らかです。今後、今回のような地震がまた発生した場合、事業者、その直接の責任者である立野ダム工事事務所長が殺人罪や傷害罪などの刑事上の責任を問われることもありえます。にもかかわらず、技術委員会はわずか3回の会合で、結論を出してしまいました。あまりにもずさんです。	もし立野ダム完成後に熊本地震が起こったとしたら、ダム本体の両岸の地盤が崩れることが考えられます。ダム上流は多量の土砂や流木で埋めつくされ、ダムの施設が損壊していた恐れもあります。そのような場合も、事業者、その直接の責任者である立野ダム工事事務所長は建物損壊や殺人罪、傷害罪などの刑事上の責任を問われる可能性もあります。

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について○○と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
59		○	４．立野ダム建設予定地に考慮すべき断層はないのか 技術委員会は「熊本地震後の大学・研究機関等の発表文献を収集・整理した結果、ダム敷及びその近傍に活断層によって生じたとみられる地表地震断層及びその疑いのある変状は報告されていない」との理由で、「立野ダム建設予定地に考慮すべき断層はない」と結論付けている。 しかし、安全が確保されておらず、現在でも踏査ができない場所も多く存在する。技術委員会が結論を出した8月17日に開催された「熊本地震住民セミナー」で、「濁川断層の西側を延長すると立野ダム建設予定地になるが？」との質問に対し、日本活断層学会理事・広島大准教授（地理学）熊原康博氏は「調査をしてみないとわからないが、今は危険で現場に入れない。国交省からも問い合わせがあったので回答している。調査をされるのではないか」と回答している。技術委員会は、ダム予定地周辺の多くが未調査のまま結論を出しているのではないか。 技術委員会は「ダム本体予定地から約500m 離れた北向山断層に沿って、地表地震断層の可能性がある亀裂が線状に確認された」としている。つまり、断層がダム本体から500m離れているから大丈夫ということなのか。その根拠は何なのか。何m離れていれば大丈夫なのか。地表に現れていない断層もあるのではないのか。 技術委員会資料にある25の断層は仮排水路出口のすぐ下流にあり、ダム本体から極めて近い距離にある。技術委員会は「25の断層については、過去の文献において記載があるものの、これまでの調査の結果、断層による変位地形は認められず、断層露頭も認められていません」としているが、現地を見ると、山の上から川床まで大きな亀裂が走っている。この亀裂が25の断層ではないのか。		
59		○	５．洪水時に流木などで立野ダムの穴はふさがらないのか 技術委員会は「熊本地震後の状況を踏まえても、放流孔（立野ダム下部の穴・高さ５ｍ×幅５ｍ）に流木が固定化されるような閉塞が生じることはなく、洪水調節能力にも影響はない」としている。それならば、直径約１０mの立野ダム仮排水路トンネルの入り口が土砂と流木で完全にふさがっていることを、どう説明するのか。 技術委員会が立野ダム下部の穴が流木などでふさがらない理由として、穴の上流側を覆うスクリーンをふさぐ流木が、ダムの水位が上がると浮いてくるとしている。その元となった模型実験では、ダムの穴をふさぐツマヨウジなどの円柱材が、ダムの水位が上がると浮いてくるとしている。しかし、実際の流木は根や枝がついており、水を吸って比重も大きくなっている。流木を穴が吸い込む力は、流木の浮力よりもはるかに大きいのは明らかである。実際の洪水では、流木も岩石も土砂も一緒に流れてくるが、技術委員会の検証では流木、岩石、土砂、それぞれ単独で模型実験やシミュレーションを行っただけである。立野ダムの穴がふさがらないとするシミュレーションは現実ではありえないことではないのか。 以上		
60		○	立野ダム建設に関し、平成２７年１１月２６日に、国土交通省に対し下記公開質問状を提出しています。国土交通省はホームページを見るようにとの姿勢ですが、ホームページを見ても回答になっておりません。下記公開質問状に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できません。 平成２７年１１月２６日 国土交通大臣　石井啓一　様 国土交通省九州地方整備局長　鈴木弘之　様 国土交通省立野ダム工事事務所長　宮成秀一郎　様 立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島康 立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会　代表　田上辰也 ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　西　聖一 代表連絡先 [redacted] 立野ダムの穴の流木対策に関する公開質問状 立野ダム事業は多くの問題点を抱えているにもかかわらず、貴省は住民がこれまで何度も要請してきた立野ダムの住民向け説明会さえ一度も開催していません。貴省は、立野ダムのことを住民に何も知らせずにダム建設を進めようというのでしょうか。 貴省はホームページで、「立野ダム事業検証が終了した平成24 年12 月6 日以降も、様々な機会を通じて『立野ダム建設事業』について、事業説明を行っている。検証終了以降に実施した主な事業説明等でイベント等における事業説明（イベント参加者等 約5,400 名）」等と述べ、あたかも立野ダム事業の説明責任を果たしているようなことを述べています。しかしそれらは、「H25.5.28 防災・減災シンポジウム」「 H25.8.4 白川の日」など、立野ダムを説明したイベントではありません。 白川流域住民のほとんどは、立野ダムがどんなダムなのか、何を目的に造られるのか、どこにできるのか知る機会さえありません。そのような状況で、このままダムが建設されてしまえば、将来の住民に大きな禍根を残すことは明らかです。 私たちは一昨年の10月1日と11月15日に、「立野ダムの放流孔の閉塞と堆砂に関する公開質問状」を貴省に提出しました。ところが貴省からの回答はなく、問い合わせた電話に「回答書は出さない。当所のホームページを読むように」と答えるのみでした。 貴省は、立野ダムの放流孔の上流側に設置される、20cmしかすき間がないスクリーンにはりついた流木は、「ダムの水位が上昇すると浮き上がるので、立野ダムの放流孔は閉塞しない」とホームページで主張しています。その根拠となる資料を情報開示請求したところ、本年8月10日に貴省は「立野ダム常用洪水吐きにおける流木対策について」と題する12ページの資料を情報開示しました。 同資料で行った模型実験は、立野ダムの1/62.5の模型（ダムの高さ1.44m、穴の一辺8cm）に、長さを変えた（4cm～24cm）直径5mmの円柱材（ラミン材）や、長さ2.4cm直径1.8mmのツマヨウジを最大で1000本流して、ダムの水位が上昇すると円柱材やツマヨウジが浮いてくる、というものでした。同資料について、以下８点について公開質問します。12月4日までに、文書での回答を強く要請します。住民に説明責任を果たすためにも、誠意ある回答をされるようお願い致します。	模型実験をやるならば、誰が見ても納得できるような実験をすべき。ツマヨウジを使った実験ならば、ツマヨウジは浮いて当然。そのようなずさんな模型実験をもとに川づくりを行うということは、流域住民の生命財産を軽視していると言われても仕方ありません。	国土交通省は、立野ダムは正式な手続きに基づいて進めているとしか言わないが、住民の疑問に答えられない立野ダム建設は、すでに住民のための事業とは言えない。

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
60		○	記 １．同資料の模型実験は、いつ、誰が、どこで行ったのか。 ２．模型の放流孔の上流側に、スクリーンは設置したのか。設置した場合、スクリーンの材質は何で、すき間は何ミリメートルだったのか。 ３．模型実験に使用したラミン材やツマヨウジは、乾燥した木材である。また実験においては、密度の変化を防ぐためにニスを塗っている。しかし、洪水時に川を流下してくる木材は、水を含み非常に重くなっている。模型実験に用いたツマヨウジ等の比重は0.73となっているが、洪水時に実際に流れる流木はツマヨウジ等の比重よりも大きいことは明らかである。その点についての見解を述べること。 ４．洪水時に実際に流れる流木は円柱ではなく、枝葉や根がついており、当然曲がったり直径が変化したりしている。それらが絡み合ってスクリーンに貼り付いた場合を想定していない。その点についての見解を述べること。 ５．洪水時には、流木と同時に大量の土砂や火山灰、岩石も流れることは明らかであり、実験ではそれらを想定していない。その点についての見解を述べること。 ６．模型実験では、立野ダム地点を実際に流下する木材の量を把握していない。阿蘇カルデラは、特に阿蘇谷では現在も拡大しており、また杉やヒノキの人工林も荒れており、今後も土砂災害が発生し大量の流木が発生することが想定される。また、集水域383㎢の阿蘇カルデラ内の流木が立野地点に集中することなどを考えると、1000本という数字に根拠はない。その点についての見解を述べること。 ７．同資料に掲載されている写真は、下記に示すように非常に不鮮明なものであり、模型実験の様子がよく理解できない。鮮明な写真をなぜ公開しないのか。 ８．住民が模型実験を見学することはできないのか。流域自治体の首長や議員に、模型実験を公開しないのか。 以上		
61		○	立野ダム建設に関し、平成２５年１１月１５日に、国土交通省に対し下記公開質問状を提出しています。国土交通省はホームページを見るようにとの姿勢ですが、ホームページを見ても回答になっておりません。下記公開質問状に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できません。 平成２５年１１月１５日 国土交通大臣　　太田　昭宏　様 九州地方整備局長　　岩崎　泰彦　様 立野ダム工事事務所長　島本　卓三　様 立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島　康 ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　平野みどり 連絡先 [redacted] 電話 [redacted] 立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する公開質問状その２ 立野ダム事業は多くの問題点を抱えており、国土交通省は住民向けのダム説明会さえ開催できていません。流域住民のほとんどは、「立野ダムという言葉を聞いたことはない」「立野ダムという言葉は聞いたことがあるが、どんなダムなのか、何を目的につくられるのか、どこにできるのか知らない」という認識です。貴省は、立野ダムのことを住民に何も知らせずにダム建設を進めようというのでしょうか。 私たちは10月1日に「立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する公開質問状」を貴省に提出しました。ところが貴省からの回答はなく、問い合わせた電話に「回答書は出さない。当所のホームページを読むように」と答えるのみでした。これでは、貴省は説明責任を全く果たせていないと言われても仕方がありません。 10月25日に更新された立野ダム工事事務所のホームページに、立野ダム事業の放流孔の閉塞と堆砂に関する貴省の見解が掲載されていました。それに対し再質問を致しますので、誠意ある回答をされるようお願い致します。	6年前から同じような質問を繰り返しているのに、国土交通省は終始一貫してきちんと答えようとはしません。住民の疑問にきちんと答える川づくりをすべき。防災上、一番大切なことは、行政と住民の情報の共有ではないですか。	立野ダムができた後に洪水の時に放流孔がふさがることを国土交通省が想定していないのならば、正直に住民の疑問に答えたらいいとは思いませんか。
61		○	Ⅰ．放流孔の閉塞について 「スクリーンに捕捉された流木は、放流孔付近の流速が速いため、水位が上昇しても浮き上がることは無いのではという指摘もありますが、放流孔の一番狭い箇所（5m×5m）に比べてスクリーン全体の面積は約２０倍と大きくなっています。そのため、スクリーン部の流速は遅くなり流木でスクリーンが塞がることは無いと考えています」と貴省ホームページに掲載されています。 しかし、スクリーンの幅はわずか９．４mであり、図面を見ると高さも２５m程度です。また一つ一つのスクリーンのすき間（間隔）も図面を見ると２０cm程度です。 前回も質問しました通り、洪水時の白川を見ると、大量の流木がひっきりなしに流れています。また流木は大小さまざまな大きさがあるのは当然です。それらが２０cm程度のスクリーンのすき間につまれば、ダム湖の水位が上がるとともに流木が浮き上がるなどということはあり得ません。また、スクリーンにはりついた流木等を穴（放流孔）が吸い込む力と、流木の浮力をどのように考えているのでしょうか。 平成24年7月洪水で、どの程度の流木が立野ダム予定地を通過したのか、把握されているのでしょうか。通過した流木の容量が分からなければ、「流木等補足施設」（高さ５mのスリットダム）やスクリーンに捕捉される流木量は想定できないはずです。 Ⅱ．堆砂について 国土交通省は立野ダムの堆砂について「洪水時に流水とともにダム上流から流入した土砂は、貯水位の上昇とともに一時的にダム湖内に堆積するが、その後、貯水位の低下とともにダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下する」と説明しています。洪水時の白川の水は多くの火山灰とともに、多量の岩石や流木等を含みます。ところが、立野ダムの下部に設置される、一辺が５mの３つの穴を覆うスクリーンのすき間は、わずか２０cm程度です。ということは、２０cm以上の石や岩石は当然ダム下流に流れることはありません。 平成24年7月洪水後、大津町から熊本市にかけての白川の河床には、大量の石や岩石が堆積していました。それらは全てスクリーンに捕捉され、ダム上流部にたまるはずです。貴省は、平成24年7月洪水で、どの程度の岩石や土砂が立野ダム予定地を通過したのか、把握されているのでしょうか。通過した岩石や土砂の容量が分からなければ、堆砂量は想定できないはずです。 以上の点を踏まえ、以下５点について公開質問します。１１月２０日までに文書でのご回答をお願いします。		

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
61		○	記 １．放流孔呑口部のスクリーンのすき間（間隔）は何cmなのか。そのすき間に流木等がつまることは想定していないのか。 ２．放流孔呑口部のスクリーンにはりついた流木等を、放流孔が吸い込む力と流木の浮力を具体的にどのように考えているのか。 ３．平成24年7月洪水で、約何立方メートルの流木が立野ダム予定地を通過したのか。 ４．平成24年7月洪水で、約何立方メートルの岩石および土砂が立野ダム予定地を通過したのか。 ５．転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。 以上		
62		○	立野ダム建設に関し、平成２５年１０月１日に、国土交通省に対し下記公開質問状を提出しています。国土交通省はホームページを見るようにとの姿勢ですが、ホームページを見ても回答になっておりません。下記公開質問状に対し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できません。 平成２５年１０月１日 国土交通大臣　太田　昭宏　様 九州地方整備局長　岩崎　泰彦　様 立野ダム工事事務所長　島本　卓三　様 立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島　康 ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　平野みどり 連絡先 [redacted] 電話 [redacted] 立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する 公開質問状 立野ダム事業は多くの問題点を抱えており、国土交通省は住民向けのダム説明会さえ開催できず、説明責任を全く果たせていない状況です。今回は立野ダム事業の「放流孔の閉塞」と「堆砂」に絞った公開質問を致します。住民が納得できる回答をされることを要請します。 球磨川の荒瀬ダムは、洪水時に流木などを引っかかりにくくするために、建設工事中に水門（ゲート）の間隔を当初の10mから15mに広げています。洪水調節専用の「穴あきダム」である立野ダムにはゲートがない代わりに、ダムの下部に一辺が５ｍの３つの穴（放流孔）があいています。洪水時の白川を見ると、大量の流木がひっきりなしに流れています。この一辺が５ｍの３つの穴（放流孔）が流木等でふさがると、立野ダムはたちまち洪水調節不能の危険な状態となります。 国土交通省は流木対策として、放流孔呑口部にスクリーンの設置を計画しています（詳細別紙）。しかし、スクリーンを設置すれば洪水時にスクリーンに流木等がはりつき、一辺が５ｍの３つの穴（放流孔）はたちまちふさがることが容易に想像できます。国土交通省は地元議員に対する現地説明で、「ダムの水位が上がれば流木は浮いて穴（放流孔）はふさがらない」などと説明していますが、流木の浮力よりも穴（放流孔）が流木を吸い込む力の方がはるかに大きいのは明らかです。 さらなる安全対策として、国土交通省は立野ダム建設予定地上流に、流木等を捕捉できる施設として高さ５ｍのスリットダムの設置を計画しています（詳細別紙）。しかし、ダム湖の水位が高さ５ｍのスリットダムを超えた時は、大量の流木がスリットダムを乗り越え、一辺が５ｍの放流孔呑口部のスクリーンに押し寄せることが容易に想像できます。 また、国土交通省は立野ダムの堆砂について「洪水時に流水とともにダム上流から流入した土砂は、貯水位の上昇とともに一時的にダム湖内に堆積するが、その後、貯水位の低下とともにダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下する」と説明しています。洪水時の白川の水は多くの火山灰とともに、多量の岩石や流木等を含みます。流木や岩石が放流孔呑口部のスクリーンや高さ５ｍのスリットダムをふさげば、「ダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下する」ことはあり得ません。 球磨川では河川整備基本方針策定時に、国土交通省は「川づくり報告会」と題する説明会を流域など５３カ所で開催しました。白川では昨年まで「立野ダム事業の検証に係る検討」が行われたにもかかわらず、住民に向けた説明会は一度も開催されていません。また、現在国土交通省がホームページで示している説明資料では私たち住民は全く納得できません。 そこで、以下３点について公開質問します。１０月１８日までに文書でのご回答をお願いします。 記 １．放流孔呑口部のスクリーンや高さ５ｍのスリットダムが流木等でふさがらないという根拠 ２．洪水時においては、流水とともにダム上流から流入した土砂は、貯水位の上昇とともに一時的にダム湖内に堆積するが、その後、貯水位の低下とともにダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下するとする根拠 ３．転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。 以上	昭和28年の6・26水害、2012年の7・12水害など、白川の水害には大量の火山灰がつきものだということは国土交通省も十分把握していると思います。6・26水害では、立野ダムの容量の3倍近い火山灰が立野ダム地点を流れ下り、下流に堆積しています。それらの火山灰や流木、土砂、岩石が、幅5mの穴をくぐって下流に流れるとは、考えられません。立野ダムは火山灰ですぐに満杯になるはずです。そのような白川の特性を考えれば、川づくりに立野ダムはあってはならないはずです。	この、6年前の公開質問状に対してきちんと回答しておけば、9回も公開質問状を提出せずに済んだかもしれません。きちんと答えないので、ますます疑問が膨らみます。このまま立野ダムができれば、将来大きな禍根を残すことになります。
63		○	今回の変更原案と立野ダム建設に関し、2019年11月14日に、国土交通省に対し下記文書を提出しました。提出した際、国交省担当者は「ご理解ください」としか述べることができませんでしたが、これまで住民に対し誠意をもってわかりやすく説明してこなかったからこそ、理解できないのです。下記文書に関し、住民にわかりやすく回答、説明しない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できません。 国土交通大臣　赤羽一嘉様 熊本県知事　蒲島郁夫様 立野ダム建設は河川整備計画から除外し、河川改修の強化、ソフトも含めた白川の安全対策を強く求めます 「白川水系河川整備計画」変更原案の根本的「変更」を	記載なし	記載なし

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
63		○	１．異常気象、台風19号大災害―立野ダムは危険 大きな被害が出た先月の台風19号では、７１河川１２８ケ所で堤防が決壊（10月１８日時点判明数）、6つのダムが「ダム自体が危ない」と下流に緊急放流（10月13日時点判明数）し洪水調節不能となりました。ダム建設を優先し、河川改修を後回しにする長年の国土交通省の治水対策の根本的な転換が求められています。 熊本地震による崩落、その後の豪雨による斜面崩壊、そして活断層や亀裂が多数確認できる立野ダム建設地と周辺の状況を考えると、阿蘇地域一帯に今回の台風19号のような甚大な集中豪雨があれば、立野ダムの幅5mの穴は、流木や岩石等でふさがり、短時間で満水となりあふれ、高さ90mのダム堤を超えて濁流が大津町、菊陽町、熊本市を襲うことが十分に想定されます。 危険性が十分に想定される立野ダム建設(変更素案88～89p)は中止し、河川改修の更なる強化などハード対策（河床に堆積した土砂の撤去、堤防強化・壊れない堤防、遊水地建設など）、ソフト面での安全対策を強化することが求められています。 台風１9号災害では、堤防の決壊が大きな要因だったことが明らかになりました。堤防強化、壊れない堤防の設置が重要です。代継橋～明午橋間は、鋼矢板を入れた堤防強化がなされています。鋼矢板による壊れない堤防を下流域・市街地全体に設置することを求めます。堤防強化の方が熊本市民の命と財産を守るうえで立野ダムよりはるかに効果的です。河川整備計画から「立野ダム建設」の削除を求めます。 なお、壊れない堤防が施工されたら、「余裕高」の分まで洪水が流せることになり、立野ダムはなくてもよいとの国交省内部での検討も開示されています。 ※「先ほどの余裕高の議論もあるんですが、白川の場合は特殊堤を使っていまして、というのは、構造令上、余裕高というのは土堤原則の中で生まれているわけですね。そうなっていきますと、余裕高の議論というのもなかなか説明しづらくなってくる。本当は余裕高でいくと、立野ダム一つが吹っ飛んでしまうわけですね」（事務所長意見交換『今後の河川整備の進め方』(2000/8/9開催) 発言抄　45ページ／専門官）		
63		○	２．堆積土砂の撤去を徹底し、白川の流下能力向上を 国土交通省による白川の現況河道流下能力算定表によると、平成２０年2月時点の12.2キロ地点（代継橋・基準点）の右岸の流量は、堤防天端高3052㎥／秒、スライド堤防高3095㎥／秒、スライドー余裕高2363㎥／秒。13.2キロ地点（大甲橋）は、堤防天端高2307㎥／秒、スライド堤防高2307㎥／秒、スライドー余裕高1606㎥／秒です。 平成２７年3月時点では、12.2キロ地点の右岸の流量はそれぞれ、3654、3598、2691です。13.2キロ地点では、5012、3776、2894です。平成24年の「九州北部豪雨」後の白川の河川改修により、熊本市街地の流下能力は著しく向上しています。 ところが、平成29年2月時点では、12.2キロ地点で、3216、3216、2360、13.2キロ地点で、3263、3263、2478となっています。 熊本地震とその後の洪水、阿蘇山の噴火等による土砂や火山灰の流下による堆積により、白川の流下能力が減少しています。加えて、平成29年2月以降は、その後の土砂や火山灰の堆積などさらに流下能力が低下していることが推測されます。こうした状況は、白川全体として顕著であり、この状態を放置すれば、折角の河川改修の成果を減退・消失させることになり、洪水被害を増大させることになりかねません。 堆積土砂の撤去について、予算を大幅に増やし、抜本的に強化すことを求めます。 ところが国交省は、平成29年以来、流下能力算定は実施していないということです。「変更原案」(41p)では、「抜本的対応をはかる」とありますが、定期的に調査し、必要な予算を投入して、堆積土砂の撤去を「抜本的に」強化すことを求めます。		
63		○	３．明午橋・竜神橋に続き、三協橋・武蔵橋・弓削橋等の架け替え・整備を 平成24年豪雨で、上流右岸で浸水被害が出た明午橋は架け替えによって、橋地点で川幅75mから105mに、上流右岸・左岸、下流左岸で浸水被害が出た竜神橋は架け替えによって、67mから103mに広がりました。 ところが県管理区間の三協橋・武蔵橋・弓削橋は、上流・下流の拡幅はなされていますが、3つの橋とも橋の部分で川幅が著しく狭くなっています。このままでは3つの橋がそれぞれネックになって洪水被害をひきおこすことになりかねません。 ＊三協橋・武蔵橋・弓削橋の現況については、写真①②③参照 「変更原案」(92p)では、小碩橋・三協橋・武蔵橋・弓削橋・馬場楠堰・津久礼堰・迫玉岡堰が、「改築等」の対象になっていますが、地域ごとの説明会を開き、住民の声を聴き、計画を立て、予算をつけ、推進することを求めます。		
63		○	４．中流域の遊水地計画について　中流域を河川整備計画の対象区間に 「変更原案」（７０～７１ｐ）では、河川整備計画の「対象区間」から、「中流域」(熊本市小碩橋～立野下流)が引き続き除かれています。下流域(熊本市)の安全のためにも、「中流域」を対象区間にして、「遊水地」「輪中堤」「田んぼダム」など、治水対策を具体化すべきです。 「立野ダム建設事業に係る検討報告書」（以下「立野ダム事業検討報告書」）によると、掘り込み式遊水地について、菊陽町下津久礼の平坦部に、１３０㌶、７８０万㎥の貯留量の計画が示されています。また、水田の保全（流域内の水田の畔班の嵩上げ）が検討されています。ところが、これら計画は、棚上げされた状態になっています。 「立野ダム事業検討報告書」では、「遊水地は、地役権方式では必要な治水効果が得られないことから、掘込式とする」と記しています。 一方、国土交通省は、球磨川水系の「第１回ダムによらない治水を検討する場幹事会」の説明資料では、遊水地について、「大雨が降った時に、川から水があふれて洪水にならないように、一時的に水をためこみ、下流の流量を少なくする(河川水位が下がる)働きがあります。」とのべ、掘り込まない遊水地（地役権方式）18か所で３３０万㌧、掘り込み遊水地２か所で３３０万㎥の治水効果を示しています。 熊本県は、阿蘇・黒川で地役権方式による小倉遊水地（貯水量285万㎥）、手野遊水地（貯水量138万㎥）を整備しています。 中流域における遊水地は、その周辺、直下の地域はもとより下流域（熊本市）の治水対策としても重要であり、地役権方式による遊水地計画等を早急に具体化することを求めます。		

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について○○と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
63		○	５．ハザードマップの整備・周知、「白川流域タイムライン」（防災行動計画）の充実・実動について 台風19号による広範囲で甚大な洪水被害など異常気象のもとでの治水対策では、河川改修などハード面の更なる強化が急務であり重要であると同時に、ソフト面の対策ーハザードマップの整備と周知、「白川流域タイムライン（防災行動計画）」の充実と実動対策が急がれます。 平成24年の「九州北部豪雨」で、白川水系では、河川の氾濫によって、上流から下流に至るまで、甚大な被害に見舞われました。熊本市北区陳内では、情報伝達の不備によって、一つ間違えば、多数の死者・行方不明者を出しかねない、きわめて危険な状況に遭遇しました。 2012年7月11日から14日にかけて、九州北部では、発達した雨雲が次々と連なる線状降水帯が発生し、12日未明から朝にかけては、熊本県の阿蘇地方などで、以下に示すような記録的豪雨となりました。 1時間雨量 熊本県阿蘇市阿蘇乙姫：108.0ミリ（7月12日5時53分まで） 熊本県南阿蘇村阿蘇山：94.5ミリ（7月12日6時39分まで） 3時間雨量 熊本県阿蘇市阿蘇乙姫：288.5ミリ（7月12日5時0分まで） 熊本県南阿蘇村阿蘇山：214.5ミリ（7月12日6時10分まで） 観測史上1位の値を更新 阿蘇地方に大量に降った雨は、阿蘇山腹の崩落、黒川流域での大規模な洪水を引き起こし、やがて下流に下り、大津町、菊陽町、熊本市に大きな被害をもたらしました。「阿蘇に大雨が降ったら、火山灰を含んだ大水が熊本を襲う」というのが、熊本市の水害体験者の共通した認識になっています。 近年の異常気象のもとでは、「想定外の大雨、「想定外の洪水」が十分予測されます。タイムラインは、「災害の発生を前提に、防災関係機関が連携して災害時に発生する状況を予め想定し共有した上で、『いつ』『誰が』『何をするか』に着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理した計画」であり、「国、地方公共団体、企業、住民等が連携して『タイムライン』を策定することにより、災害時に連携した対応を行うことができ（国道交通省水管理・国土保全局ホームページ）」ものです。 タイムラインの策定は、白川水系の特性からして、とりわけ重要です。 阿蘇地方を中心に、線状降水帯が発生し、集中豪雨となった場合等を想定し、上流、中流、下流と時系列で、「いつ」「誰が」「何をするか」について、当事者（「交通サービス」「市町村」「住民」）への講習・研修、訓練等をはかるべきです。「住民」への講習・訓練等は、国・県・市町村が主導し、町内単位に実施することを求めます。ハザードマップの整備と周知を徹底すべきです。 「タイムライン」と連動した対策として、熊本市中心市街地・地下街・地下空間の浸水防止対策（止水版、防水扉等の整備）および防災講習についての具体化をはかることを求めます。		
63		○	６．住民参加・住民決定で安全な白川を 流域住民委員会は削除ではなく、住民参加の拡充を 河川法第16条2項は、「河川管理者は、（略）必要があると認めるときは、公聴会の開催等関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講じなければならない」と定めています。 「国土交通省所管の公共事業の構想段階における 住民参加手続きガイドライン」(平成15年)は、今後、社会資本整備を進めるに当たり、事業実施に際して、透明性、公正性を確保し住民等の理解と協力を得るため、事業者からの積極的な情報公開・提供に努めるとともに、身近な社会資本の管理に際して、住民、ＮＰＯなどの参画を促進するなど、事業の規模の大小、影響範囲の広狭を問わず、これまで事業者中心に行われていた過程に住民等の主体的な参画を促進することが必要である。このため、国土交通省所管の直轄事業及び公団等事業について、計画、実施、管理等の事業過程を通じた住民参加の取組みを積極的に促進していくことが必要である」「事業者は、事業の特性や事案の性質、地域の実情にかんがみ、事業者が必要と判断する場合には、以下のような措置を講じるものとする。 ① 学識経験者等及び当該事業に関係を有する住民代表、事業者団体、地方公共団体等の関係者からなる意見の集約・調整を図るための協議を行うための組織を設置する。 当該組織の構成員は、広く意見が代表されるよう配慮しつつ人選して、任命するものとする。 ② 学識経験者等からなる、事業者が実施しようとする住民参加手続きの内容、又は事業者が複数の案の検討を行うに当たっての方針等について、客観的な立場からの助言を行うための組織を設置する。 当該組織の構成員は、事業の特性に応じて、中立性、公正性や地域の実情等に配慮し、幅広い分野からバランスよく人選して、任命するものとする。 ③ 上記①又は②の組織が開催する会議の会議資料及び議事録は、原則として公開するものとする」「事業者は、住民等の意見の把握に当たっては、複数の案の各々について、当該案を提示した背景及び理由、事業費などの案の内容、国民生活や環境、社会経済への影響、メリット・デメリット等住民等が複数の案を比較検討し、判断する上で必要かつ十分な情報を積極的に公開・提供するとともに、事業に対する住民等の意思形成に十分な期間を確保するよう配慮するものとする。この際、事業者は、住民参加手続きの内容・スケジュール等について、決定されるごとにすみやかに公表するものとする。特に、説明会又は公聴会に関しては、十分に住民等への周知を図るよう時間的余裕をもってその開催の予定を公表するものとする」等々、住民参加、住民への説明の改善強化を求めています。		

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
63		○	以上の法律、ガイドラインに照らして 1－河川整備計画の変更原案の説明会について、住民が知る機会が、開催の1週間前の地元紙の片隅の広告でした。これは、「特に、説明会又は公聴会に関しては、十分に住民等への周知を図るよう時間的余裕をもってその開催の予定を公表するものとする」ことに著しく背くものです。川辺川ダムの時は、9回53時間、１万2千名参加の住民討論集会、河川整備基本方針を策定した際は流域53ケ所での説明会、公聴会、国交省寄りだけではない専門家も含めた有識者会議等、徹底した検証、住民参加がなされました。立野ダムの危険性、不必要性が明らかになることを恐れてのこととはいえ、血税を投入する公共事業の在り方としてあまりにも無責任です。 ２－現在の河川整備計画には、 第５章 白川河川整備計画の今後の進め方 ５．１ 白川流域住民委員会の継続的開催 白川の河川整備計画は、策定時点における流域の治水事業の状況や自然条件、社会的状 況に基づいて決定されたものであるため、今後の社会状況の変化や知見・技術の進展等に 即して見直すことが必要です。 したがって、白川流域住民委員会を以下に示す要領で継続的に開催し、適宜本計画の見 直しを検討します。 〇 白川流域住民委員会は毎年定期的に開催することとし、整備の進捗、環境調査結 果、住民の意見などを確認します。 〇 水害の発生状況や社会情勢、流域住民の意見などを考慮して、適宜計画の見直し を検討します。 〇 被害が大きい水害などが発生した場合は、白川流域住民委員会を開催し、必要に 応じて計画の見直しを検討します。 —との規定があります。国交省は、この規定を事実上サボタージュしてきました。「被害が大きい水害などが発生した場合は、白川流域住民委員会を開催し、必要に 応じて計画の見直しを検討」するとされているにもかかわらず、熊本地震とその後の洪水で、阿蘇大橋の崩落、立野ダム周辺の大規模な崩落、無数のひび割れなどがあった際も、この規定は実行されませんでした。 流域住民委員会既定のサポタージュ、棚上げどころか、「変更原案」では、流域委員会既定が全面的に削除されています。 立野ダムの危険性、不必要性が明らかになること、住民参加進めば、国交省の思うどおりにならないことを恐れてのこととはいえ、血税（917億円。さらに増えることは確実）を投入する公共事業の在り方としてあまりにも無責任です。 危険で阿蘇の環境を壊す立野ダム建設は中止し、河川改修と万全なソフト対策で、安全な白川を住民参加で進めることを求めます。		
64		○	今回の変更原案では、流域内の洪水調節施設（立野ダム及び黒川遊水地群）により毎秒300立方メートルを調整することになっている。立野ダムで毎秒200立方メートル、黒川遊水地群で毎秒100立方メートルを調整すると思われる。ところが、一般社団法人 九州地方計画協会ホームページに掲載された資料によると、拡張前の小倉遊水地だけで毎秒140立方メートルの洪水調節能力がある。遊水地の面積で単純計算すると、黒川遊水地群全体で毎秒300立方メートルをはるかに超える調節能力があると考えられる。ところが、国交省や県に情報開示請求をしても、黒川遊水地群の洪水調節能力を明らかにした資料はないとの一点張りである。洪水調節施設を計画する上で、洪水調節能力を算定するのは当然である。黒川遊水地群が毎秒300立方メートル以上の洪水調節能力があれば、立野ダムを建設する理由はなくなるのは明らかである。小倉、手野、内牧などの個別の遊水地と、黒川遊水地群全体の洪水調節能力を明らかにしない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
65		○	「2012年7月の豪雨災害以降、河川改修で白川の流下能力は大幅に向上しており、立野ダムがなくても、河川整備計画の洪水ピーク流量（毎秒2300立方メートル）であふれる箇所はない。計画高水位（HWL：堤防天端から1.2m下）で検討しても、十禅寺付近の一部区間等を除き、ほとんどの区間でクリアされている。川底にたまった土砂（火山灰）の撤去や部分的な改修で十分対処できる」との住民の主張に対し、国交省は「河道の流下能力を毎秒2300立方メートルに引き上げることはできない」と主張してきた。ところが変更原案では、河道の流下能力を毎秒2400立方メートルまで引き上げることになっており、これまでの主張と食い違っている。 河道の流下能力を毎秒2400立方メートルに引き上げた根拠、計算式について明らかにすること。また、河道の流下能力を毎秒2400立方メートルに引き上げる際の、具体的な改修場所や河道横断図、流下能力算定表を明らかにすること。以上について住民に情報開示、そして納得できる説明がない限り、白川水系河川整備計画（変更原案）は容認できない。	記載なし	記載なし
66		○	記載なし	近年、大雨や台風の勢いが強くなっています。命を守る行動＝避難はしますが、マイホームを買ったので物理的な被災も出来る限り避けたいです。ダムや河川の改修よろしくお願いします。	記載なし
67		○	記載なし	記載なし	記載なし
68		○	先日の「変更原案」の説明会で国土交通省は、平成24年のダム事業検証などの手続きを経て立野ダム建設を進めていると説明した。平成24年のダム事業検証では、立野ダム案が最も事業費が安くて早くできるとのことだったが、今回の「変更原案」ではその時にボツになった「河道の掘削」にある、中流部などの橋梁や堰の改修が多数入っている。つまり、事業検証の時とは河川整備計画自体が変わるのであるから、ダム事業検証もやり直すべきである。 例えば、立野ダム事業検証で検討された14の治水対策案のうち、12の治水対策案に「河道の掘削」が入り事業費を押し上げ、立野ダム案には「河道の掘削」が入っておらず最も事業費が低いとされていた。しかし、今回の「変更原案」では、立野ダムに「河道の掘削」がプラスされており、他の治水対策案よりも事業費が高くなるはずである。 立野ダム事業検証で検討された治水対策案の中でも、「水田などの保全（機能の向上）」は、大変有効な治水対策である。洪水時に流域の水田５５ｋｍ２に２０ｃｍ雨水をため込むように畦を高くするだけで、約１１００万ｍ３の容量があり、それだけで立野ダムの総貯水量１０００万ｍ３を超える。さらに流域の水田は「ざる田」と言われるように高い浸透能力を持つため、それ以上の水害防止効果がある。地下水の涵養も高まる。水田の保全（機能の向上）を中心に据えた河川整備計画を策定すべきである。	記載なし	記載なし
69		○	平成24年の立野ダム事業検証では、治水対策案①、⑪、⑫、⑬、⑭に、いずれも「ＪＲ白川橋梁の改築」「十八口堰改築」「薄場橋改修」「三本松堰改築」「渡鹿堰改修」などが含まれており、事業費を引き上げていた。一方、立野ダム案にはそれらの橋梁や堰の改修は一切含まれておらず、事業費が一番安く設定されており、結局ダム案が妥当との結論となった。 ところが今回の「変更原案」には、「ＪＲ白川橋梁の改築」「十八口堰改築」「薄場橋改修」「三本松堰改築」「渡鹿堰改修」などがすべて含まれている。平成24年のダム事業検証で、立野ダム案にそれらの橋梁や堰の改修が含まれていたならば、当然立野ダム案の事業費は膨らみ、ダム以外の治水対策案になっていたはずである。 まだ立野ダム本体のコンクリート打設は始まっていない。早急に立野ダムを除外した河川整備計画を策定すべきである。	記載なし	熊本地震で寸断された国道57号の復旧ルート「二重峠トンネル」の建設が急ピッチで進んでいます。一方で、立野ダムが建設されようとしている立野峡谷の大半が、地震で斜面崩壊を起こしています。 江戸時代、肥後藩主が参勤交代で使った豊後街道は、立野を通さず少し北の二重峠に造られました。また、大津町外牧から高森方面に向かう南郷往還も、立野を通さず北向山（白川南岸）に造られました。なぜ立野ではなく、急峻な外輪山に街道を通したのでしょうか。立野火口瀬付近は、何百年かに一度おきる大地震や大洪水で度々崩落することを昔の人々は知っていて、あえて急峻な二重峠や北向山に幹線道路を通したのではないでしょうか。 明治以降、戸下ルートや豊肥線、国道57号が立野に造られましたが、2012年の九州北部豪雨で戸下（長陽大橋）付近の旧道は全て崩落しました。熊本地震では阿蘇大橋付近が崩落し、現地での復旧のめどは全く立っていません。 皮肉なことに、立野で崩落した国道57号は、新たなルートを昔の街道である二重峠に造っています。そのような歴史的にも脆弱な場所に巨大な立野ダムを造ったら、後世の人々はどう評価するのでしょうか。

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について○○と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
70		○	国土交通省が資料開示した白川の「流下能力算定表」によると、「計画堤防高」の流下能力のほとんどが毎秒3000立方メートルを上回っている。計画堤防高であるので、堤防一杯に流れた場合の流下能力だが、ご承知のように白川市街地の堤防は堤防の上までコンクリートでできているし、鋼矢板が打ち込まれている場所もあるので、壊れるようなことはない。 「1.2mの余裕高を考えると立野ダム一つが吹っ飛んでしまう」という国土交通省整備局幹部及び各河川担当事務所長による検討会での発言がある。今後の河川整備計画でも十分検討の余地があると思われるので、以下、ご参照ください。 国交省九州地方整備局平成12 年度河川整備検討会「今後の河川整備の進め方」会議録（抜粋） 発言整備局幹部及び各河川担当事務所長 ●逆に余裕高も工学的にどういうふうに決まっているのかよくわからないけれども、そういうような検討があるべきではないかということ、・・・。 10cm、20cmで流れちゃうんですね。・・・本当に工学的な観点からいくと余裕高はどのくらいあるのかというのをきちっとやって、あと、そこの余裕分はやはり流れるというふうにしていくべきではないかなと思っているんですけれども。 ●ハイウォーターとか余裕高とか掘削とか計画河床、最深河床‥‥そこをどう考えるかによって、‥‥そこを大きめにとると、大体水は流れてしまうということになろうかと思います。 ●余裕高についてですが、本明川はダム計画がございますけれども、その余裕高まで水を流すということになると、本明川ダムがなくても流せるんじゃないかみたいなところもあるわけでございます。その辺、余裕高の考え方について十分理論武装をしていかないといけないんじゃないかと考えております。 ●住民との公開の中で、いわゆる隠すものはほとんどなくなってくるわけです。 住民とぎりぎり議論していますから。先ほどの余裕高の議論もあるんですが、白川の場合は特殊堤を使っていまして、というのは、構造令上、余裕高というのは土堤原則の中で生まれているわけですね。そうなっていきますと、余裕高の議論というのもなかなか説明しづらくなってくる。本当は余裕高でいくと、立野ダム一つが吹っ飛んでしまうわけですね。 ●そこのところを自由にやっていいよと。例えば最深河床でとか現況の河床でやっていいよと。ハイウォーターも少しぐらい上げたらと、こうなってしまうと､そこそこ流れるんですよね。だから、そこは絶対に変えてはいかんといったら、また、大引堤をやらんといかん。そんなばかなと、こういう話もあるわけで、そもそも論としては非常に大きいんだと思うんですね。実は大野川の、今、基本方針はもう通っていますが、あれの策定の際にそれに近い議論がいっぱいあって、要は矢田ダムをなくしたかわりの代替案として河道を掘削するのか、それとも現行踏襲でダムを別の所にセットするのかというところで大分大激論があったんですけれども、ぶっちゃけた話をすれば、大野川の場合も河道の拡幅あるいは掘削は可能なんですね、無理すれば。それで矢田ダムを１個なくしてしまうというのも、あながち全く不可能な議論ではなかったんだけれども、最終的にはやはりダムをこの時点で抹殺することについて、今まで何をやってきたのという部分をどう説明していくかということで、現行踏襲に落ち着いてしまったという経緯があります。　以上	記載なし	西日本豪雨で、愛媛県の肱川では、上流にある2つのダムの放流により、下流は急激な増水に襲われた。 想定以上の降雨ではダムは満水になり、ダムへの流入量をそのまま下流に流すしかなくなり、洪水調節できなくなる。ところがその点を、ダムを建設する前にも建設されてからも、国土交通省は住民に知らせようとしない。だから、今回のような悲劇が生じるのではないかと思う。 熊本市を流れる白川の上流、熊本地震でもいたる所が崩れた立野峡谷に、巨大な立野ダムが造られようとしている。異常気象で「想定外」が想定外でなくなり、「何年に一度」という計画規模があてにならなくなった近年の豪雨を考えると、ダムは洪水調節で有効な選択肢どころか危険ではないのか。 ところが立野ダム建設について、国土交通省は住民からの質問に真摯に答えようとはせず、ダムについての説明会さえ開かない状態だ。住民がどのようなダムかさえ知らないままに、ダムが建設されてよいのだろうか。今求められるのは、住民と行政の情報の共有だと思う。
71		○	以下の理由で、立野ダムは河川整備計画から除外すべきです。 ダムのゲート（水門）の幅は、40mと構造令で決められています。流木等でダムのゲートがふさがる可能性があるからです。洪水調節専用の「穴あきダム」である立野ダムにはゲートがない代わりに、ダムの下部に３つの穴（高さ５ｍ×幅５ｍ）があいています。幅５ｍしかない穴が、洪水時に流木等でふさがることは明らかです。 洪水時にダムの穴がふさがると、立野ダムは洪水調節不能になります。洪水を貯め込むだけの危険な状態となり、ダムが満水になると、ダム上部の非常放水用の８つの大きな穴から洪水がそのまま流れ落ち、ダム下流の洪水流量はゼロから最大量に一気に上昇します。 　国土交通省は流木対策として、立野ダムの穴の上流側をすき間20ｃｍのスクリーン（金網）で覆うとしています。しかし、大量の流木や岩石等がひっきりなしに流れる洪水時の白川の状況を考えると、スクリーンはたちまち流木等でふさがってしまうと容易に想像できます。国土交通省が情報開示した資料によると、ダム満水時の「穴」の放流量は、毎秒833立方メートル。速さになおすと、時速約120kmにもなるのです。 　ところが国土交通省は、「スクリーンにはりついた流木は、ダムの水位が上昇すると浮き上がる」とホームページで主張しています。その根拠を情報開示請求したところ、国交省は次のような模型実験結果を情報開示しました。 【模型実験の概要】立野ダムの1/62.5の模型（ダムの高さ1.44m、穴の一辺8cm）に、長さを変えた（4cm～24cm）直径5mmの円柱材（ラミン材）や、長さ2.4cm直径1.8mmのツマヨウジを最大で1000本流して、ダムの水位が上昇すると円柱材やツマヨウジが浮いてくる。 しかし、模型実験に使用したラミン材やツマヨウジは、乾燥した木材です。洪水時に川を流下してくる木材は、水を含み非常に重くなっています。洪水時に実際に流れる流木はツマヨウジ等の比重よりも大きいことは明らかです。また、洪水時に実際に流れる流木は円柱ではなく、枝葉や根がついており、当然曲がったり直径が変化したりしています。それらが絡み合ってスクリーンに貼り付いた場合を想定していません。 模型実験では、立野ダム地点を実際に流下する木材の量を把握していません。九州北部豪雨のとき阿蘇カルデラ内で多くの土砂災害が発生し、大量の流木が立野峡谷を流れ下りました。また、集水域383平方キロの阿蘇カルデラ内の流木が立野地点に集中することなどを考えると、1000本という数字に根拠はありません。洪水時には、流木と同時に大量の土砂や火山灰、岩石も流れることは明らかですが、実験ではそれらも想定していません。 流木を穴が吸い込む力は、流木の浮力よりもはるかに大きいのは明らかであり、国土交通省の主張は、あり得ないことです。立野ダムの穴が流木等でふさがった状態で、ダムに水がたまってしまった場合、洪水後も流木の撤去は不可能です。 洪水時、立野ダムは機能しないどころか、大きな災害源となるのは明らかです。	国土交通省は2011年より、立野ダム計画を継続するかどうかを検証する「立野ダム事業検証」を行いました。全国の計画中のダムで行われた事業検証と同じく「ダム案」が最も費用が安いという検証結果を出し、2012年12月に国土交通大臣が立野ダムの事業継続を決定しました。 2012年9月に、立野ダム事業検証の一環で熊本市・大津町・南阿蘇村で開かれた公聴会では、流域住民30人が発言し、全員が立野ダムに反対の意見を述べ、ダム賛成意見は一人もいませんでした。しかし、流域市町村の首長や議員、職員は公聴会には出席しておらず、熊本県議会や熊本市議会は住民の意見も全く聞かずに、立野ダム建設推進の意見書を可決しました。 白川流域に住むほとんどの人たちは、「立野ダムはどんなダムで、何を目的につくられるのか、どこにできるのか知らない」という認識です。にもかかわらず国土交通省は、住民が要望している立野ダムの説明会を一度も開こうとしません。住民団体が繰り返し提出した立野ダムに関する質問状に回答しようともせず、「当省のホームページを見るように」との見解を繰り返すばかりです。国土交通省は、立野ダムの説明責任を全く果たしていません。 川づくりを進めるうえで、住民の意見を聞き、説明責任を果たすことを求めます。	記載なし
72		○	以下の理由で、立野ダムは河川整備計画から除外すべきです。 内牧上流の小倉遊水地は、面積88ha（東京ドームグランド部分の67個分）、洪水調節容量265万立方メートルの、「地役権」を導入した遊水地です。驚くのが、毎秒140立方メートル※の洪水調節能力があることです。これは、立野ダムの洪水調節能力（毎秒200立方メートル）に匹敵する能力です。 黒川流域には７つの遊水地（車帰、無田、跡ヶ瀬、小野、内牧、小倉、手野）が完成または計画中であり、合計で686万立方メートルの洪水調節容量があることが、熊本県が開示した資料で明らかになりました。そこで、７つの遊水地の洪水調節流量（毎秒何立方メートル洪水調節できるか）を国交省と熊本県に情報開示請求したところ、驚くことに「そのような行政文書は存在しない」との回答でした。それならば、「黒川遊水地群で毎秒100立方メートル洪水調節する」とした河川整備計画は、一体どのようにして計算したのでしょうか。単純計算すると、7つの遊水地の合計で毎秒363立方メートルの洪水調節能力があります。遊水地の整備を進めれば、立野ダムを建設する必要はありません。 ※小倉遊水地の洪水調節能力（毎秒140立方メートル）は、一般社団法人九州地方計画協会ホームページ・黒川「小倉遊水地」について（後藤真一郎氏）より引用	記載なし	記載なし

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱､FAX､インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
73		○	以下の理由で、立野ダムは河川整備計画から除外すべきです。 国土交通省が2015年6月に情報開示した白川の「現況河道流下能力算定表」によると、九州北部豪雨は最大流量毎秒2300立方メートルであったため、改修が当時行われていなかった堤防天端（上端）での流下能力が毎秒2300立方メートル未満の多くの地点で、堤防からあふれるか、危うくあふれそうになりました。 ところが、改修後（平成27年3月測量時点）の同資料によると、河川改修により白川の流下能力は大幅に向上しています。計画高水位（堤防天端から1.2m下の水位）で検証しても、河川整備計画の目標流量（平成14年計画2000立方メートル）を89地点のうち82地点（92%）でクリアしています。残る7地点のうち、最も流下能力の低い地点（河口から9.6km地点）でも、計画高水位を約20cm上回るだけであり、堤防天端から約1mの余裕があります。河道にたまった土砂を撤去すれば十分対応可能な数値です。立野ダムを建設する必要はありません。 堤防天端での流下能力を検証すると、藤崎宮地点（河口から14km地点）では改修前に毎秒1748立方メートルだった流下能力が、改修後は毎秒3630トンと、2倍以上に向上しています。これは、河川整備基本方針で定められた、白川での150年に一度の洪水（毎秒3400立方メートル）もクリアできる流下能力です。改修が行われた他の地点でも、同様に大幅に流下能力が向上しており、毎秒3000立方メートル以上の流下能力のある地点は178地点のうち154地点（86%）にのぼります。 熊本県管理区間（小磧橋から未来大橋）では、県が2013年5月に開示した白川の「河道流下能力表」によると、河川改修が完了すれば目標流量を全ての地点でほぼクリアできます。	国は川の治水計画を策定する上で、目標とする洪水の流量（基本高水流量）を決めます。その流量からダムや遊水地などで洪水調整する分を引いた「計画高水流量」を安全に流すことができるように、川の拡幅や堤防のかさ上げなどの改修計画が立案されます。その際、堤防は計画高水流量時の水位（計画高水位）に所定の余裕高（白川の場合は1.2m）を加えた高さで計画されます。 現在の国の「河川堤防設計指針」では、堤防満杯の水位ではなく、計画高水位を超えれば堤防は決壊する想定となっています。堤防の大半は土でできています。土の堤防では、想定する洪水水位よりも余裕を持った高さで堤防をつくらなければ、破堤（堤防が壊れる）する危険性があります。 一方市街地などでは、コンクリートで補強した堤防が多く見られます。九州北部豪雨で洪水が堤防を越えた熊本市陳内4丁目などでも、コンクリートの堤防は壊れませんでした。その後、熊本市中心部の白川や阿蘇内牧の黒川では、堤防の中心に鋼矢板（連続した鉄骨）を打ち込んだ堤防も施工されています。土の堤防も、鋼矢板とコンクリートで補強された堤防でも一律に「計画高水位を超えると破堤する」という、現在の国交省の考え方は合理的ではありません。「白川では特殊堤（コンクリートで補強した堤防）を使っているので、余裕高の議論をすると立野ダム一つが吹っ飛んでしまう（建設する理由がない）」との、国土交通省内部の検討会の議事録※も開示されています。 また、越水（洪水が堤防を越える）よりも破堤の方が、比較にならないくらい危険です。今後は、堤防の中心に鋼矢板を打ち込むなど、壊れにくい堤防づくりを進めるべきです。 ※「事務所長意見交換『今後の河川整備の進め方』」（2000年8月9日開催）発言抄	記載なし
74		○	以下の理由で、立野ダムは河川整備計画から除外すべきです。 幅５ｍしかない立野ダムの穴が、洪水時に流木等でふさがることは明らかです。穴がふさがると、立野ダムは洪水調節不能の危険な状態となります。ダムが満水となる時点で、ダム上部の非常放水用の８つの大きな穴から洪水がそのまま流れ落ち、ダム下流の洪水流量はゼロから最大量に一気に上昇します。 　昭和28（1953）年の6・26水害では、熊本市内の子飼橋などの橋脚に大量の流木が引っかかり、せき止められた川の水が堤防からあふれ、堤防を決壊させて大きな被害をもたらしました。当時の橋脚の間よりも狭い幅５ｍの立野ダムの穴を、大量の流木や岩石等がくぐり抜けることは、どう考えてもあり得ません。 　立野ダムの穴が流木等でふさがった状態で、ダムに水がたまってしまった場合、流木の撤去は不可能です。洪水時、立野ダムは治水のために機能しないどころか、大きな災害源となるのは明らかです。 　洪水時の白川の水は多くの火山灰（ヨナ）とともに、多量の岩石や流木等を含みます。阿蘇カルデラ内の岩石や流木、土砂、火山灰などが全て立野ダム予定地に集中します。それらが、立野ダム下部の３つの穴（高さ５ｍ×幅５ｍ）を通り下流へ流れていくことは、どう考えてもあり得ません。しかもダムの穴の上流側は、すき間が20ｃｍしかないスクリーン（金網）で覆われているのです。 　2012年7月の九州北部豪雨の後、大津町から熊本市にかけての白川の河床には大量の岩石や土砂、火山灰が堆積しました。立野峡谷直下の畑井手堰（大津町）も、大量の岩石や土砂で埋めつくされていました。立野ダムが完成していれば、それらのほとんどが立野ダム上流部にたまっていたのは明らかです。 数万年前に、2本の活断層で外輪山が沈んで、立野火口瀬（古火口瀬）ができました。この立野火口瀬には、別府から島原に続く「大分熊本構造線」が通っています。九州の地殻は「大分熊本構造線」で、北部九州は北に、南部九州は南に移動しています。この５０年間に、北部九州は北西へ、南部九州は南西に、それぞれ１ｍほど移動しています（熊本日日新聞社発行「新・阿蘇学」参照）。そのような地盤が不安定な場所に巨大なダムをつくって大丈夫なのでしょうか。 　立野火口瀬（古火口瀬）はその後、阿蘇火山の溶岩で何度もうずまっては浸食され、現在の立野峡谷ができました。立野ダム本体予定地右岸の地盤は、阿蘇火山から流下してきた立野溶岩です。溶岩が冷える時に生じた「柱状節理」と呼ばれる割れ目だらけの溶岩が、何層にも堆積しています。一方左岸は、右岸よりずっと古い先阿蘇火山岩類による地盤です。立野ダムの完成後に断層が動いて、ダムの右岸と左岸で地盤が違う動きをした場合は一体どうなるのでしょうか。 国土交通省が情報開示した資料（平成２１年度立野ダム基礎資料整理業務報告書）によると、「ダム本体右岸部では深部においても高透水ゾーンが分布している」ので、大規模なグラウチング（セメントミルクの注入）が行われます。その範囲は、立野溶岩の範囲と一致します。立野溶岩は、柱状の割れ目でボロボロと崩れます。割れ目にセメントミルクを注入しても、地盤の強度を上げることはできません。火山地帯に巨大なコンクリートのダムをつくって安全なのか、国土交通省は自信を持って説明できるのでしょうか。	上流（ダム）を先行させる川づくりは危険です。 堤防が決壊すると凄まじい被害をもたらすことを、2015年9月の鬼怒川の堤防決壊の報道で目の当たりにしました。鬼怒川の上流には４つの大きなダムがあるのですが、堤防決壊を防ぐことはできませんでした。ダムは満水になると、ダムに流入する洪水をそのまま下流に流すことになり、洪水調節を果たせなくなります。 国土交通省の資料によると、鬼怒川上流の４つのダムの洪水調節容量は、湯西川ダム3000万立方メートル、五十里ダム3480万立方メートル、川俣ダム2450万立方メートル、川治ダム3600万立方メートルで、4つのダムの合計で12530万立方メートルです。 計画中の立野ダムの洪水調節容量は950万立方メートルです。つまり、鬼怒川上流の4つのダム群は、立野ダム13個分の洪水調節容量がありながら、ダムが国交省の主張するように洪水を調節するために機能したとしても、結局堤防決壊を防げなかった、ということになります。 驚くのが、堤防が決壊した鬼怒川は、10年に一度起きると想定される洪水に対応できない堤防だったことです。ダム建設を1つでも後に回して、下流の危険個所の堤防整備を先にしておれば、堤防決壊は防げたはずです。ダムがあるために堤防工事が後回しになった典型だと言えます。	記載なし
75		○	対岸は整備されているが、住居側は整備されていず、大雨の際には生活に支障が出ないか心配です。最近の関東地域の台風19号による川の氾濫や、大雨による千葉の被害の報道を見ると、同様なことが起きないか不安に思い、整備の前倒しを希望します。	充分な治水ができるようにして欲しい。	記載なし
76		○	河川改修が進みとても嬉しく思っています。が、我々が暮らしている地区は取り残された感が否めません。 数年前の大雨で床上浸水し、この辺りは大河のようになりました。経験者にしかわからない恐怖でした。皆さまのご協力で再起でき 普通の生活にやつと戻ることができ感謝しております。しかし、近年の異常気象により雨が降るとまた恐怖が蘇ります。 対岸は、丈夫に整備されています。その分こちらへ濁流が流れてこないか不安です。 大雨のたび命を守る行動を伝えるニュースに安眠できません。 居住地区の堤防(？)整備が早急に進みます事を願っております。 どうぞよろしくお願い致します。	河川の決壊がおきない川づくり	計画が早く実現することを願っております
77		○	白川河川整備計画変更原案の説明会（R1.10.31）有難うございました。 H24.7.12九州北部豪雨水害後の吉原橋掛替についても感謝申し上げます。 完成後の旧吉原橋右岸が撤去されたままの現状です。その後の大雨で、もう少しで 旧陣内線まであふれそうでした。その時リバーサイドビルの床上浸水心配しました。 そこで、下記その他に要望提案しましたので、地域安全と水害防止案のご検討 宜しくお願い申し上げます。	記載なし	1)　河道内の堆積土砂の早急なる除去をお願いします。橋完成後の大雨で吉原橋下流左岸の 　擁壁内側が水流で流され、河道内堆積は60cm以上埋まっています。新吉原橋は、 　鉄骨梁の背丈が高いため、旧吉原橋の高（水面から）さが少し改良された程度と思われま　す。 2)　堆積土砂除去(河床低下対策）が計画的予算的にに遅れる場合は、旧吉原橋右岸に護岸堤防 　設置を早急にお願い致します。その工事の際、[redacted] 　協力致しますので、併せてご検討お願い申し上げます。 　地理的にも吉原橋上下500～700m以内の河道内には、毎年堆積される流域で、次の大雨では 　危険ですので2件要望致します。

白川水系河川整備計画（変更原案）に対する主な意見【意見箱、FAX、インターネット（HP）】

※意見箱やFAXで頂いたご意見は、原文のとおり記載していますが、一部、不明瞭や判読できない文字等について〇〇と表記しています。
※インターネット(HP)で頂いたご意見は、原文のまま表記しています。

整理No.	意見方法		①白川水系河川整備計画（変更原案）に対するご意見	②白川の今後の川づくりについて、どのような川づくりを最も望まれますか。	③その他、ご意見
	意見箱、FAX	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)			
78		〇	実際の河川と、ホームページなどの情報が有機的に連携していないことが気になります。 例えば、重要水防箇所として堤防の高さが足りない箇所などはホームページにて公開されているにもかかわらず一般には周知されていない気がします。 実際のハザードマップなどに反映されておらず、川の防災情報を見てもわからない状況です。 河川の増水時に溢水しそうな箇所はある程度予測できている訳ですから周知すべきです。 次に河川の監視カメラが多数設置されており、ホームページから閲覧できるようになっています。 河川の増水時には「川に近づかないようにしてください。」というアナウンスはマスコミ等の放送で聞きますが、「河川の状況を確認するにはカメラの画像を参照するようにして実際の河川には近づかないでください。」といった河川の監視カメラを活用する方向に なっていません。そのようなアナウンスにすることで住民の行動を変えることができます。 また、河川カメラや水位計が設置されている場所には情報が見られるホームページの案内やＱＲコードが記載されていることはなく（「白川　カメラ」で検索という表記も含んで）カメラがある箇所とホームページ上の情報が別次元の空間になってしまっています。 立野ダムの建設の是非の議論や堤防の築堤などと表示にコストがかかる内容が多くあるかと思いますが、計画以上の水位に上がってしまえば河川はあふれてします。 私が指摘した点について検討していただければと思います。	記載なし	記載なし

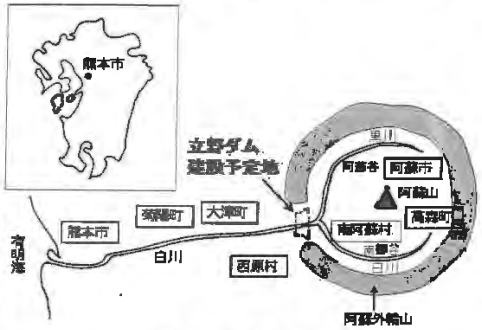
別紙

平成24年7月豪雨災害をくり返さないために

立野ダムより河川改修を！

トロッコ列車が呪みます

立野ダム完成予想図（国土交通省資料より）



立野ダム建設予定地

- 立野ダムは阿蘇外輪山の唯一の切れ目である立野火口瀬に国土交通省が計画した、**高さ90m**(30階のビルの高さ)の洪水調節専用の**穴あきダム**です。
- 洪水のときに、**ダムの穴**(高さ5m×幅5m)が流木や岩石などでふさがるので、立野ダムは**洪水調節不能の危険な状態**となります。
- 洪水時の白川の水は**多くの火山灰**を含みます。白川にダムを造っても**土砂や岩石、火山灰**などで埋まってしまうことは明らかです。
- 立野ダム予定地周辺は阿蘇火山から流下してきた**立野溶岩**で、一帯には**多くの断層が集中**しており、**地すべり**や地盤沈下、漏水、地震など思わぬ災害も想定されます。立野ダムは危険です！
- 立野ダム建設予定地は現状変更行為が許されない**阿蘇くじゅう国立公園の特別保護地区**にあり、本来ダムを造ることはできません。国の天然記念物である**北向谷原始林**の一部も水没します。
- **河川改修**を進め、阿蘇の草原を保全し、荒れた人工林を間伐し、流域の農地を守ることが、**白川流域の災害対策や熊本の地下水の保全**にもつながります。

この宝物の峡谷が沈みます。

立野渓谷キャニオニング　この自然を守りましょう！

立野ダムによらない自然と生活を守る会 [redacted]

(意見箱、FAX) 意見043 別紙

ストップ！　阿蘇立野ダム

誰が富士五湖にダムを作るでしょうか

誰が四万十川にダムを作るでしょうか

誰が高千峡にダムを作るでじょうか

誰が菊地渓谷にダムを作るでしょうか

しかし熊本県(熊本市)は、最も大切にしなければいけない宝物をこわしてダムを作ろうとしています。

①世界の阿蘇のカルデラが壊されます。

②熊本の水の源流白川がせき止められ、水が腐り汚れます。

③トロッコ列車と絶景の峡谷が沈みます。

④ダムはすぐ詰まって熊本市が大洪水になります。

⑤ダムの維持と汚泥の処理に大金がかかります。

このような百害のあるダムの建設はすぐ中止しましょう。

作られてからでは千年の悔いを残します。

署名活動や各方面への呼びかけにご協力おねがいします。

阿蘇の自然を守る山鹿の会 [redacted]

別紙2　ダム崩壊事故

失敗事例

分析シナリオ

事例名称	サウスフォーク・ダム崩壊事故（1889年）
代表図	
事例発生日付	1889年05月31日
事例発生地	米国ペンシルバニア州ジョーンズタウン市近郊サウスフォーク・ダム
事例発生場所	ダム
事例概要	1889年5月31日午後4時7分、米国ペンシルバニア州のサウスフォーク・ダム（高さ約22m、長さ約275m）が崩壊し、ジョーンズタウン市にダム水が流れ込み、子供396名を含む2209名もの生命が奪われた。ダム崩壊の直接の原因は雨だが、過去にもダム水漏れや洪水等、数多くのトラブルをかかえていたため、1889年の崩壊事故は起こるべくして起きたとの見方が強い。メンテナンス不足、再建工事の不備、設計ミス等、複合的要因によりサウスフォーク・ダムは崩壊した。
事象	1889年5月31日、米国ペンシルバニア州ジョーンズタウン市近郊のサウスフォーク・ダムが激しい雨のため崩壊し、洪水を起こした。崩壊前にジョーンズタウン市住民に対し、避難勧告が出されたが、住民の反応は鈍く、逃げ遅れた者が大多数。2209名の死者、1600世帯の崩壊、280ものビジネス損害、森林などの自然崩壊を含む大惨事となった。
経過	1889年5月31日、朝から激しい雨が降り続けていたため、近くのストニークリーク川は洪水を起こし始め、ダムの水面は10分ごとに2.45cm浮上し、午前中半ばには水面はダムの堤防近くまで上昇していた。この時点でようやくダム崩壊の恐れが懸念され、ダムの堤防を高くしたり、排水口を新たに作ったりしたが、あまり効果はなかった。ジョーンズタウンの住民に避難勧告が出されたが、住民はあまり深刻に受け取らなかった。午後2時30分、ダム水が堤防の頂上に溢し、徐々に流れ出した。その後、ダム中央に位置する石が沈み、午後3時10分ダムが崩壊した。2000万トンもの水が時速約64Km でジョーンズタウン市に流れ出し、1600世帯を襲った（午後4時7分）。洪水にもかかわらず火事も発生し、2000名以上のもの生命が失われた。
原因	1881年に完了したサウスフォーク・ダム再建工事の不備およびメンテナンス不備が1889年のダム崩壊事故につながった。以下は再建工事不備の内容。1.粘土および土を数日間水中に浸かすバドリング作業を省略したため、建設当初（1853年）の強度を保つことができなかった。2.ダム中央部分の強度を支えるサポートを何もしていなかった。3.水がダム頂上まで上昇した場合、堤防部分にある排水口から水が流れる仕組みになっているが、その排水口のサイズが小さすぎるため、水があふれて洪水になってしまう。また、釣り用スクリーン（魚がダムの外に逃げるのを防止するために設置）が排水口の水の流れを妨害している。
対処	ダム崩壊前に、ジョーンズタウン市住民に対して避難勧告が出されたが、多くの住民が勧告を無視。ダムの洪水を防ぐため、ダムの堤防を高くしたり、別の排水口を作るが効果なし。午後4時7分、ジョーンズタウン市に洪水が発生してからは、緊急の遺体安置所および病院が開設され、救助および捜索隊が出動。助かった人々には食料、衣類、医療品、備品、義援金が配られ、米国および他18カ国から総計270万米ドル相当の援助および見舞金が供給された。
対策	米政府は、ダムの排水口安全基準の遵守、試下の監視、設計基準の徹底等を勧告。サウスフォーク・ダムの悲劇から学んだことを忘れないために、また被害者の慰安のためにメモリアル・パークが設立される。
知識化	何かあってからでは遅い。メンテナンスの徹底等、事故を未然に防ぐ努力が必要。
背景	ペンシルバニア運河システムの一貫として1838年に建設が始められたサウスフォーク・ダムは1853年に完成した。が、同時期に鉄道が開通したため、ペンシルバニア運河システムはあまり利用されることがなく、その結果、サウスフォーク・ダムのメンテナンスはおろそかになっていった。1862年、排水部分の石が壊れたため、サウスフォーク・ダムは崩壊した。1879年に着手したダムの再建工事は1881年に完了したが、この時の工事は完璧なものではなかった。
後日談	1889年サウスフォーク・ダム崩壊事件から1年後に、ジョーンズタウン市北東にジョーンズタウン洪水ナショナル・メモリアル・パークが建設された。公園内にはジョーンズタウン洪水博物館もあり、洪水による被害等を展示している。館内では、1989年にドキュメンタリー短編部門でアカデミー賞を受賞した映画「The Johnstown Flood」も公開されている。
よもやま話	ジョーンズタウン洪水は、今でもジョーンズタウンの住民の間で昨日のことのように語り継がれている。被害の大きさだけでなく、ジョーンズタウンは当時、A氏など鉄鋼で財をなした人々の避暑地として、ピッツバーグから多くの財界人が訪れた町として有名。ジョーンズタウンを流れる川の上流には、サウスフォーク・ダムの人工湖があり、その回りには別荘が立ち並んでいた。現在でも、別荘はいくつか残ってる。

(意見箱、FAX)意見080 別紙
(意見箱、FAX)意見209 別紙
(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP))意見063

国土交通大臣　赤羽一嘉様
熊本県知事　蒲島郁夫様

立野ダム建設は河川整備計画から除外し、
河川改修の強化、ソフトも含めた白川の安全対策を強く求めます
「白川水系河川整備計画」変更原案の根本的「変更」を

異常気象、台風19号大災害―立野ダムは危険

大きな被害が出た先月の台風 19 号では、７１河川１２８ケ所で堤防が決壊（10月１８日時点判明数)、6つのダムが「ダム自体が危ない」と下流に緊急放流（10月13日時点判明数）し洪水調節不能となりました。ダム建設を優先し、河川改修を後回しにする長年の国土交通省の治水対策の根本的な転換が求められています。

熊本地震による崩落、その後の豪雨による斜面崩壊、そして活断層や亀裂が多数確認できる立野ダム建設地と周辺の状況を考えると、阿蘇地域一帯に今回の台風19号のような甚大な集中豪雨があれば、立野ダムの幅5mの穴は、流木や岩石等でふさがり、短時間で満水となりあふれ、高さ90mのダム堤を超えて濁流が大津町、菊陽町、熊本市を襲うことが十分に想定されます。

危険性が十分に想定される立野ダム建設(変更素案88～89p)は中止し、河川改修の更なる強化などハード対策（河床に堆積した土砂の撤去、堤防強化・壊れない堤防、遊水地建設など)、ソフト面での安全対策を強化することが求められています。

台風１９号災害では、堤防の決壊が大きな要因だったことが明らかになりました。堤防強化、壊れない堤防の設置が重要です。代継橋～明午橋間は、鋼矢板を入れた堤防強化がなされています。鋼矢板による壊れない堤防を下流域・市街地全体に設置することを求めます。堤防強化の方が熊本市民の命と財産を守るうえで立野ダムよりはるかに効果的です。河川整備計画から「立野ダム建設」の削除を求めます。

なお、壊れない堤防が施工されたら、「余裕高」の分まで洪水が流せることになり、立野ダムはなくてもよいとの国交省内部での検討も開示されています。

※「先ほどの余裕高の議論もあるんですが、白川の場合は特殊堤を使っていまして、というのは、構造令上、余裕高というのは土堤原則の中で生まれているわけですね。そうなっていきますと、余裕高の議論というのもなかなか説明しづらくなってくる。本当は余裕高でいくと、立野ダム一つが吹っ飛んでしまうわけですね」(事務所長意見交換『今

後の河川整備の進め方』(2000/8/9 開催) 発言抄　45 ページ／専門官)

堆積土砂の撤去を徹底し、白川の流下能力向上を

国土交通省による白川の現況河道流下能力算定表によると、平成２０年 2 月時点の 12.2 キロ地点（代継橋・基準点）の右岸の流量は、堤防天端高 3052 ㎥／秒、スライド堤防高 3095 ㎥／秒、スライド－余裕高 2363 ㎥／秒。13.2 キロ地点（大甲橋）は、堤防天端高 2307 ㎥／秒、スライド堤防高 2307 ㎥／秒、スライド－余裕高 1606 ㎥／秒です。

平成２７年３月時点では、12.2 キロ地点の右岸の流量はそれぞれ、3654、3598、2691 です。13.2 キロ地点では、5012、3776、2894 です。平成 24 年の「九州北部豪雨」後の白川の河川改修により、熊本市街地の流下能力は著しく向上しています。

ところが、平成 29 年 2 月時点では、12.2 キロ地点で、3216、3216、2360、13.2 キロ地点で、3263、3263、2478 となっています。

熊本地震とその後の洪水、阿蘇山の噴火等による土砂や火山灰の流下による堆積により、白川の流下能力が減少しています。加えて、平成 29 年 2 月以降は、その後の土砂や火山灰の堆積などさらに流下能力が低下していることが推測されます。こうした状況は、白川全体として顕著であり、この状態を放置すれば、折角の河川改修の成果を減退・消失させることになり、洪水被害を増大させることになりかねません。

堆積土砂の撤去について、予算を大幅に増やし、抜本的に強化すことを求めます。

ところが国交省は、平成 29 年以来、流下能力算定は実施していないということです。「変更原案」(41p)では、「抜本的対応をはかる」とありますが、定期的に調査し、必要な予算を投入して、堆積土砂の撤去を「抜本的に」強化すことを求めます。

明午橋･竜神橋に続き、三協橋･武蔵橋･弓削橋等の架け替え･整備を

平成 24 年豪雨で、上流右岸で浸水被害が出た明午橋は架け替えによって、橋地点で川幅 75mから 105mに、上流右岸・左岸、下流左岸で浸水被害が出た竜神橋は架け替えによって、67mから 103mに広がりました。

ところが県管理区間の三協橋・武蔵橋・弓削橋は、上流・下流の拡幅はなされていますが、3 つの橋とも橋の部分で川幅が著しく狭くなっています。このままでは 3 つの橋がそれぞれネックになって洪水被害をひきおこすことになりか

ねません。

＊三協橋・武蔵橋・弓削橋の現況については、写真①②③参照

「変更原案」(92p)では、小碩橋・三協橋・武蔵橋・弓削橋・馬場楠堰・津久礼堰・迫玉岡堰が、「改築等」の対象になっていますが、地域ごとの説明会を開き、住民の声を聴き、計画を立て、予算をつけ、推進することを求めます。

中流域の遊水地計画について

中流域を河川整備計画の対象区間に

「変更原案」（７０～７１ｐ）では、河川整備計画の「対象区間」から、「中流域」(熊本市小碩橋～立野下流)が引き続き除かれています。下流域(熊本市)の安全のためにも、「中流域」を対象区間にして、「遊水地」「輪中堤」「田んぼダム」など、治水対策を具体化すべきです。

「立野ダム建設事業に係る検討報告書」（以下「立野ダム事業検討報告書」）によると、掘り込み式遊水地について、菊陽町下津久礼の平坦部に、１３０㌶、７８０万㎥の貯留量の計画が示されています。また、水田の保全（流域内の水田の畔班の嵩上げ）が検討されています。ところが、これら計画は、棚上げされた状態になっています。

「立野ダム事業検討報告書」では、「遊水地は、地役権方式では必要な治水効果が得られないことから、掘込式とする」と記しています。

一方、国土交通省は、球磨川水系の「第１回ダムによらない治水を検討する場幹事会」の説明資料では、遊水地について、「大雨が降った時に、川から水があふれて洪水にならないように、一時的に水をためこみ、下流の流量を少なくする(河川水位が下がる)働きがあります。」とのべ、掘り込まない遊水地（地役権方式）18 か所で３３０万㌧、掘り込み遊水地２か所で３３０万㎥の治水効果を示しています。

熊本県は、阿蘇・黒川で地役権方式による小倉遊水地（貯水量 285 万㎥）、手野遊水地（貯水量 138 万㎥）を整備しています。

中流域における遊水地は、その周辺、直下の地域はもとより下流域（熊本市）の治水対策としても重要であり、地役権方式による遊水地計画等を早急に具体化することを求めます。

ハザードマップの整備・周知、「白川流域タイムライン」(防災行動計画)の充実・実動について

台風 19 号による広範囲で甚大な洪水被害など異常気象のもとでの治水対策で

は、河川改修などハード面の更なる強化が急務であり重要であると同時に、ソフト面の対策－ハザードマップの整備と周知、「白川流域タイムライン（防災行動計画）」の充実と実動対策が急がれます。

平成24年の「九州北部豪雨」で、白川水系では、河川の氾濫によって、上流から下流に至るまで、甚大な被害に見舞われました。熊本市北区陳内では、情報伝達の不備によって、一つ間違えば、多数の死者・行方不明者を出しかねない、きわめて危険な状況に遭遇しました。

2012年7月11日から14日にかけて、九州北部では、発達した雨雲が次々と連なる線状降水帯が発生し、12日未明から朝にかけては、熊本県の阿蘇地方などで、以下に示すような記録的豪雨となりました。

1時間雨量

熊本県阿蘇市阿蘇乙姫：108.0ミリ（7月12日5時53分まで）

熊本県南阿蘇村阿蘇山：94.5ミリ（7月12日6時39分まで）

3時間雨量

熊本県阿蘇市阿蘇乙姫：288.5ミリ（7月12日5時0分まで）

熊本県南阿蘇村阿蘇山：214.5ミリ（7月12日6時10分まで）

観測史上1位の値を更新

阿蘇地方に大量に降った雨は、阿蘇山腹の崩落、黒川流域での大規模な洪水を引き起こし、やがて下流に下り、大津町、菊陽町、熊本市に大きな被害をもたらしました。「阿蘇に大雨が降ったら、火山灰を含んだ大水が熊本を襲う」というのが、熊本市の水害体験者の共通した認識になっています。

近年の異常気象のもとでは、「想定外の大雨、「想定外の洪水」が十分予測されます。タイムラインは、「災害の発生を前提に、防災関係機関が連携して災害時に発生する状況を予め想定し共有した上で、『いつ』『誰が』『何をするか』に着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理した計画」であり、「国、地方公共団体、企業、住民等が連携して『タイムライン』を策定することにより、災害時に連携した対応を行うことができ（国道交通省水管理・国土保全局ホームページ）」ものです。

タイムラインの策定は、白川水系の特性からして、とりわけ重要です。
阿蘇地方を中心に、線状降水帯が発生し、集中豪雨となった場合等を想定し、上流、中流、下流と時系列で、「いつ」「誰が」「何をするか」について、当事者（「交通サービス」「市町村」「住民」）への講習・研修、訓練等をはかるべきです。「住民」への講習・訓練等は、国・県・市町村が主導し、町内単位に実施することを求めます。ハザードマップの整備と周知を徹底すべきです。

「タイムライン」と連動した対策として、熊本市中心市街地・地下街・地下空間の浸水防止対策（止水版、防水扉等の整備）および防災講習についての具

体化をはかることを求めます。

住民参加･住民決定で安全な白川を
流域住民委員会は削除ではなく、住民参加の拡充を

河川法第16条2項は、「河川管理者は、(略) 必要があると認めるときは、公聴会の開催等関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講じなければならない」と定めています。

「国土交通省所管の公共事業の構想段階における 住民参加手続きガイドライン」(平成15年)は、今後、社会資本整備を進めるに当たり、事業実施に際して、透明性、公正性を確保し住民等の理解と協力を得るため、事業者からの積極的な情報公開・提供に努めるとともに、身近な社会資本の管理に際して、住民、ＮＰＯなどの参画を促進するなど、事業の規模の大小、影響範囲の広狭を問わず、これまで事業者中心に行われていた過程に住民等の主体的な参画を促進することが必要である。このため、国土交通省所管の直轄事業及び公団等事業について、計画、実施、管理等の事業過程を通じた住民参加の取組みを積極的に促進していくことが必要である」「事業者は、事業の特性や事案の性質、地域の実情にかんがみ、事業者が必要と判断する場合には、以下のような措置を講じるものとする。

① 学識経験者等及び当該事業に関係を有する住民代表、事業者団体、地方公共団体等の関係者からなる意見の集約・調整を図るための協議を行うための組織を設置する。 当該組織の構成員は、広く意見が代表されるよう配慮しつつ人選して、任命するものとする。

② 学識経験者等からなる、事業者が実施しようとする住民参加手続きの内容、又は事業者が複数の案の検討を行うに当たっての方針等について、客観的な立場からの助言を行うための組織を設置する。 当該組織の構成員は、事業の特性に応じて、中立性、公正性や地域の実情等に配慮し、幅広い分野からバランスよく人選して、任命するものとする。

③ 上記①又は②の組織が開催する会議の会議資料及び議事録は、原則として公開するものとする」「事業者は、住民等の意見の把握に当たっては、複数の案の各々について、当該案を提示した背景及び理由、事業費などの案の内容、国民生活や環境、社会経済への影響、メリット・デメリット等住民等が複数の案を比較検討し、判断する上で必要かつ十分な情報を積極的に公開・提供するとともに、事業に対する住民等の意思形成に十分な期間を確保するよう配慮するものとする。この際、事業者は、住民参加手続きの内容・スケジュール等について、決定されるごとにすみやかに公表するものとする。特に、説明会又は公聴

会に関しては、十分に住民等への周知を図るよう時間的余裕をもってその開催の予定を公表するものとする」等々、住民参加、住民への説明の改善強化を求めています。

以上の法律、ガイドラインに照らして

1－河川整備計画の変更原案の説明会について、住民が知る機会が、開催の１週間前の地元紙の片隅の広告でした。これは、「特に、説明会又は公聴会に関しては、十分に住民等への周知を図るよう時間的余裕をもってその開催の予定を公表するものとする」ことに著しく背くものです。川辺川ダムの時は、９回53時間、１万２千名参加の住民討論集会、河川整備基本方針を策定した際は流域53ケ所での説明会、公聴会、国交省寄りだけではない専門家も含めた有識者会議等、徹底した検証、住民参加がなされました。立野ダムの危険性、不必要性が明らかになることを恐れてのこととはいえ、血税を投入する公共事業の在り方としてあまりにも無責任です。

２－現在の河川整備計画には、

第５章 白川河川整備計画の今後の進め方

５．１ 白川流域住民委員会の継続的開催 白川の河川整備計画は、策定時点における流域の治水事業の状況や自然条件、社会的状 況に基づいて決定されたものであるため、今後の社会状況の変化や知見・技術の進展等に 即して見直すことが必要です。 したがって、白川流域住民委員会を以下に示す要領で継続的に開催し、適宜本計画の見 直しを検討します。

○ 白川流域住民委員会は毎年定期的に開催することとし、整備の進捗、環境調査結 果、住民の意見などを確認します。 ○ 水害の発生状況や社会情勢、流域住民の意見などを考慮して、適宜計画の見直し を検討します。 ○ 被害が大きい水害などが発生した場合は、白川流域住民委員会を開催し、必要に 応じて計画の見直しを検討します。

―との規定があります。国交省は、この規定を事実上サボタージュしてきました。「被害が大きい水害などが発生した場合は、白川流域住民委員会を開催し、必要に 応じて計画の見直しを検討」するとされているにもかかわらず、熊本地震とその後の洪水で、阿蘇大橋の崩落、立野ダム周辺の大規模な崩落、無数のひび割れなどがあった際も、この規定は実行されませんでした。

流域住民委員会既定のサボタージュ、棚上げどころか、「変更原案」では、流域委員会既定が全面的に削除されています。

立野ダムの危険性、不必要性が明らかになること、住民参加進めば、国交省の思うどおりにならないことを恐れてのこととはいえ、血税（917億円。さらに増えることは確実）を投入する公共事業の在り方としてあまりにも無責任です。

危険で阿蘇の環境を壊す立野ダム建設は中止し、河川改修と万全なソフト対

策で、安全な白川を住民参加で進めることを求めます。

2019年11月14日
白川の安全と立野ダムを考える流域住民連絡会
阿蘇自然守り隊・ 大津町立野ダムを考える会・白川の安全と立野ダムを考える菊陽の会・白川の安全と立野ダムを考える北区の会・白川渡鹿の会・ 白川の治水を考える中央区の会・ 白川の安全と立野ダムを考える江南江原藤園の会・白川の安全と立野ダムを考える東区の会（準備会）・白川の安全と立野ダムを考える黒髪の会（準備会）・白川の安全と立野ダムを考える西区の会（準備会）

①

②

③

国土交通省　熊本河川国道事務所
熊本県　土木部河川課御中

[redacted]
阿蘇・白川・有明海を守る会代表

熊本白川河川整備計画（変更原案）に対する意見

令和１年１１月１３日

毎日のお仕事、白川の拡幅、明吾橋架け替えを最後にすべての橋がかけ替えられたことに感謝いたします。

令和１年10月23日、熊本中央公民館で閲覧した本文155頁、概要版18頁につき意見を申し上げます。

第1　立野ダム本体工事を中断する。その後、青少年向け、壁のぼり、北向き山回遊山道、激流下り等の冒険、探検公園として整備することを請願する。

第2　感想

1　前回の計画書は平成14年だった。30年間の計画だったが、この15年間で計画はほとんどが完成したようだ。ならば、その完成状況を公開すべきだ。改修した橋の名前、金額等を。その後これからの計画内容を具体的に公開すべきだ。しかし、この両方とも書いていない。県民を軽視している。

2　平成24年７月北九州豪雨、熊本地震で、14年計画40年で600億円の予定は、数千億円の工事費となった。1,100兆円の赤字国債は増えるばかり、日本はとっくに財政は破綻している。この中での膨大な当県の税金出費は、国民に対して心苦しい。

3　立野ダムは1,000億円で、白川をドブ川に、有明海を腐臭の干潟に変える愚行だ。ぜひ中断して欲しい。1,000億円の河川改修等で、白川は１秒4,000トン流れるようにしてもらった。

第３　概要版の間違い。虚偽公文書作成等、同行使の刑法156③、157違反。

1　表紙は白川橋から立田山までの俯瞰図。白くぼかしてある。20年以上前の写真のようだ。左側の66年前の子飼橋の写真は初めて見たが怪しい。熊本大学教授が白川で初めてコンクリ―ト橋を造ったが、橋脚が多すぎて流木が引っ掛かり、ダム状になり、橋の上流の両側の堤防が決壊した。このため熊本市中心街から下流まで大洪水となった。220名の死者を出した。熊本日日新聞で読んだ。死者数は66年前の熊日新聞マイクロフイルムから、氏名を数えた。

表紙３段目、白川橋上流左岸清掃、は昔の写真。ここに過去の写真は意味不明。

４段目、整備後の緑の区間（大甲橋上流）の写真も今のではない。同上意味不明。

2　１頁、平成14年計画、2,300トン/1秒を洪水調節施設により300トン調節して稼働配分量を2,000トンとしていました。とある。施設と書き、「穴あき立野ダム」を隠ぺ

いしている。立野ダム工事理由は完全にねつ造だ。①60キロ上流のダムで300トン調節出るはずはない。②平成24年7月、今までに経験したことのない大雨、千年に1度の大雨時の流量は2,800トンだったと所長は言った.水位は6.5m。2.5m余裕があった。③9時間に阿蘇カルデラ内に1億トン降った。ダム容量は1千万トンだ。10倍の大雨がダムを超えたことになるのだ。にもかかわらず、本年本体工事予算を付けた。詐欺による国民の税金泥棒である。

5ｐ　死者・行方不明422名は嘘、ごまかし。最終的には210名の死者だった。
平成2年死者・行方不明14名は嘘、ごまかし。14名は一宮地区の土石流による死者。
平成24年雨量393.6㎜はうそごまかし。阿蘇乙姫では10時間で990㎜だった。

6ｐ　整備前と整備後の写真は嘘、ごまかし。5つの橋の拡幅架け替えが終了したのであるから、自慢して現在の写真を載せるべきだ。なのに、全部数年前の写真だ。現在の写真を載せたら、立野ダムが無くても洪水にならないという状況が分かるので、故意に、数年前の写真にしている。卑劣極まる国の悪行である。

7ｐ　令和の時代の理念は「・・共生」とあるが、うそごまかしだ。アユの生息存在を隠ぺいしている。立野ダムが出来たら、阿蘇立野渓谷天然記念物である柱状節理溶岩が破壊尽くされる。ダムで、土砂栄養が有明海に供給されなくなり、ノリ他、海産物、100万種類、数千兆個の干潟生物、動植物が絶滅する。生物多様性、継続不可能な自然、地球温暖化し、人類も絶滅する。7ｐ　令和欄は小さな字をさらに読めないようにボカシてある。卑劣。

8ｐ　理念として、「上流から河口まで、1本でつながる川づくり」とあるが、欺瞞。立野ダムで土砂と栄養が遮断される。薄場橋直下の十八口堰の高さは5mぐらいある。ウナギ、アユは登れない。高潮対策だろうが、2m低くすべきだ。

9ｐ　熊本市街横断図は、66年前の昭和28年堤防決壊が原因の水害を、白川が天井川だからだとのうそを流布して市民を恐怖感に陥れるねつ造図面だ。後記のとおり、非常に質の悪い、ねつ造、偽造、詐欺、混同の虚偽公文書だ。
現在は3,800トン流れるので、立野ダム建設の理由は無いのだ。
内水対策は不要。坪井川の内水逆流は、坪井地区に100町歩の遊水地ができたので、心配ない。

12ｐ　白川橋下流左岸、河道内に堆積した土砂の撤去状況、は嘘、撤去でなく土砂を搬入して、故意に川底を2m底ぐらい上げして浅くしている。天井川を造っている。岸の土砂も高くなっている。十八口堰が高いので土砂を底に増やして勾配を取っているようだ。

13ｐ　回遊魚：アユの写真があるが。回遊魚とは言わない。又、本文にはアユの存在は書いていない。白川のアユは、球磨川のアユよりも大きくなるそうだ。

15ｐ　白川市街部景観の写真は現在の写真を載せるべきだ。

16ｐ　地域住民等と連携というが、7か所での説明会のうち2回目、西部小島公民館では、

190 席に対して市民は 15 人だけだった。国と県は 25 名だった。質問時間は充分あったのに 30 分以上カットした。質問に答えられなかった。説明会、公聴会の広報も不十分だった。国民、市民は、行政がうそとごまかしで無駄な公共工事をしていることを知っているので、誰も出席しないのだ。立野ダム公聴会では 3 か所で 30 人全員が立野ダムは何の役にも立たないと弁論した。なのに、工事を止めない。

第3　本文（155 頁）の間違いとうそ。第 2 と重なる。

1　12 頁（以下、P）阿蘇北向谷原始林（国指定天然記念物）とあるが、「阿蘇北向渓天然記念物」が正当な名称ではないか。

行政（国・県・市町村）は昭和 28 年水害当時からダムを造るために、「阿蘇北向渓谷」の溶岩（柱状節理）の林立が天然記念物であるのに、これを隠す目的で、観光業界には「北向山原生林」又は「北向山原始林」と、言う嘘の表現を流布したのではないか。原生林は原始林に准ずるという。急斜面の木は、日本中の平地に生える、照葉樹林（ドングリ、椎、椿）であり、珍しいものではないようだ。天然記念物ではないのだ。まして、原始林でも原生林でもない。人の手が入っていないとは言えないのだ。

P18　平成 24 年 7 月大雨は昭和 31 年観測以来 1 位で、沿線各所で氾濫甚大な被害とあるが、洪水死者は出なかった。龍田 4 丁目の団地が激流にさらされた。市内では、藤崎宮から溢水したが、軽度だった。これは、国の、やらせ洪水である。藤崎宮の下流 50 メートルにある明午橋の架け替えを故意に最後に延期させていたため、橋の左岸川幅が 20m 狭かった。又左岸堤防が右岸堤防より高かったため右岸に溢水したのである。

p 19　昭和 28 年水害死者 442 人は虚偽記載だ。当時の熊本日日新聞（県、市図書館マイクロフイルム）の死者名を数えたが 210 名だった。RKK の人も 210 名だといった。当時の熊本県警は国の警察といった。国警察と熊本市警察が双方で死者数を発表していたので、ダブって 442 名という嘘をねつ造しているようだ。平成 24 年の「立野ダム建設の検証に係る検討」には、死者数は 350 名とある。最近の熊本日日新聞には 550 名とねつ造しだした。

p 19　昭和 32 年死者 83 名はねつ造だ。32 年、金峰山の土砂崩れで 183 名が死んだ。この数字から 100 を消して 83 名という数字をねつ造した事実は、私が裁判で明らかにしたはずだ。平成 2 年死者 14 名は、白川ではなく黒川の宮地での土石流による死者だ。

p 25　昭和 28 年水害の原因は、熊本大学教授が設計した子飼い橋を鉄筋コンクリートにして、橋脚を何本も立てた。橋脚に流木が引っ掛かりダム状となった。このため、橋の上流の両岸堤防が決壊した。このために熊本市中心街が洪水となったものだと熊日で読んだ。

平成 12 年案に立野ダムで 400 トン制御して、熊本市代継橋で、3400 トンを 3000 トンに減らす、とあるが、ねつ造ではないか。なぜなら、平成 24 年 9 月作成した「立野ダム建設の検証に係る検討報告書」には、書いてなかった。2,300 トンを 2,000 トンに減らすと書いてある。

平成12年に国会で首相、扇国交大臣が人吉市洪水で6人死んだとうそをいった。
川辺川ダムと立野ダムの予算が付きそうになったので、私は、借金肥大防止と川と海の海産物絶滅防止のために、街頭署名を始めた。たった一人で川辺川ダム反対 35 千人、路木ダム2万人、立野ダム中止天皇請願 22,800 人の合計 77,800 人の署名を取った。立野ダム中止請願裁判をした。幸山市長、蒲島県知事、石井国交省大臣を訴えたが、行政のウソで採決された予算を中止する法律はないという理由で裁判は負けている。ブラック国家日本だ。
代継橋改築 1999 年（平成11年）とあるが、この時、左岸は拡幅せずに、20m 残して故意に中心街に溢水させる陰謀だったのではなかったか。拡幅したのは平成20年頃ではないか。　平成24年7月24日、これまで経験したことのない大雨は、激甚災害と認定された。それから7年、ビワの首住民移転工事、明午橋の架け替え工事が終了した。
平成24年7月、千年に一度の大雨だったが、代継橋の瞬間流量は 2.800 トン/1 秒だったと所長は言った（平成24年南阿蘇村公聴会）。水位は 6.5m、 余裕は十分あった。
p26　平成24年9月作成「立野ダム建設検証に係る検討（報告書）」200 頁については、記入すべき欄に記入していない。空欄となっている。事実の隠蔽、偽装工作だ。この時、大雨を追い風に悪用して、立野ダム建設を進めた。河川計画も変更した。
・この報告書は 200 頁全部がトリック満載だった。立野ダム 1,000 億円が一番安いように見せかけたが、立野ダム越流放水、緊急放水が流れるように拡幅工事、これに伴う全橋の架け替え工事で 1,000 億円を費消しているのである。一番高い案だったのだ。
私が平成12年に立野ダム中止、川辺川ダム中止に立ち上げらなかったら、立野ダムは 100 億円で完成していたかもしれない。ジレンマ（板挟み）で心が痛む。
24年7月、千年に一度の大雨が降った。白川右岸、熊本市龍田4丁目、ビワの首団地（田中角栄時代に習い、白川河川敷を戸建て団地として販売）を、洪水が襲った。国土交通省・立野ダム工事事務所は、この左岸側崖上に立っている。政治家がらみの宅地販売業者は、当時、立野ダムが出来るので洪水にはならないとうその宣伝をした（町内会長）。
p30（概要版9ｐ）　熊本市中心街横断図のウソ、欺瞞、偽造、ねつ造、詭弁。
この図こそが、国が県民をだまして立野ダムを造り、阿蘇、白川、有明海を壊す元凶・目玉だ。平成24年報告書他に出たので、私は裁判で訴えたもの。
土地の標高が全部嘘である。極小の図面で、うそを満載している。標高が書いてない。大甲橋際に標高の物差しがあるが、66年前の土地の高低と現在の高低は全く違うのだ。昭和28年6月洪水の痕跡水位と書いてあるがウソだ。
現在の標高は、熊本市役所ロビー12m、大甲橋16m ぐらい。図面では市役所 9m とある。3m 低くごまかしている。28年当時の標高は、市役所前道路 9m、大甲橋が 12m ぐらいか。白川の底の標高は 6m か。今も白川の底は7m ぐらいか。
白川は天井川だと行政は長年市民に刷り込んだが、私が裁判などで、「天井川とは、川に土砂がたまり、両側の土地よりも川底が高くなった川のことだ。」「白川で両側の土地

よりも高い川底は1か所もない」と証明したので、『天井川』だというデマは消えた。しかし、最近NHK,RKKが、天井川だとうそを放送した。行政は係が変わるとうそを流布している。犯罪者集団だ。

p30　「熊本市街部は洪水時における白川の水位が周辺の地盤より高い位置を流れる為、広範囲に氾濫水が流れ込む特性を持っており、壊滅的被害をもたらす。」とあるが、天井川だというそを刷り込む、だまし文句だ。日本中の川は洪水時には両側の地盤より高い位置を流れる。当然の事である。

p47　白川発電所の位置は嘘。取水口を発電所と捏造。白川の水は北向き山をトンネルで貫通して2キロぐらい下流左岸にある。黒川発電所の位置も嘘だ。取水口を第1黒川発電所とねつ造している。黒川第1発電所は立野駅直下、立野ダム予定地のすぐ下流にある。黒川第1発電所を黒川第2発電所だとねつ造している。黒川第2・黒川第3発電所を書いていない。隠蔽だ。立野ダム直近下流の右岸に3か所、左岸に1か所、計4か所の発電所がある。大雨で、立野ダムで止め切らない水がダムを満杯にした後、一気に流れ出す激流で、4か所の発電所は破壊されるだろう。

p52　「北向き原始林」の表記は嘘だ。「北向き山は断崖渓谷が岩肌を露出」はごまかし表現だ。北向き山は左岸にあり、岩は少ない。右岸にある柱状節理溶岩柱が、広範囲にある。これこそが天然記念物のはずなのだが、阿蘇大橋、長陽大橋の橋脚工事で大半が消滅している。

p53,54　中流域の生物として「鮎」が一番重要であるのに、文字が無い。隠蔽、偽装だ。

p78　昭和28年洪水時の流量は代継橋で何トンだったのか書いてない。もちろん、子飼い橋両岸が決壊したので流量は分からないのは当然だが。2,700トンと見ているのか。平成24年7月これまでに経験したことのない大雨時の流量は2,800トンだったと、平成24年11月頃の南阿蘇村立野ダム工事公聴会で、熊本事務所所長は私の質問に答えた。この時世継橋では水位は6.5m、2.5m余裕があった。この事実は、「ダムで300トン減らし、2,000トンに抑えると洪水を防ぐ」という、立野ダム建設理由は成り立たなくなったのである。裁判したが、国は本体工事に着工したようだ。1,000億円の税金泥棒である。「国土強靭化」というが、「靭」とは、「しなやか」の意味である。国土をコンクリート鉄で覆うことでは、「しなやか」にはなれない。安倍首相、麻生副首相ともセメント生産日本1，2位の県出身である。両首脳は国中を戦艦にしたいようだが、数千億円の空母でも中ソのミサイル1発で轟沈、100万円の無人飛行機で撃沈できる時代となった。

海の生物多様性が大々的に破壊される恐れがあるが、一言もない。地球温暖化の一因は、揚子江ダムや日本中のダム湖で貯水が数度上がることだと思う。又、川からの土砂と栄養が欠乏するので、魚介類は生息できず、人類の食糧が絶滅する、人類も絶滅する。水位上昇により、農地、居住地が水没して無くなる。ダムは有害そのものである。

以上。

(別紙)

白川水系河川整備計画[変更原案]に対する意見

今年10月の台風19号によって岩手県山田町では東日本大震災のあとに整備された津波堤防が雨水などをせき止めたために50棟の住宅が浸水などの被害を受けている。堤防に面する住宅は東日本大震災のときに押し寄せた津波では最大でも床上浸水であったが、今回は多くの住宅が2階近くまで浸水している。

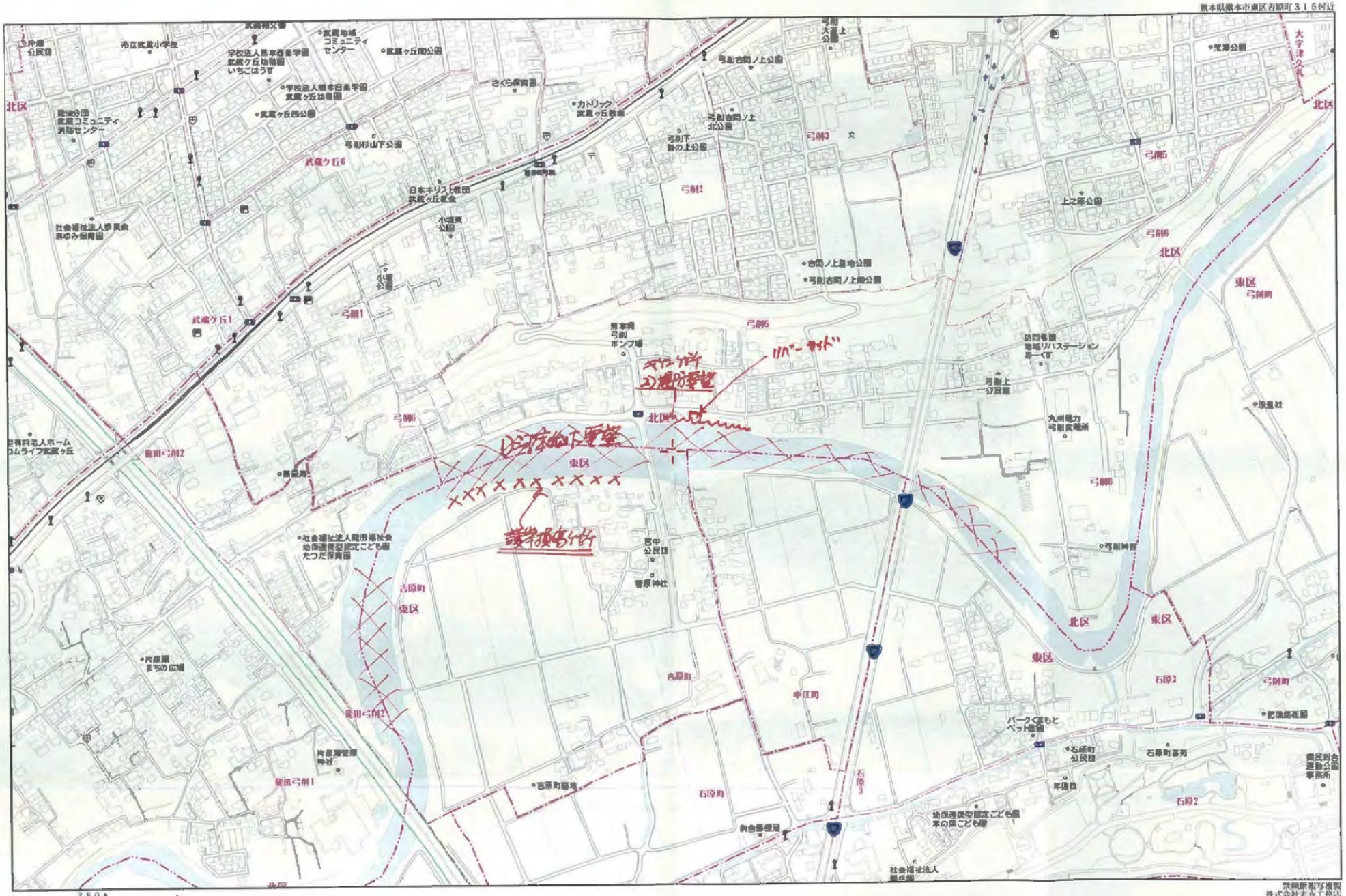
津波堤防には排水口が4か所に整備されていたが、これらの排水口の2か所が土砂等で閉塞して、雨水の排水が十分に行われなかったことに起因しているようである。通常の降雨であれば4か所の排水口で十分に排水できるはずが、大量の雨水が押し寄せると簡単に排水口がふさがれてしまうことの典型的な例と言えます。

過去の降雨に基づいた設計では4か所の排水口で計算上は十分に排水できることになっているようであるが、排水口が土砂等で閉塞することは全く念頭になかったようである。町では想定外の降雨だったので仕方がなかったと説明しているようですが、これは無責任なように感じられます。

さて、立野ダムには5m四方の排水口が3か所造られ、穴の前には20cm間隔のスクリーンが取り付けられることになっています。洪水の時には、まず排水口の高さまで水が蓄えられ、水位が排水口の高さに達すると水は排水口から流れ始めるでしょう。しかし、土砂や流木等が混在した濁流がスクリーンを通過するとき流木等はスクリーンに絡まり排水口が塞がれて排水機能が失われることは想像に難くありません。洪水が流入している間はこれらのゴミを人工的に撤去する方法はありません。阿蘇盆地に降ったほとんどの雨がここに集まるので、ダムが満杯になるのに多くの時間を要しないでしょう。満杯になったダムには洪水調節の機能はなく、流入するすべての洪水がダムを乗り越えることになるでしょう。スクリーンに絡まった流木等を人力で撤去するのも非常に困難でしょうから、洪水が収まったのちもダムの水位は容易に低下せず、その影響は広範囲に広がるでしょう。このような危険性が十分に考えられる以上、立野ダムを建設することは得策とは思われません。岩手県の津波堤防の失敗を教訓として、英断をもって現在のダムによる治水計画を変更されることを提言します。

（意見箱、FAX）意見132 別紙

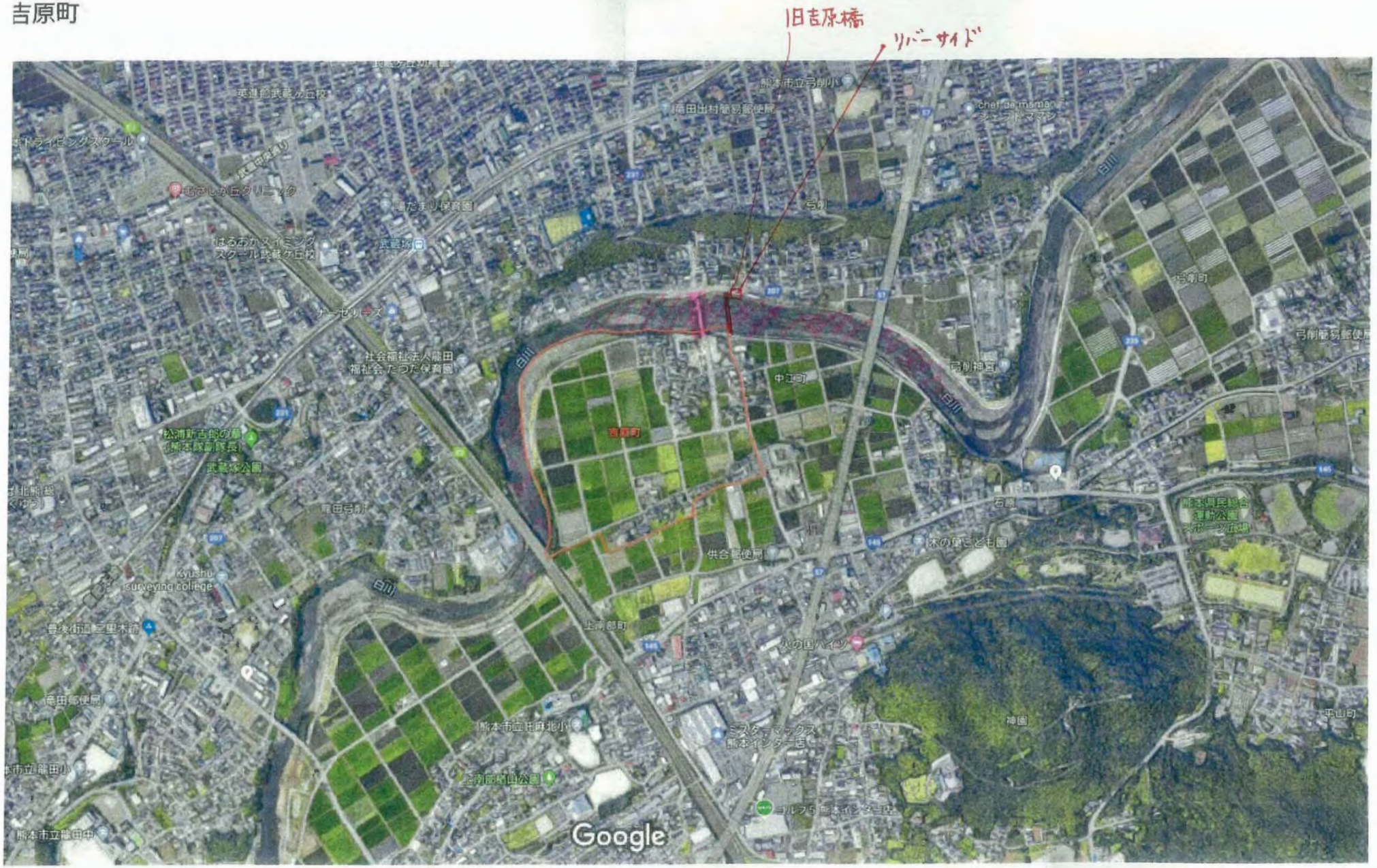
熊本県熊本市東区古閑町３１６付近



Copyright (C)2019 ZENRIN CO., LTD.

禁無断複写複製
株式会社ゼンリン
Z19H02215-20191119105104

吉原町



画像 ©2019 Google、画像 ©2019 Airbus、CNES / Airbus、Digital Earth Technology、Maxar Technologies、Planet.com、地図データ ©2019　200 m

(意見箱、FAX)意見173 別紙
(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP))意見062

平成２５年１０月１日

国土交通大臣　　太田　昭宏　様
九州地方整備局長　　岩崎　泰彦　様
立野ダム工事事務所長　島本　卓三　様

立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島　康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　平野みどり
連絡先 [redacted]
電話 [redacted]　FAX [redacted]

立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する公開質問状

立野ダム事業は多くの問題点を抱えており、国土交通省は住民向けのダム説明会さえ開催できず、説明責任を全く果たせていない状況です。今回は立野ダム事業の「放流孔の閉塞」と「堆砂」に絞った公開質問を致します。住民が納得できる回答をされることを要請します。

球磨川の荒瀬ダムは、洪水時に流木などを引っかかりにくくするために、建設工事中に水門（ゲート）の間隔を当初の 10m から 15m に広げています。洪水調節専用の「穴あきダム」である立野ダムにはゲートがない代わりに、ダムの下部に一辺が５ｍの３つの穴（放流孔）があいています。洪水時の白川を見ると、大量の流木がひっきりなしに流れています。この一辺が５ｍの３つの穴（放流孔）が流木等でふさがると、立野ダムはたちまち洪水調節不能の危険な状態となります。

国土交通省は流木対策として、放流孔呑口部にスクリーンの設置を計画しています（詳細別紙）。しかし、スクリーンを設置すれば洪水時にスクリーンに流木等がはりつき、一辺が５ｍの３つの穴（放流孔）はたちまちふさがることが容易に想像できます。国土交通省は地元議員に対する現地説明で、「ダムの水位が上がれば流木は浮いて穴（放流孔）はふさがらない」などと説明していますが、流木の浮力よりも穴（放流孔）が流木を吸い込む力の方がはるかに大きいのは明らかです。

さらなる安全対策として、国土交通省は立野ダム建設予定地上流に、流木等を捕捉できる施設として高さ５ｍのスリットダムの設置を計画しています（詳細別紙）。しかし、ダム湖の水位が高さ５ｍのスリットダムを超えた時は、大量の流木がスリットダムを乗り越え、一辺が５ｍの放流孔呑口部のスクリーンに押し寄せることが容易に想像できます。

また、国土交通省は立野ダムの堆砂について「洪水時に流水とともにダム上流から流入した土砂は、貯水位の上昇とともに一時的にダム湖内に堆積するが、その後、貯水位の低下とともにダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下する」と説明しています。洪水時の白川の水は多くの火山灰とともに、多量の岩石や流木等を含みます。流木や岩石が放流孔呑口部のスクリーンや高さ５ｍのスリットダムをふさげば、「ダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下する」ことはあり得ません。

球磨川では河川整備基本方針策定時に、国土交通省は「川づくり報告会」と題する説明会を流域など５３カ所で開催しました。白川では昨年まで「立野ダム事業の検証に係る検討」が行われたにもかかわらず、住民に向けた説明会は一度も開催されていません。また、

現在国土交通省がホームページで示している説明資料では私たち住民は全く納得できません。

そこで、以下３点について公開質問します。１０月１８日までに文書でのご回答をお願いします。

記

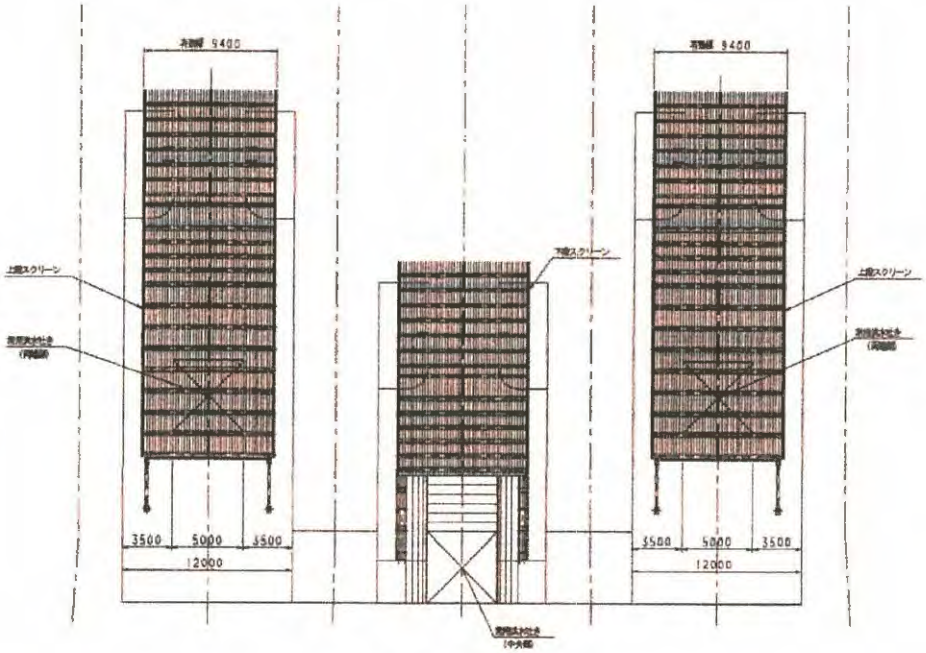
１．放流孔呑口部のスクリーンや高さ５ｍのスリットダムが流木等でふさがらないという根拠

２．洪水時においては、流水とともにダム上流から流入した土砂は、貯水位の上昇とともに一時的にダム湖内に堆積するが、その後、貯水位の低下とともにダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下するとする根拠

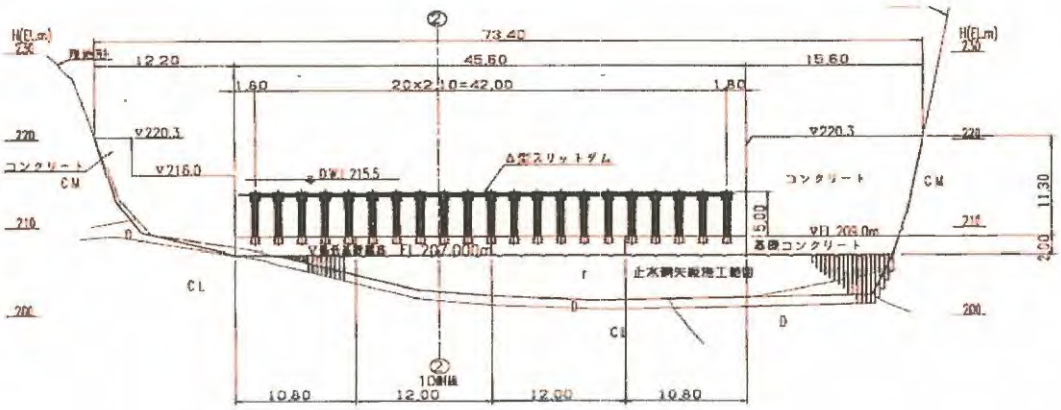
３．転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。

以上

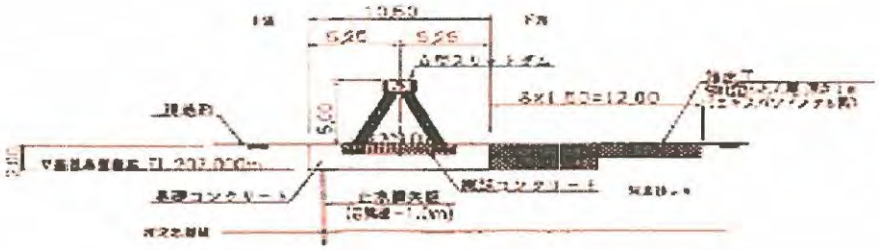
別紙



スクリーン縦断図



スリットダム縦断図



スリットダム横断図

(意見箱、FAX)意見174 別紙
(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP))意見061

平成２５年１１月１５日

国土交通大臣　　太田　昭宏　様
九州地方整備局長　　岩崎　泰彦　様
立野ダム工事事務所長　島本　卓三　様

立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島　康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　平野みどり
連絡先 [redacted]
電話 [redacted]　FAX [redacted]

立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する公開質問状その2

立野ダム事業は多くの問題点を抱えており、国土交通省は住民向けのダム説明会さえ開催できていません。流域住民のほとんどは、「立野ダムという言葉を聞いたことはない」「立野ダムという言葉は聞いたことがあるが、どんなダムなのか、何を目的につくられるのか、どこにできるのか知らない」という認識です。貴省は、立野ダムのことを住民に何も知らせずにダム建設を進めようというのでしょうか。

私たちは10月1日に「立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する公開質問状」を貴省に提出しました。ところが貴省からの回答はなく、問い合わせた電話に「回答書は出さない。当所のホームページを読むように」と答えるのみでした。これでは、貴省は説明責任を全く果たせていないと言われても仕方がありません。

10月25日に更新された立野ダム工事事務所のホームページに、立野ダム事業の放流孔の閉塞と堆砂に関する貴省の見解が掲載されていました。それに対し再質問を致しますので、誠意ある回答をされるようお願い致します。

Ⅰ．放流孔の閉塞について

「スクリーンに捕捉された流木は、放流孔付近の流速が速いため、水位が上昇しても浮き上がることは無いのではという指摘もありますが、放流孔の一番狭い箇所（5m×5m）に比べてスクリーン全体の面積は約２０倍と大きくなっています。そのため、スクリーン部の流速は遅くなり流木でスクリーンが塞がることは無いと考えています」と貴省ホームページに掲載されています。

しかし、スクリーンの幅はわずか９．４ｍであり、図面を見ると高さも２５ｍ程度です。また一つ一つのスクリーンのすき間（間隔）も図面を見ると２０cm程度です。

前回も質問しました通り、洪水時の白川を見ると、大量の流木がひっきりなしに流れています。また流木は大小さまざまな大きさがあるのは当然です。それらが２０cm程度のスクリーンのすき間につまれば、ダム湖の水位が上がるとともに流木が浮き上がるなどということはあり得ません。また、スクリーンにはりついた流木等を穴（放流孔）が吸い込む力と、流木の浮力をどのように考えているのでしょうか。

平成24年7月洪水で、どの程度の流木が立野ダム予定地を通過したのか、把握されているのでしょうか。通過した流木の容量が分からなければ、「流木等補足施設」（高さ５ｍのスリットダム）やスクリーンに捕捉される流木量は想定できないはずです。

Ⅱ．堆砂について

国土交通省は立野ダムの堆砂について「洪水時に流水とともにダム上流から流入した土砂は、貯水位の上昇とともに一時的にダム湖内に堆積するが、その後、貯水位の低下とともにダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下する」と説明しています。洪水時の白川の水は多くの火山灰とともに、多量の岩石や流木等を含みます。ところが、立野ダムの下部に設置される、一辺が５ｍの３つの穴を覆うスクリーンのすき間は、わずか２０cm 程度です。ということは、２０cm 以上の石や岩石は当然ダム下流に流れることはありません。

平成 24 年 7 月洪水後、大津町から熊本市にかけての白川の河床には、大量の石や岩石が堆積していました。それらは全てスクリーンに捕捉され、ダム上流部にたまるはずです。貴省は、平成 24 年 7 月洪水で、どの程度の岩石や土砂が立野ダム予定地を通過したのか、把握されているのでしょうか。通過した岩石や土砂の容量が分からなければ、堆砂量は想定できないはずです。

以上の点を踏まえ、以下５点について公開質問します。１１月２０日までに文書でのご回答をお願いします。

記

1．放流孔呑口部のスクリーンのすき間（間隔）は何 cm なのか。そのすき間に流木等がつまることは想定していないのか。

2．放流孔呑口部のスクリーンにはりついた流木等を、放流孔が吸い込む力と流木の浮力を具体的にどのように考えているのか。

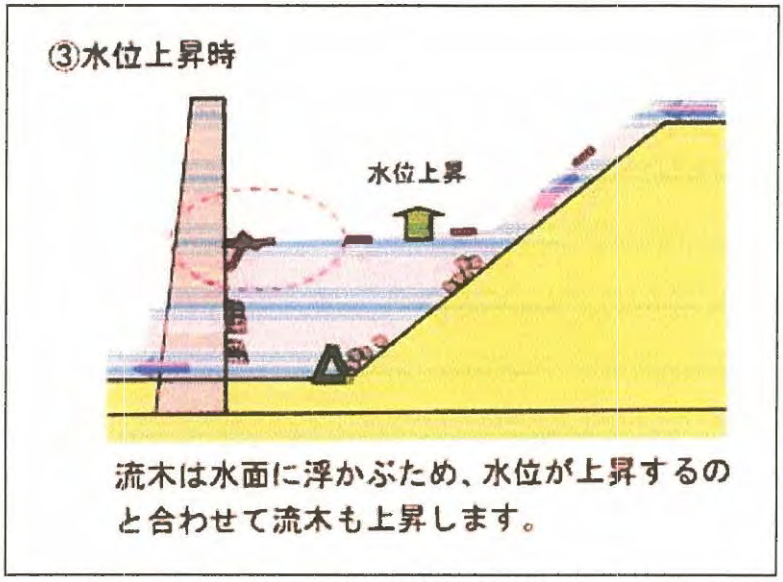
3．平成 24 年 7 月洪水で、約何立方メートルの流木が立野ダム予定地を通過したのか。

4．平成 24 年 7 月洪水で、約何立方メートルの岩石および土砂が立野ダム予定地を通過したのか。

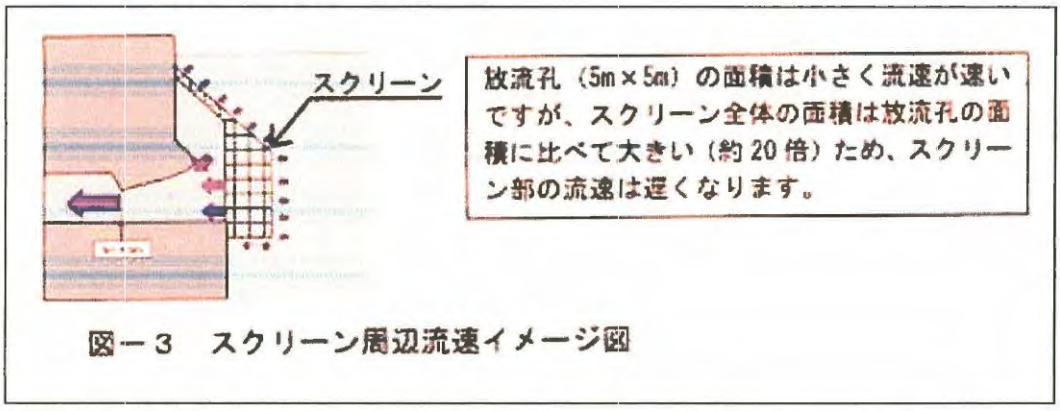
5．転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。

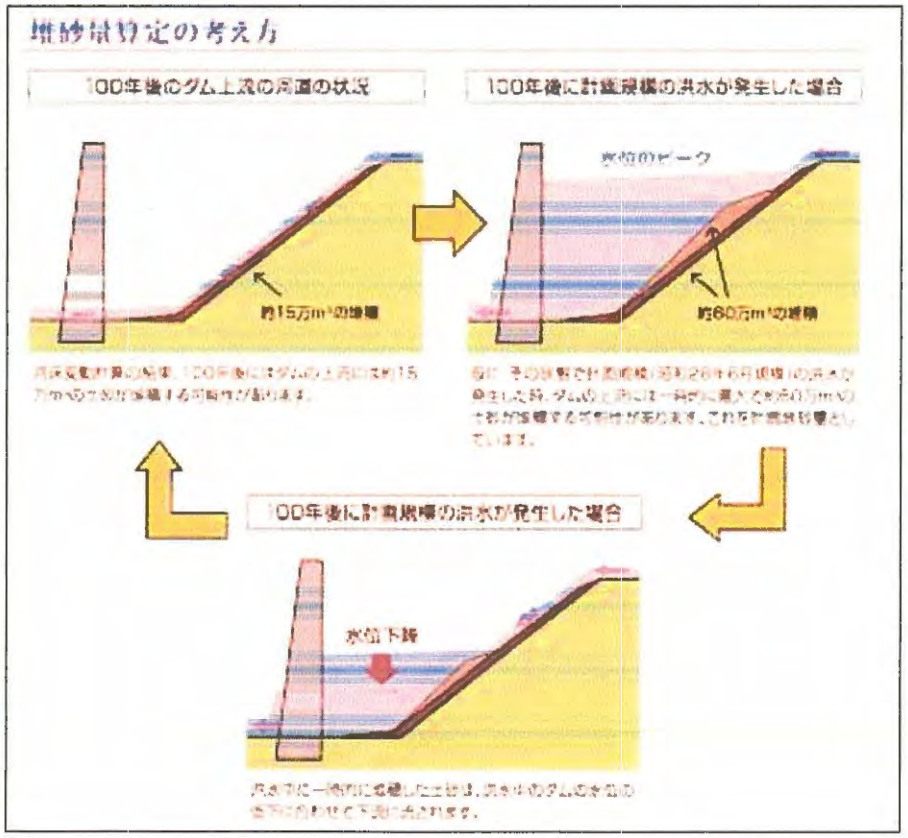
以上

別紙



国土交通省立野ダム工事事務所ホームページ「立野ダム建設事業に関するよくあるご質問について」より





(意見箱、FAX)意見175
(インターネット(HP))意見060

平成２７年１１月２６日

国土交通大臣　　石井啓一　様
国土交通省九州地方整備局長　鈴木弘之　様
国土交通省立野ダム工事事務所長　宮成秀一郎　様

立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島康
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会　代表　田上辰也
ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　西　聖一
代表連絡先 [redacted]

立野ダムの穴の流木対策に関する公開質問状

立野ダム事業は多くの問題点を抱えているにもかかわらず、貴省は住民がこれまで何度も要請してきた立野ダムの住民向け説明会さえ一度も開催していません。貴省は、立野ダムのことを住民に何も知らせずにダム建設を進めようというのでしょうか。

貴省はホームページで、「立野ダム事業検証が終了した平成 24 年 12 月 6 日以降も、様々な機会を通じて『立野ダム建設事業』について、事業説明を行っている。検証終了以降に実施した主な事業説明等でイベント等における事業説明（イベント参加者等 約 5,400 名）」等と述べ、あたかも立野ダム事業の説明責任を果たしているようなことを述べています。しかしそれらは、「H25.5.28 防災・減災シンポジウム」「 H25.8.4 白川の日」など、立野ダムを説明したイベントではありません。

白川流域住民のほとんどは、立野ダムがどんなダムなのか、何を目的に造られるのか、どこにできるのか知る機会さえありません。そのような状況で、このままダムが建設されてしまえば、将来の住民に大きな禍根を残すことは明らかです。

私たちは一昨年の 10 月 1 日と 11 月 15 日に、「立野ダムの放流孔の閉塞と堆砂に関する公開質問状」を貴省に提出しました。ところが貴省からの回答はなく、問い合わせた電話に「回答書は出さない。当所のホームページを読むように」と答えるのみでした。

貴省は、立野ダムの放流孔の上流側に設置される、20cm しかすき間がないスクリーンにはりついた流木は、「ダムの水位が上昇すると浮き上がるので、立野ダムの放流孔は閉塞しない」とホームページで主張しています。その根拠となる資料を情報開示請求したところ、本年 8 月 10 日に貴省は「立野ダム常用洪水吐きにおける流木対策について」と題する 12 ページの資料を情報開示しました。

同資料で行った模型実験は、立野ダムの 1/62.5 の模型（ダムの高さ 1.44m、穴の一辺 8cm）に、長さを変えた（4cm～24cm）直径 5mm の円柱材（ラミン材）や、長さ 2.4cm 直径 1.8mm のツマヨウジを最大で 1000 本流して、ダムの水位が上昇すると円柱材やツマヨウジが浮いてくる、というものでした。同資料について、以下８点について公開質問します。12 月 4 日までに、文書での回答を強く要請します。住民に説明責任を果たすためにも、誠意ある回答をされるようお願い致します。

記

１．同資料の模型実験は、いつ、誰が、どこで行ったのか。

２．模型の放流孔の上流側に、スクリーンは設置したのか。設置した場合、スクリーンの材質は何で、すき間は何ミリメートルだったのか。

3．模型実験に使用したラミン材やツマヨウジは、乾燥した木材である。また実験においては、密度の変化を防ぐためにニスを塗っている。しかし、洪水時に川を流下してくる木材は、水を含み非常に重くなっている。模型実験に用いたツマヨウジ等の比重は 0.73 となっているが、洪水時に実際に流れる流木はツマヨウジ等の比重よりも大きいことは明らかである。その点についての見解を述べること。

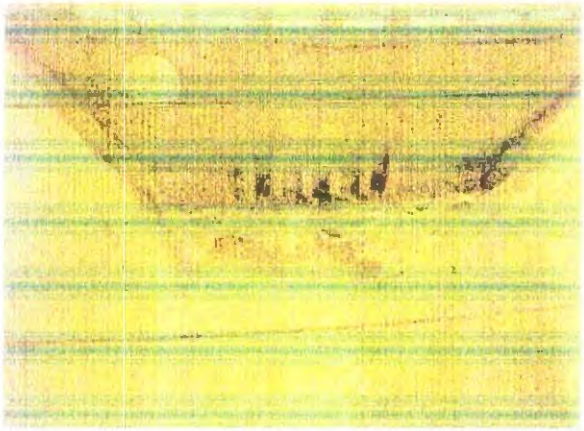
4．洪水時に実際に流れる流木は円柱ではなく、枝葉や根がついており、当然曲がったり直径が変化したりしている。それらが絡み合ってスクリーンに貼り付いた場合を想定していない。その点についての見解を述べること。

5．洪水時には、流木と同時に大量の土砂や火山灰、岩石も流れることは明らかであり、実験ではそれらを想定していない。その点についての見解を述べること。

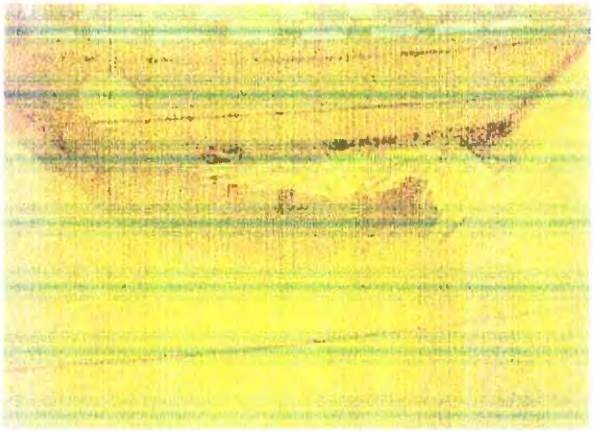
6．模型実験では、立野ダム地点を実際に流下する木材の量を把握していない。阿蘇カルデラは、特に阿蘇谷では現在も拡大しており、また杉やヒノキの人工林も荒れており、今後も土砂災害が発生し大量の流木が発生することが想定される。また、集水域 383 ㎢の阿蘇カルデラ内の流木が立野地点に集中することなどを考えると、1000 本という数字に根拠はない。その点についての見解を述べること。

7．同資料に掲載されている写真は、下記に示すように非常に不鮮明なものであり、模型実験の様子がよく理解できない。鮮明な写真をなぜ公開しないのか。

8．住民が模型実験を見学することはできないのか。流域自治体の首長や議員に、模型実験を公開しないのか。



3 つの穴をふさぐツマヨウジが



水位が上昇すると浮いてくるとする模型実験の写真

以上

(意見箱、FAX)意見176 別紙
(インターネット(HP))意見059

平成２８年１２月５日

国土交通大臣　　石井啓一　様
国土交通省九州地方整備局長　小平田 浩司　様
国土交通省立野ダム工事事務所長　宮成秀一郎　様

立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島康
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会　代表　田上辰也
ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　西　聖一
代表連絡先 [redacted]

立野ダム建設に係る技術委員会に関する公開質問状

熊本地震で立野ダム予定地周辺の両岸が大きく崩壊したこと等を受け、国土交通省が７月 27 日に設置した「立野ダム建設に係る技術委員会」は８月 17 日に、「熊本地震後もダム建設に支障となる技術的な課題はない」との結論を出し、国交省はダム本体工事に着手しようとしている。国交省はこれまで、住民が提出した質問状に何ら回答せず、住民が何度も要請してきた立野ダム説明会さえ一度も開催していない。

川辺川ダム事業で建設省（当時）は、平成７年以降何度もダム説明会を開催し、開催を広く住民に知らせ、住民団体にも直接開催日時等を連絡している（資料 1）。また、住民の質問に対しても丁寧に文書で回答している（資料 2）。その後河川法が改正され、住民参加が強調されているにもかかわらず、国交省の姿勢は 20 年前よりはるかに悪化している。「立野ダムが住民のため」と考えるのなら、国交省は住民の疑問に直接答えるべきである。

住民の疑問に直接答える立野ダム説明会の開催を再度強く要請するとともに、下記５点について公開質問します。12 月 16 日までの回答を求めます。公開質問並びに回答は各報道機関に配信するとともに、当会のホームページで公開します。

両岸の大半が崩壊した立野ダム水没予定地周辺（パスコホームページの写真に加筆）

記

1. 立野ダム建設予定地の地盤は健全なのか

技術委員会は「熊本地震後もダム本体の基礎岩盤の性状に変化は認められず、基礎岩盤として健全性に問題がない」としている。しかし、熊本地震により長陽大橋西側の橋台は、立野溶岩（柱状節理）のトップリング岩盤崩壊（岩盤が鉛直方向に伸びた節理を境界面として側方に倒れ込む現象）で２ｍ近く沈下している。技術委員会資料では、「ダム本体の基礎岩盤を浅いところでも 10m以上掘削する」としているが、右岸側はどこまで掘っても縦方向に節理（割れ目）が走る立野溶岩が続いている。立野ダムは重力式ダムである。長陽大橋の橋桁さえ支えることができなかった立野溶岩が、比べられないほどの重量を持つダム本体を支えることができるのか。トップリング岩盤崩壊により、ダム本体と周りの岩盤の間に隙間が生じるような危険性はないのか。

2. 立野ダム水没予定地周辺にどのような地すべり対策をするのか。予算や工期を考えているのか

技術委員会は、大半が斜面崩壊したダム水没予定地周辺について「必要に応じて対策工を実施する」として、ダム湖周辺をコンクリートで固めた他のダムの対策工事例の写真を掲載している。ところが、国土交通省立野ダム工事事務所ホームページでは「立野ダム貯水池周辺について、地すべりの存在を示すような地形の分布は認められません」としている。説明が矛盾しているのではないのか。

ダム水没予定地周辺の大半が斜面崩壊している現状を見れば、地すべり対策には膨大な費用と工期が必要だが、国土交通省は「立野ダムの事業費は増えない。工期も延びない」としている。地すべり対策の予算や工期をどのように考えているのか。

たとえダム本体は造れたとしても、周りの地盤がこのような状態で、はたして安全に立野ダムは運用できるのか。危険ではないのか。

また、同委員会資料の「貯水池周辺の地すべり地形等の分布」図では、例えば長陽大橋下流右岸などの大規模な土砂崩壊を起こした箇所がマークされていないのはなぜなのか。

3. 立野ダム完成までに30万 m3 の掘削が必要ならば、予算や工期を考えているのか

技術委員会は「立野ダムの水没予定地内には約 50 万 m3 の土砂が一時的に堆積していると推定され、ダム完成時までに約 30 万 m3 の掘削を行うなどにより、洪水調節のために必要な容量を確保することは十分可能」としている。30 万 m3 の土砂といえば、10 トンダンプ（６m3 積載）で５万台分の土砂を運び、処分する必要がある。30 万 m3 の掘削の予算や工期をどのように考えているのか。土砂をどこに処分する計画なのか。環境への影響は考えているのか。

4. 立野ダム建設予定地に考慮すべき断層はないのか

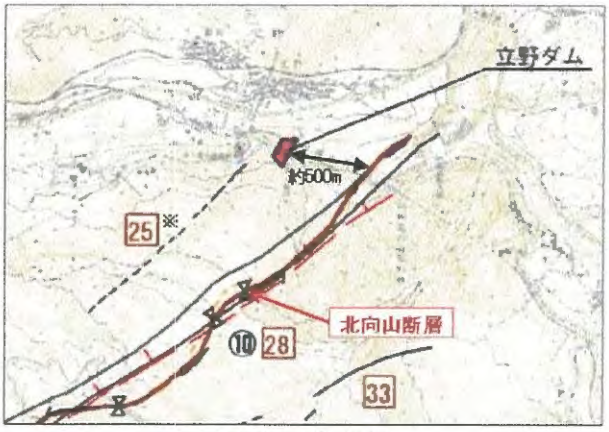
技術委員会は「熊本地震後の大学・研究機関等の発表文献を収集・整理した結果、ダム敷及びその近傍に活断層によって生じたとみられる地表地震断層及びその疑いのある変状は報告されていない」との理由で、「立野ダム建設予定地に考慮すべき断層はない」と結論付けている。

しかし、安全が確保されておらず、現在でも踏査ができない場所も多く存在する。技術委員会が結論を出した８月 17 日に開催された「熊本地震住民セミナー」で、「濁川断層の西側を延長すると立野ダム建設予定地になるが？」との質問に対し、日本活断層学会理事・広島大准教授（地理学）熊原康博氏は「調査をしてみないとわからないが、今は危険で現場に入れない。国交省からも問い合わせがあったので回答している。調査をされるのではないか」と回答している。技術委員会は、ダム予定地周辺の多くが未調査のまま結論を出しているのではないか。

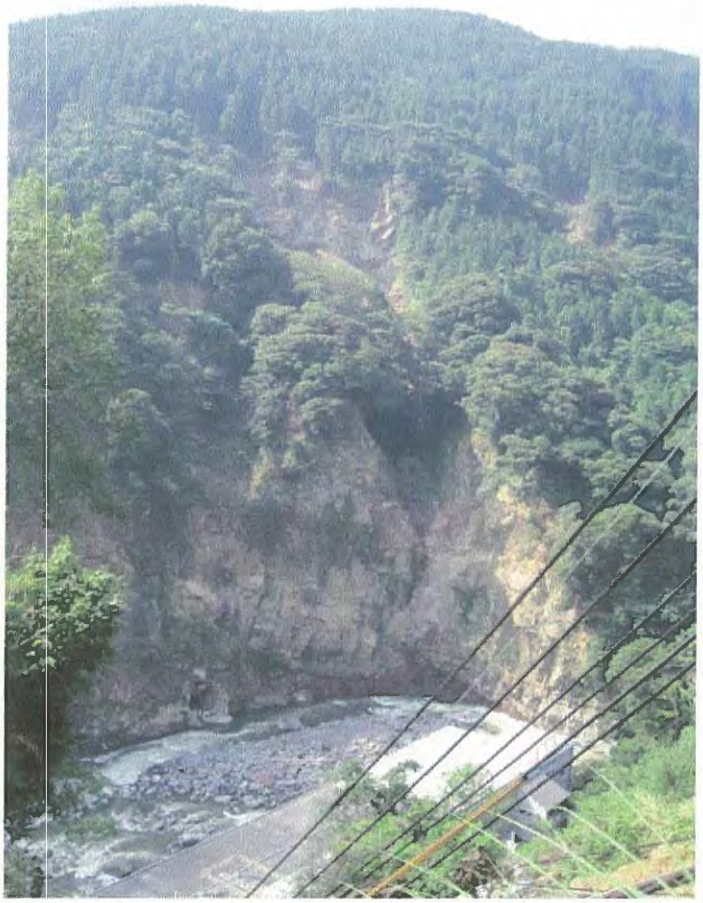
技術委員会は「ダム本体予定地から約 500m 離れた北向山断層に沿って、地表地震断層の可能性がある亀裂が線状に確認された」としている。つまり、断層がダム本体から 500m離れているから大丈夫ということなのか。その根拠は何なのか。何m離れていれば大丈夫なのか。地表に現れていない断層もあるのではないのか。

技術委員会資料にある 25 の断層は仮排水路出口のすぐ下流にあり、ダム本体から極めて近い距離にあ

る。技術委員会は「25 の断層については、過去の文献において記載があるものの、これまでの調査の結果、断層による変位地形は認められず、断層露頭も認められていません」としているが、現地を見ると、山の上から川床まで大きな亀裂が走っている。この亀裂が 25 の断層ではないのか。



国土交通省資料



排水路出口のすぐ下流に、25の断層と思われる亀裂が山の上から走っている　　2016 年 7 月 2 日撮影

5. 洪水時に流木などで立野ダムの穴はふさがらないのか

技術委員会は「熊本地震後の状況を踏まえても、放流孔（立野ダム下部の穴・高さ５ｍ×幅５ｍ）に流木が固定化されるような閉塞が生じることはなく、洪水調節能力にも影響はない」としている。それならば、直径約１０ｍの立野ダム仮排水路トンネルの入り口が土砂と流木で完全にふさがっていることを、どう説明するのか。

技術委員会が立野ダム下部の穴が流木などでふさがらない理由として、穴の上流側を覆うスクリーンをふさぐ流木が、ダムの水位が上がると浮いてくるとしている。その元となった模型実験では、ダムの穴をふさぐツマヨウジなどの円柱材が、ダムの水位が上がると浮いてくるとしている。しかし、実際の流木は根や枝がついており、水を吸って比重も大きくなっている。流木を穴が吸い込む力は、流木の浮力よりもはるかに大きいのは明らかである。実際の洪水では、流木も岩石も土砂も一緒に流れてくるが、技術委員会の検証では流木、岩石、土砂、それぞれ単独で模型実験やシミュレーションを行っただけである。立野ダムの穴がふさがらないとするシミュレーションは現実ではありえないことではないのか。

以上

（資料１）

『川辺川ダム事業についての情報の提供と説明会』の開催について

平成７年６月２９日
建設省九州地方建設局
川辺川工事事務所

一般の住民の皆様に川辺川ダム事業の計画をご理解いただき、
事業について建設的なご意見を頂くため、
人吉市の協力を得て下記により説明会を開催いたしますので、ご案内申し上げます。

今回の説明会では、
球磨川の治水計画と川辺川ダム事業の必要性、目的等について、
一般の住民の皆様に分かりやすい資料を提供するとともに、
その内容についての説明会を開催するものです。

記

日　　時：平成７年７月７日（金）13:30～16:30
場　　所：人吉市カルチャーパレス　小ホール
　　住所　人吉市下城本町1578－1
　　電話　0966－24－3311
説明内容：(1) 球磨川の治水計画
　　(2) 川辺川ダム計画
　　(3) ご意見、ご質問

当日は受付にて資料を配布いたします。入場は無料。
なお、地質、環境等については、今後の説明会で行う予定であり、
今回を含め計３回の説明会を予定しています。

（問い合わせ先）
建設省九州地方建設局川辺川工事事務所
(TEL:0966-23-3174、FAX:0966-22-1298)
調査設計課長　光成　政和(内線351)

（資料２）

平成７年７月４日

ダム問題を考える市民の会　会長　外山敬次郎　様
球磨川から全てのダムを無くす会　代表　原　豊典　様
清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会　事務局長　重松　隆敏　様
孫子に残そう、清流球磨川じいちゃん、ばあちゃんの会　事務局　藤原　宏　様

建設省九州地方建設局
川辺川工事事務所
所長　中村　健一

『資料公開等の要請書』に対する回答について

去る３月９日に貴４団体より資料公開等の要請書（以下『要請書』という。）をいただきました。これについては、既に、建設省として、貴４団体も含め一般の方々に対して、わかりやすい資料を用いて説明会（第１回目は球磨川の治水計画、川辺川ダム計画を対象とした説明会、第２回目以後に、地質、環境、地域づくりを対象とした説明会を行う予定です。）を実施する旨の回答をお伝えしているところですが、本回答については、建設省として現在までに整理している部分について回答するものです。本文の１、２などの数字及び①、②などの丸書きの数字の項目は要請書に一致します。

ご質問は、説明会のなかなどで対応したく考えておりますのでよろしくお願いします。

なお、既にお願いしているところですが、いまだご連絡を受けていませんので、貴４団体の規約、目的、会員名簿、役員名簿をお知らせ下さいますよう願います。

記

１、調査の項目の全体

７月７日の説明会で配布する「川辺川ダム事業について」は、これまでの諸調査をもとに建設省がとりまとめたものです。

①基本高水流量の根拠、試算式、決定時期

基本高水流量の根拠などについては７月７日の説明会で配布する「川辺川ダム事業について」参照して下さい。

②雨量の測定地、把握方法

測定地については、７月７日の説明会で配布する「川辺川ダム事業について」を参照して下さ
把握方法は、観測員による普通観測、自記雨量計です。

③流量の測定地、把握方法

測定地については、７月７日の説明会で配布する「川辺川ダム事業について」を参照して下さ
把握方法は、観測員による普通観測、自記水位計です。

④汚濁状況とその変遷

別紙資料を参照して下さい。

【別紙資料１】

平成５年九州地方一級河川の水質現況

⑤魚族の種類、量及びその変遷。汚濁が魚族に与える影響とその変遷。

魚族の種類については７月７日の説明会で配布する「川辺川ダム事業について」及び別紙資料
参照して下さい。

【別紙資料２】

河川水辺の国勢調査（魚介類調査編）　球磨川抜粋

２、①流量

人吉地点、川辺川（相良）地点、球磨川（錦）地点の過去５年間の一日平均流量については、
紙資料を参照して下さい。

相良地点、錦地点については、そのような観測地点を有しておらず、柳瀬地点、一武地点の観
地を整理しております。

【別紙資料３】

(意見箱、FAX)意見177 別紙
(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP))意見057

平成２９年５月２４日

国土交通大臣　　石井啓一　様
国土交通省九州地方整備局長　小平田浩司　様
国土交通省立野ダム工事事務所長　鵜木和博　様

立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　西　聖一
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会　代表　田上辰也
代表連絡先 [redacted]

「立野ダム建設に係る技術委員会の技術的な確認・評価」等に関する公開質問状（その５）

熊本地震で立野ダム予定地周辺の両岸が大きく崩壊したこと等を受け、国土交通省が昨年７月に設置した「立野ダム建設に係る技術委員会」は、同省の「熊本地震後もダム建設に支障となる技術的な課題はない」との主張をそのまま了承し、同省はダム本体工事に着手しようとしている。同省立野ダム工事事務所はこれまで、住民が提出した４通の公開質問状に何ら回答せず、住民が何度も要請してきた立野ダム説明会さえ一度も開催していない。

住民の疑問に直接答える立野ダム説明会の開催を再度強く要請するとともに、「立野ダム建設に係る技術委員会の技術的な確認・評価」等に関し、下記７点について公開質問します。これまでに提出した４通の質問状も含め、５月３１日までの回答を求めます。

記

1. 大半が土砂崩壊した立野ダム水没予定地の土砂崩壊対策工事は不可能

「熊本地震後に現地踏査対象斜面として抽出された１６地区については今後、必要に応じて対策工を実施することにより、湛水に対する斜面の安定性を確保できる」としているが、現状を見ると１６地区の大半では、ダム水没予定地の底まで下りる道路がつくれない（資料１参照）。重機などを下すことはできないので、土砂崩壊対策工事は不可能ではないのか。また、立野溶岩の表面を覆う火山灰などの火山性堆積物を撤去しなければ湛水地すべりが発生するのは明らかである。１６か所それぞれについて、どのような土砂崩壊対策工事を、どれくらいの工期で実施すると計画しているのか。

2. 崩壊土砂の搬出は不可能

「熊本地震後の状況を踏まえても、ダム完成までに土砂掘削等の必要な対策を講じることで、完成時においても洪水調節のために必要な容量を確保することは十分可能」としているが、ダム水没予定地に降りていく道路は、ダム本体予定地約 300m 上流の右岸側１か所のみである。ほとんどの崩壊地ではダムの底に降りる道路がつくれないので、重機やダンプなどを下すことはできない。崩壊土砂の搬出は不可能ではないのか。30 万㎥の土砂搬出を、どのような方法で、どれくらいの期間をかけて搬出すると計画しているのか。

3. 立野ダム放流孔（高さ5m×幅5m）は流木の枝葉や根でふさがる

「熊本地震後の状況を踏まえても、放流孔内に流木や巨石が固定化されるような閉塞が生じることはなく、洪水調節能力にも影響がない」としているが、放流孔の上流側がスクリーンでおおわれるので、放流孔内に流木や巨石が固定化されないことは当然である。洪水時に流下する流木や、流木から外れた枝葉や根、その他の浮遊物が絡み合い、スクリーンの 20 cmの隙間に食い込み、貼りつき、ふさがるのは明らかである（資料２，資料３参照）。貼りついた流木などが浮くことはあり得ない。模型実験では「川への流出過程で流木は枝葉の多くがとれた状態となる」として円柱材を使用し、スクリーンに貼りついた流木がダムの水位の上昇とともに浮くとしている。それならば外れた枝葉や根、その他の浮遊物も含めた検証や模型実験は実施しないのか。

4. 年間の立野ダムの維持管理費をどのように計画しているのか

「ダム完成後も、堆砂、流木、巨石及び斜面の状況について、湛水地内のモニタリングを行うとともに、その

結果を踏まえ、必要に応じて土砂の掘削や流木の撤去など、適切な維持管理を実施していく」としているが、平成２４年の立野ダム事業検討時とは、けた違いに維持管理費が膨らむことは明らかである。年間の立野ダムの維持管理費をどのように計画しているのか。

5. 黒川遊水地群の洪水調節能力は毎秒何㎥なのか

河川整備計画では、毎秒 2300 ㎥の洪水を、立野ダムで毎秒 200 ㎥、黒川遊水地群（車帰、無田、跡ヶ瀬、小野、内牧、小倉、手野）で毎秒 100 ㎥洪水調節し、白川河道に毎秒 2000 ㎥を配分するとしている。しかし、一般社団法人九州地方計画協会に記載されたレポート「黒川小倉遊水地について」には、小倉遊水地単独で毎秒 140 ㎥の洪水調節能力があるとの記述がある。「黒川河川激甚災害対策特別緊急事業」により、河川整備計画策定時と比べ、特に小倉遊水地と手野遊水地は規模が大きくなっている。現時点の計画で、7 つの遊水地それぞれの洪水調節量、7 つの遊水地を合計した洪水調節流量は毎秒何㎥なのか。県の事業でも、国交省は当然把握していなければならない数値である。

6. 河川整備基本方針において立野ダムの洪水調節能力は毎秒何㎥なのか

立野ダム工事事務所ホームページ等では、「代継橋地点における基本高水のピーク流域毎秒 3400 ㎥を、立野ダムにより毎秒 400 ㎥の洪水調節を行い、計画高水流量毎秒 3000 ㎥に低減する」とあるが、河川整備基本方針では「流域内の洪水調節施設により毎秒 400 ㎥を調節する」とある。立野ダムと黒川遊水地群で毎秒 400 ㎥の調節をするのではないのか。「立野ダムにより毎秒 400 ㎥の洪水調節を行う」という表現は間違っているのではないのか。毎秒 400 ㎥を、立野ダムと黒川遊水地でそれぞれ毎秒何㎥ずつ洪水調節するのか。

7. 北向谷原始林側のダム本体工事用のケーブルクレーン基礎をどのように計画しているのか

立野ダム本体工事のコンクリート打設で用いるケーブルクレーンは、右岸側からコンクリートを積み込むので、左岸側は移動可能な大規模なケーブルクレーンの基礎が必要となる。左岸側は天然記念物であり、阿蘇くじゅう国立公園の特別保護地区でもある北向谷原始林である。ケーブルクレーン基礎をどのように計画しているのか。

■これまで提出し、国交省より何ら回答を得ていない4通の公開質問状

立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する 公開質問状　平成25年10月1日
立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する 公開質問状その2 平成25年11月15日
立野ダムの穴の流木対策に関する公開質問状 平成27年11月26日
立野ダム建設に係る技術委員会に関する公開質問状 平成28年12月5日

（資料1）

熊本地震後の立野ダム水没予定地。大半が土砂崩壊をしている。
ダムの底まで下りる道路がつくれないので、重機やダンプが下せない。
土砂崩壊対策工事も、土砂の搬出も不可能である。（パスコ航空写真に加筆）

（資料2）

九州北部豪雨時の、黒川と合流前の白川（南阿蘇村）　2012 年 7 月 12 日撮影
流木はもちろん、木の枝葉や根、その他の浮遊物がひっきりなしに流下している

（資料3）

九州北部豪雨時、流木等でふさがった下井手取水堰　　2012 年 7 月 15 日撮影
流木や木の枝葉、根、その他の浮遊物が絡み合い、堰に貼りついている。
当然、立野ダム放流孔のスクリーンの 20 cmの隙間に食い込み、貼りつくことは明らか。
食い込み、貼りついた流木などがダムの水位が上昇すれば浮くことは考えられない。

以上

(意見箱、FAX)意見178 別紙
(インターネット(HP))意見055

平成２９年７月２５日

国土交通大臣　　石井啓一　様
国土交通省九州地方整備局長　小平田浩司　様
国土交通省立野ダム工事事務所長　鵜木和博　様

立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　西　聖一
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会　代表　田上辰也
代表連絡先 [redacted]

「立野ダムの洪水調節（CG動画）」等に関する公開質問状（その6）

今回の朝倉市周辺での豪雨では多くの土砂崩れが発生し、流れてきた流木が支流の橋などに引っかかり、川をふさいで濁流があふれ、被害を拡大した。白川上流の立野峡谷に造られようとしている立野ダムは、ダムの下部にゲートのない幅５ｍの穴（放流孔）が開いており、普段は水をためず、洪水時のみに水をためる治水専用ダムだと言われている。

５年前の九州北部豪雨で、阿蘇カルデラ内では400か所以上の土砂崩れが発生した。阿蘇カルデラ内の土砂災害等で発生した流木は、全て立野を通り白川を流下する。想像を絶する量の流木や岩石、土砂などが流れ下ったのだが、もしその時、立野ダムがあったなら、幅５ｍしかなく、穴の上流がスクリーンでおおわれた立野ダムの穴はたちまち流木などでふさがり、洪水をため込むだけの非常に危険な状態になっていたのは明らかである。

このような疑問について、地元の住民団体は国交省に対し、これまでに公開質問状を５通提出してきたのだが、回答は一度もなく、住民が要望しているダム説明会さえ一度も開いていない。国交省は説明責任を果たすべきである。

国交省立野ダム工事事務所がホームページで６月30日に公表した、「立野ダムの洪水調節」（ＣＧ動画）は、これまで住民が質問してきた点についての回答となっていない。また、立野ダムが洪水調節を果たすとしているが、その根拠を述べておらず、これまでの同省の主張と食い違っている点もある。そこで、「立野ダムの洪水調節」（ＣＧ動画）等に関し、下記９点について公開質問します。これまでに提出した５通の公開質問状の質問項目への回答も含め、７月29日開催の「白川の復旧・復興対策の現地見学会」において文書で回答することを強く要請します。

記

1．立野ダムは何㎥までの流木に対処できるように計画されているのか

動画では「流れてきた流木や大き目の石は上流に設置される流木等捕捉施設（スリットダム）で捕捉される」とのことだが、何㎥の流木まで対応できる計画なのか。国交省資料（立野ダム建設事業の検証に係る検討「放流孔の閉塞対策について」平成24年10月）によると、この流木捕捉施設は、高さ5m×幅42mなので、100mにわたり流木や土砂、岩石等をためたとしても5×42×100÷2＝約１万㎥しかためることができない。一方で、７月14日付日経新聞によると、今回の豪雨災害で復旧を妨げている流木について福岡県は、朝倉市と東峰村で少なくとも36万㎥との推計値を公表した。平成24年の九州北部豪雨と熊本地震後の豪雨で、立野地点を通過した流木は何㎥と計算しているのか。大き目の石とは、直径何ｍまでの石を想定しているのか。岩が動くことを想定していないのか。

国交省動画「立野ダムの洪水調節」より流木等捕捉施設。

2. 幅5mの穴の上流側に設置されるスクリーン（金属製の柵）のすき間は何cmなのか

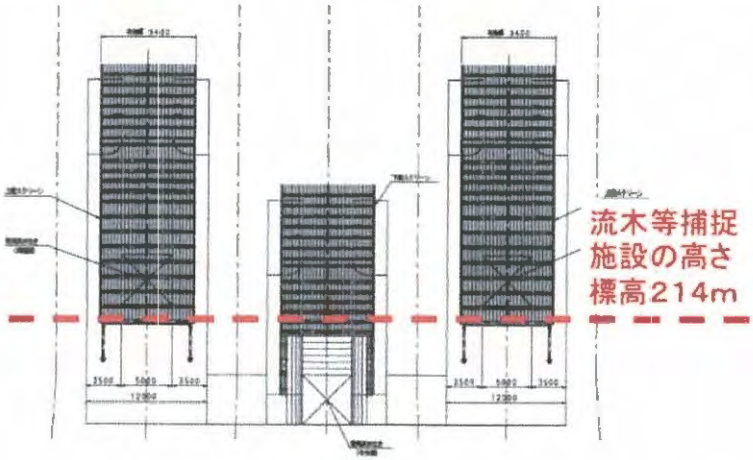
動画では「この放流孔が洪水時に流木や大き目の石によってふさがらないようにするための対策として、放流孔呑口部にスクリーンを設置する」とのことだが、スクリーンのすき間は何ｃｍなのか。この動画にスクリーンの縦の部材が描かれていないのはなぜなのか。洪水時に流木などがスクリーンに貼りつき、食い込む恐れはないのか。ちなみに、国交省資料（立野ダム建設事業の検証に係る検討「放流孔の閉塞対策について」平成24年10月）によると、このスクリーンの有効幅は9.4m。約50のすき間があるので、１つのすき間は約20cmと思われる。

国交省動画「立野ダムの洪水調節」より
スクリーン。

3. 流木等捕捉施設は上段の放流孔には全く機能しない

動画では「ダムの貯水位が上がると、上流に設置した流木等捕捉施設の高さを超え、捕捉された流木の多くは水面に浮かびダム堤体方面にゆっくりと流れていく」とのことだが、流木等捕捉施設の上端は標高214m。上段の放流孔（穴）の下端は標高215mであり、ダム湖の水位が流木等捕捉施設を超えた時点で、上段の放流孔（穴）は全く水没していない。つまり、流木等捕捉施設は上段の放流孔には全く機能しない。この点についての見解を伺いたい。

国交省動画「立野ダムの洪水調節」より
ダムの水位が流木等捕捉施設を超え、流木がダム本体へ向かう状況。上段の放流孔（穴）は全く水没していない。



スクリーン縦断図

国交省資料立野ダム建設事業の検証に係る検討「放流孔の閉塞対策について」平成24年10月に掲載されていたスクリーン縦断図。

流木等捕捉施設の上端の標高は214m（左図点線で記入）であり、上段の放流孔（穴）の下端の標高215m より低い。つまり、流木等捕捉施設は上段のスクリーンには何ら機能しない

4. 流木等捕捉施設を超えた流木は何秒でスクリーンに到達するのか。ダムの水位上昇は毎秒何mなのか

ダムの水位が流木等捕捉施設の高さを超えたあとは、当然流木や枝や根、その他の浮遊物はスクリーンまで流れ、そこに貼りつくはずである。ところが動画では、流木がスクリーンに流れ着くまでにダムの水位が上昇し、流木がスクリーンに到達しないことになっている。これまで国交省は、スクリーンをふさぐ流木は「ダムの水位が上がると浮いてくる」としていたが、なぜそのシーンが今回の動画ではないのか。流木等捕捉施設からダム本体のスクリーンまでの200mの距離を、流木は何秒で到達する想定なのか。動画ではその間にダムの水位が約20m上昇することになっているが、ダムの水位は毎秒何mで上昇する想定なのか。

国交省動画「立野ダムの洪水調節」より

流木等捕捉施設を超えた流木がダム本体に到達するまでに、ダムの水位が上昇してスクリーンは水没することになっている。ということは、流木が200m流れる間にダムの水位が20m以上、上昇するということである。

5. ダム満水時にダム放流孔の中、スクリーン表面、流木等捕捉施設付近での流速は秒速何mなのか

動画では「ダムに湛水することで貯水池内の流速は遅くなるため土砂は貯水池内に堆積し大き目の石は動かなくなる」とのことだが、ダム満水時にダム放流孔の中、スクリーン表面、流木等捕捉施設付近での流速は、それぞれ秒速何mなのか。大き目の石とは、直径何mまでの石を想定しているのか。岩が動くことを想定していないのか。

6. 洪水時、一時的に何㎥の土砂が堆積し、そのうち何㎥が幅5mの下段の穴(放流孔)を通り下流に流れるのか

動画では「湛水によって一時的に堆積していた土砂は徐々に下流に流されていきます」とのことだが、一時的に何㎥の土砂が堆積し、平水位に戻るまでに何㎥が幅5mの下段の穴（放流孔）を通り下流に流れると想定しているのか。

7. ダムの穴がふさがった場合、どのようにして流木を撤去するのか

動画では「洪水後、堤体付近や流木等捕捉装置に堆積した流木や大き目の石は撤去する」とのことだが、ダムの穴の上流側のスクリーンが流木などでふさがって、洪水後も水位が下がらない場合、どのようにして流木を撤去するのか。また、ダム本体上下流の仮設道路は、2012年の九州北部豪雨以来、これまで増水の度に毎年のように流失している。今年も7月2日には存在していたダム本体から仮排水トンネル出口に向かう仮設道路が、増水後の7月8日には流失して無くなっていた。洪水後、幸いにして水が抜けた場合も、現地の地質や仮設道路が毎年のように流されていることを考えると、洪水後流木の撤去はできないのではないか。

8. 模型実験で円柱材のみを使用するのは妥当なのか。曲がった部材や枝や根も含めてやり直すべきではないか

今回の朝倉市周辺での豪雨後、流木が橋やため池の洪水吐をふさぐ模型実験が報道されていたが、実験で流された流木は全て曲がった枝が使われていた（7月16日放送 日本テレビ「真相報道バンキシャ！」東京理科大学の実験ほか）。ところが立野ダムの模型実験では「川への流出過程で流木は枝葉の多くがとれた状態となる」として円柱材を使用し、スクリーンに貼りついた流木がダムの水位の上昇とともに浮くとしている。模型実験で円柱材のみを使用するのは妥当なのか。曲がった部材を使用し、はずれた枝や根も含めてるなどして模型実験をやり直すべきではないか。

9.「立野ダム建設に係る技術委員会」の資料と実際の土砂崩壊箇所とが食い違っている。技術委員会の検討をやり直すべき

昨年8月の立野ダム建設に係る技術委員会が、わずか3回の会合で検討した国交省の資料では、「熊本地震後に現地踏査対象斜面として抽出された16地区については今後、必要に応じて対策工を実施することにより、湛水に対する斜面の安定性を確保できる」としているが、その16地区は、多くの土砂崩壊箇所の中のほんの一部である。現状を見ると、特に右岸側の立野溶岩の台地側ではダム水没予定地の大半が崩落しており、国交省が技術委員会に提示した資料と大きく食い違っている。崩落箇所のほとんどでは、ダム水没予定地の底まで下りる道路がつくれない状況なので、重機などを下すことができず、土砂崩壊対策工事は不可能である。

このように、技術委員会で検討された資料と実際の土砂崩壊箇所とが食い違っている。また、わずか3回の会合で十分な説明が国交省よりなされていないので、技術委員会の検討をやり直すべきではないのか。

■これまで提出し、国交省より何ら回答を得ていない5通の公開質問状と質問項目

（1）立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する 公開質問状　平成25年10月1日

①放流孔呑口部のスクリーンや高さ５ｍのスリットダムが流木等でふさがらないという根拠

②洪水時においては、流水とともにダム上流から流入した土砂は、貯水位の上昇とともに一時的にダム湖内に堆積するが、その後、貯水位の低下とともにダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下するとする根拠

③転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。

（2）立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する 公開質問状その2 平成25年11月15日

①放流孔呑口部のスクリーンのすき間（間隔）は何㎝なのか。そのすき間に流木等がつまることは想定していないのか。

②放流孔呑口部のスクリーンにはりついた流木等を、放流孔が吸い込む力と流木の浮力を具体的にどのように考えているのか。

③平成24年7月洪水で、約何立方メートルの流木が立野ダム予定地を通過したのか。

④平成24年7月洪水で、約何立方メートルの岩石および土砂が立野ダム予定地を通過したのか。

⑤転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。

（3）立野ダムの穴の流木対策に関する公開質問状 平成27年11月26日

①同資料の模型実験は、いつ、誰が、どこで行ったのか。

②模型の放流孔の上流側に、スクリーンは設置したのか。設置した場合、スクリーンの材質は何で、すき間は何ミリメートルだったのか。

③模型実験に使用したラミン材やツマヨウジは、乾燥した木材である。また実験においては、密度の変化を防ぐためにニスを塗っている。しかし、洪水時に川を流下してくる木材は、水を含み非常に重くなっている。模型実験に用いたツマヨウジ等の比重は0.73となっているが、洪水時に実際に流れる流木はツマヨウジ等の比重よりも大きいことは明らかである。その点についての見解を述べること。

④洪水時に実際に流れる流木は円柱ではなく、枝葉や根がついており、当然曲がったり直径が変化したりしている。それらが絡み合ってスクリーンに貼り付いた場合を想定していない。その点についての見解を述べること。

⑤洪水時には、流木と同時に大量の土砂や火山灰、岩石も流れることは明らかであり、実験ではそれらを想定していない。その点についての見解を述べること。

⑥模型実験では、立野ダム地点を実際に流下する木材の量を把握していない。阿蘇カルデラは、特に阿蘇谷では現在も拡大しており、また杉やヒノキの人工林も荒れており、今後も土砂災害が発生し大量の流木が発生することが想定される。また、集水域383㎢の阿蘇カルデラ内の流木が立野地点に集中することなどを考えると、1000本という数字に根拠はない。その点についての見解を述べること。

⑦同資料に掲載されている写真は、下記に示すように非常に不鮮明なものであり、模型実験の様子がよく理解できない。鮮明な写真をなぜ公開しないのか。

⑧住民が模型実験を見学することはできないのか。流域自治体の首長や議員に、模型実験を公開しないのか。

（4）立野ダム建設に係る技術委員会に関する公開質問状　平成28年12月5日

①立野ダム建設予定地の地盤は健全なのか

②立野ダム水没予定地周辺にどのような地すべり対策をするのか。予算や工期を考えているのか

③立野ダム完成までに３０万m3の掘削が必要ならば、予算や工期を考えているのか

④立野ダム建設予定地に考慮すべき断層はないのか　　⑤洪水時に流木などで立野ダムの穴はふさがらないのか

（5）「立野ダム建設に係る技術委員会の技術的な確認・評価」等に関する公開質問状（その5）　平成29年5月24日

①大半が土砂崩壊した立野ダム水没予定地の土砂崩壊対策工事は不可能　　②崩壊土砂の搬出は不可能

③立野ダム放流孔（高さ５ｍ×幅５ｍ）は流木の枝葉や根でふさがる

④年間の立野ダムの維持管理費をどのように計画しているのか

⑤黒川遊水地群の洪水調節能力は毎秒何立方メートルなのか

⑥河川整備基本方針において立野ダムの洪水調節能力は毎秒何立方メートルなのか

⑦北向谷原始林側のダム本体工事用のケーブルクレーン基礎をどのように計画しているのか

以上

(意見箱、FAX)意見179 別紙
(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP))意見053

平成２９年１１月１５日

国土交通大臣　　石井啓一　様
国土交通省九州地方整備局長　増田博行　様

立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　西　聖一
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会　代表　田上辰也
代表連絡先 [redacted]

10月31日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表と立野ダム技術委員会に関する公開質問状（その8）

国土交通省は、10 月 31 日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表に対し、「改めて立野ダム建設に係る技術委員会において技術的な確認・評価を行い、立野ダム建設は十分可能」と、立野ダム工事事務所ホームページで公表しました。しかし、10 月 31 日の国土地理院の公表と同日に「立野ダム建設に係る技術委員会」を開いて技術的な確認・評価を行い、同日に記者発表をするのは、あり得ないことです。

国交省ホームページを見ると、「立野ダム建設に係る技術委員会」委員長名の文書も掲載されていますが、いつ、どのような形で技術的な確認・評価を行った、などということは全く書かれていません。「立野ダム建設に係る技術委員会」は、第三者的な機関ではなく、全くの国交省の内部組織だといわれても過言ではありません。

昨年の熊本地震により立野峡谷では阿蘇大橋が崩落し、立野ダム水没予定地の大半が崩れました。多くの住民が、こんな危険な場所にもうダムは造られないと思いました。しかし、昨年夏に国土交通省が設置した「立野ダム建設に係る技術委員会」は、わずか３回の会合で、同省の「立野ダム建設は技術的に可能」との見解をそのまま認めてしまいました。委員には国交省から天下った人もいます。国交省が選んだ委員が、国交省の見解に異議を唱えるわけがありません。国交省は、そのような技術委員会の見解を「錦の御旗」に立野ダム建設を推し進め、住民の公開質問状にも答えず、立野ダム説明会さえ開こうとしません。

国交省は、「住民に知らせない、住民の声を聞かない、住民の疑問に答えない」という姿勢を改めるべきです。以下２点について公開質問します。１１月２２日までに、文書での回答をお願いします。回答できない場合は、理由を述べてください。

記

１．１０月３１日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表を受け、いつ、どのような形で「立野ダム建設に係る技術委員会」は「確認・評価」を行ったのか。技術委員会の開催日時、参加した委員名、「確認・評価」を行った時間と、「確認・評価」を行った内容を明らかにしてください。

２．昨年８月１７日開催の第３回「立野ダム建設に係る技術委員会」以降、同委員会を開催した事実はあるのか、明らかにしてください。今後も同委員会を開催する予定はあるのか、明らかにしてください。

以上

（意見箱、FAX）意見180 別紙
（ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP)）意見054

平成２９年９月２４日

国土交通大臣　　石井啓一　様
国土交通省九州地方整備局長　増田博行　様

立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　西　聖一
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会　代表　田上辰也
代表連絡先 [redacted]

世界ジオパーク指定の阿蘇・立野峡谷の柱状節理破壊と立野ダム本体予定地右岸の柱状節理に関する公開質問状（その７）

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の「世界ジオパーク」に指定されている阿蘇・立野峡谷で、阿蘇火山の溶岩でできた「柱状節理」が、国土交通省の工事で破壊された。9 月 14 日以降、全国紙も一面で取り上げるなど、様々な報道がなされている。

新しい阿蘇大橋の工事のために柱状節理は破壊されたとのことだが、新阿蘇大橋の位置も工法も、一般の住民が知らないうちに決められ、新聞に発表された。新阿蘇大橋の位置や工法を決める段階で、多方面の意見を求めていたならば、柱状節理を破壊しない位置や工法が考えられたはずである。

破壊された柱状節理の約 1 ㎞下流の立野ダム本体予定地右岸には、さらに貴重な柱状節理が存在する。ここでは、立野溶岩が柱状に縦に割れた柱状節理と、板状に横に割れた板状節理が５～８層交互に堆積しており、立野溶岩が何度にも分かれて流れてきたことが良く分かる。立野ダム本体工事が始まればこの柱状節理も、幅２００ｍ、高さ９０ｍ、厚さ最大４０?にわたって削られ、永久にダム本体のコンクリートに飲み込まれる。

これらの柱状節理は、阿蘇の成り立ちを知ることのできる学術的にも貴重な、後世に残すべき地質遺産である。その景観は、地元にとっても貴重な観光資源となりえるものである。

国土交通省は立野ダム工事事務所ホームページで「関係法令を遵守するとともに、景観に関する専門家、熊本県、大津町、南阿蘇村も参画した検討委員会等を設け、良好な景観を保全するための方策について検討してきている」としている。しかし、国土交通省は立野峡谷が世界ジオパークの貴重なジオサイトであることを認識していなかったとしか言いようがない。

また、立野ダムの事業者である国土交通省は、熊本地震で周辺の地盤が大規模に崩壊し、活断層も走るなど、立野ダム建設に対して多くの不安や疑問の声が上がっていたにもかかわらず、これまで住民が求めてきたダム説明会を１度も開かず、住民の公開質問状にも全く答えようとしない。立野ダム建設でジオパークを破壊しないでほしいという住民の度重なる申し入れは、全く伝わっていなかった。

国土交通省は、「住民に知らせない、住民の声を聞かない、住民の疑問に答えない、住民が知らないうちに貴重な地質遺産を破壊する」という姿勢を改めるべきである。今回の柱状節理の破壊に強く抗議するとともに、立野ダム建設や復興工事によるこれ以上の地質遺産の破壊を中止することを強く要請する。

下記２点について、１０月３日までに文書で回答することを要請する。

記

1．柱状節理の破壊にとりかかる前に、熊本県や地元にきちんと説明していたのか。世界的に貴重な地形や地質等に十分配慮したと言えるのか。関係法令を遵守したとしているが、落ち度はなかったのか。国土交通省の見解を伺いたい。

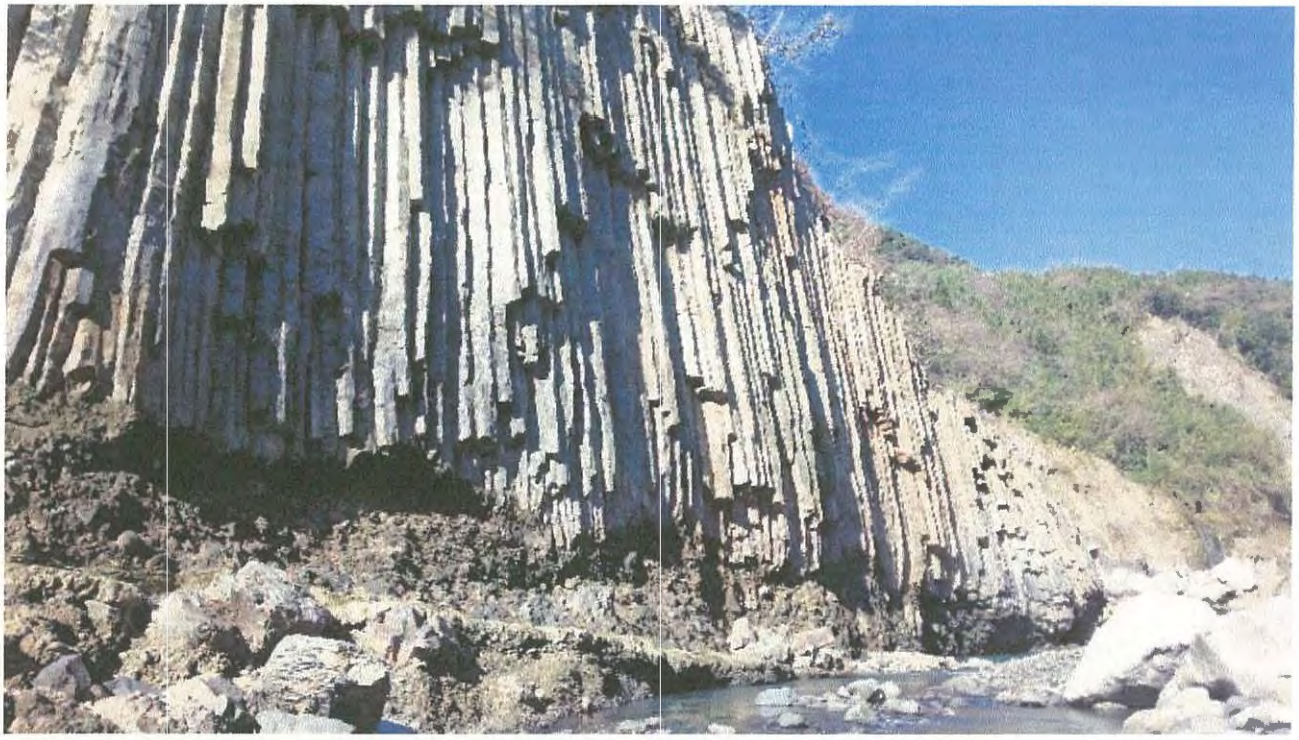
2．立野ダム本体予定地右岸には、柱状節理と板状節理が５～８層交互に堆積している学術的にも極めて貴重な立野溶岩が存在し、立野ダム本体工事が始まれば幅２００m、高さ９０m、厚さ最大４０mにわたって削られ、永久にダム本体のコンクリートに飲み込まれる。この点を熊本県や流域自治体、地元住民などに説明したのか。この件について、国土交通省の見解を伺いたい。

以上

【参考資料】

立野ダム本体予定地右岸の立野溶岩（2012年10月7日撮影）

国交省は「ダム建設の影響を受ける柱状節理の露頭範囲は、全体の一部」と強調しているが、立野溶岩が柱状に縦に割れた柱状節理と、板状に横に割れた板状節理が5～8層交　互に重なった地層が見られるのは、この地点だけである。



破壊される前の柱状節理（2015年12月19日撮影）

破壊された柱状節理（2017年8月30日撮影）

(意見箱、FAX)意見181 別紙
(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ(HP))意見052

平成３０年１月１２日

国土交通大臣　石井啓一　様
国土交通省九州地方整備局長　増田博行　様

立野ダムによらない自然と生活を守る会　代表　中島康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会　代表　西　聖一
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会　代表　田上辰也
代表連絡先 [redacted]

立野ダム事業に関する公開質問状（その９）

一昨年の熊本地震により立野峡谷では阿蘇大橋が崩落し、立野ダム水没予定地の大半が崩れました。多くの住民が、こんな危険な場所にもうダムは造られないと思いました。しかし、同年７月に国土交通省が設置した「立野ダム建設に係る技術委員会」は、わずか３回の会合で、同省の「立野ダム建設は技術的に可能」との見解をそのまま認めてしまいました。委員には国交省から天下った人もいます。国交省が選んだ委員が、国交省の見解に異議を唱えるわけがありません。国交省は、そのような技術委員会の見解を「錦の御旗」に立野ダム建設を推し進め、住民の公開質問状にも答えず、ダム説明会さえ開かぬままに、ダム本体工事の入札を昨年 10 月 26 日に公告しました。

国交省は、「住民に知らせない、住民の声を聞かない、住民の疑問に答えない」という姿勢を改めるべきです。以下７点について質問します。１～６については当日、７については１月３１日までに、文書での回答をお願いします。

記

１．熊本地震により、立野ダム水没予定地の大半が崩壊した。立野溶岩の上に堆積した火山性堆積物が軒並み崩壊している。このままダムを建設し、ダムの水位が上がった場合、地滑りが起きることは明らかである。大半の場所でダム水没予定地の下まで降りられない中で、今後どのような土砂崩壊対策工事を行う予定なのか、明らかにすること。

２．立野ダムの下部には幅 5m の穴（放流孔）が開いているが、計画洪水の場合、流下する膨大な量の流木や土砂、岩石などのうち何割（何㎥）がダムの上流にたまり、何割（何㎥）が幅 5m の放流孔を通り下流へ流れると想定しているのか。模型実験で放流孔をふさぐ流木はダムの水位が上がると浮くとしているが、枝葉や根、曲がった流木が流れてくる場合も想定すべきではないのか。流木と土砂、岩石が同時に流れてくることはないとしているが、同時に流れてくる場合も想定すべきではないのか。洪水のピークが二山ある洪水も想定すべきではないのか。

３．熊本地震により、立野ダム建設現場の復旧や土砂崩壊対策工事等に膨大な国費が投入された一方で、国交省は立野ダムの総事業費を見直そうとはしない。総事業費はいくらになるのか。そのうち、熊本県負担はいくらになるのか。「立野ダム建設事業の検証に係る検討報告書」に、平成 24 年度迄実施済み額 426.1 億円、残事業 490.9 億円との記載がある。平成 29 年度末の実施済み額および残事業費を明らかにすること。平成 24 年時点の 917 億円を算定した以降、熊本地震の復旧工事を含め増額された項目と額を明らかにすること。平成 24 年の立野ダム事業検証の際には、他の治水対策案との事業費比較を検討し、公表している。現時点での他の治水対策案との事業費比較を明らかにすること。立野ダムの維持管理費は毎年いくらになるのか明らかにすること。

４．平成 24 年の九州北部豪雨のあと、白川は河川激甚災害対策特別緊急事業に指定され、河川改修や遊水地の設置が大幅に進んだ。黒川の小倉遊水地は、毎秒 140 トンの洪水調節能力があるとの資料も存在する。黒川遊水地群の７つの遊水地で、毎秒何トンの洪水調節能力があるのか。また、河川改修後の計画

高水位で、毎秒2000トンを下回る地点はどこなのか、明らかにすること。

5．ユネスコの世界ジオパークに指定されている立野峡谷で、住民の知らぬ間に阿蘇火山の溶岩でできた柱状節理が国土交通省の工事で破壊された。立野ダム本体予定地右岸では、立野溶岩が柱状に縦に割れた柱状節理と、板状に横に割れた板状節理が５～８層交互に堆積しているさらに貴重な地質遺産が存在し、ダム本体工事が始まれば永遠に破壊されることも、ほとんどの住民は知ることもできない。世界文化遺産登録を目指す阿蘇にとり、立野ダム建設は大きなダメージを与えることが懸念される。これらを地元住民や自治体にきちんと説明する予定はあるのか。

6．国土交通省は、昨年７月より「白川復旧・復興対策現地見学会」を４回開いたが、その開催は住民に周知されず、インターネット等で予約したごく少数の住民しか参加できなかった。また、事前に提出していた公開質問状への回答は一切なく、その場での質問に対しても「ホームページを見るように」と繰り返すばかりだった。これでは到底説明責任を果たしたと言えるものではない。立野ダム本体工事に着工する前に、白川流域の市町村ごと、熊本市にあっては白川沿いの中学校区ごとに立野ダム事業に関する説明会を開催し、住民の質問に真摯に答える意思はないのか。

7．国交省は、これまで提出してきた住民の８通に及ぶ公開質問状には全く答えず、「ホームページで丁寧に説明している」との姿勢である。しかし、ホームページを見て質問しているのに、ホームページを見ろというのはいかがなものか。これまで提出してきた８通の公開質問状の下記項目ごとに、国交省のホームページのどこを見れば回答が掲載されているのかを含め、きちんと文書で回答すること。

■これまで提出し、国交省より何ら回答を得ていない8通の公開質問状と質問項目の概要

（１）立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する公開質問状　　平成２５年１０月１日

①放流孔呑口部のスクリーンや高さ５ｍのスリットダムが流木等でふさがらないという根拠

②洪水時においては、流水とともにダム上流から流入した土砂は、貯水位の上昇とともに一時的にダム湖内に堆積するが、その後、貯水位の低下とともにダム湖内に一時的に堆積した土砂はダム下流へ流下するとする根拠

③転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。

（２）立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する公開質問状その２　　平成２５年１１月１５日

①放流孔呑口部のスクリーンのすき間（間隔）は何cmなのか。そのすき間に流木等がつまることは想定していないのか。

②放流孔呑口部のスクリーンにはりついた流木等を、放流孔が吸い込む力と流木の浮力を具体的にどのように考えているのか。

③平成24年7月洪水で、約何立方メートルの流木が立野ダム予定地を通過したのか。

④平成24年7月洪水で、約何立方メートルの岩石および土砂が立野ダム予定地を通過したのか。

⑤転流工（仮排水路トンネル工事）に着工する前に、白川流域の市町村ごと、もしくは校区ごとに立野ダムに関する説明会を開催すること。説明会においては住民の質問や意見を十分に聞くこと。

（３）立野ダムの穴の流木対策に関する公開質問状　　平成２７年１１月２６日

①国交省資料「立野ダム常用洪水吐きにおける流木対策について」の模型実験は、いつ、誰が、どこで行ったのか。

②模型の放流孔の上流側に、スクリーンは設置したのか。設置した場合、スクリーンの材質は何で、すき間は何ミリメートルだったのか。

③模型実験に使用したラミン材やツマヨウジは、乾燥した木材である。また実験においては、密度の変化を防ぐためにニスを塗っている。しかし、洪水時に川を流下してくる木材は、水を含み非常に重くなっている。模型実験に用いたツマヨウジ等の比重は0.73となっているが、洪水時に実際に流れる流

木はツマヨウジ等の比重よりも大きいことは明らかである。その点についての見解を述べること。
④洪水時に実際に流れる流木は円柱ではなく、枝葉や根がついており、当然曲がったり直径が変化したりしている。それらが絡み合ってスクリーンに貼り付いた場合を想定していない。その点についての見解を述べること。
⑤洪水時には、流木と同時に大量の土砂や火山灰、岩石も流れることは明らかであり、実験ではそれらを想定していない。その点についての見解を述べること。
⑥模型実験では、立野ダム地点を実際に流下する木材の量を把握していない。阿蘇カルデラは、特に阿蘇谷では現在も拡大しており、また杉やヒノキの人工林も荒れており、今後も土砂災害が発生し大量の流木が発生することが想定される。また、集水域 383 ㎢の阿蘇カルデラ内の流木が立野地点に集中することなどを考えると、1000 本という数字に根拠はない。その点についての見解を述べること。
⑦同資料に掲載されている写真は、下記に示すように非常に不鮮明なものであり、模型実験の様子がよく理解できない。鮮明な写真をなぜ公開しないのか。
⑧住民が模型実験を見学することはできないのか。流域自治体の首長や議員に、模型実験を公開しないのか。

（４）立野ダム建設に係る技術委員会に関する公開質問状　平成２８年１２月５日
①立野ダム建設予定地の地盤は健全なのか
②立野ダム水没予定地周辺にどのような地すべり対策をするのか。予算や工期を考えているのか
③立野ダム完成までに３０万 m3 の掘削が必要ならば、予算や工期を考えているのか
④立野ダム建設予定地に考慮すべき断層はないのか
⑤洪水時に流木などで立野ダムの穴はふさがらないのか

（５）「立野ダム建設に係る技術委員会の技術的な確認・評価」等に関する公開質問状（その５）
平成２９年５月２４日
① 大半が土砂崩壊した立野ダム水没予定地の土砂崩壊対策工事は不可能
② 崩壊土砂の搬出は不可能
③ 立野ダム放流孔（高さ５ｍ×幅５ｍ）は流木の枝葉や根でふさがる
④ 年間の立野ダムの維持管理費をどのように計画しているのか
⑤ 黒川遊水地群の洪水調節能力は毎秒何立方メートルなのか
⑥ 河川整備基本方針において立野ダムの洪水調節能力は毎秒何立方メートルなのか
⑥ 北向谷原始林側のダム本体工事用のケーブルクレーン基礎をどのように計画しているのか

（６）「立野ダムの洪水調節（ＣＧ動画）」等に関する公開質問状（その６）平成２９年７月２５日
①立野ダムの上流に設置される流木等捕捉施設（スリットダム）は何㎥までの流木に対処できるように計画されているのか
②幅５ｍの穴の上流側に設置されるスクリーン（金属製の柵）のすき間は何㎝なのか
③流木等捕捉施設の上端は標高 214m。上段の放流孔（穴）の下端は標高 215m であり、ダム湖の水位が流木等捕捉施設を超えた時点で、上段の放流孔（穴）は全く水没していない。つまり、流木等捕捉施設は上段の放流孔には全く機能しない
④ 流木等捕捉施設を超えた流木は何秒でスクリーンに到達するのか。ダムの水位上昇は毎秒何ｍなのか
⑤ ダム満水時にダム放流孔の中、スクリーン表面、流木等捕捉施設付近での流速は秒速何ｍなのか
⑥ 洪水時、一時的に何㎥の土砂が堆積し、そのうち何㎥が幅 5m の下段の穴（放流孔）を通り下流に流れるのか
⑦ ダムの穴がふさがった場合、どのようにして流木を撤去するのか
⑧模型実験で円柱材のみを使用するのは妥当なのか。曲がった部材や枝や根も含めてやり直すべきではないか
⑨「立野ダム建設に係る技術委員会」の資料と実際の土砂崩壊箇所とが食い違っている。技術委員会の検討をやり直すべき

（７）世界ジオパーク指定の阿蘇・立野峡谷の柱状節理破壊と立野ダム本体予定地右岸の柱状節理に関する公開質問状（その７）　　平成２９年９月２４日

①柱状節理の破壊にとりかかる前に、熊本県や地元にきちんと説明していたのか。世界的に貴重な地形や地質等に十分配慮したと言えるのか。関係法令を遵守したとしているが、落ち度はなかったのか。国土交通省の見解を伺いたい。

②立野ダム本体予定地右岸には、柱状節理と板状節理が５～８層交互に堆積している学術的にも極めて貴重な立野溶岩が存在し、立野ダム本体工事が始まれば幅２００ｍ、高さ９０ｍ、厚さ最大４０ｍにわたって削られ、永久にダム本体のコンクリートに飲み込まれる。この点を熊本県や流域自治体、地元住民などに説明したのか。この件について、国土交通省の見解を伺いたい。

（８）10 月 31 日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表と立野ダム技術委員会に関する公開質問状（その８）　　平成２９年１１月１５日

①１０月３１日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表を受け、いつ、どのような形で「立野ダム建設に係る技術委員会」は「確認・評価」を行ったのか。技術委員会の開催日時、参加した委員名、「確認・評価」を行った時間と、「確認・評価」を行った内容を明らかにしてください。

②昨年８月１７日開催の第３回「立野ダム建設に係る技術委員会」以降、同委員会を開催した事実はあるのか、明らかにしてください。今後も同委員会を開催する予定はあるのか、明らかにしてください。

【資料】

熊本地震後の立野ダム水没予定地。大半が土砂崩壊をしている。
水没予定地の底まで下りる道路がつくれないので、重機やダンプが下せない。
土砂崩壊対策工事も、土砂の搬出も不可能である。
ダムが建設され、水位が上がれば、湛水地すべりが起きることは明らかである。
（パスコ航空写真に加筆）

以上

(意見箱、FAX)意見182 別紙
(インターネット(HP))意見047

30.8.4
8-12

2018年8月4日

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号 [redacted]

国土交通省九州地方整備局長 伊勢田 敏 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会

ダムによらない治水・利水を考える県議の会

立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会

代表連絡先 [redacted]

電話 [redacted]

申入れ文

立野ダムで災害が発生した場合、国家賠償法に従い責任を取ること

2年前の熊本地震で、立野ダム建設予定地の大半が崩壊した。現在も、崩落した山肌の大半は放置されたままである。多くの住民が「こんな危険な場所にもうダムは造られない」と思ったが、国交省は立野ダムの本体建設に着手しようとしている。

今回の西日本豪雨では、ダムは想定以上の洪水では

満水になり、ダムへの流入量をそのまま下流に流すしかなくなり洪水調節できなくなる点や、ダムがない場合に比べダム下流の洪水の水位も急激に上昇することが浮き彫りになった。

これまで行政は、計画規模以上の降雨で被害が発生した場合、「想定外」ということで責任を逃れてきた。ところが近年、異常気象で「想定外」の災害が頻繁に起こるようになり、「想定外」が想定外ではなくなった。計画規模があてにならなくなった近年の豪雨を考えると、ダムは洪水調節で有効な選択肢どころか危険である。

立野ダムは、建設予定地が崩れやすい火山性の地質であること、活断層が存在する地帯であること、洪水時に流木や土砂によりダム下部に設けられる幅５ｍの穴がふさがり洪水調節できなくなること、ダム満水時に土砂崩壊が起こればダム津波が下流を襲うなどの危険性が指摘されてきたが、国交省はそのような事態を「想定」していない姿勢を取り続けてきた。

私たち流域住民は、立野ダムが災害をひき起すこと

立野ダム説明会の開催を求めてきたが、国交省は「回答せず」「説明せず」の姿勢を貫き通してきた。熊本県も説明責任を果たしてこなかった。

私たちは白川流域の安全を守る立場から、災害をひき起こすことが十分に想定される立野ダム建設にこれからも断固反対するとともに、国交省及び熊本県に対し以下のことを強く要請する。

[redacted]

1. 立野ダムは流域を災害から守るどころか、流域に災害をひき起すことが十分に想定される危険なダムであり、ダム本体工事を即時中止すること。河川整備の実施と維持管理で白川の洪水を防ぐことは可能であり、引き続きその充実と維持管理に努めること。

2. 立野ダムが建設され、完成後に立野ダムによる災害が発生した場合、十分に想定されていた災害であるので、国家賠償法第2条に従い責任を取ること。

以上

この郵便物は平成 30 年 8 月 4 日
第 24656 号書留内容証明郵便物として
差し出されたことを証明します。
日本郵便株式会社

30.8.4
8-12

郵便認証司
30. 8. 4

30.1.4
8-12

白川水系河川整備計画（変更原案）についての意見と質問

①まずホームページの文章表現が気になります。どういう事かというと、
まず文章の最後が‥‥に努める必要があります。などの表現が多く、まるで他人事みたいに思えます。たとえば、　・・・を実施したいと思います、とか‥‥に努めます。という表現にして頂きたいと思います。

②河川整備計画の変更点がすぐに分かりません。
従来の河川整備計画を変更するのですから、まず、最初に
主な変更内容を列挙し、その理由を書いて頂ければ、120 ページものＨＰを時間をかけて読まなくても、大まかな変更点が、すぐ分かると思います。
私は変更点を探すのに時間が掛かりました。目的を考え、もっとわかり易いＨＰづくりを要望したいと思います。

【整備計画変更案】について

（１）2,1 項の「洪水発生防止又は対応」の項で
・阿蘇大橋地区の大規模な崩落斜面の高級的な安定化対策について　関係機関と連携しながら進める、とのことですが、今、予定している　具体的な方法もしくは考えられる方法を記頂ければ、納得できるのではないでしょうか。
　尚、この場所はジオサイトの立野峡谷・天然記念物の北向き谷原始林　があり、
特に景観は大事ですので、特に配慮をお願いします。

（２）2,1,6 項の施設能力を上回る洪水等への対策で、質問しますが、
　一番心配なのは「立野ダム」が出来た後、例えば、Ｓ28 年の 6.26 水害と同程度の洪水が発生した場合、
当時のデーターから、どんな状況になるのか、又、ダムの効果（どれぐらいの時間、下流の水位をどれぐらい押さえることが出来るのか）を提示して頂きたいと思います。
（当然、シュミレーションされていると思いますので）
（6.26 水害は 6/26 日の降水量‥‥500mm、　総降水量（5 日間）888mmでした）
　尚、私が危惧しているのは、昨今のゲリラ豪雨では、急激な増水が起こり、ダムが十分な機能を発揮しないばかりか、ダムが満水になり、越水とかダム自体の損壊危険が起こらないか！ということです。
（新聞、雑誌などに、この様な情報が載っているのを見ました）
　立野ダムは穴あきダムなので、放流調整が出来ませんから、特に想定外の大雨が続いた場合、特に心配です。白川下流の皆さんも、昨今の洪水被害、ダムの　緊急放流などのニュースを見て、一番心配な事項ではないかと思います。ぜひ、住民への具体的説明を

お願い申し上げます。

（註）本件が河川整備計画の中に記載出来ない場合、別途ダムの説明会もしくは治水広報などでの情報提供を希望致します。

(3) 河川の増水情報は重要ですが、阿蘇地域の「河川」の推移を監視するライブカメラは何処に設置されていますでしょうか。（阿蘇と南阿蘇について）

(4) 下流での水位が危険水位迄まだ余裕があっても、もし上流で激しい雨が降った場合、下流は思ったよりも早く水位が上昇すると思われます。

下流域の逃げ遅れを防ぐためにも、上流の時間降雨量と積算降雨量などと、川下までの距離等から計算し、川下はいつ頃危険水位に達しそうかの「雨量検知・避難情報発信システム」の様なものは、現在運用されていますでしょうか。

以上